

中實業學校への入學難が著しい。

中等學校入學率年比較



特殊教育

勤勞學校 大正十四年、今上陛下御成婚に當り貧困兒童就學獎勵のため



◇タイムベストを養成する西野田第五小學校

御内帑金下賜の恩命に浴したので、この趣旨を奉體して市の北部に豊崎勤勞學校を創設すると共に、南部には既設の救済施設たる有隣、徳風の二小學校の内容を改善し、昭和二年組織を更めて勤勞學校とした。修業年限は六ヶ年

勤勞學校

年次	校數	教員數	生徒數	卒業者
昭和八年	三	四	一、二七七	一九二
同 九年	三	四	一、五〇二	二二二
同 十年	三	四	一、三〇四	二〇一

市立盲聾啞學校

年次	校數	教員數	生徒數	卒業者
昭和八年	二	五	五五三	七六
同 九年	二	五	五五五	七五
同 十年	二	五	五五五	七四

以上の兒童で身體虛弱なる者を收容するため六甲郊外學園を設置し、教科課程の履修と共に健康の増進につとめてゐる。收容人員は昭和八年度一九九人、九年度一九八人である。

露天保育所 (各年五月一日調)

年次	所數	保母數	幼兒數	保母者
昭和八年	二	二	五三	四三
同 九年	二	二	五四八	四三六
同 十年	二	一〇	五四四	四七〇

特別學級 智能薄弱な兒童に對して特別學級を設けて特別の教育を施してゐる。現在九校、兒童數百十三名を九學級に編成してゐる。

露天保育所 寺院、公園等の空地を利用して天幕張、その他簡單なる設備を施し附近の幼兒を收容補導すると共に進んでこの種兒童を通じてその環境の改善誘導を圖るべく大阪市露天保育所規程を設け、現に櫻宮露天保育所、城東露天保育所の二ヶ所がある。

社會教育

青年學校 昭和十年四月青年學校令の公布に伴ひ、従来の青年訓練所百二十一ヶ所と従前の實業補習學校四十二校とを併合して百三十五校の青年學校に改變した。生徒數は十月調査によれば三萬一千四十七名で教員數千二百

六十名、これを以て職業的教育の充實を圖ると共に本市青年教育の一大躍進を期しつゝある。

大阪市聯合青年團

年次	團數	團員數
昭和七年度	二四七	一四〇、七四
同 八年度	二五〇	一四二、四三
同 九年度	二五三	一四、九九

大阪市聯合處女會

年次	會數	會員數
昭和七年度	六	一五、八九二
同 八年度	一〇四	二九、〇三
同 九年度	二九	三、八八

圖書館 市立圖書館として清水谷西野田、阿波座、御藏跡、今宮、城東の六館を有す。(詳細新聞圖書参照)

美術館

天王寺區茶臼山に新設、昭和十一年五月開館した。工費約百四十五萬圓、東洋風を加味した近代式鐵骨コンクリート構造で、建坪一、二一三坪、延坪三、五〇九坪、開館するや、大阪で初めての帝展をこゝに開いた。博物館 天王寺公園内にあり、大正天皇御大禮記念事業として設立した

もので、現在では規模を縮少し只科學館として存在せしむるに止まる。入場人員は昭和七年四五、三二三人、八年一六四、一四八八、九年一三八、七二四人である。

明治天皇記念館

本市は前後八回明治天皇の行幸を忝うしたので、天皇と最も由緒深き泉布觀苑内に記念館を設立することとなり昭和十年竣工。

心華婦人館

婦人に實用を旨とする社會教化事業を行ひ、兼ねて婦人の諸會合に供する目的で大正十五年設立

運動場

大正十二年第六回極東選手權大會の本市に開催を機として創設したもの。競技場は四百米トラック、觀覽席は二萬七千で一萬人の兒童を收容する芝生がある。なほ五十米プール(觀覽席三千)、二個の庭球コート(觀覽席六百)もある。入場人員は昭和七年二〇〇、四一一人、八年二五九、二五四人、九年一八三、〇三七人である。

音樂隊

昭和九年四月創設、これは大正十二年第四師團音樂隊が廢隊の際本市後援の下に設立せられた大阪市音樂隊を一層その機能を發揮せしむる目的で本市が經營することとしたもの

である。以上は社會教育の市設機關であるがこの他社會教育機構として教化委員制度あり、小學校通學區域内における青年團、婦人會、宗教團體等各種教化團體の協調連絡統一を圖り、小學校を中心とする社會教化事業を助成するもので、目下委員約七千名を有し、各小學校通學區域には教化委員會があり、又各聯合教化委員會が組織されてゐる。また社會教育に映畫を利用し、市内各學校各種教化團體等に映畫及び映寫機の貸出をなすと共に春秋二季に優秀映畫の大映寫會を開催し、教育關係者並に一般市民に觀覽せしめてゐる。

教育關係諸會

大阪市教育會△各區教育會△小學校長會△大阪市女教員會△大阪市保育會△大阪市小學校共同研究會△大阪市幼稚園共同研究會△大阪市小學校教育研究會△校園用品規格統一調査會△校園體操科用品規格調査會△中等學校用品調査會△大阪市少年職業指導研究會△大阪市聯合青年團△大阪市婦人聯合會

△大阪市聯合處女會△大阪市美術協會△大阪遠足聯盟△大阪體育協會

大學及專門學校

明治初年の大阪に於ける高等教育は會密局、洋學校等政府の施設があつて稍活氣を呈したが、後關西の學藝の中心は京都に移り、初等、中等教育が整備發展して行くことゝなつた。

現在大阪に於ける專門學校以上の學校は、官立大學一、私立大學一、官立高等學校一、同府立一、官立專門學校一、同府立一、私立男四、同女六、市立大學及專門學校一である。

國民文化の基礎が教育にあることを考へる時教育機關の完備は一日も忽に出来ない。たゞ金の力のみを過信してゐると思はれる大阪が市立大學を始め以上の教育施設のあることは意を強くするに足る。

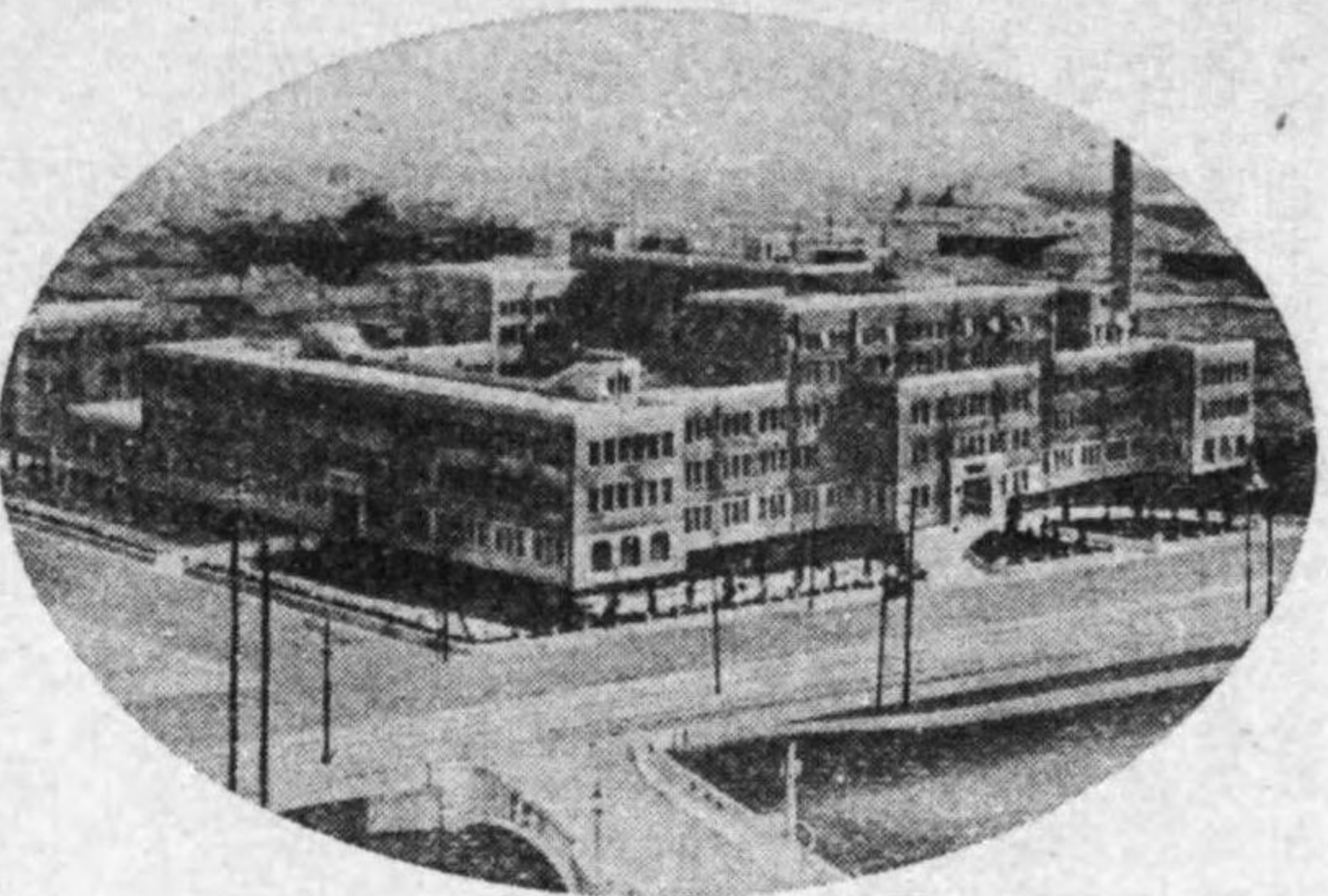
◇大阪帝國大學

大阪に所在する最高學府、大阪帝國大學は誕生以來日こそ淺いが、新興

學府として醫、工、理の三學部を擁して煙都の堯の中に學者の卵を育てゝゐる。

永年の昇格運動奏功して昭和六年府立醫大が帝大醫學部に所管換へとなり更に昭和八年官立工業大學が大阪帝大工學部となり、新たに理學部が開設されてこゝに綜合大學としての面目を整へるに至つた。

同大學醫學部が帝大に昇格するに至つた理由は、同大學附屬病院の年額収入が全國病院中隨一と稱せられ、これを政府に移管するも財政的に國家の負擔を必要としない點にあつたと云はれてゐる。この一事を以てしても同病院の醫學的權威は既に庶民信望の對象たり、同時に同大學研究室の内容は斯界に冠たるものあるを立證するに外ならない。而も同大學では今や全學部を擧げて世界醫學界の征服へと全努力を集中されてゐる。即ち先般來同大學待望のラヂウムが、それが貯藏金庫の裝置を俟つて納まり、かねて楠本總長以下醫學、理學兩部の各スタッフが計畫中であつた「癌征服陣」の結成は遂に文部省の許可するところとなり、愈今秋



大阪帝國大學醫學部及理學部

十月頃から醫、理、工の全學部の總知囊を集中、世界醫學界の最大の敵「癌」の征服に向つて突進することゝなつた。即ち病理、生化學などの基礎醫學や附屬病院及び微生物病研究所から癌治療研究の最適任者のみを選択し先づ癌治療研究部を新たに微生物病研究所内に設け、近き將來同研究所内の敷地

に獨立の癌治療研究所を建造、新たに癌專門病院建設の計畫を有してゐる。從來全國大學中癌研究の專門部門を持つのは東大のみであつたが、今年を以て創立五周年を向へる新鋭阪大が今秋を期して愈這般の如き全學結成の癌治療

▲長岡博士の總長ぶり 初代總長として迎へられた長岡半太郎博士は物理學界に於ける世界的存在であるだけに、阪大には過ぎた人物とされた。ところが、當の博士、至つて官僚臭が嫌いと來てゐるので、事務關係で文部省の役人との折衝が例の繁文縟式に行く必要もあつて、うるさくて仕方がない。それに言ひたいことはズバ／＼遠慮氣兼ねなしに言ひたい性質なので、餘計柄に合はず、就任早々、總長なるもの、如何につまらない職務なるかを學生に吹聴するといふ變人ぶりで間もなく辭任。「總長廢業……」など、某雜誌に載せたりしたものだった。

療の積極陣を張ることは、西日本文化の最大の誇りであると共に、我が大阪にとつて大なる福音と云はねばならぬ。

次に工學部、理學部に於ては前記の如く醫學部と協力して學界の爲に銳意その發達を期してゐることは云ふまで

もないが、別に工學部は機械工學、應用化學、醸造學、冶金學、造船學、電氣工學等の各分野を、同様理學部は數學、物理學、化學等各專門の最高學理を極めて、産業都市大阪の隆昌に直接貢獻するは勿論、學門自體の發達を以て今や大阪を全國に冠たる文化都市へ躍進せしむべく華々しい意氣と涙ぐましい努力が拂はれてゐる。

大學關係病院及研究所名

- ▲附屬病院 (北區堂島三三大學構内)
- ▲附屬病院石橋分院 (阪急沿線石橋)
- ▲竹尾結核研究所 (附屬醫院構内)
- ▲鹽見理化學研究所 (所長小倉金之助)
- ▲山口厚生病院 (院長鹽見博比留間三)
- ▲泉尾診療所 (港區泉尾松之町二丁目)
- ▲微生物病研究所 (醫學部附屬醫院隣)

博士 數

(自大正十年至昭和十年十月一日)

醫學博士	數
大正十年度	三
大正十五年	六六
昭和五年	一七一
昭和八年	二二六

昭和十年.....一三二

【工學博士】

昭和八年度.....
昭和九年度.....
昭和十年度.....

講座擔當者 (昭和十年度)

【理學部】

部長 眞島利行

— 數學教室 —

第一講座擔任 清水辰次郎

第二擔任講座 正田建次郎

第四同 南雲道夫

第三同 寺阪英孝

助教授四、講師四、助手七

— 物理學教室 —

第一講座擔任 八木秀次

第二同 岡谷辰治

第三同 淺田常三郎

第四同 菊池正士

助教授五、講師四、助手六

— 化學教室 —

第一講座擔任 眞島利行

第二 擔任 小竹武二雄

第三同 仁田 勇

第四 千谷利三

授業擔當

同 丸澤常哉

第一講座分擔 古武彌四郎

第五同 赤堀四郎

助教授二、講師三、助手八

【工學部】

部長 鈴木 市太郎

— 機械工學教室 —

第三講座擔任 谷出二郎

第一同 南大路謙一

第二同 中原益治郎

第四同 阿部久三郎

第五同 前田利一

第六 分擔 久武眞直

講師五、助手九

— 應用化學教室 —

第四講座擔任 丸澤常哉

第一同 鈴木 市太郎

第二同 上野誠一

第三同 香坂要三郎

助教授四、講師六、助手九

— 醸造學教室 —

第一 齋藤賢道

第二 中村 靜

助教授二、講師五、助手二

— 冶金學教室 —

第二講座擔任 藤井 寛

第一 分擔 山口珪次

第三同 松川達夫

第四 分擔 多賀谷正義

第一 岡田 實

同 河合定二

講師七、助手五

— 造船學教室 —

第二講座擔任 八代 準

第三同 野村省吾

第一同 望月重雄

助教授二、講師六、助手二

— 電氣工學教室 —

第四講座擔任 七里義雄

第二 分擔 竹山說三

第三 光野重威

助教授三、講師九、助手六

— 應用理學教室 —

第二講座擔任 田中晉輔

第三 分擔 香坂要三郎

授業擔當 眞島利行

同 小竹無二雄

第一 永井種次郎

【醫學部】

部長 小澤修造

— 解剖學教室 —

第二講座擔任 高木耕三

第一 分擔 富田朋介

第三同 高嶋律三

第一 分擔 助教授二、助手四

— 生理學教室 —

第二講座擔任 正井保良

第一 分擔 植田廉一郎

助教授二、講師二、助手四

— 生化學教室 —

講座擔任 古武彌四郎

助教授一、講師一、助手二

— 藥理學教室 —

講座擔任 長崎仙太郎

助教授一、助手三

— 病理學教室 —

第二講座擔任 片瀬 淡

第一 木下良順

助教授一、講師二、助手四

— 細菌學教室 —

講座擔任 谷口臈二

助教授一、講師一、助手三

— 衛生學教室 —

講座擔任 梶原三郎

講師一、助手二

— 法醫學教室 —

講座擔任 中田篤郎

助教授一、講師一、助手二

— 內科學教室 —

第二講座擔任 小澤修造

第三 今村荒男

第一 布施信良

助教授一、講師一三、助手二

— 外科學教室 —

第二講座擔任 岩永仁雄

第一 小澤凱夫

講師九、助手七

— 產科學婦人科學教室 —

講座擔任 緒方十右衛門

講師二、助手三

— 眼科學教室 —

講座擔任 中村文平

助教授二、助手一

— 精神病學教室 —

講座擔任 和田豐種

助教授一、講師五、助手五

— 小兒學教室 —

講座擔任 笠原道夫

◇市立商科大学

大阪商科大学 明治十三年私立大

阪商業講習所創立を以て本學の濫觴と

し、爾來幾變遷を経て大阪高等商業學

校に昇格、更に數年來の涙ぐましき猛

運動の結果、昭和三年新に大學令によ

り大阪商科大学を設立すると同時に、

從來の高等商業學校はこれを大阪商

科大学高等商業部として存置し、今日

に及んでゐる。

經濟研究所 商科大学内に市立經

濟研究所が設置されてゐる。之は昭和



新装の大阪商科大学

二年十月本市の實業家野村徳七氏の寄附金百萬圓を以て建設したもので、經濟に關する内外の圖書及び資料の蒐集整理をなすと共に、各方面の經濟問題を實證的に研究發表して本市經濟の振興に寄與してゐる。

大阪商科大学 (各年五月一日調)

年次	分科	教員數	學生數	卒業者數
昭和八年	高等商業部	二〇	四二	二八
同	豫學部	一六	四一	二九
同	高等商業部	一六	四一	二九
同	豫學部	一六	四一	二九
同	高等商業部	一六	四一	二九
同	豫學部	一六	四一	二九
同	高等商業部	一六	四一	二九
同	豫學部	一六	四一	二九
同	高等商業部	一六	四一	二九
同	豫學部	一六	四一	二九

高等程度以上學校

高等學校

- (官立) 大阪高等學校 住吉區王子町三丁目
設立 大正十年十一月、分科 文科
理科(修業年限各三ヶ年)
教員數四七、生徒數五八一
- (府立) 浪速高等學校 豐能郡櫻井谷村
設立 大正十五年三月、修業年限三ヶ年、教員數四七、生徒數四〇八
- (官立) 大阪外國語學校 天王寺區上本町八丁目

- 設立 大正十年十二月、分科 本科
II(修業年限三ヶ年)別科(修業年限二ヶ年)選科(修業年限三ヶ年)教員數六三、生徒數九三六
- (府立) 大阪府女子專門學校 住吉區住吉町帝塚山
設立 大正十三年二月、分科 國文
國史學科、英文學科、家政理學科(修業年限各三ヶ年)豫科、專攻科、研究所(修業年限各一ヶ年)
教員數五七、生徒數三四二
- (私立) 浪華高等商業學校 南區瓦屋町一番町二一
設立 昭和七年四月、分科 第一部
第二部(修業年限各三ヶ年)
教育數三七、生徒數五九九
- (私立) 大阪藥學專門學校 豐能郡櫻井谷村
設立 大正六年三月、修業年限三ヶ年
教員數二四、生徒數四七八
- (私立) 大阪齒科醫學專門學校 北河內郡牧野村
設立 大正六年九月、修業年限四ヶ年
教員數四三、生徒數六六八

○(私立) 帝國女子藥學專門學校

北河內郡守口町
設立 大正十四年三月、修業年限四ヶ年
教員數二七、生徒數六三五

○(私立) 梅花女子專門學校

豐能郡豐中町
設立 大正十一年三月、分科 豫科
(修業年限一ヶ年)英文本科(修業年限三ヶ年)英文選科(修業年限一年乃至二年)國文本科(修業年限三ヶ年)國文選科(修業年限一年乃至二ヶ年)
教員數二四、生徒數四二二

○(私立) 樟蔭女子專門學校

中河內郡布施町
設立 大正十四年十二月、分科 國文科、家政科、技藝科(修業年限各三ヶ年)豫科(修業年限一ヶ年)家政科(修業年限二ヶ年)
教員數三〇、生徒數四五二

○(私立) 相愛女子專門學校

東區本町四丁目二七
設立 昭和三年四月、分科 國文科
家政科、社會事業科(修業年限各三ヶ年)

ヶ年) 豫科(修業年限一ヶ年)

教員數二四、生徒數五五

○(私立) 關西大學專門部

東淀川區長柄中通二丁目
設立 明治十九年十二月、分科 第一部、第二部(修業年限各三ヶ年)
教員數一一三、生徒數三一七四

○(私立) 日本大學專門學校

中河內郡彌刀村
設立 大正十四年三月、分科 第一部法律科、商科(修業年限各三ヶ年)第二部法律科(修業年限各三ヶ年)
教員數三八、生徒數五〇三

○(私立) 大阪高等醫學專門學校

三島郡高槻町
設立 昭和二年二月、修業年限五ヶ年、教員數三一、生徒數八一六

○(私立) 大阪女子高等醫學專門學校

北河內郡牧野村
設立 昭和三年六月、修業年限五ヶ年、教員數四四、生徒數五三七

○(私立) 大谷女子專門學校

住吉區共立通二丁目
設立 昭和五年四月、分科 國文科
家政科、技藝科(修業年限三ヶ年)豫

科(修業年限一ヶ年)

教員數二九、生徒數八〇

○大阪帝國大學工學部

北區東野田町
設立 昭和八年四月、分科 機械工學科、應用化學科、釀造學科、冶金學科、電氣工學科(修業年限三ヶ年)
教員數九七、學生數三三八六

○大阪帝國大學醫學部

北區常安町
設立 昭和六年五月、分科 醫學部
(修業年限四ヶ年)
教員數七三、學生數三九六

○大阪帝國大學理學部

北區常安町
設立 昭和七年十月、分科 數學科
物理學科、化學科(修業年限各三ヶ年)
教員數二三、生徒數四三

○關西大學

三島郡千里村
設立 大正十一年六月、分科 第一大學豫科(修業年限三ヶ年)第二大學豫科(修業年限二ヶ年)學部法律學科
政治學科、英文學專攻科、哲學專攻科、經濟學科、商業學科(修業年限各三ヶ年)
教員數九三、學生數一五一三

中等學校以下は政治行政の項「諸官衙學校」参照

火災保險 傷害保險 最近 收入保險料
 自動車保險 二億三千三百三十餘萬圓
 海上保險 二十年間 支拂保險金
 運送保險 一億五千三百九十九萬餘圓

本社 大阪市北區堂島濱通二丁目(渡邊橋北詰)



大阪海上火災保險株式會社

電話北 自六八〇一 六九〇二 六九一三
 至六八〇五 六九〇三 六九一四

明治二十六年創業
 資本金壹千萬元

支店・出張所 東京、神戸、横濱、名古屋、福岡、京城、金澤、仙臺、京都
 駐在員 天津、臺北、小樽、門司、和歌山、廣島、岡山、三田尻、鹿兒島、長崎
 代理店 内外樞要ノ地ニ二千八百餘店設置
 歐洲總代理店 ロンドン市 セドキツク、コリンズ商會

保健衛生



保健衛生と大大阪

我大大阪は本邦第一の商工都市で、本邦主要貿易港たる大阪港を擁し海外との往來愈々盛んであり、近年景氣回復により重工業その他の工業が益々活氣を呈して居る。然るに此の繁榮は一面に於ては市民保健の一大脅威であつて本市の衛生状態は常に危険にあり殊に傳染病の侵入、傳播に好條件を與へる。而して又都市密集生活及び之に伴ふ生活環境は都市民の健康を不知不識の間に害し、殊に都市病の稱ある肺病疾患者の多きこと並に乳兒死亡の高率なることは寔に寒心すべきものがある。従つて之が保健施設は益々細密萬全を期する要あるは勿論、常に病禍を追跡する消極的方法に止らず之を未然に防ぐ豫防的且積極的方法を指針として進まねばならない。(藤原)

官公立診療事業

官公立診療機關

大阪に於ける官立病院は帝國大學附屬病院及び其の分院と鐵道病院の二ヶ所に過ぎない。帝國大學附屬病院及分院は廣く一般公衆を對象として各種診療業務を行ふと共に學術的研究に力を注いで居る。

石橋分院は神經性患者、慢性的疾患又は各種疾患の回復期、其他郊外に轉地療養を要する患者の爲めに設立せられ、泉尾診療所は貧困者救療の目的を以て内科、外科、小兒科、眼科及び皮膚、泌尿器科等の診療を行つて居る。其の他傳染病撲滅の爲めに開所されたる微生物研究所、竹尾結核研究所等何れも夫々の目的に従ひ醫療研究に盡力

して居る。
 鐵道病院は大正三年五月二十八日發布せられたる勅令に基き昭和四年七月二十五日施設せられ、主として公務傷病者の治療を行ふと共に旅客職員及其家族の傷病に對し診療をなし、傍ら鐵道附屬醫療機關として特別の任務を有するものである。

官立診療機關一覽 (昭和十年末現在)

名	稱	診療科名	病床數
大阪鐵道病院		全科 <small>(小兒科及皮膚科ヲ除ク)</small>	一三三
住吉區天王寺町		全科	一三三
大阪帝國大學醫學部附屬病院		全科	一三三
北區堂島濱通		一般	八九九
大阪帝國大學醫學部附屬醫院石橋分院		一般	一四〇
豐能郡櫻井谷村		一般	一四〇
大阪帝國大學醫學部附屬泉尾診療所		一般	一四〇
港區泉尾松之町		一般	一四〇
大阪鐵道病院	延人員		
昭和七年	入院	外来	計
	四、三九	二、六四、一六	三、八、五五

同 八年	四、九四〇	三、九二一	三、七五三
同 九年	五、〇一七	三、八、九〇〇	三、六〇七
同 十年	五、五九六	三、四三三	三、九八〇

帝大附屬病院

昭和七年	延人員 一〇、七五五	七、五八二	八、七、九七七
八年	延人員 二、九、四四三	三、七、九八八	三、七、四四四
九年	延人員 一〇、五八七	七、九六九	九、〇、二〇九
十年	延人員 二、九、三三三	三、五、九六四	三、七、〇

帝國大學附屬病院石橋分院

昭和七年	入院 三、九三三	外來 計	
八年	入院 三、八〇二	外來 計	
九年	入院 三、〇九〇	外來 計	
十年	入院 三、二七	外來 計	

帝國大學附屬病院泉尾出張診療所

昭和七年	通院患者數 一、三、〇三七
八年	通院患者數 一、四、二八五

府立診療機關

府立診療機關としては、大阪府立醫科大學が文部省に移管されて以來一般診療機關皆無となり特種疾病治療、豫防機關を二、三有するに過ぎぬ状態である。即ち娼妓等の花柳病治療機關たる難波病院、精神病院たる中宮病院と一府四縣立として設立せられたる癩病院(外島保養院)が市内外島に在りしも一昨年の風水害の際流失の厄に遭遇せし爲僅か前記二病院に過ぎぬ。

之等花柳病、精神病、癩病は國民保健上、極めて重要な役割を爲すもので、之等疾病の取締は警察當局が其の衝に當る關係上府に於て施設せらるべきものである。前二者は大都市の文明が進展し、交通機關の錯雜、加ふるに重工業發達により人口の都市集中による過密生活、娛樂機關の不秩序なる創生等によつて助長せられて發生するもので、かゝる疾病は遞増の傾向を示し警察當局の取締と相俟つて治療機關の整備を餘儀なくされる現狀である。其の他市、赤十字社の結核豫防陣に

介在してラヂオ納付金による府立健康相談所二ヶ所ありて、結核豫防早期發見につとめて居る。

府立診療機關一覽

名稱	場所	床數
大阪府立中宮病院	北河内郡山田村	四〇〇
第三區府立外島保養院	西淀川區外島町	五五〇
大阪府立難波病院	住吉區住吉町	八二
大阪府立健康相談所	阪大病院	
大阪府立健康相談所	今村内科	
大阪府立健康相談所	堺市甲斐町	

大阪府立中宮病院 以下大阪府統計

昭和六年	入院 三、七	退院 二、九	年末現在 二、九
七年	入院 三、四	退院 二、五	年末現在 二、九
八年	入院 六、六	退院 二、五	年末現在 四、一
九年	入院 三、一	退院 三、〇	年末現在 三、八
昭和六年	入院 六、三	退院 五、一	年末現在 五、五

市立病院數 昭和十年末現在

名稱	創立	普通床	傳染床
市民病院	大正十四年	四〇	一
電氣局病院	大正十三年	二〇	一
桃山病院	明治二十年	八六	一
津守傳染病豫防分院	大正九年	三三〇	一
刀根山病院	大正六年	七五	一

市民病院附屬診療所

名稱	創立	診療定員
四貫島診療所	昭和五年	五十名
市岡診療所	同	同
海老江診療所	同	同
今福診療所	同	同
十三診療所	同	同

市民館診療部

名稱	創立	名稱	創立
北市民館	大正十年	東市民館	昭和三年
天王寺同	同十五年	玉出同	同四年
大正同	昭和三年	此花同	同五年
浪速同	昭和三年		

電氣局病院附屬診療所

創立 名稱	大正九年
九條診療所	

同 七年	六五三	五五	五九七
同 八年	六六七	八五	六〇三
同 九年	六〇二		

難波病院(娼妓病院)

昭和六年	病床數	入院患者數	年末入院數
同 七年	八五	一、五、三四	三、五九
同 八年	八五	一、五、九七	三、三六
同 九年	八五	一、五、四九	三、六六
同 十年	八五	一、七、七二	四、四〇

市の診療機關

凡そ大都市に於ける死亡率の高きは都市惡環境に依るものなるも一部には市民中醫療費の支出に困窮する者が多き事に原因するものと考察される。かゝる意味に於て中産階級以下の市民に對して醫療救護の施設は社會的見地より缺くべからざるものである。茲に於て本市は夙に中産以下の救護機關として種々の醫療施設を設置して市民の保健衛生に留意しつゝあつて、多年之が完備に努力せし結果最近に於

保 健——官公立診療事業

築港診療所 同八年
鶴町診療所 同十二年
天王寺診療所 同五年

保 養 所

刀根山保養所 創立 昭九年 收容定員 八
淡路臨海保養所 同 七年 八
六甲郊外學園 同 四年 八

健康相談所

北野健康相談所 昭七年 創立
朝潮健康相談所 同 八年
泉尾健康相談所 同 八年
猪飼野健康相談所 同 八年
西今宮健康相談所 同 九年
西中島健康相談所 同 十一年
城北健康相談所 同 十一年
平野健康相談所 同 十一年
今宮産院 大正十年 本庄産院 昭十年 天王寺産院 大正十五年

阿波堀産院 大正十三年 一〇 二八
備考 昭和十年本庄産院を扇町産院と改稱
大正十五年天王寺産院を今宮産院と改稱

乳 兒 院

堀川 大正十年 四〇(日) 約二〇(日)
今宮 同 三年 四〇(日) 約二〇(日)
乳兒院 同 三年 四〇(日) 約二〇(日)

トラホーム診療所

トラホーム診療所 創立 大正十一年
九條診療所 同 昭三年
市岡診療所 同 昭三年
下寺診療所 同 昭三年
西濱診療所 同 昭三年
姫島診療所 同 昭三年
福診療所 同 昭三年
山口診療所 同 昭三年
東小橋診療所 同 昭三年
今福診療所 同 昭三年
放出診療所 同 昭三年
生江診療所 同 昭三年
千林診療所 同 昭三年
我孫子診療所 同 昭三年

平野診療所 同
泉尾診療所 昭八年
豊崎臨時診療所 同
加島臨時診療所 同

消毒隔離所

消毒隔離所は市内此花區下島町にありて、當所に隔離收容する者は「コレラ」「ペスト」「發疹チフス」に感染の疑ある健康者に限られてゐる。

救 護 班

天災地變其の他の災害に當り、本市に於ては臨時救護班を編成し警戒救護を行つてゐるのであるが、市役所保健部に於て救護に要する機械器具、藥品其の他の材料を常備し、事變あるや直に出動救護に従事し得ることにして居る。彼の風水害の際の如き最もその機能を發揮せるものである。

市立診療患者總數

昭和八年 入院 外來 巡診數 合計
八年 一三、八五四 三、六六一 一、七四七 一、七四七
九年 一六、四九一 六、八八七 四、七三九 一、九一七
十年 一六、九三六 八、三三三 四、二五一 一、九一七

〔各年末入院數〕

昭和八年 普通 病院 結核 傳染 計
一九〇 四〇五 四四五 一、〇四〇
同 九年 一三三 三三二 五五四 一、四七八
同 十年 二二七 六九七 五三七 一、四五一

同上患者内譯

〔普通病院—市民病院〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 年末 患者數
三、九六八 三、〇九二 一九〇
同 九年 三、九六八 三、三九五 一九三
同 十年 三、九六八 三、八七一 二二七

〔傳染病院—桃山病院及津守分院〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 年末 患者數
二九二 八、八六〇 一、九二五 四四五
同 九年 四四五 一〇、五六一 一、〇〇七 五五四
同 十年 五五四 一〇、五七四 一、二三八 五七七

〔結核病院—刀根山病院〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 計 年末 患者數
前年越 入院 數 患者數 計 患者數
昭八年 四〇九 三三五 一 七四四 四〇五

保 健——官公立診療事業

診 療 所

〔市民病院附屬診療所〕
昭和八年 所數 患者數 外來 患者數 計
同 九年 五 五 四、四五三 四、四五三
同 十年 五 五 三、二四七 三、二四七

〔市民館診療部〕

昭和八年 部數 入院 患者數 外來 患者數 計
同 九年 七 一 一、六、九四七 一、六、九四七
同 十年 七 一 一、六、九四七 一、六、九四七

健康相談所

昭和八年 相談及 治療 計 家庭訪問
同 九年 三、二二三 二、六、六六一 二、九、九三三 一、七四七
同 十年 八〇四 六、三〇三 六、三〇三 四、七二二
同 十一年 一、三六六 七、五、九三三 七、五、九三三 四、三五一

〔消毒隔離所〕

昭和八年 所數 隔離人員
同 九年 一 一 二
同 十年 一 一 一

保 養 所

〔刀根山保養所〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 計
同 九年 二四六 二四六 二四六
同 十年 二五五 二五五 二五五

〔淡路臨海保養所〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 計
同 九年 二八四 二八四 二八四
同 十年 二八四 二八四 二八四

〔六甲郊外學園〕

昭和八年 入院 患者數 外來 患者數 計 分娩數
同 九年 三、五、九三三 九、七六〇 一、五、六七一 五、四〇〇
同 十年 三、五、九三三 九、七六〇 一、五、六七一 五、四〇〇

保 健——官公立診療事業——妊産婦保健事業

三九〇

乳 兒 院 延 人 員

同 十年	三六、〇七二、七〇二六、七七五、五五〇
同 九年	二六、九七五、二五五、三四二〇、二〇〇
同 八年	二五、〇四三、〇四九、六五〇、五八
同 七年	二六、四四六、七三二、〇八〇、三三

トヲホーム診療数

昭 和 八 年	診 療 症 例 患 者 数	取 締
同 九 年	一六、一五九、五五	六、七七八
同 十 年	一八、一八九、七二	七、二二一

市立診療無料有料別

〔無料入院〕

昭 和 八 年	結 核 病 院 普 通 病 院 計
同 九 年	三、五七、九三三、八八二、九一六、九
同 十 年	八、〇二、九三七、一〇七、二、二五

〔有料入院〕

昭 和 八 年	結 核 病 院 普 通 病 院 計
同 九 年	一、五三、三〇、四、五八
同 十 年	一、五三、三〇、四、五八

〔無料外来患者数〕

昭 和 八 年	病 院 診 療 所 相 談 所 計
同 九 年	四、四二、三、二五、四、九三三、二、五〇九
同 十 年	四、七三、四、三、一、六、〇六一、一五、〇九七

〔有料外来患者数〕

昭 和 八 年	病 院 診 療 所 相 談 所 計
同 九 年	二、四、二、七、二、三、九、一、二、四、五、六
同 十 年	二、四、一、九、一、五、一、四、二、五、四、九〇

〔電氣局病院診療〕

昭 和 八 年	入 院 数 外 来 数 計
同 九 年	三、二、五、一、七、一、八、八、一、九、三、〇、四
同 十 年	三、五、五、一、五、一、〇、七、一、七、三、六、五、〇

〔電氣局病院〕

昭 和 八 年	病 院 診 療 所 相 談 所 計
同 九 年	二、四、二、七、二、三、九、一、二、四、五、六
同 十 年	二、四、一、九、一、五、一、四、二、五、四、九〇

〔電氣局病院附屬診療所〕

同 九年	一、二〇、五三三、三、六〇、一、五、二、三、三
同 十年	一、二五、一、八、二〇、一、二、四、一、三、六、二、八、九、四

〔電氣局病院附屬診療所〕

昭 和 八 年	所 数 入 院 数 外 来 患 者 数 計
同 九 年	四、四、一、三、七、五、九、三、七、五、九
同 十 年	四、四、一、九、四、七、一、九、四、七

◆妊産婦保護事業

市立産院と其取扱

妊産婦保護事業は乳幼児保護と相俟つて乳幼児死亡低減を計るに最も緊要である。殊に本市に於ては毎年産に關する疾患のため死亡者約三〇〇人、死産流産五、〇〇〇件を超へ、而して先天的弱質に因り死亡する乳児數二、六〇〇人に達し全乳児數の二五パーセントを占める事實より觀て、該施設の普及徹底は益々急務を告げてゐる。

茲に於て本市は夙に妊産婦保護の目的を以て扇町、今宮、阿波堀の三産院を開設し無料或は輕費を以て大衆に便宜を與へてゐる。爲めに年々其の利用者は遞増の傾向を示し、昭和元年産院



市立市屬産院

◆乳幼児保護施設

其の他民間病院にして産婦人科専門のもの或は併設のもの合して八十に及ぶ。

内分娩數は一日平均一〇・六件であつたが、昭和七年には一六・四件に躍進し總取扱件數は市内總出產數の七パーセントに達すに至つた。(市の診療機關参照)

私設産院

私設のものには産院と稱すべき純粹のものはないが、助産救護施設として弘濟病院、日本海員救濟會病院、濟生會病院、四天王寺施藥病院、日本赤十字社大阪市部病院、聖バルナバ病院等に産婦人科を設け社會事業施設として無料收容を行つて居る。

保 健——乳幼児保護施設

即ち本市に於ける乳幼児死亡は年々一萬五千人を降らない。是れ産業都市特有の不良なる生活環境に原因する處も多いが、一般家庭に於ける育兒知識の缺乏も亦主要なる原因の一をなして居る。

市立乳幼児保護施設

大阪市は夙に乳幼児保護の重大なるを感じ、大正十年以來二ヶ所の乳児院を設け、無料を原則として乳幼児の診療を行ふと共に、中産以下の家庭に於て乳児あるが爲めに、就業に支障を來すもの、便宜を計るため受託保育を

爲してゐる。更に育兒に對する榮養、疾病等に就て親しく相談に應じ、乳兒保育に關する知識の啓發と指導とを目的として訪問看護婦をして中産以下の家庭を訪問せしめてゐる。(市の診療機關参照)

民間乳幼児保護施設

民間にありて乳幼児保護を目的とする團體中の主要なるものは財團法人大阪乳幼児保護協會である。本協會は昭和二年府市當局の協力によつて誕生したもので、鋭意市内の乳幼児保護に當り、市内に九ヶ所の小兒保健所と二ヶ所の診療所とを經營し、兒童愛護の第一線に立つて、育兒知識の普及に努力して居る。

其の他民間の社會事業團體に於ても乳幼児保護事業に従ふもの漸次増加し官民舉つて乳幼児死亡低減運動に協力盡すところある。

今や乳幼児保護施設は市内に於て五十を超へるが、其の主なるものは次の通りである。

名	稱	所 在 地
赤十字社	大阪支部	天王寺區筆ヶ崎町
育兒相談所		

赤十字社大阪支部	西區江ノ子島
江ノ子島育兒相談所	北區萬歲町
公衆衛生訪問協會	東成區猪飼野中三丁目
乳兒相談所	東淀川區元今里北通二丁目
コドモセツツルメ	東淀川區本庄中通二丁目
博愛社育兒相談所	東淀川區三丁目
淀川善隣館育兒相談所	此花區四貫島大通三丁目
愛國婦人會兒童健康相談所	東區南新町二丁目
康相談所	此花區上福島中一丁目
四貫島セツツルメ	天王寺區大道五丁目
セント健康相談所	港區市岡元町二丁目
聖ヨハネ學園育兒相談所	天王寺區細工谷町
中央小兒保健所	東成區鶴橋北之町二丁目
累徳小兒保健所	浪速區榮町六丁目
大賀小兒保健所	浪速市民館内
聖バルナバ小兒保健所	北區天神橋筋六丁目
長谷川小兒保健所	北區市民館内
浪速小兒保健所	
北小兒保健所	



車動自送輸者患

西野田小兒保健所 此花區江成町
長尾小兒保健所 此花區西九條下通二丁目
保嬰館診療所 此花區上福島一丁目

特殊診療機關 赤十字社大阪支部病院

赤十字社大阪支部病院の診療業務は單に院内の診療事業のみの外、救急事業、社會看護婦訪問事業、輸血奉仕事業等院外に進出して幾多の醫療社會事業に貢獻し其の活動目覺しきものがある。

更に其の設立の主旨により戰時必要な救護員の充實救護材料の整備格納保全に努め戰時事變に際し編成裝備を完結せる救護團體を編成して陸海軍の衛生勤務を補助するものである。

赤十字社取扱患者數(保健部調査)

昭和八年	一〇、八七	七九、〇五	八九、八五
同 九年	二、二八	八、九四	九三、三八
同 十年	二、二九	八七、〇七	九六、三六

恩賜財團濟生會大阪府病院

明治天皇におかせられては濟生治教に大御心を致させ給ひ明治四十四年二

財團法人四天王寺施療病院

本病院は千三百有餘年の昔聖徳太子が垂れ給ひし療病、救濟、養老、感化の御精神に立脚して、社會民衆を等しく救療せんとする主旨のもとに設立せられたものである。

財團法人四天王寺施療病院患者取扱數 實人員

昭和九年	六五	九三三	九八八
同 十年	六四	一〇、六八	一〇、七三

施療病院

疾病は貧困に陥る最も一般的要素であり、同時に貧困は種々なる疾患を惹起せしむるものであるが故に、醫療を受ける資に乏しい貧困者に對し無料且つ簡易に診療投薬を爲し、速かに治療恢復せしむる事は國民の保健上一日も忽諸に附すべからざる所である。

殊に近時に於ける社會的變動に伴ひ貧困者の益々増加する現狀にあつてはかかる無料或は輕費の診療機關の普及發達を一層痛感するものである。左に市内に於ける施療病院の概要を示す。

月十一日紀元節の佳辰に恩賜金を御下賜あらせられた。而して此の恩賜金を基金とする恩賜財團濟生會が其の年五月三十一日を以て設立せられたのである。

大阪府に於ては明治四十五年五月財團恩賜濟生會より救療事業の實施を委託せられ同年七月より事業を開始、其の後幾多の變遷を経て現今に於ては其の施設せる診療機關は病院二ヶ所診療所十ヶ所夜間診療所五ヶ所等を以て市部の救療に遺算なきを期し郡部に對しては巡回診療班七班を以て二十八ヶ町村を巡回し、其の他の町村は委託診療を行つて居る。

財團法人濟生會大阪府病院 保健部調査 實人員數

昭和六年	一、三七	一四、四六	一五、八〇
同 七年	一、四〇	一五、五七	一六、九七
同 八年	一、〇七	一三、〇五	一四、一三
同 九年	一、五五	一七、六二	一九、一七

同市内診療所成績 (診療患者實人員)

昭和六年	三、四六
同 七年	二、七五

大阪慈惠病院と弘濟病院

赤十字社、財團恩賜濟生會の外に特殊診療機關と見らるべきものに大阪慈惠病院と弘濟病院がある。

慈惠病院に於ては行路病人、救護法該當者、弘濟會特別救助人等の醫師衛生を掌り、尙軍人遺族及癡兵中入院又は通院を要する者を取扱ふ一方、庶民層の施療を行つて居る。

弘濟病院にありては勤勞生活者にして疾病傷痍のため生活の脅威を受け、又は受くる虞ある患者の輕費診療、學術的研究及看護婦養成を爲すを以つて目的として居る。

大阪慈惠病院

昭和八年	三、〇五	二、二九	七五
同 九年	三、五〇	二、三六	一、二五
同 十年	四、一四	二、七四	一、三五

弘濟病院

昭和八年	一、一四	九八	一〇、九〇
同 九年	一、〇七	九三	六、九三
同 十年	一、〇七	六、二七	七、三九

施療病院數

名	稱	所在地	患者收容定員	年末現在患者數	入院患者數
私立	大阪市醫師會救療病院	東區空堀通	二八	二	九七三
市立	大阪市立阿波堀産院	西區阿波堀通	二八	* 一〇*	* 三、一三五
市立	大阪市立扇町産院	北區北扇町	一〇〇	* 三三*	* 一、三七八
私立	恩賜財團法人濟生會大阪府病院	東淀川區中津南通	二〇〇	一三	四、〇八八
市立	大阪市立今宮産院	西成區橋通	元	* 八	六、九一九
私立	財團法人弘濟會救療部大阪慈惠病院	東成區南生野町	三〇〇	二八七	一〇、四五二
私立	財團法人弘濟會救療部大阪慈惠病院	三島郡山田村	七九	一、〇七	二、八四九

施療病院患者數大阪府統計

昭	和	六	年	昭	和	七	年	昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一、四二	一、四一	一、四〇	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九	一、三九

新聞社の診療事業

新聞事業は社會の最尖端を歩むもの

であるが、近時益々その事業の範圍は擴大され量及び質に於ても飛躍的進歩をとげ、その領域は醫療事業に迄及んでゐる。紙上に於ては醫療欄を設けて紙上診療を行ひ讀者の便宜を計つて居るが、更に一步を進めて實地診療を行つてゐる所もある。

例へば大阪朝日新聞社の如きは社會事業的見地から公衆衛生訪問婦協會を設立して妊産婦の相談や、兒童の健康相談に應ずると共に家庭訪問を行ふて

保險會社の診療事業

保健衛生の普及に努めて居る。又大阪毎日新聞社に於ても巡回診療を行ひ、或は小兒保健所を設けて兒童の保護に盡力して居る。

日生病院

日生病院は保險會社の醫療社會事業を行へる本市代表的なものであつて事實上は日本生命保險會社とは別箇の財團法人日本生命濟生會に附屬せる病院なるも、其の經營にあたり日本生命保險會社より補助金を支給するの外之が經營に積極的に援助する所多し。

日生病院の診療科目は全科で其の設備内容も充實せられ其の收容定員一〇五床に及ぶ。

日生病院の成績

昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八
* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四	* 八四

民間病醫院

大阪府統計

昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五
二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六

私立病院患者數

前	年	越	昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五
二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇

私立病院病床内譯數

昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六	二、八六
七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三	七三

大工場附屬病院

我大阪市は世界屈指の大商工都市である關係上大工場には工場従業員或は家族の健康増進の爲、又一面には業務の能率を増進する目的を以て附屬病院を設けて診療事業を行つて居る。

大工場の附屬病院數

名	稱	所在地	診療科目	床數
東洋紡績株式會社	此花區四	内科	二〇	
四貫島工場病院	貫島大通	齒科	二〇	
帝國製麻株式會社	西淀川區	内科	二〇	
大阪工場病院	傳法町	外科	二〇	
東洋紡績株式會社	北區池田	全科	二七	
天満工場病院	北區池田	全科	二七	
附屬中山薄鐵板	大正區船	全科	三三	
東洋紡績株式會社	軒家濱通	全科	三〇	
三軒家工場病院	軒家濱通	全科	三〇	
鐘淵紡績株式會社	旭區友淵	一般	三三	
淀川支店附屬病院	旭區友淵	一般	三三	
天満織物株式會社	旭區毛馬	一般	三三	
城北工場附屬病院	旭區毛馬	一般	三三	

醫事機關

醫師、藥劑師、及齒科醫師數

(大阪府統計各年末現在)

昭	和	六	年	昭	和	七	年	昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九	二、二九
二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四

府下醫師數及齒科醫師數

(大阪府統計各年末現在)

昭	和	六	年	昭	和	七	年	昭	和	八	年	昭	和	九	年	昭	和	十	年
三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六	三、〇六
一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇

同 十年 四、四六三 一、六四九 六、二二三

府下に於ける薬剤師と薬局数

大阪府統計各年末現在
昭和八年 三、〇〇五 一、三五四
昭和九年 三、二九一 一、四三八
同 十年 三、四八三 一、四八二

各種醫療業者

大阪府統計各年末現在
種別 昭和六年 昭和七年 昭和八年
鍼 術 二、六七六 二、五七〇 二、六六八
灸 術 二、三三三 二、三四五 二、三三七
按摩 術 四、八四七 四、八二一 四、八〇三
マツサージ 術 九六五 一、〇四三 一、〇七四
柔道整腹術 一九七 一八三 三三〇

賣 藥

製造業 賣藥請負 賣藥行
業者数 營業者数 商者数
昭和九年 二、九四七 九、九九九 七、七七七

大阪市内に於ける産婆と看護婦

大阪府統計
昭和六年 産婆 看護婦 計
同 七年 三、二四八 七、三三三 一〇、五八〇
同 八年 三、三五一 七、六二一 一〇、九六二

同 九年 三、四七一 八、三〇七 二、六八

精神病と癩病

これ等の特殊疾病の療養並に豫防は國民保健上將又社會衛生上極めて重要なものである。

惟ふに精神病患者は社會組織の複雑化生活苦の累積、生存競争の激烈化につれて益々増加の傾向にあり、且又病狀が悲惨にして長期に亘り公安上危険性あるものが尠くない爲めに保安上周到なる監視保護の要がある。

然るに其の治療施設としては公立病院一ヶ所、私立病院十四ヶ所を數ふるに過ぎずして充分なる成果を修め得ざるは甚だ遺憾である。

精神病患者累年比數

大阪府統計
昭和六年 入院 退院 現在
同 七年 公三、七七一 一、〇四〇 一、六九七
同 八年 公三、六九四 八六三 一、八三二

同 九年 公三、三八一 一、〇六三 二、二六六
同 十年 公三、五八二 一、三三三 二、二四五
備考 公は公費、私は私費を示す。

精神病院

大阪府統計
名 稱 患者收 容定員
公立 大阪府立中宮病院 北河内郡山田村大字中宮 四三〇
私立 關西腦病院 大阪市住吉區住吉町一八九番地 一五六
大阪府立西宮病院 西宮市西宮區西宮町一三番地 一三三
大阪府立神戶病院 神戶市東區磯子町一三三番地 一三七
石丸癩病院 豊能郡熊野田村一八〇番地 七
新大阪病院 三島郡五箇村大字三枝二〇三番地 一〇七
吹田癩病院 三島郡吹田町一六五二番地 一六三
堺 癩病院 堺市今池町三九六番地 二八三
酒寺精神衛生研究所附屬酒寺病院 酒寺町酒寺大字北五五 三七六
七山病院 泉北郡熊取村大字七山一三二二番地 二七四
大阪府立癩病院 南河内郡志紀村大字天王寺屋新田一三九番地 三三三
天美癩病院 中河内郡天美村大字城連寺字敷下二八五番地 三三〇

貿易の進展は斯病傳染の危険に暴露せらるゝを免れざる所なるも一般衛生思想の向上と各種施設の充實とによりて

昭和九年大都市人口萬對傳染病發生比較表 (昭和九年)

Table with columns for city (e.g., 大阪市, 東京市), population, and various diseases (e.g., 赤痢, 癩, 疥癬). Includes a note about early detection and treatment.

罹病率と死亡率

Table showing incidence and mortality rates for various diseases in Osaka City for the years 1931-1933.

市内傳染病患者病類別

Table listing the number of patients for various infectious diseases in Osaka City for the years 1931-1933.

本病は不治病にして而かも傳染病なるを以て之が患者を隔離して一般市民をして之が傳染の危険を防止せんがために、大阪府に於て患者を外島保養所に收容せるも昭和九年九月の關西風水害により該保養所流失破損し爲に以後之等患者は一時市内弘濟會病院外、府立保養所に分散收容してゐるが、他日場所を更めて設備内容充實せる療養所が設立せらるゝ事になつてゐる。

傳染病

大阪市の傳染病患者の發生狀況を見るに年々漸増の傾向にあるは寔に憂慮に堪へざる所である。惟ふに都市發展に伴ふ環境の悪化と

市内及府下傳染病患者數

年	患者數	死亡者數	患者百に付死亡數
昭和六年	八、三七	二、三〇	二七、六六
同 七年	九、八七	二、五七	二六、〇三
同 八年	一三、六三	三、〇八	二四、三三

患者年齢別

年齢	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
五才以下	二、五三	二、七九	三、六四	四、〇九
十才以下	一、三三	一、五三	二、八四	二、五八
二十才以下	一、二六	一、三六	一、七六	二、三三
三十才以下	一、一六	一、三〇	一、四六	一、九三
四十才以下	六〇〇	六八〇	七九一	一、〇三三
五十才以下	三三九	二七四	三六〇	四三三
六十才以下	一九	二〇四	三三三	二七六
六十才以上	一〇九	一七五	一九六	二七四
計	七、三九	八、一九	一〇、八六	一三、八八

死亡者年齢別

年齢	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
五才以下	九四	九八	一一一	一二三
十才以下	二八	三〇	三六	三九
二十才以下	一六	二二	二四	二七
三十才以下	二五	二八	三三	三九

結核

東洋のマンチエスターたる本邦第一の産業都市大阪に集食ふ青白き病魔結核は正に遺憾ながら本邦首位の名を受けねばならぬ。商工業の股盛につれ林立せる工場より吐ける煤煙、櫛比せる商業街、騒音の原因が齎し肺結核患者を創生せしめる。

本市に於ける結核死亡者を見るに其の數は年々七千人を越え、結核罹病の數は七、八萬人と推定されて居る。

而して本病は生産階級たる青年の間に最も多く、又長患にして治療に長日月を要するを以て本市衛生上の大問題たるのみならず、市勢の發展上眞に寒心に堪えざる所である。

大阪市に於ける總死亡と結核死亡

年	總死亡數	結核死亡數	人口
昭和七年	四、三三	一、三六	二、〇六、〇〇〇
同 八年	四、五五	一、七六	二、〇六、〇〇〇
同 九年	四、九一	一、七〇	二、〇六、〇〇〇
同 十年	五、〇九	一、七〇	二、〇六、〇〇〇

市内傳染病類別死亡數

種類	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
コレラ	一	一	一	一
赤痢	二四	二五	二六	二七
疫痢	七五	八三	九一	一〇六
腸チフス	五九	五九	六七	八〇
パラチフス	三	三	三	三
痘瘡	一	一	一	一
癩疹チフス	一	一	一	一
猩紅熱	一	一	一	一
ガフテリヤ	一	一	一	一
流行性腦炎	一	一	一	一
ベスタ	一	一	一	一
計	二、〇三	二、〇五	二、五四	二、八三

市立傳染病院

年	病院數	患者收容定員
昭和八年	三	九四
同 九年	三	九四
同 十年	三	九六

行政區別による總死亡並に結核死亡數

區別	總死亡	人口一萬に對し	結核死亡	人口一萬に對し	人口
北區	四、五八	一九、〇〇	七、八二	三三、〇〇	二、〇三、〇〇〇
此花區	三、三八	一六、三四	四、八一	二二、九〇	二、〇一、〇〇〇
東區	一、七〇	一〇、五八	二、七六	一三、七一	一、六一、〇〇〇
西區	一、六四	一〇、〇〇	二、三〇	一二、七九	一、三三、〇〇〇
港區	四、七二	一五、一一	七、三〇	三〇、八〇	一、八八、〇〇〇
大正區	一、九一	一六、七二	二、三三	二七、〇〇	一、二八、〇〇〇
天王寺區	四、一八	一四、七三	四、九一	一六、五〇	二、七〇、〇〇〇
南區	一、四七	一四、三三	一、九一	一八、五〇	一、三〇、〇〇〇
浪速區	二、一七	一四、九一	二、五三	一八、五〇	一、四〇、〇〇〇
西淀川區	二、九七	一五、七二	三、三三	二〇、〇〇	一、六〇、〇〇〇
東淀川區	三、三二	一六、四二	四、〇〇	二二、〇〇	一、七〇、〇〇〇
東成區	五、三三	一六、四二	一、〇〇	一〇、〇〇	一、三〇、〇〇〇
旭成區	二、三六	一七、八九	三、九〇	一三、二〇	一、三〇、〇〇〇
住吉區	四、〇九	一七、五五	六、九〇	二三、二〇	一、三〇、〇〇〇
西成區	三、二七	一七、五五	四、九二	一六、九〇	一、三〇、〇〇〇
全市	四七、〇九	一七、〇〇	七、三〇	二六、八〇	二、〇三、〇〇〇

性別年齢別による結核死亡數

年齢	性別	昭和九年
〇才	男	二、八三
〇才	女	二、八四
一才	男	一、一五
一才	女	一、一五
二才	男	一、一五
二才	女	一、一五
三才	男	一、一五
三才	女	一、一五
四才	男	一、一五
四才	女	一、一五
五才	男	一、一五
五才	女	一、一五
六才	男	一、一五
六才	女	一、一五
七才	男	一、一五
七才	女	一、一五
八才	男	一、一五
八才	女	一、一五
計	男	三、六三
計	女	三、六八

最近四ヶ年大坂市結核死亡數

年	總死亡數	全結核死亡數	百に對し	死亡結核	人口一萬に對し	百に對し
昭和六年	四六、一一	七、〇六	一五、三三	五、二五	二〇、七七	一一、三五
同 七年	四三、六三	六、八七	一六、一一	四、八七	一八、八四	一二、四四
同 八年	四三、五三	七、三三	一六、三三	五、四五	二〇、五〇	一二、三六
同 九年	四七、〇九	七、三〇	一五、五〇	五、二六	一九、三四	一二、三九

結核病院數

年	病院數	患者收容定員	患者數	入院患者數
昭和八年	三	五四	四五四	一六、二四三
同 九年	三	八七	七二二	二三四、三三〇
同 十年	三	八七	七二二	二九、六八

一〇一—一五	一、二九二	一、二〇三	一、二五五
一五—四〇	一五、三九六	一五、〇三五	一五、五八三
四〇—六〇	一〇、八三三	一〇、五九一	一〇、六九六
六〇—	一四、二五五	一三、三九九	一四、三三三
年齢不詳	—	—	—
合計	六、三〇〇	六、三三三	六、三六六

現任人死亡年齢別 大阪市統計

年齢別	昭和七年	同八年	同九年
〇—四	一五、〇九七	一六、九三三	一六、六六六
五—九	一、一三七	一、二六八	一、四九四
一〇—一四	八六七	九二一	一、〇四七
一五—一九	二、三〇三	二、四三〇	二、四八八
二〇—二四	二、七五五	二、八八八	二、九〇一
二五—二九	二、〇四六	二、一〇〇	二、三三九
三〇—三四	一、八六七	一、八五五	二、〇四〇
三五—三九	一、五九九	一、四九六	一、七六一
四〇—四四	一、五五九	一、五〇七	一、五五五
四五—四九	一、六六〇	一、五五四	一、六九二
五〇—五四	一、八八二	一、九六七	一、九九二
五五—五九	二、〇八七	二、一七〇	二、二六四
六〇—六四	三、八〇〇	四、一〇五	四、三〇一
六五—六九	四、〇八〇	四、三六〇	四、五五六
七〇—以上	六	八	四
不詳	四、六三三	四、五三三	四、七〇九

衛生防疫諸事項

市立衛生試験所

本市は市民の健康増進の爲學術的試験を行ふ機關として衛生試験所を設け衛生に關する依頼試験調査研究を行ひ衛生上の諸種の相談質疑に應答してゐる。最近の成績を示せば次の通り。

衛生試験所取扱件数累年表

名稱	昭和五年	同六年	同七年	同八年	同九年
名	五	同	同	同	同
有料件数	六、四三三	六、三三三	六、三三三	六、三三三	六、三三三
無料件数	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
相談件数	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
(無料)	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
計	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三

捕鼠事業

鼠はペスト病患者發生の媒介者として脅威されて居るが、本市は是が豫防対策として捕鼠班を編成し貨物の集散地、その他警戒を要すべき地域に捕鼠作業を行ひ、必要に應じては殺鼠劑を配付し除鼠に努めて居る。又市内巡查派出所の内百九ヶ所へ鼠投棄箱を備付け、市民の捕獲せし鼠を

投棄せしめ常備人夫五名をして毎日此等の鼠を蒐集せしめて居る。斯くして得たる鼠は大阪府衛生課へ附してペスト病菌の有無の検査を爲して居る。最近の成績を示せば次の通りである。

最近三ヶ年除鼠成績

昭和八年	捕鼠數	蒐鼠數	計
同八年	六五、八三三	三、〇三二	六八、八六五
同九年	四、三八八	三、三三三	六、九二一
同十年	六、四三七	三、三三三	九、八一〇

各種豫防注射と人員

本市は夙に豫防衛生の立場より、赤(疫)痢豫防に付ては経口ワクチンを、腸チフス豫防に付ては豫防注射を勵行して居る。蓋し赤(疫)痢に付ては潜伏期間短かき關係上急速に免疫するを要し、而も豫防注射は反應強くして不適當なるを以て勢ひ経口免疫に依るの外なく、潜伏期間比較的長きと、今尙多くは豫防注射により免疫を圖りつゝある現狀なるを以て一定地域を限り、繼續的に之を實行し以て其の目的達成に努めて居る。

其の他コレラ、ペスト等については發生の都度豫防注射其の他臨機の處置を取つて居る。

最近三ヶ年腸チフス豫防注射人員

昭和八年	第一回	第二回	計
同八年	三、九二五	三、九二五	七、八五〇
同九年	二、七四八	二、七四八	五、四九六
同十年	二、六四二	二、六四二	五、二八四

種痘成績

本市に於ては豫防衛生上年中行事の一として定期種痘を行つてゐるが、その期日は第一期と第二期とに分れ、第一期にありては四月より七月の間に出生届、其の他の方法により要種痘人員を調査し直接保護者に對して受痘方を通知し、第二期に在りては翌年一月より三月の間に主として關係學校長、其の他を経て保護者に受痘方を通知してゐる。尙定期種痘の外に臨時種痘の外に臨時種痘を行ふ場合がある。例へば痘瘡發生の場合其の他種痘施行の必要を認めたる場合には地域を限りて市民に受痘方を勧誘するのである。

最近三ヶ年種痘成績

定期種痘	昭和八年	同九年	同十年
公種痘	三、五九九	一、四三二	一、四三二
私種痘	四、三六一	五、〇四七	四、六七七
臨時種痘	九、三三九	二、九六三	三、五〇六
防疫課直營	二、六六二	九、〇六六	一、三、五三六
衛生組合施行	二、五五九	一、八五五	一、九六六
計	二、五五九	一、八五五	一、九六六

公營消毒事業

本市には市立消毒隔離所ありて「コレラ」「ペスト」「發疹チフス」等に感染の疑ある健康者を隔離收容する一方、消毒を必要とする物件の依頼消毒を行つて居る。今一つ市民の需めに應じて消毒を爲すものに防疫消毒所がある。當所に於ては附帶事業として法定十種傳染病以外の傳染病に汚染し又はその懼ある物件家屋等の消毒を爲すと共に夏季猛威を振るつて市民の安眠を妨げる南京虫、家ダニの驅除に當つて居る。

最近の成績を見るに年々其の利用者の増加しつゝあるは保健衛生上寔に歡ばしき次第である。

最近三ヶ年依頼消毒件數

昭和八年	家屋	南京虫	物品	計
同八年	八、五五	二、八七	四、五五	一、五九七
同九年	二、四七	三、五五	六、六一	三、三四三
同十年	二、六三	一、八三	二、四九	三、〇九五

大阪市の降煤量

我大阪市の大工業都市として世界に誇る反面、煤煙都市の汚名を蒙らねばならない。其の降煤量を見るに、近年漸次減少の傾向にあつたが煤煙防止規則の實施を見た昭和七年頃を最低として其の後再び増加して來た。即ち大正十二年の降煤量に比較して、昭和四年は九二・七%、同五年は七五・五%、同六年は六八・七%の割合となり、同七年には更に五一・四%となつて、大正十二年の約半分に減少してゐた處、昭和八年より少しく増加の傾向が見え同九年には同七年の最低時に比し三二%増加してゐる。これは最近景氣の回復に伴ふ

一定の日取に従ひ直備人夫を派して各戸塵芥箱の塵芥を蒐集し、その大部分は河川を経て之を焼却場に送り焼却すると共に、その残餘は堆肥、埋立等陸上處分に付するのであるが、之に要する経費は塵芥量の増加等に伴れ逐年増額を餘儀なくし、市財政上の大負擔となつてゐる。

左に市の塵芥處理豫算を掲げる。

大阪市塵芥處理費

昭和八年度	七六、〇七三圓
同 九年度	八五、五五〇圓
同 十年度	八八、三三三圓

處分別量

塵芥の終末處分に付焼却主義は明治三十六年以來本市の採り來れる方針であり、汚物掃除法も亦原則としてこの方法を命じてゐるのである。

現在本市が三焼却場を合して一日約三十萬貫の公稱能力を有することは前述したが、実績は故障爐等の爲遙かに低下するので、その殘餘に就ては依然堆肥、埋立又は海投等により處分するの他ない状態である。左にその実績を挙げる。

塵芥處分実績表

昭和八年		昭和九年		昭和十年	
燒却	六六、三八、三三六	七三、〇七、八五九	八一、七四、八〇七	八二、七四、八〇七	八二、七四、八〇七
埋立	一五、五三、一〇七	一七、六八、二九七	一五、四〇、五二四	一五、四〇、五二四	一五、四〇、五二四
堆肥	八、六二、三〇九	五、九四、七四一	三、〇七、四九四	三、〇七、四九四	三、〇七、四九四
海投	一、六六、〇〇〇	八、九〇、〇〇〇	八、六五、三三三	八、六五、三三三	八、六五、三三三
計	一〇一、〇八、七五〇	一〇五、六三、八九一	一〇八、九八、〇五八	一〇八、九八、〇五八	一〇八、九八、〇五八

塵芥蒐集場と埋立地

本市は從來より塵芥の陸上運搬と河川運漕の中繼所として市内適當なる河岸に蒐集場を設け、塵芥は此處で船積することとしてゐる。

塵芥蒐集場一覽

九之助橋、久寶寺、豊後町、白屋町、東野田、寺町橋、玉江橋、道修町、朝日橋、本田二番町、勘六、汐見橋、深里橋、西二橋、太郎助橋、築港、鶴町、善源寺町、鹽町
以上舊市計十九ヶ所

有價物の撰別

本市に於ける塵芥中の有價物は硝子、銅屑が首位を占め、紙屑、銅屑及モスリン等之に次いでゐる。之等有價物の採取方法としては市が一種の請負人をして蒐集場に於ける船積掻均し作業中に撰別せしめ、その報償として契約による納付金を市に納めしめるのである。この納付金は好況時代には三萬圓以上に奔騰した事もあつたが昭和七年以降は殆んど無償に近い契約を見るに至つてゐる。この原因を察するに、近年夥しく發生せる所謂捨屋の爲に各戸の塵芥箱が豫め漁り盡されその中に混在する有價物の質量が著しく低下せるに

因るものと思はれる。

有價物採取実績

(請負人報告)

昭和八年度	三、七五〇圓
同 九年度	三、三九三圓
同 十年度	三、四一八圓

市營塵芥焼却場とその能力

本市に於ける焼却場は現在三ヶ所あり、一は木津川焼却場にして大正區南恩加島町木津川沿岸にあり敷地約五千坪、従業員總數一一六名、爐數計五八一日焼却能力十八萬貫を擁して本市焼却場中最大を誇つてゐる。次は寢屋川焼却場で旭區放出町寢屋川左岸を占め敷地約二千二百四十坪、従業員總數四八八名、爐數計二八、能力一日十一萬貫餘である。第三の今宮焼却場は舊今宮町營のものを建築中引續いだもので、西成區長橋通八丁目に在り敷地約二百四十坪、爐數六で能力約六千貫、従業員一二人の小規模なものである。

市營塵芥焼却場

工場名	一日能力(△印/外、十時間作業)
木津川第一工場	△ 三、〇〇〇貫

尿 尿

同 第二工場	四、〇〇〇貫
同 第三工場	三、〇〇〇貫
同 第四工場	三、〇〇〇貫
同 第五工場	二、〇〇〇貫
同 第六工場	三、〇〇〇貫
寢屋川第一工場	三、〇〇〇貫
同 第二工場	三、〇〇〇貫
同 第三工場	二、〇〇〇貫
同 第四工場	二、〇〇〇貫
今宮焼却場	七、〇〇〇貫
合 計	二九、〇〇〇貫

明治初年頃迄の本市各戸の尿尿は、攝津各村の農民及尿尿仲買人等により有償採取が行はれてゐた。明治三十三年汚物掃除法の制定を見たが、尿尿は特に有價物の故を以て當分市の處分義務から除外されることとなつたので、本市に於てもその處分は從來通りの民間採取に委ねられた。斯く尿尿が有償採取されてゐた關係から其後に至り収入策を兼ねた市營運動が數回劃策されたが、利害の錯綜に何れも迂曲して實現を見るに至らなかつた。

大正時代の尿尿量と其處理の現状

大正時代に入るや歐洲大戰の影響により、一般社會經濟情勢の激變に加へ人造肥料の進出があつて、茲に尿尿の需給關係は著しく變化し汲取停滯の傾向を生ずるに至つた。

偶々大正六年府下北攝地方大洪水の爲尿尿の需要全く杜絶し、市内各戸の便所は忽ち大停滯を來し衛生上頗る憂慮すべき状態に陥つたので、市は之が應急策として臨時無料汲取を行つた。その後半年に復するも尿尿の有價物としての地位は全く失はれ、従つて本市に於ける尿尿停滯の傾向は依然著しきものあり、市營斷行を希望する市民の聲も漸く高まつたので、本市は遂に尿尿市營調査會の決議に基き市營の前提として、先づ市民よりの申込に應ずる有料汲取を大正十年六月より開始し、今日に及んでゐるのである。

在如何にして排除處分されてゐるか云へば、大部分は汲取業者の汲取に依り、之に次ぐは衛生組合經營の汲取及農家直接の汲取で、市營應急汲取は舊市内一部の極く小數に限られてゐる。汲取尿尿は一般の生肥の需要に當てられ、即ち主として水運を利用して大阪府下の外、京都、兵庫、和歌山等の近府縣から遠くは徳島、岡山、廣島等諸縣下の農村にまで配給されてゐる。

尿尿汲取量調 (昭和十年八月)

處分	別	戸	汲取月量	%
營業者	汲取	二五四、六九九	六、六三三	四一・四
衛生組合	汲取	一七四、六六二	四、五五一	二八・四
農家	汲取	一〇六、一六一	三、三五三	二〇・三
青年團	汲取	二〇〇	六	—
市營應急	汲取	八、四三〇	三・五	二・〇
自家	處分	四、九七七	一・八	〇・九
浄化	裝置	二、一七三	九七〇	六・一
公共	便所	一七	一五〇	〇・九
空	家	三三、九一一	—	—
計		五七五、三三三	一五、九四四	一〇〇

本市尿尿の終末處分先は調査の的確は保し難いが、大體府下が最も多いこ

と勿論で、京都府、兵庫縣が之に次ぎ、其他徳島縣、岡山縣等にも若干配給されてゐる。

大阪市尿尿消費先調

終末處分	別	尿尿日量	%
生肥	市内農家	一、一四二	七・一
	府下農家	八、三〇一	五二・九
	兵庫縣下農家	一、一七七	七・五
	京都府下農家	五、〇〇四	三三・一
	其他縣下農家	三、三〇〇	二二・一
浄化	其他	九七〇	六・一
合計		三、五五〇	三三・二
		一五、九四四	一〇〇・〇

市營應急汲取

前述せる如く市營應急汲取は大體舊市をその施行地域とし、停滯に困難する市民の申込に應じて直備人夫を派して汲取を行ひ、一荷十錢の料金を徴収するのである。その業績は大正十四年頃までを頂上としてその後は民營發達の影響で漸次減少に傾いてゐる。

尿尿處分工場建設

本市は大正十一年尿尿を原料として

は、尿尿處分の完璧は到底期し難いところであり、之が根本的解決は畢竟下水道の完成に俟つて水洗直結便所の普及を圖る外途は無いのである。

扱て現在本市に於ける下水道の普及状態は總延長九里に及んでゐるが、その處理方法は單に消砂除芥の上河海に排出すると言ふ舊式で、之に尿尿を放流するに於ては、河海を汚染して衛生上の危険が尠くない。依つて本市は之等尿尿問題の解決旁々下水道の完成を期することとし、昭和三年五月に決定せる第二次都市計劃下水道の部に於て全市を五處理區に分ち將來の人口五百萬人分に對する家事下水尿尿の外、工場排水並雨水をも加へて之を大處理場に導き、促進汚泥法により完全なる浄化處理を施したる後、河海に排出すると言ふ大計劃を樹て、その内急を要する樞要地帯に對しては、昭和五年度以降六ヶ年間繼續の第三期下水處理事業として所管水道部に於て、目下着々その工を進めて居り、昭和十二年九月には之が完成を見る筈である。其他の地域に對するものも、第五期事業として昭和十一年度より七ヶ年計劃、經費五

硫酸アムモニア及乾糞肥料を製造する目的を以て兵庫縣淡路島に敷地五千坪工場三棟より成る尿尿處分工場を建設した。その能力は一日一千石の尿尿を處理して硫酸三噸餘を製産するにあつたが、その後本市の汲取尿尿は仲買業者に交付することに依り圓滑に處分し得てゐるのみならず、硫酸價格低落の關係もあつて作業は當分休止する事とし萬一悪疫流行等により生肥處分が不能に陥つた場合には直ちに作業を開始し得る様整備に努めてゐる。

將來對策としての下水計劃

以上の如く本市尿尿處理の現状たるや、市營に係るものは單に一部地域の應急汲取に過ぎず、大部分は依然民間業者等の汲取に委ねられてゐるのでその運搬過程並終末處分の方法に衛生上不備の點の多い事は甚だ遺憾に堪へない。然らば之を全般的に市營に移さんとすも、久しきに亘る民營の傳統と一面市の財政關係もあつて俄かに斷行を期し難いのであるが、假に市營の方法に依るも各戸便所の大多數が尙舊式不完全の汲取式に屬する今日の状態で

千八百五十萬圓を以て着工することなつてゐるので、昭和八年之等全部の完成の曉には各戸便所を水洗式に改造することによりさしもの尿尿問題も全く解消する豫定となつてゐる。

水洗浄化裝置便所數

前述せる如く本市内の便所の大部分は依然汲取式で水洗浄化裝置便所を有する戸數は頗る微々たるものである。左に最近三ヶ年の浄化裝置の戸數の増加趨勢を示せば

年次	戸數
昭和八年	二、〇九五
同 九年	二、一〇〇
同 十年	二、一七三

大阪の街頭便所

本市に於ける公共便所は、曾ては路傍便所と稱してその數頗る多く設備も甚だ不完全で狹隘なる道路、交通頻繁なる街等に處を撰ばず設置されてあつた爲、衛生上並交通上種々物議を醸しその結果漸次改廢減少されて今日に及んでゐる。尤もその間明治三十三年には汚物掃除法により公共便所の維持管理は市の義務と定められたので勢ひ設

備にも漸次改善が加へられて來た事は勿論である。現在本市の公共便所數は一八五ヶ所内大小便所を併置せるもの六三ヶ所小便所のみもの一二ヶ所所之等公共便所は種々な點を考慮して河岸路傍公園及橋臺下等適當なる所に設置されてゐる。

市内公共便所數

年次	舊市	新市	計
昭和八年	一八五	七	一九二
同 九年	一八七	七	一九四
同 十年	一九一	七	一九八

其他の廢棄物問題

一、汚泥排泄量と其處分
本市内に於ける各戸私設溝渠の浚渫は衛生組合に依つて行はれ、その浚渫汚泥は一部組合の手に依り直接無害地に投棄される外は、凡て河岸に設置された市設汚泥函に搬入されることで本市保健部は汚泥船に積込み河川係所屬人夫を便設して之を運漕せしめ海投處分及低地埋立に付してゐる。其他の側溝、下水管渠及河川浚渫の汚泥は夫々土木及水道の兩部に於て行つてゐる

二、土砂、瓦礫及灰燼類

市内各戸から排出される土砂、瓦礫及灰燼類は可成りの量に上つてゐる。然るに之等の搬出處分は法令上市の義務に属しないところから今日まで市の塵芥蒐集作業は之等は一切取扱はず、従つてその始末は各戸任意に自家使用人、運搬業者等をして搬出處分せしめてゐるが、その方法設備の不完全なるは勿論、往々にして空地、路傍又は河中等に投棄して市内の清潔と美觀を傷くる弊が尠くなかつた。

此處に於て本市保健部では新たに之等の搬出を有料で取扱ふ受託事業を立案し、昭和十一年六月一日より之を實施する豫定となつてゐるので之が實現の曉には市内の清掃に一段の徹底が齎される筈である。

三、胞衣及汚物

出産による胞衣汚物、死亡による汚物並汚水、傳染病以外の病醫汚物並動物の屍體等も排出物の一として相當の數に上つてゐるのであるが、本市ではこれ等の取扱は凡て市直營で行はれ

てゐる。即ち保健部に屬する胞衣汚物取扱所はこれ等の發生通知に應じて人夫を派して有料蒐集の上之を木津川尻の焼却消毒所に送り焼却處分に付する外、尙汚物中の布綿類は消毒漂白の上再製して賣却することゝしてゐる。

葬 儀 所

市營埋火事業は明治四十年二月、従前よりの營業者たる大阪八弘株式會社の營業を繼承したものである。爾來本市は事業改善に意を注ぎ、火爐を増設すると共に、市勢の發展に應じて新葬儀所を増設し、大正九年工費十五萬圓を以て阿部野大齋場を建設し、又大正十五年市の西北部の發展に伴ひ、三十萬圓を以て重油燒屍爐を有する春日出葬儀所を建設した。大正十四年市域擴張による舊町村から承継した墓地火葬場數十ヶ所の整理統一に着手し、先づ同年六月松原葬儀所を新設して住吉區田邊方面を整理し、昭和五年住吉葬儀所を完備して附所數ヶ所の火葬場墓地を統一したが、次いで昭和六年度に於

て十五萬圓の市債を起し、失業救濟事業として平野、寢屋川、西淀川方面に散在せる火葬場の整理に着手した。これによつて昭和七年平野葬儀所の完成を見、昭和八年重油燒屍爐十基を有する鐵筋コンクリート建の寢屋川葬儀所の出現を見、越へて昭和九年同型式の佃葬儀所竣成し、それぞれ附近の舊火葬場を廢止すると共に、市營葬儀所整理事業の一段落を見るに至つた。

市設葬儀所一覽

葬儀所名	所在地
阿部野	住吉區阿部野筋四丁目
長柄	東淀川區長柄中通二丁目
小林	大正區小林町
住吉	住吉區住吉町
平野	住吉區平野野堂町
腹見	東成區腹見町
大道	東淀川區北大道町
春日	此花區春日北町
松原	住吉區山阪町五丁目
寢屋川	旭區放出町
佃	西淀川區佃町
計	十一個所

勞 働



大大阪の労働者數

工場數 本市は古くより東洋のマンチエスターと謂はれ工場林立、爲めに煙の都の名あり、カーキ色の労働者街に圍まれ到る處盛んな生産風景を展開してゐる。昭和九年末における市内の工場數は常時使用職工五人以上の工場一〇、五八四に達し、職工數は二二三、二四五人、これが昭和九年中の生産額實に十二億六千餘萬圓の多額に上

行政區別工場數

(昭和十一年大阪市勢要覽)

區名	實數	百分比	區名	實數	百分比
北區	一、二四一	一〇・三	東區	四、八〇	四三・三
西區	三、四九	三三・〇	南區	五、〇二	四七・四
天王寺	三、三三	三一・三	東淀川	三、三三	三一・三
西淀川	七、九六	七五・五	住吉	一、七三	一六・三
旭	四、八九	四六・二			
總數	一〇、五八四	一〇〇・〇			

勞働——大大阪の労働者數

つてゐる。工場の各區分布をみるに東成區二、〇一五工場(一九%)を筆頭とし、此花區一、四六八工場(一三・九%)、北區一、二四四工場(一〇・六%)、東淀川區九四四工場(八・九%)、西淀川區七九六工場(七・五%)、大正區六〇七工場(五・七%)これに次ぎ、其他九區合せて三、六三〇工場(三三・三%)である。

次に工場を主要事業別にみるに、所謂重工業たる金屬工業及び機械器具工業が合して三八・八%に達し、全工場約四割を占めてゐることは大阪の一特

異性であらう。詳細は上表の通である

職工數 職工二二三、二四五人を男女別にみるに、男工は一六五、八〇二人、女工は五七、四四三人であつて女工は全職工の二六%に當る。而して全職工中、年齢十六歳未満の少年少女工は男三、五八九人、女七、九一五人、計一一、五〇四人に達してゐるから、これに前記女工を加へて、本市には保護職工たる婦人及び少年少女女工は六一、〇三二人の多數に上つてゐる。

職工を更に従事する事業種別にみるに、機械器具工業、金屬工業、紡績工業に多く、いづれも總職工數の二〇%前後に達してゐる。

◆全國職工數との對比數

全國における職工數(昭和八年)について窺ふに、紡績工業において五〇%に近く、機械器具工業は一三%、金屬工業は僅かに七%を占むるに過ぎないのと對比せば、如何に大阪が重工業に従事してゐる職工が多いかが分る。

◆職工の増減と情態

次に工場における職工の増減を昭和

三年より昭和九年に至る七ヶ年間に於いて年次別にみると、不景氣の底にあつた昭和六年が最も少く一三九、三七五人であるが、昭和六年を境として漸次増加し、昭和九年末には二二二、二四五人に上つてゐる。尙ほこれ等職工の増減を主要事業別にみると、昭和五年當時に比し、紡績工業、瓦斯及び電氣業、化學工業等は大きく増加をみないが、金屬工業、機械器具工業等は約二倍に増加してゐる。(日本全國的に見ると總數四三二、一〇〇人、内男二九三、四七二人、女一三八、六二八人に對し男六割七分九厘、女三割二分七厘に當り、前年に比し男二分増加し、女二分減少した。)

年次別男女區分職工數

年次	男	女	計
昭和三年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 四年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 五年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 六年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 七年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 八年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一
同 九年	一、〇三〇	一、五九一	二、六二一

主要事業別工場數

主要事業別	總數	實數	百分比
紡績工業	一、四四四	一、四四四	一〇〇.〇
機械器具工業	二、〇九六	二、〇九六	一〇〇.〇
化學工業	七、七三九	七、七三九	一〇〇.〇
印刷及製本業	四、三六六	四、三六六	一〇〇.〇
瓦斯及電氣業	一、四〇三	一、四〇三	一〇〇.〇

主要事業別職工數

主要事業別	全國	大阪	全國	大阪
總數	一、九〇、〇九一	三三、三三三	一〇〇.〇	一〇〇.〇
紡績工業	九〇七、三三二	四三、六四三	四七.七	一五.五
金屬工業	二、五、五三三	四六、九七四	一.八	一.八
機械器具工業	二、四九、三三三	四八、八五三	二.〇	二.〇
化學工業	七、一、九一五	一三、五五七	〇.二	〇.二
印刷及製本業	一、三三、七〇六	二〇、七九二	一.五	一.五
製材及木製品工業	六、六、四九九	八、〇〇三	〇.一	〇.一
食料品工業	五、三、六七九	九、〇八六	〇.一	〇.一
瓦斯及電氣業	一、四、三三〇	八、四四四	〇.一	〇.一
其他の工業	二、三、九〇九	三、八七三	〇.一	〇.一

年次別主要事業別職工數

主要事業別	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
紡績工業	三、四、三九九	三、七、六九七	三、八、八七三	四、三、六四三
金屬工業	二、三、一五〇	二、六、五二一	三、七、〇七八	四、六、九七四
機械器具工業	二、四、八〇八	二、六、九七七	三、七、七八	四、八、八五三
化學工業	八、三、八三三	九、一、五七	一〇、六、三三	一三、五、七

工場従業員數

大阪市工業調査による昭和八年十二月末現在大阪市内の工場數(副業工場を除く)は四六、〇六七で、これに従事してゐる従業員數は男二九〇、六四四人、女七一、四六一人、計三六二、一〇

五人に達し、本市昭和八年人口の一分三厘に相當してゐる。而してこの従業員數を種類別にみると、職工二一三、六八三人(五九%)、徒弟四八、一二四人(三三%)、家族従業員六二、六一七人(一七%)、事務員一七、七六〇人(四%)、技術員八、一六五人(二%)、其他の従業員一、七五六人(〇.五%)の他の従業員一、七五六人(〇.五%)の

割合を示し、更に従業員數を主要事業別にみれば、機械器具工業、紡績工業、金屬工業等に最も多く、三者合して五分二分を占め、一工場當り従業員では瓦斯及び電氣業の特例を除き、窯業の二・九人、化學工業の一・六五人分等が多く、製材及び木製品工業の四人、食料品工業の四・八人等最も少い。

事業別工場及従業員比率

種別	工場數	工場従業員數	従業員當り工場數
紡績工業	五、四三七	五、九、五九	一・一〇
金屬工業	五、四三〇	五、〇、八八	一・〇五
機械器具工業	八、〇八六	七、五、〇七	一・〇八
化學工業	六、九四	一、五、一八五	二・二二
製材及木製品工業	五、八七六	三、七、三〇	一・五五

勞働——工場従業員數

事業別	印刷及製本業	食料品工業	瓦斯及電氣業	其他の工業	計
實數	一、七〇八	四、八四八	二、〇〇四	一、〇〇四	九、五六四
百分比	三・七	一〇・五	二・一	一・一	一〇〇.〇

〔備考〕(一)昭和八年十二月末現在大阪市内産業部調査(二)紡績工業及び機械器具工業等の一工場當り従業員數の案外少きは、前者には各種のクリニング業、後者には自轉車修理加工業者の多數が含まれてゐるに上る。

府縣名 Prefecture	工場数 Number of Factories	職工数 Number of Workers	生産高 Value of Production
大阪 Osaka			
東京 Tokyo			
京都 Kyoto			
愛知 Aichi			
兵庫 Hyogo			
静岡 Shizuoka			

労働統計実施調査

労働統計実施調査は大正十一年法律第五十二號「統計資料實地調査ニ關スル法律」に基いて、大正十三年以降三年毎に一回十月十日現在において全國一斉に行はれ、工場及び鑛山の労働事情を調査せんとするのである。調査の範圍は原則として三十名以上の労働者を使用する工場又は鑛山に限られてゐる。尙ほ昭和十一年第五回調査よりは調査範圍は五十名以上とせられ、新たに交通事業體を加へることとなつた。

いま昭和八年第四回本市に於ける調査の結果によると工場数一、一二二、労働者数一二五、七二〇人を算

工場及労働者數並性別

工場數	労働者數	
	實數	指數
第一回 (大正十三年)	一、一二二	一〇〇
第二回 (昭和二年)	九三三	八〇
第三回 (昭和五年)	九三三	八〇
第四回 (昭和八年)	一、二二三	一一三

性別

男

女

へてゐるが、過去九年間に工場數が三割九分の一の増加を示してゐるに拘らず労働者數に於いて四分の一の減少をなしてゐることは注目するに足る。更にこれを産業別に窺へば次表の通りで、第四回の結果のみに就いて記すと、工場數に於いて最も多い産業部門は、金屬工業の二三八工場(一〇%)、次いで機械器具製造業の一四一工場(一三%)、化學工業の一四一工場(一三%)、紡織工業の一三七工場(一一%)の順位であつて、労働者數に於いては紡織工業の三二、五六四人(二六%)が最多を占め、金屬工業の二四、九七八人(二〇%)、機械器具製造業の一、〇四〇人(一〇%)がこれに次ぐ。

産業別工場數

産業別	第一回	第二回	第三回	第四回
窯業、土石加工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
金屬工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
機械器具製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
造船業、運搬用具製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
精巧工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
化學工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
紡織工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
被服、身裝品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
紙工業、印刷業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
皮革、骨、羽毛品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
木竹草藁類に關する製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
飲食料品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
土木、建築に關する業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
瓦斯、電氣、水道業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
其の他の工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
計	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇

産業別労働者數

産業別	第一回	第二回	第三回	第四回
窯業、土石加工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
金屬工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
機械器具製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
造船業、運搬用具製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
精巧工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
化學工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
紡織工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
被服、身裝品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
紙工業、印刷業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
皮革、骨、羽毛品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
木竹草藁類に關する製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
飲食料品製造業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
土木、建築に關する業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
瓦斯、電氣、水道業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
其の他の工業	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
計	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇

◇交通労働者

近時におけるめまぐるしいまでの交通の發達とともに、交通労働者は都市労働者中から見逃せ得ない存在となるに至つた。

いま大正九年の第一回國勢調査と昭和五年の第二回國勢調査の中から、その職業分類中、通信、鐵道、軌道、船舶、自動車、飛行機等の職業に従事するものを抽出し、その中技術的或は精神労働的操作に従事するものと看做し得る業主や、驛長、助役、船長、機關長、通信職員等を控除したる殘餘の概して筋肉労働に従事するものを交通労働者としてここに掲記してみると次の如くで、大正九年の四八、七一人が昭和五年には七四、一四八人となり、十年間に五割二分の増加率を示してゐる。ただ人力車夫のみが五、二九人から一、三九九人に激減してゐるのは自動車従業員が約十倍に激増してゐるのと對比して注目するに足る。

交通労働者數對比

業種	大正九年		昭和五年	
	男	女	男	女
通信	一、七九〇	一、七四〇	一、九九〇	三、八七〇
鐵道	一、三八八	一、四四四	三、八七〇	五、八七七
軌道	三、九六八	一、四四四	六、〇六九	一、〇九八
人力車	五、三三九	一、〇九七	一、三九九	一、三九九
自動車	一、〇九七	一、〇三三	一、〇八五	一、〇八五
船舶	二、〇六一	七	二、〇六八	九
飛行機	三、〇六二	七	四、三九四	四、四〇三
その他	三、〇六二	七	一、〇二五	二、九七
計	一五、〇七五	一五、二二三	三〇、一八五	三〇、三三七

〔備考〕大正九年のものには東西兩成郡を加算し、昭和五年のものからは失業者數を控除して對比したものである。

◇日備労働者

大正十四年の國勢調査によれば、本市に於ける日備労働者數は三二、三三六人で、その中男が三二、二〇二人、女が一、一三四人である。而してこれを基礎とした昭和十一年三月現在における本市の推定は、男四四、三八〇人、女一、六一〇人、計四九、九九〇人で、

◇朝鮮人労働者

昭和五年十月一日の國勢調査の結果によれば本市内の朝鮮人總數は七八、三七三人にして、うち男が五五、八二六人、女が二二、五四七人である。この總人口の中から一般労働者並に日

備労働者と目されるものをあげてみると、所謂朝鮮人労働者は男三八、三六二人、女二、七三三人、計四一、〇九五

人となり、本市在住朝鮮人の過半数は労働者である。之を表記すると次の如くである。

而して大阪府特高課の調査によれば本市内の朝鮮人總數は大正十四年末に於いて男二五、七九五、女六、〇六五人計三一、八六〇人であつたものが、累年増加の一路を辿り、昭和十年末に於いては男九三、七六八人、女六、〇七三一人、計一五四、四九九人となり、僅か十年間に四八割五分の異常な増加率を示してゐる。詳細は左表の如し。

朝鮮人労働者數

昭和五年國勢調査

性別	總人口に對する労働者の百分比	
	一般並に日備労働者	總人口に對する労働者の百分比
男	三六、三六三	一三、一
女	二、七三三	六、七
計	四、〇九五	三、四

大阪府特高課調

年未別

性別	男	女	計
大正十四	二五、七九五	六、〇六五	三一、八六〇

勞働—労働事情

労働事情

◇失業

失業は諸種の社會惡の根源となり、殊に労働者階級の失業は一國産業の盛衰と密接なる關連を持ち重要な社會問題の一つである。大正十四年國勢調査の際の失業統計調査によれば、本市に於ける一般労働者並に日備労働者の失業者數は次の如くで、前者にあつては總數の三分一厘即ち一〇、五一三人後者にあつては一割二分八厘、四、一五九人の失業者を算へてゐる。

失業労働者數

種類	總數		日備労働者	
	男	女	男	女
總數	二五、五〇〇	八、九四五	三、二〇二	一、二三四
失業者數	九、七三四	七、七九	一、〇五三	一、〇五三
總數	三、二〇二	一、二三四	計	計
失業者數	四、〇二二	一、三六	計	計

次いで昭和五年の國勢調査によれば本市内に於ける失業者總數は二九、九七三人にして、うち男が二八、五五人、女が一、五一八人である。總數中九割五分は男子の失業者である。この失業者を産業別に觀察すると、工業が最多にして一七、八二六人五割九分を占め、次いで商業が五、七七五人一割九分、交通業が三、〇八〇人にして一割、公務自由業が二、三五六人にして七分に相當してゐる。最も少いのは水産業の二人、鑛業の九二人で、詳細次表。

四一七

産業別失業者数 (昭和五年)

Table showing unemployment numbers by industry for 1930. Columns include Agriculture, Industry, Commerce, etc. with male and female counts.

最後に内務省社会局の指示により、市社会部昭和四年十月より実施せる失業者推定により最近の失業者数を掲げると次の如くで、昭和十年十月一日現在についてみると、大正十四年の失業調査当時より一般労働者に於いて五、六五七人、日備労働者に於いて二、二七一人、計七、九二八人の増加を示してゐる。

年次別失業者数

Table showing annual unemployment numbers from 1925 to 1930, categorized by general workers and daily laborers.

昭和七年以降はこれと反対の現象を現はし、殊に昭和九年は雇入超過が最高に上つてゐる。

工場労働者異動数

Table showing factory worker movement numbers from 1925 to 1930, including hiring and dismissal figures.

次に産業別に解雇、雇入の異動状況を見るに、昭和十年に於いては何れの産業とも雇入超過で、解雇者百人に對し、雇入は染色工業百一人、機械器具工業百五十六人、化学工業百三十一人、飲食物工業百四十人、雑工業百十九人、電気瓦斯工業百九十人の割合となり、電気瓦斯工業の特例を除けば、機械器具工業、化学工業などは比較的雇入の旺盛なることを示してゐる。

労働異動

Table showing labor movement statistics for 1928 and 1929, including hiring and dismissal counts.

解雇、雇入による労働者の異動状況を大阪府下における職工五〇人以上使用工場の常備職工について見るに、昭和十年中の解雇七一、四三一人、雇入八五、一三〇人であつて、差引雇入超過一三、六九九人を示してゐる。これを前年に比すると解雇に於いて九、八四四人、雇入に於いて三、五二三人の各増加である。尙ほ最近七ヶ年間の異動状況を見るに、昭和六年までは雇入より解雇が常に超過してゐるに反し、

五年と、同六年を契機として金屬工業を中心とする景氣の上昇を見た昭和十年とでは、機械器具工業の如き解雇数一・四倍なるに對し、雇入数は實に五倍に垂んとする激増振りである。

賃銀

大阪市社会部では市内の代表的製造工場にして常備職工百名以上を有する二十工場に就いて、大正九年以來職工の常備賃銀及所得(實收賃銀)の調査をしてゐる。それによると大正九年四月における賃銀は男工一圓五十錢、女工八四錢、平均一圓三二錢で、所得は男工二圓二二錢、女工一圓一五錢、平均一圓九三錢である。今この平均賃銀及び所得を一〇〇として大正九年以後の推移をみるに、賃銀は大正十四年に最高の一二七に達し、それ以來逐年下降し昭和十年には一〇五となり、大正十年のそれに復歸し、男工一圓七二錢、女工八六錢、平均一圓三八錢となつてゐる。次に所得は大正十年の九七を除き、各年上昇して昭和三年には最高の

産業別工場労働者異動数 (年末現在)

Large table showing industry-specific factory worker movement numbers from 1929 to 1930. Columns include Textile, Chemical, Food, etc., with hiring and dismissal figures.

製造工業労働者賃銀及所得

Table showing manufacturing industry worker wages and income from 1918 to 1920. Columns include year, male workers, female workers, and total index.

Table showing manufacturing industry worker wages and income from 1920 to 1925. Columns include year, male workers, female workers, and total index.

府下代表工場の職工賃銀

Table showing wages for representative factory workers in the prefecture, categorized by industry type and worker gender.

次に大阪商工会議所の発表にかかる日備労働者昭和十年中の平均賃銀をみるに、最高は石工の三圓三〇銭にして...

日備労働者の賃銀

Table showing daily wages for various occupations in the prefecture, such as construction, agriculture, and industry.

労働時間

第四回労働統計實地調査の対象となつた一、二二二工場並に其處に働く労働者一二五、七二〇人に就いて所定の...

労働時間をみるに、最も多いのは九時間を越え十時間以内のものであつて、五五九工場(四割九分)、これが労働者数五〇、二二一人(三割九分)を占めてゐる。

労働時間別工場と労働者

Table showing labor time by factory type and worker category. Columns include factory type (工場), worker category (労働者), and percentages for both.

家計調査

家計の實際状態を調査して國民の生活状態を明かにし、各種社會問題に必要な基本資料を得ようとする家計調査

は、從來我が國では各種の調査機關によつて行はれたが、昭和六年九月以降内閣統計局に於いて改正米穀法に基き...

勤勞收入中、世帯主の收入は八十一圓七十四錢(實收入の八八・元%)を占め、勤勞外收入では、受贈の...

七錢の順位である。最後に收支の過不足状況をみるに勤勞收入對實支出の關係においては七十

七錢、實收入對實支出の關係においては七圓四〇錢の各餘裕を示してゐる。この餘裕が即ち貯金なり、借財金の返

還、繰越などの實支出外の支出に振り向けられるものであるから、殆どが手から口への生活である

労働者實收支内譯

Table of laborer income and expenses. Columns: 収入 (Income), 支出 (Expense), 大阪市及其の附近 (Osaka area), 全国 (National average).

Table of laborer income and expenses (continued). Columns: 収入 (Income), 支出 (Expense), 大阪市及其の附近 (Osaka area), 全国 (National average).

労働者運動

イ、労働組合 国内事情と海外の刺戟殊に世界大戦の影響を受けて労働者階級の階級意識が高揚せられ、本市に於ける労働組合が組合結成の氣運の萌芽を顯すようになったのは大正七、八年以來のことであつて、最初の組合としては大正六年の友愛會大阪聯合會がある。これは日本労働總同盟の前身にして、更に八年には大阪鐵工組合が生れ、十年には官業労働總同盟の中心勢力たる向上會が組成せられ、相前後して漸次大小労働組合の簇生を見るようになった。かくして大正十五年末には本市内の労働組合數五二、組合員數四三、九七四人を算するに至つた。その後労働組合の新生、分裂、統一と、所屬系統並にその勢力分野に屢次の消長を辿りながら複雑なる経路を畫いて現今にまで到達したのであるが、その間組合數に於いても組合員數に於いても増加の傾向を指示し、昭和十年に於いては本市内の主要労働組合數五九、こ

れが所屬組合員數七四、二四二人に及んでゐる。今過去三ヶ年の組合數並に組合員數を掲記してみれば次の如くで組合員數に於いて一二、五八一一人の増加を見てゐる。(一二年七月)

本市主要労働組合の異動

昭和八年 昭和九年 昭和十年
組合數 七三 七六 七五
組合員數 六、六一 六、七六 七、四三
更に昭和十年現在に於ける本市内主要労働組合を所屬系統別に表記すれば次の如くで、日本労働總同盟に屬する大阪聯合會所屬組合員數が最多にして一七、四五五人に及んでゐる。

大阪市内労働組合現勢

代表者 會員數
日本労働總同盟 五、〇六〇
關西労働同盟會 西尾末廣 二七、四三〇
大阪聯合會 西尾末廣 一八、一五三
市内所屬組合數 九 一七、四三〇

全國労働組合同盟 四、二〇八
大阪聯合會 山口常次郎 一五、七七〇
市内所屬組合數 六 一五、二八五
日本労働組合總聯合會 二七、三三六
關西地方聯合會 今井武吉
大正十五年一月設立 北區曾根崎新地三九
大阪聯合會 今井武吉 三、八六六
市内所屬組合數 九 一、四三〇
官業労働總同盟 西浦宇吉 一七、〇四六
大正十三年二月設立 東區越中町八六〇
市内所屬組合數 三 六、六一
日本労働總同盟 八木信一 八、九二一
大正十一年十一月設立 北區相生町七三
市内所屬組合數 一二 六、三〇一
日本海員組合 一〇〇、〇〇〇
大阪支部 片山國治 二、五〇〇
港區六條通一ノ三
日本港灣從業員組合 三、一九五
大阪支部 沼田吉太郎 二、三〇〇
昭和五年六月設立 港區六條通一ノ三ノ五
日本産業軍 一、九〇〇
市内所屬組合數 二 二、〇〇〇
日本労働同盟 一、三〇〇
市内所屬組合數 一 二、〇〇〇

労働争議

ふて盛大に赴くに至つた。決議或は標語は年によつて多少の相違はあるが、すべて労働者階級の生活權擁護を基調としたものである。その舉行の様式は例年同一であつて、正午頃中之島公園に集合し、總指揮の挨拶に續いて有志の演説に氣勢を揚げ、隊伍を組んで労働歌を高唱しながら天神橋松屋町筋を経て目的地天王寺公園に到達し、二、三の演説があつて總指揮の發聲で萬歳を三唱し解散するを常としてゐる。併し昭和十一年は二・二六事件の影響を受けて當局の禁ずる所となり、僅かに勞資協調を標榜した物故者の冥福を祈る産業祭が行はれたにすぎない。最近の参加人員並に組合數を示すと次の如くである。

メーデー参加人員

年次	組合數	男	女	少年	計
昭和六年	一七	一	一	一	九、三九〇
七年	一七	一	一	一	九、四四五
八年	一五	一	一	一	九、四四五
九年	一五	一	一	一	九、四四五
十年	一六	一	一	一	九、四四五

大阪のメーデー

労働組合の年中行事の一にメーデーがある。吾が國に於ける最初のメーデーは大正九年五月一日東京上野公園に於けるもので、翌十年五月一日には本市に於ける最初のメーデーが行はれた。爾來年々その舉行を見、メーデーに對する自覺並に訓練の進歩と共に年を逐

大日本労働組合協議會 二、八五〇
市内所屬組合數 二 五〇〇
日本交通労働總聯盟 一七、三〇〇
市内所屬組合數 二 六、二〇〇
日本労働組合全國評議會 一四、二六〇
關西地方評議會 安島高行 四、五六〇
昭和十年三月設立 港區千代見町四八
市内所屬組合數 五 一、五〇〇
全國労働組合自由聯合會 一、三五〇
關西聯合會 逸見吉藏 五〇〇
昭和八年十二月設立 浪速區水崎町四六
市内所屬組合數 二 三、五〇〇
其の他の市内の労働組合 三、四六〇
計 全國主要労働組合數 一三 三〇二、二四一
市内労働組合數 五九 七四、三三二
(協同會編・労働年鑑)

本市に於ける労働争議は、歐洲大戰以前に於いてはその發生件數極めて少く、勞資對立の思想も左程顯著ではなかつたが、歐洲大戰當時より産業界は急速なる發達を遂げ、更に西洋諸國の新思想の影響を受けるに及んで、大正五・六年の頃より労働者の生活向上を目的とする積極的な労働争議の頻發をみるに至つた。その後時によつて消長はあつたが、不況の深刻化と共に漸増の傾向を辿つた。然るに、昭和六年の滿洲事變を契機として我が國の世相は少からざる影響を受け、産業界にも勞資協調の思想擡頭し、加ふるに重工業方面に於ける軍需インフレの影響により、一部業界の好轉を示したので、これ等の素因と相俟つて労働争議も亦漸減するに至つた。今、大阪府警察統計書によれば大阪府下最近の状態は次の如くで、昭和五年の三四四件を最高とし、昭和九年には一〇七件に激減してゐる。尙ほこれ等争議の原因を昭和九年中について見るに、争議件數一〇

七件の中、最多は諸給増額要求の四三件で、諸給減少反対の各一八件がこれに次いでゐる。

同盟罷怠業数

Table with columns: 年次 (昭和五年-九年), 発生件数, 職工数, 罷怠業員数, 参加人員数.

業態別労働争議 (昭和九年中)

Table with columns: 業態 (織工, 機械器具製造業, etc.), 件数, 職工数, 参加人員数.

府下労働争議調停件数及其結果

Table showing statistics for labor dispute mediation in the prefecture, including columns for types of disputes and their outcomes.

市立労働訓練所

精神訓練により労働者の更生を圖らうと、大阪市社会部で設立の旭区南島町「市立労働者訓練所」では十月八日...

社会事業

大大阪と社会事業

本市の社会事業が、今日見るが如く異常な発展を遂げたのは極く最近のことである。かの世界大戦は我が國の經濟界思想界に多大の影響を及ぼし、社会事業においても其の種類と範圍に大きな變化を招來し、從來専ら慈善博愛の精神のもとに事後的救貧の事業として行はれ來つた本事業が、社会連帶思想の擡頭と共に事前的防貧の事業に其の中心は移行し、現代社会事業の基礎が出來上つたのである。

社会事業—大大阪と社会事業—米騒動と本市社会事業

に移り、事業自体も漸次組織化されるにつれて、とかく功利的物質的觀念に捉はれ事務化された經營法が採られ、事業に熱意と理解とを欠き、精神的保護指導の方面が忘れられる傾向にある。かやうな傾向は決して眞に社会事業の内容を充實し機能を充分に發揮する所以のものとは謂へない。

周知の如く社会事業を史的にみるに、かの推古天皇の元年聖德太子が四天王寺を茶臼山の東荒陵に建立し、この地に四院を造營せられたるものをもつて本邦における救濟施設の濫觴とせられてゐるから、社会事業史上における本市のもつ意義は實に深遠なるものがある。爾來暗遷黙移幾星霜、現代の本市は往時とは社会的經濟的事情を全く異にし、事業の態様も面目を一新したりとはいへ、社会的要保護者に對する社会事業の態度は、あくまで保護の適正

米騒動を機縁とする

本市社会事業

市の施設

我が國社会事業は、大正七年八月の所謂米騒動をもつて一紀元を劃せるものであつて、當時歐洲大戦の影響は一般物價の騰貴を誘致し、庶民生活を著しく逼迫せしむるに至つた。そこでかかる社会情勢の推移を察した時の關大阪市助役は、池上市長に社会事業整備の緊要なる所以を献策し、大正七年四月全國に率先して市内四ヶ所に臨時市場を設置して生活必需品の廉賣を行つた。これが我が國公設市場の濫觴である。同年八月米騒動が突發するや、これが應急策として市内各所において米の廉賣を開始すると同時に、西區幸町

九條並に北區天滿の三ヶ所に簡易食堂を開設して市民生活の急激なる變動に備へた。然るにこの間當時の社會情勢は益々悪化の傾向を示し、上下をあげて社會施設の整備擴充を要望するものがあつたので、市内の有志相圖つて救濟事業の後援を企圖し、同年九月檄を四方に傳へて救濟資金を募集した。この寄附金は九十三萬七千圓に達し、これを大阪市に提供せられたので、市はこれに内務省委託寄附金十二萬一千圓その他を加へ、簡易食堂三ヶ所、共同宿泊所四ヶ所、住宅二ヶ所の所謂第一期事業計畫を進めたのであつて、これを契機として本市が近代的社會事業施

年次別施設數

Table with columns for years (大正六年 to 十四年) and facility types (職業紹介所, 住宅宿泊施設, etc.).

設へ乗出すこととなつたのである。而して一方、施設の増加するにつれて事務上の機關も當然膨脹せざるを得なかつた。即ち大正の初期以來庶務課の管掌に屬してゐた救濟事務は、大正七年には新設の救濟係において取扱はれる事となり、同年十一月救濟課と改め組織の擴大を圖つたが、更に大正九年四月には遂に部制を布きて社會部と改め、今日の陣容の基礎が出来上つた。その後社會情勢の推移と共に市の社會施設は逐年擴大整備の一路を辿り、又前記社會部の職制も數次の改變を見現在庶務・保護・福利の三課の下に庶務・調査・保護・職業・住宅・福利

の六係を置き、救護・職業紹介所・住宅施設・宿泊施設・市民館・託兒所・質舗・生業資本融通資金・浴場などの諸施設を經營してゐる。尙ほ社會部所管外の事業としては産院・乳兒院・病院診療施設・公設市場など社會事業の各部門に亘つて、その進展に努力し、これ等の總施設數は今や百六十餘に上り、經費の如きも大正七年度の社會事業關係諸經費經常部原豫算總額九萬九千餘圓に比すれば、今日のそれは實に三十倍以上に達し隔世の感がある。今左に本市社會事業發展の跡を施設數豫算額について年次別にみると左表の如くである。

Table with columns for years (大正十五年 to 十九年) and facility types (職業紹介所, 住宅宿泊施設, etc.).

年次別豫算額

Table with columns for years (大正六年 to 昭和十年) and budget types (經常部, 臨時部).

府及私營施設

市制實施以前においては、府は大貧院を始め、各種救護施設を設けて貧窮者の救護にあたつたが、市制實施と共に市は貧民施療規則、棄兒養育規則窮民救助規則を制定し、一方民間においてもこの種私設團體が相次いで起るに及んで、府は施設經營の第一線から退いて、専らこれ等施設の指揮監督、助成並に連絡統一の任に當ることとなつた。併しここに府の施設として看過することの出来ないものは、大正七年に創設せられた方面委員制度である。該制度は新なる救濟制度として工夫せられたもので、其の後各地方に普及し昭和七年一月救護法の實施と共に、同法の一機關として取り入れられ、今や全国的に統制され發達した。本市に於ける本制度は既に設立以來十有五年を経過し、現在に於ては市内のみで方面數六十、委員數千五十餘人、その擔當カド數約二萬に及ぶ現狀にある。次に本市に於ける私設社會事業が、明治の後半より頗る勃興の機運に向ひ大正七年までにその施設數約五十に達

したのであるが、同年に起つた米騒動はこの種私設事業にも一段と拍車をかけ、該事業は只に施設數に於てのみならず、事業の種類に於ても従来の救護を主とした救貧事業から、更に失業保護、經濟保護兒童保護等の積極的防貧的の事業の域に發展をみるに至つた。而して今日市内において活動してゐる私營社會施設の事業種別と施設數は左表の通りであつて、これを公營施設と比較すると、施設數においてほぼ四敵し兒童保護事業、醫療保護事業等においては遙かに優位を示してゐる。

公私營施設區分數

Table showing the distribution of public and private facilities across various categories like 救護, 養育, 軍人, etc.

妊産婦保護	乳幼児保健	乳幼児保育	虐待防止	少年司法保護	少年司法保護	身體異常児保護	學童保護	醫療保護事業	一一般救護	特殊醫療並豫防	患者慰安	經濟保護	住宅供給	宿泊保護	公益浴場	簡易食堂	公益質屋	小資融通	公益市場	職業紹介	勞働保護事業	勞働共濟
三	二	五	一	一	一	四	三	六	三	三	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
公營	私營	計																				

授産並授職	隣保事業	融和事業	司法保護事業	鮮人保護事業	婦人救護事業
一	七	一	一	一	二
九	九	七	六	四	四
二〇	二六	七	七	五	八
計	三八	四	四	四	四

救護事業

近時における社會事業の趨勢は、事後的救濟より事前の豫防へと積極的の方向に進んで来たとは云へ、尙ほ多數の貧困者は依然として救濟の手を必要とする。

行政區別カード戸數及人口表

行政區	第一種		第二種		合計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
天王寺	二六	七四	一四	四三	四〇	一一七
大正	一四	四三	一四	四三	二八	八六
港正	七三	二七二	二七	八七	一〇〇	三六〇
西	一〇七	二五	九	三五	一一六	一八〇
東	二一八	二五	九	三五	二二七	二八〇
北	三三	九三	三	一〇	三六	一〇三
此	六三	二〇三	三	一〇	六六	二一三
東	二一八	二五	九	三五	二二七	二八〇
西	七三	二七二	二七	八七	一〇〇	三六〇
大	一四	四三	一四	四三	二八	八六
天	二六	七四	一四	四三	四〇	一一七

一般救護事業

救護法による救護 我が國における一般救護制度は、最近に至るまで明治七年の太政官達第一六二號恤救規則がその中心となつてゐたが、その不備不完全是到底時代の要求に適應し難く新つた。救護法は實にこれに代るべく新しい内容と形態とを整へて、昭和四年四月法律第三十九號を以て公布せられ昭和七年一月より實施せられたものである。この法律によつて救護せられるのは、(1)六十五歳以上の老衰者、(2)十三歳以下の幼者、(3)妊産婦、(4)不具廢疾、疾病、傷痕、其の他精神又は身體の障礙に因り勞務を行ふに故障ある者が貧困のため生活することの出来ない場合である。救護の種類としては生活扶助、醫療、助産、生業扶助の四つに分れてゐる。生活扶助は一日一人二十五錢以内一世帯一日一圓以内とされ、醫療は市長村長の指定した醫師に就いて受けることになり、助産には十圓以下の限度があり、生業扶助は一人三十圓以内となつてゐる。次に救護の方法は原則として居宅救護となし、市町村

行政区	第一種	第二種	合計
南	六六	一六六	二三二
浪速	六三	一八六	二四九
西	五九	一六三	二二二
東	七五	二九四	三六九
東	七四	二九〇	三六四
旭	二九	八七	一一六
住吉	四三	一六三	二〇六
西	一〇七	二五	一三二
計	六八六	二六〇三	三二八九

第一種は獨身にして自活の途を得ざるもの、獨身にあらざるも其扶助者なく自活の途を得ざるもの及び疾病其他の事故に依り自活困難なる貧困者とする。第二種は大凡家賃七圓收入貳拾五圓迄を標準とし、家族の員數職業の安否・生活の状態等を斟酌し家計に余裕なき者とする。

長において、居宅救護が不可能であり又は不適當であると認められた場合に限り救護施設(養老院病院など)に收容し或は私人の家庭其の他適當なる施設に依り救護をなすことになつてゐる。今大阪市が取扱つた最近三ヶ年間の成績を掲げると次の如くである。

救護法による取扱成績

昭和九年度	昭和八年度	昭和七年度
一、八〇三	一、八〇七	一、四三二
六十五才以上		

十三歳以下幼者	五、四四二	四、八二二	三、〇二六
妊産婦	二〇	三七	一四
不具廢疾	二七六	三三八	一四
疾病傷痕	六、〇〇四	四、七八三	三、九八四
精神耗弱又は身體虛弱	二二三	三三三	一四
幼者哺育の母	五三	六〇	五六
計	三、八三〇	二、五二〇	八、四九二
内收容救護	六、六八八	五、二二五	二、四三六

右の收容救護は本市においては財團法人弘濟會、同博愛社、同大阪養老院

などで取扱ふこととしてゐる。弘濟會は大正元年八月の創設で、現在山田及び生野の事業所の外各種施設を經營してゐるが、養老所、育兒園、大阪慈惠病院に於いては救護法適用者の外に、行旅病人その他の救護救助にあつてゐる。大阪養老院は明治三十五年十二月現院長岩田民次郎氏の創設するところ、専ら貧困老人の收容保護に努めて来たが、救護法の實施以來該當者の救護の外に、引續き養老事業を經營してゐる。博愛社は明治二十三年一月故小橋勝之助氏の創設にかかるもので、専ら孤兒、貧民子弟の養護にあつて来たが、同所も亦救護法の實施以來該當者の收容救護にあつた事になつた。

尙ほ方面委員制度については記述した通りであるが、一般救護と關聯して方面委員の活動は看過出来ない。方面委員は隣保扶助の精神に立脚して細民階級の生活實態を不斷に調査し、各種の社會事業施設及び其の他の機關と密接なる連絡のもとに、その適切な改善向上の方策を講ずると共に、受持區域内における要救護者に對して必要な指導と保護を與ふるを任務としてゐる。

る。本市方面委員が過去三ヶ年間に取扱つた相談指導保健治療育兒獎學、戸籍整理、金品貸與等の成績は左表の如くである。

各方面救護取扱年計表

(大阪府社會課)

相談指導	昭和十一年	昭和九年	昭和八年
保健治療	八、三三三	三〇、八九五	六、八七〇
育兒獎學	六、五五九	七、〇四二	六、五三三
周旋紹介	二、二九一	二、二七四	三、〇四七
戸籍整理	四、七〇六	五、一七六	三、五五七
金品貸與	二、二八五	二、〇〇六	二、五二六
其他	一、〇七二	一、七九二	一、六八八
計	一五、〇七二	二六、一四一	一八、八七〇

特殊救護事業

行路病人及死亡人保護 行路病人や行旅死亡人を救済するために明治三十二年、制定にかゝる行路病人及び行旅死亡人取扱法があり、これが救護の事務は國家から地方自治體に委任せられてゐる。昭和十年度に於けるこれ等取扱状況を行政区別にみるに、年度末

北區	花	行旅死亡人(年度末現在數)
東區	三	三
西區	三	二
大港	三	二
天王	九	九
南區	三	三
浪速	三	三
西區	三	三
東區	三	三
東區	三	三
旭川	三	三
住吉	三	三
西區	三	三
計	四〇	三九

行旅病人同死亡人取扱數

(昭和十年度)

現在數に於ける行旅病人の最も多いのは西成區の一六二人であり、次いで天王寺區の四二人、北區の三七人であり、行旅死亡人に於いては北區の六二人が最大にして、次いで港區の四六人、西成區の四〇人の順序である。

行旅病人年度別取扱數

療養中死亡	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度
せむしの	三五	二七	三九
年度末現在數	三九	三四	二八
計	六九	六一	六〇

行旅死亡人年度別取扱數

變病	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度
死	二五	二五	一五
計	二九	三三	二六

軍事救護 傷病兵若しくはその家族又は遺族等を國費を以て救済するためには軍事救護法がある。これが最近の取扱成績は左表の如くである。

軍事救護取扱成績

生活扶助	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度
助産	二、三三七	二、四六三	三、三八〇
計	二、六〇八	二、四七九	三、四四〇

次に公的救護を受くるも尙充分でないもの又は軍人救護法により難き軍人

遺家族救護をなす目的のもとに設立されたものに、財團法人弘濟會軍人遺家族檢査救護事業及び社団法人愛國婦人會大阪府支部の二私設團體がある。

財團法人弘濟會軍人遺家族檢査救護事業△設立大正二年三月△代表者上山善治△所在地大阪府役所内△事業成績昭和九年度取扱延人員六一一人。社団法人愛國婦人會大阪府支部△設立明治三十四年二月△代表者安井綾子

私營盲人保護施設

名	稱	組織又は經營主體	設立年月
東盲人保護協會	會員組織	大正二	
北盲人保護協會	個	大正一	
ライト・ハウス	大阪盲人協會	昭和二	

三、經濟保護事業

防貧的の性質を有する經濟保護事業が社會事業の重要な一分枝をなすに至つたのは比較的近年のこと、世界大戦による經濟界の急激なる變動が多數の少額所得者に甚だしき生活難を招來するに至つた以後のことである。而

△所在地東區大手前町一△事業成績昭和十年度家族實人員五七五八人。なほ傷痍軍人相互の福祉増進をはかる目的の下に、昭和六年五月創立せられたるものに傷痍軍人協會があり、温古會を開催し、間接にこれ等軍人の援助に當つてゐる。盲人保護 盲人保護施設には現在市内に私營のもの三ヶ所ある。詳細は次表の如くである。

所	在	地	代表者	收容定員
東區瓦町一丁目	廣瀬辰三	三〇人		
北區岩井町一丁目	岡田 礎	二五		
住吉區昭和町西三丁目	岩橋武夫	一六		

して現今この事業に屬する施設としてあげ得るものは、住宅、宿泊所、公益市場、公益浴場、公衆食堂、公益質屋生業資本融通施設などであつて、庶民生活の逼迫を告げてゐる今日の如き生活難時代においては殊更に重要な役割を演じてゐる。

住宅供給

(1) 市設住宅

貸付、分譲住宅 大正七、八年頃住宅需要の激増によつて、未曾有の量的住宅難が醸成せられるや、市は低廉にして且つ衛生的なる住宅を供給して中産以下の市民の生活の安定をはかると共に生活改善を促す目的の下に、大正八年六月北區中野町一丁目及び大正區鶴町一丁目計三百八十九戸の住宅を經營したのを最初として順次これが擴充をはかり、昭和十一年五月現在に於ては貸付住宅一、五九八戸分譲住宅四九三戸、合計二、〇九一戸に達して

ある。家賃は最低四圓五〇錢最高三八圓で詳細は左表の如くである。
改良住宅 産業の發展、都市の膨脹は所謂不良住宅の密集地區を招來して衛生、風紀並に保安上甚だ憂ふべき状態においた。
政府は茲に第五十二議會の協賛を経て昭和二年三月法律第十四號をもつて不良住宅地區改良法を公布し、先づ六大都市及びその隣接町村中の代表的不良住宅地區より漸次改良事業を施行することとなつた。
かくて大阪市に於いても同法に基き昭和二年十二月本市市會の議決及び同年三月内務大臣の地區指定に基いて昭和二年年度以降の繼續事業として建設することになつたのがここに謂ふ改良

住宅である。同事業計畫は十二ヶ年に亘り六百十九萬九千餘圓を投じて天王寺及び浪速の兩區に跨り一千五百三十四戸の改良住宅を建設せんとするものであつて、内木造二階建住宅一四六戸を除く一、三八八戸はその様式を鐵骨コンクリート造三階建とし、街路に面し商案に適する一階の部分を商店向住宅とし他部分の一階家を並に二、三階を全部普通住宅とし、居室は六疊三疊の二室を標準として各戸専門の炊事場、水洗式便所、水道瓦斯を設備し採光通風等衛生的施設に最も注意を拂はれてゐる。昭和十一年五月現在に於いて完成せる地區、戸數及び使用料等は次表の如くである。

市設住宅内容

○ハ貸付住宅及使用料
○ハ分譲住宅及住宅料

名稱	所在地	創立年	住宅戸數	月額料金
櫻宮住宅	北區中野町一丁目	大八	二八	四・〇一六・〇〇
鶴町第一住宅	大正區鶴町	大八	一九	四・五〇三・〇〇
鶴町第二住宅	大正區鶴町	大九	五七	一〇・三三六・〇〇
古市住宅	旭區今市町	大九	一六	一六・五〇一・〇〇

名稱	所在地	創立年	住宅戸數	月額料金
玉出住宅	西成區千本通	大九	一五	一八・五〇〇
鶴橋住宅	東成區猪飼野中	大〇	二八	九・五二四・五〇
平野住宅	住吉區平野流町	大〇	一八	一〇・〇〇二・〇〇
堀川住宅	北區北扇町	大二	一五	二五・〇〇一・五〇
小路住宅	東成區大友町見町	大三	〇	〇
豐崎住宅	東成區豐崎西通	大四	〇	六・〇〇一・三〇

改良住宅内容

名稱	所在地	創立年	住宅戸數	月額料金
長柄住宅	東淀川區長柄中通	大四	〇	一七・〇〇〇
北島住宅	住吉區阪南町	大五	〇	一〇・〇〇〇
高見住宅	西淀川區高見町	昭二	〇	一七・五〇〇
都島住宅	北區澤上江町	昭二	〇	二〇・七〇〇
今里住宅	東淀川區元今里北通	昭二	〇	一八・三〇〇
杭全住宅	住吉區平野西之町	昭三	〇	一八・八〇〇
北中島住宅	東淀川區南宮原町	大〇	〇	四・五〇一・五〇〇
住吉住宅	住吉區住吉町	大四	〇	三・五〇一・八八〇
榮町住宅	浪速區榮町	昭三	〇	三・五〇一・七三二・五〇〇
西成共同住宅	西成區櫻通八丁目	昭八	〇	二・〇〇一・三七〇

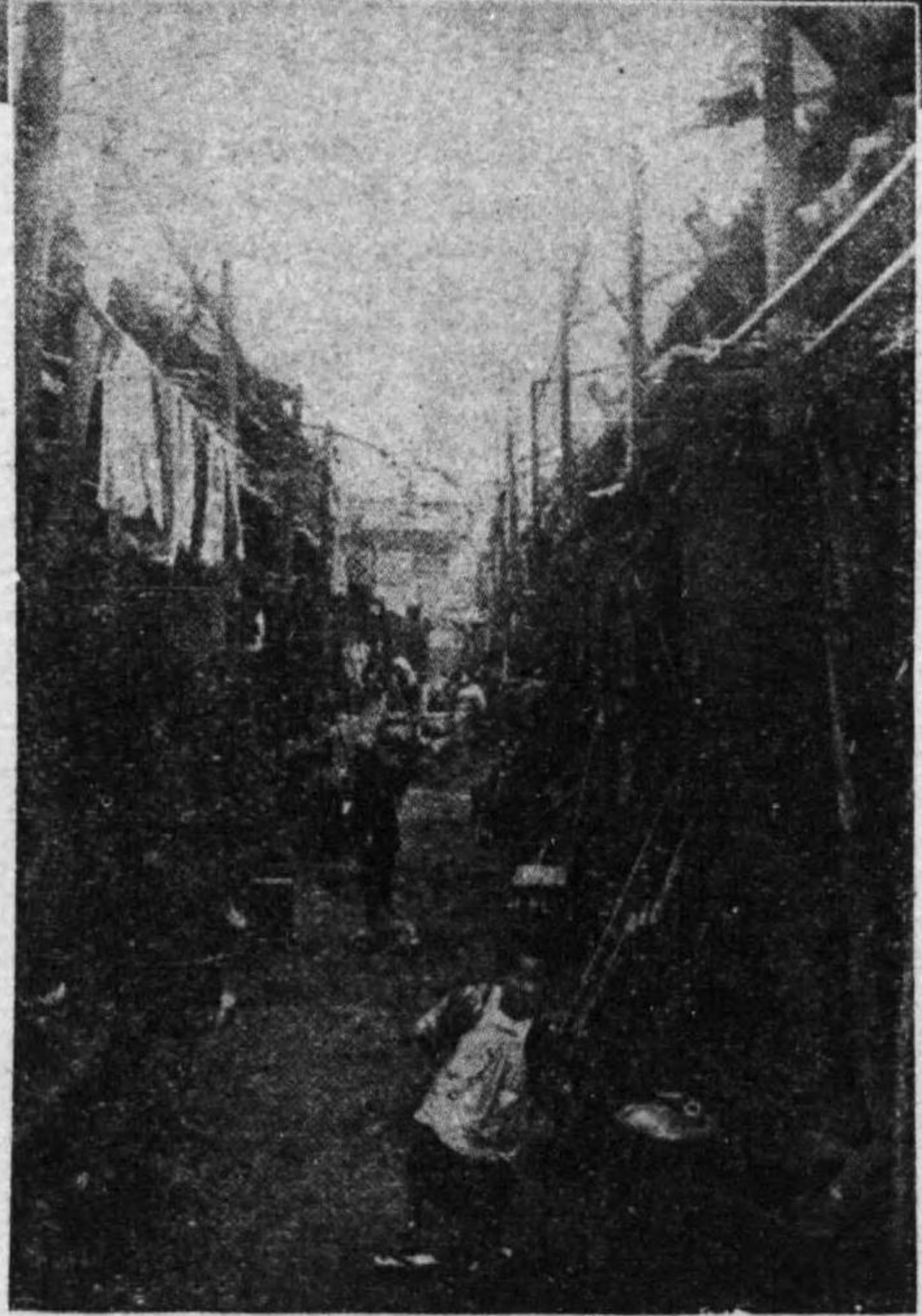
名稱	所在地	設置年	住宅戸數	月額料金
今宮住宅	西成區東入船町	昭四	〇	七・五〇一・二二・〇〇
下寺町第一住宅	天王寺區下寺町	昭五	〇	六・〇〇一・二四・〇〇
北日東町住宅	天王寺區北日東町	昭七	〇	七・〇〇一・一六・五〇
南日東町第一住宅	天王寺區南日東町	昭八	〇	七・四〇一・一六・五〇
宮津町住宅	浪速區宮津町	昭四	〇	六・〇〇一・一五・〇〇
下寺町第二住宅	天王寺區下寺町	昭四	〇	六・〇〇一・一五・〇〇
南日東町第二住宅	天王寺區南日東町	昭七	〇	六・〇〇一・一〇・〇〇
南日東町第三住宅	天王寺區南日東町	昭九	〇	八・〇〇一・三三・〇〇
南日東町第四住宅	天王寺區南日東町	昭九	〇	七・七〇一・二七・〇〇
南日東町第五住宅	天王寺區南日東町	昭二〇	〇	六・三〇一・二二・〇〇

(2) 公益團體經營住宅

大戰後における住宅難緩和のため、政府は公益團體及び公共團體の住宅建設を勸奨すると共に、他面互助的組合組織による住宅供給の方法を講ずることとし、大正十年法律第六十六號をもつて住宅組合法を公布し、同年七月よりこれを實施した。同法により大阪市

が大正十一年七月以降市内の住宅組合に貸付けた低利資金貸付總額は七十九萬一千三百六十一圓五十七錢に上り、これが償還は最長の期限で昭和十六年三月一日となつてをり、組合數二十二組、二百六十六戸に達して居る。市は更に資産信用の確實なる土地會社又は住宅會社に對し低利資金の貸付を行つて小住宅の建設を助長してゐる。

現在は京阪電鐵會社及び安治川、北港の二土地會社に對し計約三百萬圓を貸付け、その建設戸數は一千四十八戸に上つてゐる。
この外、本市には公益團體法人相愛會經營にかかる朝鮮人を對象とする住宅一八八戸ある。



別項記載の如く、昭和二年三月公布の不良住宅地改良法が同年七月十五日より施行せらるゝに至つたので、大阪市は之に基き不良住宅密集地の衛生、風紀、保安等に關する害毒と危険とを除去せんが爲、その年十二月市の議決を経て、翌三年二月内務大臣の地區指定を受けて、土地の買収、舊來の不良住宅の買收撤去、改良集合住宅建築等の事業に着手したのであるが、この結果、從來風氣と塵芥の底に沈んだ「太陽のない街」が、近代明的扮装を施されて、一躍麗骨コンクリート造外部セメントモルタル塗三階建明朗住宅と化して、太陽に恵まれなかつた勤勞階級を事の外喜ばせた。
(寫眞説明) 下圖は天王寺區下寺町俗稱八十軒長家、上圖は面目一新せる第一改良住宅

財團 大阪府協和會經營住宅

名稱	所在地	設立年月	戸數	家賃
木津川住宅	大正區南恩加島町	昭四、二	七四	四〇〇
豐崎住宅	東淀川區長柄東通	大五、八	二六	二階五九〇 階下六八〇
鶴橋住宅	東成區東桃谷町	昭三、一〇	三〇	二階七〇〇 階下八〇〇

財團 相愛會大阪本部經營住宅

名稱	所在地	設立年月	戸數	家賃
榮町事務所附屬住宅	浪速區榮町	昭八、二	二四	三〇〇宛
泉尾事務所附屬住宅	大正區泉尾濱通	昭八、二	二〇	三〇〇
勝山通住宅	東成區勝山通	昭一〇、三	三三	五〇〇

宿泊保護

大都市における單身勞働者その他少額所得者の多く利用する宿泊施設は、所謂木賃宿、勞働下宿又はこれに類する安宿である。然るにこれらは概ね設備不完全なる上に彼等の生活も亦不規律なるため、衛生上、風紀上弊害甚なからざるのみならず宿泊料も不廉である。従つてこれらの弊害を除去し、彼等に低廉な料金又は無料をもつて宿泊の便宜を得しめるとともに、娯樂、修養等の機關を兼ねた生活に需ひのある宿泊施設を講ずることは、都市における社會的施設として重要性を失はない。

(1) 市の施設

宿泊所 宿泊保護施設として市が現在經營せるものに有料と無料の二種の宿泊所がある、有料のものとしては大正八年今宮、西野田、鶴町の三宿泊所を開設せるを始めとし、大正十五年には長柄、九條の兩宿泊所を加へ、更に昭和四年海上勞務者のために海員宿泊所を建設し現在はこの六施設を算へてゐる。宿泊料は海員宿泊所は家族室一泊八〇錢乃至一圓六〇錢、單身室一泊三〇錢で、その他の宿泊所は一泊一二錢乃至一五錢である。

宿泊所一覽

名稱	所在地	創立年月	定員	一泊料金
今宮宿泊所	浪速區今宮	大正八年六月	四〇	一五錢
鶴町宿泊所	大正區鶴町	大正八年七月	二八	三錢
西野田宿泊所	此花區江成町	大正八年七月	三五	三錢
長柄宿泊所	東淀川區長柄中通	大正一五年二月	四〇	一五錢
九條宿泊所	港區九條通一	大正一五年四月	四八	一五錢
海員宿泊所	港區二條通	昭四年四月	同	同

計、八五一
 家族室八室 一、三〇〇錢
 單身室一四室 三〇〇錢

宿泊所事業成績 (宿泊延人員)

今宮宿泊所	昭和十年 一五、二九六	昭和九年 一五、三二一	昭和八年 一五、六二二
鶴野同	七、九七四	六、三三五	五、〇五四
西野同	四、二七五	九、三三〇	一〇、九四八
長柄同	一五、〇九八	一五、〇五八	一四、五五〇
九條同	一六、〇九八	一五、六六六	一五、二九八
海員計	五七六、七四二	六六、一四〇	六八、八六二
	七、五〇六	一四、一〇四	一七、六七五

以上の施設は原則として職業あるものための宿泊保護施設であるが、失業者に對しては授産又は職業輔導を兼ねた無料宿泊所一ヶ所の外、無宿の失業者又は生活氣力の喪失したルンペン階級のための無料に近い宿泊保護には次のものがある。

無料宿泊所

名稱	所在地及創立年月	事業内容
木津川宿泊所	大正區平尾町 昭和八年九月	定員 一泊料金 一五〇 無料
今宮宿泊所	西成區東田町 昭和四年四月	二〇〇 無料
今宮保護所(分館)	西成區東田町 昭和七年一月	三〇〇 二銭
鶴野同	東成區猪飼野 昭和八年六月	三七七 無料

これが三年間の事業成績を示せば次の如くである。

宿泊所事業成績 (宿泊延人員)

所名	昭和十年	昭和九年	昭和八年
木津川宿泊所	二六、一五五	二三、九八八	三、一八七
今宮保護所	三、五三〇	二六、三三三	二六、三三二
今宮保護所分館	七三、八五五	七三、八五五	二六、三三二
鶴野保護所	一六、六七〇	一五、三四五	四、二九三

寮舎一覽

名稱	所在地	創立年月
寄宿寮	北區北扇町	大正二、二
學生寮舎	市職員雇員のための施設 室數七室 一ヶ月六圓五錢 一圓五錢	大正三、四
築港寮舎	港區二條通	昭七、三

次にこれ等寮舎の最近三ヶ年の事業成績を表示しよう。

寮舎事業成績

寮舎名稱	昭和八年	昭和九年	昭和十年
寄宿寮	入舎人員 四八	退舎人員 五三	年末現在人員 七四
學生寮舎	四	五	七
築港寮舎	五	五	五
昭八年	五	四	三
昭九年	三	四	三
昭十年	三	四	三

(2) 私營施設

民間における社會事業としての宿泊施設の草分は、明治二十二年十二月に設立せられた日本海員救済會大阪出張所であつて、同四十五年には財團法人大阪自強館、大阪職業紹介所附屬事業労働寄宿舎の誕生を見た。其の後社會

情勢の進展と共に漸次増加して現在は左記の十ヶ所を算へてゐる。

名稱	所在地	創立年月	代表者
大阪自強館	西成區西今船町	明四、六	杉本又三郎
大阪労働共勵館	大正區泉尾松之町	昭四、二	八濱徳三郎
大阪職業紹介所宿泊部	浪速區惠美須町	明四、一	同
天満職業紹介所宿泊部	北區野崎町	大正三、三	同
大阪労働共勵館	此花區四貫島文徳町	大正三、二	神崎驥一
大阪有隣館	西淀川區船場島町	昭三、二	鈴木房次郎
大阪婦人ホーム	北區中之島	明四、五	林歌子
大阪基督教女子青年會社會部	北區西扇町	大七、一〇	星野スマ
報恩協會博愛の家	旭區毛馬町廢堤地	大正四、八	中島伊勢松
日本海員救済會大阪海員宿泊所	西區本田町通	明三、三	河野孝次郎

私營宿泊所一覽

名稱	組織	所在地	創立年月	代表者
大阪自強館	財團法人	西成區西今船町	明四、六	杉本又三郎
大阪労働共勵館	財團法人	大正區泉尾松之町	昭四、二	八濱徳三郎
大阪職業紹介所宿泊部	財團法人	浪速區惠美須町	明四、一	同
天満職業紹介所宿泊部	財團法人	北區野崎町	大正三、三	同
大阪労働共勵館	財團法人	此花區四貫島文徳町	大正三、二	神崎驥一
大阪有隣館	個人	西淀川區船場島町	昭三、二	鈴木房次郎
大阪婦人ホーム	財團法人	北區中之島	明四、五	林歌子
大阪基督教女子青年會社會部	財團法人	北區西扇町	大七、一〇	星野スマ
報恩協會博愛の家	會員組織	旭區毛馬町廢堤地	大正四、八	中島伊勢松
日本海員救済會大阪海員宿泊所	社團法人	西區本田町通	明三、三	河野孝次郎

これ等最近の事業成績を示せば次の如くである。

社會事業——經濟保護事業

簡易食堂

大正七年米騒動の勃發と共に、市は清潔にして保健的な食事を簡易低廉に供給せんがため、市内に食堂三ヶ所を設置した。これが簡易食堂の初まりであつて、その後宿泊所が設けられるに至り、各宿泊所に食堂を併置して宿泊者の便をはかると共にその他の一般利用者にも備へることとなつた。而してこれ等食堂經營は最初は市内の經驗及び信用ある當業者をして食事の供給を請負はしめてゐたが、大正十五年財團法人大阪労働共濟會が設立せられるに及んで、漸次同會の手に移り、現在では左記七ヶ所の食堂は何れも同會の經營になつてゐる。

簡易食堂一覽

食堂名稱	所在地	設立年
今宮	浪速區宮津町 今宮宿泊所内	大八
西野田	此花區江成町内 西野田宿泊所内	大八
鶴野	大正區鶴野町一丁目 鶴野宿泊所内	大八

長	東淀川區長柄中道	六一五
九	港區九條南通 九條宿泊所内	六一五
港	港區二條通 海員宿泊所内	昭四
千	島 此花區四貫島元宮町	昭七

今財團法人大阪市勞働共濟會の經營する右の七食堂の事業成績を示せば次表の如くである。

簡易食堂給食數

食堂名稱	昭和	昭和	昭和
	十年度	九年度	八年度
今宮	二七、〇七三	二七、〇七三	一六、七九
西野田	二五、〇六	二七、〇六	二七、〇六
鶴町	三〇、二五六	三二、五六六	二九、七六
長柄	一七、三三三	一七、三三三	一四、六四七
九條	五二、〇六	四九、〇四一	二九、五七
築港	三三、一五五	三九、六六九	三五、六三
千島	二四、三一	二六、三四	二六、五九
堀川	三、一四	三、八八四	三、一四〇
計	一三、六九	一六、九四	一八、七九

(昭和十一年五月ヨリ廢止)

公益質屋

少額所得者の金融機關として從來最も廣く利用せられてゐるものに質屋がある。然るに營利質屋に於ては營利を目的とするものであるから、概して貸付利率高く、又利子計算その他においても利用者への利益が尠くない。茲において市は公益質屋法制定に先立つて大正十三年十二月北區天神橋筋六丁目北市民館内に市營質屋を開設し、引續き十四年八月には東區空堀通一丁目に玉造質屋、同年九月には西區花園町に今宮質屋、更に十五年五月港區北境川町二丁目九條質屋を開設して、公益質屋としての機能發揮に努めた。

昭和二年三月公益質屋法の制定と共にこれ等の質屋も同法の下に經營せられることとなつたが、更に社會の要請に基き昭和九年八月には天王寺區南日東町に天王寺質屋、昭和十年九月には此花區江成町に西野田質屋を増設し庶民金融機關としての成果をあげることに努めてゐる、左にこれ等市設質屋の現状及び事業成績を表示しよう。

市設質屋一覽

質屋名稱	所在地	創立年
北區	北區天神橋筋六丁目	大二三
玉造	東區空堀通一丁目	大二四
今宮	西區花園町	大二四
九條	港區北境川町二丁目	大二五
天王寺	天王寺區南日東町	昭九
西野田	此花區江成町	昭二〇

◎貸付金額は質物評價の十分の七以下、◎貸付利率は月歩二厘五毛、◎貸付限度は普通貸付一口十圓、一世帯五十圓以内、◎生業資金貸付一口五十圓、一世帯三百圓以内、◎流質期限四ヶ月流質物賣却代殘餘金は還付

市設質屋(貸出)事業成績

年度	人員	口數	金額
昭和十年	五、五六一	六七、七五〇	六七〇、二八八、四二
昭和九年	四、七九九	五八、三三三	五八、八五四、三三
昭和八年	四、七五八	五九、五四二	四七、〇七三

尙ほ公益質屋法による公益法人經營の泉尾公益質屋がある。即ち財團法人大阪自強館の經營にして大正區泉尾北村町に於いて昭和九年五月十日より業務を開始してゐる。

生業資本融通施設

信用と經驗のあるにも拘らず資本の缺乏のため生業の途が塞がれてゐる本市住民に資金を融通せんため、市が大正十四年十一月寄附圓二萬圓を財源として創めたのが本施設である。その後本施設に對する市民の要望に鑑み、昭和十年八月更に風水害義捐金處分未済額二十一萬九千圓を加へ、現在では貸付資金二十三萬九千四百餘圓に上つてゐる。貸付限度は一世帯に付二百圓、貸付利率は百圓に付日歩一錢七厘、貸付期間は十ヶ月以内で、これが取扱事務は市内の各市民館でやつてゐる。

協同組合施設

本施設の主なるものとして有責任大阪市昭和信用組合、有限責任愛隣信用組合等がある。前者は市の職業紹介所の紹介によつて就職して三年以上になる勤続者や市社會部員、市設住宅使用者、市民館の隣保區域内居住者によつて組織せられ、相互の金融的協同扶助をはかるを目的としてゐる。昭和二

失業保護事業

職業紹介

職業紹介事業の沿革は古く徳川時代の營利紹介業に始る。當時の營利紹介業者たる口入業者は、肝煎、人宿、桂庵又は慶庵、番組、口入所、人入稼業、女衍など種々の名稱で呼ばれ、法制上は奉公人宿又は請宿と總稱せられる。明治に入つてからも、依然として營利紹介業が行はれたのであるが、社會情勢の變化とともに、明治の中葉から公益職業紹介業が発生し來り、特に歐洲大戰以後失業問題が擡頭し社會問

年十月の創立で昭和十年末現在における組合員數は二千六百七十七名、出資口數一萬七百二口、貯金總額百二萬餘圓に達してゐる。

後者は市立北市民館隣保區域内の居住者の有志によつて大正十四年四月に組織せられたもので、昭和十年末現在の組合員數一千三十六名、出資口數六千二百六十口、貯金總額二十萬一千六百三十餘圓に上つてゐる。

(1) 市の施設

職業紹介所 大阪市經營にかゝる一般職業紹介所は大正八年二月九條職業紹介所の設置を始めとし、その後相次いで増設せられ、現在においては左記七ヶ所を數へ、昭和十年度中の總求人數は二九七、八九〇人、求職者數五六四、七四九人、就職者數九二、九三一人に上つてゐる。

市立職業紹介所一覽

名稱	所在地	創立年
中央職業紹介所	西區阿波堀通	大八
天六	取扱種別 男・女・少年・軍人 同 北區天神橋筋	大八
九條	取扱種別 男・女・少年 同 港區九條南通	大八
西野田	取扱種別 男・女 同 此花區玉川町	大八
玉造	取扱種別 男・女 同 東區黑門町	大二

社會事業——失業保護事業

小橋婦人同 東區小橋西之町 大五
取扱種別 女
天王寺同 天王寺區下寺町 昭二
取扱種別 男・女・少年

右の内小橋婦人職業紹介所は現在地に於て増築、中央職業紹介所は北區南扇町に移轉改築する外、九條職業紹介所は築港労働紹介所と合併、新築する豫定になつてゐる。

婦人職業萬能の互助時代

最近の婦人職業戦線にあらはれた非常に顯著な傾向として、各デパート、一流銀行會社ですら、女子事務員の求人難で悲鳴を上げつゝあると云ふともかくも快適なトピツクがある。尤もこれは高等女學校卒業程度以上、従つて中産階級以上の家庭の子女に限定された現象ではあるが、それだけに會つての文字通り「猫も杓子も」職業婦人へと徒らに志望した謂は「求人黄金時代」への目醒ましい反動として、また現在の社會思想の最も著しい一つの動向として、一般の關心と興味を惹いてゐる。

市立職業紹介所事業成績

年次	求人數	求職者數	就職者數
昭和八年	計 男 五、六九三 女 三、九五一	計 男 一、七三三 女 一、一五七	計 男 一、六七九 女 一、〇九三
昭和九年	計 男 六、五八二 女 三、八四六	計 男 二、〇〇八 女 一、四〇〇	計 男 一、七五三 女 一、三七八
昭和十年	計 男 四、五七〇 女 三、七二〇	計 男 一、四〇一 女 一、〇〇〇	計 男 一、八五三 女 一、五〇八
計	計 男 一六、〇四五 女 九、二五九	計 男 五、一四二 女 三、五五七	計 男 五、二九〇 女 三、九〇九

(2) 労働紹介所

本市は更に日備労働者の需給の調節を計るために、大正八年九月今宮労働紹介所を創設し、次いで京橋、築港の労働紹介所を設置し、労働市場の統制を執り來つた。然るに大正十四年以來政府の補助を受けて失業救済土木事業を起工してより一層これが重要性を加へ更に増設を重ねて現在では六ヶ所に及んでゐる。

市立労働紹介所一覽

名	所在地	創設年
京橋労働紹介所	東區京橋前之町	大八
今宮同	西區東入船町	大八
築港労働紹介所	港區築港南海岸通	大九
千鳥同	此花區四貫島元宮町	昭五
淡路同	東淀川區國次町	昭七
今里同	東成區片江町	昭八

同 事業成績

年次	求人數	求職者數	紹介者數
昭和八年	一、七三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
昭和九年	二、〇〇八	一、四〇〇	一、四〇〇
昭和十年	一、四〇一	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	五、一四二	三、五五七	三、五五七

(3) 私營施設

本市に於ける私營職業紹介所は市設に先んじて開設されてゐる。既に明治四十年五月開設された大阪婦人ホームを初めとして現在七ヶ所を算する。左にこれら私設團體名とその事業成績を掲げよう。

私設職業紹介所一覽

名	組織又ハ經營主體	代表者	所在地	創設年
大阪職業紹介所	財團法人 大阪	八濱徳三郎	浪速區惠美須町	明四
大阪基督教青年會	財團法人 大阪	三浦 懿美	西區土佐堀通	明四
大阪婦人ホーム	財團法人 大阪	歌 子	北區中之島	明四〇
大阪基督教女子會	財團法人 大阪	星 野	北區西扇町	昭七
大阪府職業紹介所	財團法人 大阪府	坂 本	東成區東桃谷町	大二〇
大阪府協和會	財團法人 大阪府	井 上	東淀川區長柄東通	大三
大阪府協和會	財團法人 大阪府	阪 口	大正區南恩加島町	昭四

同 事業成績 (昭和十年中)

紹介所名	求人數	求職者數	就職者數
大阪職業紹介所	二八〇	九二〇	四七〇
大阪基督教青年會	七六一	三、三四〇	二、九一七
大阪基督教女子會	九〇〇	三、九〇三	三、七七一
大阪婦人ホーム	三、五〇三	二、四〇五	二、四〇五
大阪基督教青年會	一、四八四	一、四八四	一、四八四
大阪基督教女子會	一、四八四	一、四八四	一、四八四
計	一、四八四	一、四八四	一、四八四

失業應急事業

一般労働者失業應急事業 わが國の失業問題は、大正十三、四年頃に至つてその極點に達し、澎湃たる失業者群の發生をみ、これが救済は焦眉の急を告ぐるに至つた。こゝに於いて政府は大正十四年八月に具體的の失業對策として六大都市及び大阪府の七團體をして一齊に失業日備労働者を使用する各種の土木事業を施行せしめることとなつた。依つて大阪府市に於いてもこの方針に従ひ、大正十四年度より昭和三年度に亘り冬季における失業救済土木事業を繼續實施した。

然るにその後政府に於いて昭和四年十月に至り、本事業を冬季に限らざることに、事業施行規則の擴大、その他の條件の緩和などがあつたので、昭和四年年度乃至六年度の事業は、この方針に基いて施行したが、更に同七年六月に既往將來の公共團體施行の失業救済事業はすべてこれを失業應急事業と改稱せられ、この名稱の下に今日まで事業の繼續實施をみてゐる。

今、市並に府の最近三ヶ年に施行し

社會事業——失業保護事業

社會事業——失業保護事業

た事業成績を表示せば次の如くで、市一回失業救済土木事業施行以來昭和十
 におけるこの種失業急事業のために 年度末迄に補助事業は十九回を重ね、
 起工した諸事業は、大正十四年度の第 起債事業は第一次、第二次高速鐵道建

大阪市失業應急事業

年度別	事業費 豫算額	事業費 支出額	勞力費 支出額	勞働者實際 使用人員 平均	勞働者一日 實際使用人員
昭和八年度	一、三三〇、〇〇六	八、八七五、七六六	二、〇九六、九〇三	一、三三三、七二六	三、三三〇
昭和九年度	四、〇七九、〇六七	三、三三五、五九	六四七、六〇四	三、五五、三三三	一、〇五五
昭和十年度	二、二四三、九六六	一、五七二、二四	四四五、六四九	二四四、九四七	六七

各年事業内容 餘江川改修、街路舗装、道路修築、公園設備、橋梁改築、高速鐵道、建設事業、
 下水處理事業、葬儀所事業等
 備考 昭和十年度に於ては第十七回第十八回の失業應急事業が行はれた。

大阪府失業應急事業

年度別	事業費 豫算額	事業費 支出額	勞力費 支出額	勞働者使 用人員	一日平均 使用人員
昭和八年度	二、二〇六、一四六、〇〇一	一、五七六、八三六、七六	四七、八三三、六六	三〇〇、六九九	八四
昭和九年度	二、三四四、二六三、〇〇一	一、〇〇〇、三三六、六三	二六〇、二六、五九	一七、三三九	四八六
昭和十年度	二、三三、六三三、〇〇一	一、六二一、九二〇、六六	四七七、六七九、八三	三三三、八二二	九〇

事業内容 高槻枚方線外六線道路改築工事
 大阪京線外六線道路改築工事
 大阪京線外六線道路改築工事
 大阪京線外六線道路改築及藤屋川改修工事
 備考 事業費豫算には各年度共前年度事業繰越額を含む

四四四

設事業を始め五事業を實施し、計二十
 三事業を算する状況である。

小額給料生活者失業
 應急事業

本事業は昭和四年十月政府により、
 小額給料生活者授職施設として、小額
 給料生活者の失業(又は未就職者)に
 して生活困難なる者の救済を目的とす
 る事業の施設を六大都市關係公共團體
 に對し懲息したのに始つてゐる。而し
 て事業の種類は官廳委託事務、公共團
 體事務及びその他の事務に分たれ、官
 廳委託事務については就業手當の金額
 公共團體事務については就業手當の半
 額、及び夫々の事務の半額に對し國庫
 補助があり、又施設の財源として大藏
 省預金部の低利資金融通が認められて
 ゐる。その後昭和七年五月國庫補助條
 件に多少の變更をみ、又事業名を今日
 の小額給料生活者失業應急事業と改稱
 せられたのである。
 府市施行に係る本事業の過去三年間
 の事業成績は左の通りである。

大阪市小額給料生活者
 失業應急事業

年 別	事業費 支出額	就業手當 支出額	授職 人員
昭和八年	四、一七〇、四三三	三、四三〇、三〇七	三、三三三
昭和九年	五、〇七〇、三三〇	三、三三〇、三三〇	三、三三〇
昭和十年	四、六七八、〇八六	三、〇九五、〇九五	三、〇九五

事業内容 大阪稅務監督局外十一官廳並に商工
 省委託事務及本市起興實業調查事務
 大阪稅務監督局外十八官廳委託事務
 並に本市起興實業調查外五公共
 團體事務

授産場一覽

名 稱	經營主體	所 在 地	創立年	事業内容	定員
弘濟會授産場	財團法人弘濟會	東成區南生野町	大元	印刷・製本・洋裁縫	一〇四
高岡竹芳堂作業場	個 人	北區浮田町		菓子・食料品	四〇
此花市民館	大 阪 市 立	此花區大野町	昭七	容 器 製 作	四〇
北市民館授産場	市民館後援會	北區天神橋筋	昭八	和 服 裁 縫	三〇
大阪自強館	財團 大阪自強館	西成區西今船町	昭八	東 子 製 作	二〇
光德寺善隣館	個 人	東淀川區中津濱通	昭八	王 冠 製 作	二〇
豐崎隣保館	財團 大阪府協和會	東淀川區長柄東通	昭八	莫 大 小 織	二五
鶴橋隣保館	同	東成區東桃谷町	昭八	木 工 ・ 理 髮	三
木津川宿泊所	大 阪 市 設	大正區平尾町	昭八	布 織 加 工	三〇
鶴橋保護所授産場	鶴橋保護所自治會	東成區猪飼野大通	昭八	石 版 印 刷	一

社會事業——失業保護事業

本市に於ける社會事業は、明治初期
 に於いて授産事業にその端緒を見出し

授産事業

年 別	事業費 支出額	就業手當 支出額	授職 人員
昭和八年	五、三九、四六、九七三	三、六七八、〇〇〇	三、六七八
昭和九年	五、三九、四六、九七三	三、三三三、〇〇〇	三、三三三
昭和十年	七、〇二、一七、七二七	三、九一七、〇〇〇	三、九一七

事業内容 公共團體事務乳兒調查外三調査事務
 農村社會調査外二調査事務
 水上生活者生活狀態外一〇調査事務

四四五

たと言つても敢て過言でないほど、本
 事業は他の事業に比し古い歴史を持つ
 てゐる。即ち明治元年十月府によつて
 清水谷に設立せられた救恤場(後の大
 貧院)を始め、明治十八年北區小松原
 に出來た小林授産場及び同年設立され
 た府立教育場など明治時代の代表的な
 社會施設は授産事業であつた。この外
 に大阪婦人慈善會、愛國婦人會大阪府
 支部等の授産施設もみな明治二、三十
 年代の設立にかかつてゐる。
 然るに、かくの如く初期に於いて相
 當重要な地位を占めてゐた、授産事業
 も、最近に及んでは昔日の勢ひなく、
 他の事業に附隨して從屬的に行はれて
 ゐるものが大部分となるに至つた。
 いま、本市に於けるこの種施設の主
 なるものを表示せば、次の如くで、私營
 のもの二ヶ所、公營のもの八ヶ所あり、
 三百名近くのものが授産されてゐる。

右のうち弘濟會授産場は、主に同會の收容救護に當つてゐるものを對象とし、高岡竹芳堂は方面委員より委託せられたものに授産し、此花市民館、北市民館、光徳寺善隣館及び豊崎隣保館は隣保事業の一翼として、木津川宿泊所、鶴橋保護所は宿泊人を對象として、大阪自彊館は一般失業者救済を目標として、授産してゐる。



景光の場産授の館民市北立市

授産場事業成績 (昭和十年中)

弘濟會	支拂工賃總額	延人員
高岡竹芳堂	三、六一、八八	一九、九二
此花市民館	九、七三、〇〇	二〇、八七〇
北市民館	二、六〇、三三	一四、三八〇
大阪自彊館	二、七五、三六	一七、七三〇
光徳寺善隣館	五、二八、〇〇	六〇、〇九
豊崎職業輔導所	二、六四、〇六	六三、三五
鶴橋職業輔導所	四、五三、〇三	七〇、九九
木津川宿泊場所	二、九六、三五	三、五七八
授産場	三、二七、三三	四、九四七
鶴橋保護所	三、三三、〇五	四、〇四

兒童保護事業

◆託兒事業

託兒事業の目的は働く母親保護と幼兒保護にある。市がはじめてこの事業に手を染めたのは大正八年であつて、鶴町第一託兒所を開設したが、その第一歩である。次いで、同年八月には櫻宮託兒所を、更に進んで大正十年四月には、鶴町第二託兒所を開設して漸次本事業の達成に努め、現在では十七

箇所の施設を見るに至り、これが保育幼兒數昭和十年末に於いて一、五一六人に上つてゐる。保育幼兒は附近に居住する勤勞者の幼兒にして満二歳より就學に達するもので午前七時又は八時から午後の四時又は五時まで保育し保育料は月五〇錢及び八〇錢徴收してゐる。

市立託兒所一覽

名稱	所在地	創設年
櫻宮託兒所	北區中野町櫻宮	大八
鶴町第一託兒所	大正區鶴町	大八
鶴町第二託兒所	大正區鶴町	大八
鶴橋託兒所	東區鶴橋	大八
西成託兒所	西成區櫻通	大八
此花託兒所	此花區四貫島嘉永町	大八
中本託兒所	東區南中本町	大八
平野託兒所	住吉區平野西脇町	大八
西淀川託兒所	西淀川區高見町	大八
櫻川託兒所	浪速區櫻川	大八
猪飼野託兒所	東區猪飼野	大八
九條託兒所	港區九條中通	大八
西今宮託兒所	西成區南開町	大八
日之出託兒所	東淀川區日之出町	大八
飛鳥託兒所	東淀川區西町	大八
旭託兒所	旭區生江町	大八

淺香託兒所 住吉區杉本町

以上の外昭和十一年度内には更に九箇所増設の豫定である。尚ほこの外に北市民館には保育組合の經營にかゝる託兒所があり、天王寺・大正浪速・東・玉出・此花各市民館には隣保事業の分枝として託兒事業が經營されてゐる。

同 事業成績統計

開所日數	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度
出席延人員	三、六三〇	五、四三〇	四、三三三
	三、六四二	三、三〇三	三、〇五五

私設託兒所一覽

名稱	組織	所在地	創設年	定員
保嬰館幼兒學園	財團法人大阪乳幼兒保護協會	此花區上福島	昭八	三〇
公衆衛生訪問校	財團法人朝日新聞社社會事業團	北區萬歳町	昭五	三〇
泉尾愛兒園	個員組織	大正區泉尾松之町	大三	三〇
豊崎愛兒園	會員組織	東淀川區本庄川崎町	大三	三〇
鷺洲愛兒園	鷺洲眞宗教會	西淀川區浦江北	大三	三〇
太融寺愛兒園	個員	北區大融寺町	大四	三〇
神路愛兒園	同	東成區大今里町	昭三	三〇
市岡愛兒園	同	港區魁町二丁目	昭五	三〇
今里愛兒園	同	東成區大今里町	昭五	三〇
中山愛兒園	同	東淀川區柴島町	昭八	三〇
淺香山愛兒園	勝燈報上人	住吉區淺香山	昭七	三〇
築港乳兒園	傳燈報上人	港區八幡屋中通	大五	三〇

社會事業——兒童保護事業

◆育兒事業

育兒事業は託兒事業と異り、孤兒・棄兒・迷兒を收容教育する施設である。従つて育兒の方法も十數人を一團として一家庭を構成し、各家庭毎に保姆助手、附添及び雜役等を配置して親代りの養護をしてゐる。今本市内に於ける育兒施設とその事業成績とを示せば次の如くであるが、これ等は又救護法の實施と共にその收容救護のための施設にもあてられてゐる。

育兒施設と其成績

名稱	昭和九年度年度末收容延人員現在數
財團 弘濟會育兒分團	五、九七〇
財團 大正二年創立 東成區南生野町	一七七
財團 博愛社	二、四、三三七
財團 明治三年創立 東淀川區元今里北通	三六五
財團 大阪汎愛扶植會	一三、八七〇
財團 明治九年創立 東成區林寺町	三六
財團 聖ヨハネ學園	二、六二七
財團 明治二年創立 天王寺區細工谷町	三五
計	二〇、七八四

少年職業相談及紹介

義務教育を修了したのみで實社會に立つて働かんとする少年のために、市は大正十四年二月全市の小學校長に對し少年の性能検査、個性調査に關して協議をとり、爾來これ等と連絡を保つて少年の職業指導適職斡旋に努めてゐるが、この外特に市立中央職業紹介所内に於いて體質検査、性能検査を行つてゐる。昭和十年中のこれ等取扱件数は、體質検査七千七十件、性能検査二千七百三十五件に上つてゐる。更に昭和二年末職業紹介所、小學校及び各方面の事業主三者の提携によつて、大阪市少年職業指導研究会を、中央職業紹介所に創設し、求職少年の指導方法につき研究すると共に、隨時職業指導に關する講演會講習會等を開催し、又、少年の職業需給關係等諸般の調査を行つてゐる。

次に特に求職者のために少年部を設置してゐる中央・天六・天王寺の三市立職業紹介所に於ける最近の事業成績を示せば、次の如くである。

少年部事業成績

求人數	求職者數	就職者數
昭和十年 一四、七六六	一九、七三三	四、六六九
昭和九年 三、六〇〇	一五、二九八	三、九八一
昭和八年 二、八六六	一三、五五九	三、九六〇
計 三九、一三二	四八、六〇〇	一三、六〇〇

備考 昭和九年、八年の數字は天王寺紹介所の分を含まない。

少年司法保護

十八歳未満の少年が、刑罰法令に觸れる行為をなし又はなす虞れある場合は、少年法より少年審判所に繫屬して保護處分に附せられる。保護處分には九種類あつて大別して單に訓誡の程度に止められるのと、矯正院收養院その他の私設保護團體に收容保護されるものとに分れる。この外に十四歳未満の所謂不良少年は少年教護法によつて教護委員の觀察に附せられるが、更に非せられる。いま大阪少年審判所においてこの保護處分に附せられた員數を窺つてみると、次の通りで、一年間に約二千五、六百人を算へてゐる。

少年保護處分一覽

總員	昭和八年	昭和九年	昭和十年	計
三、四三三	二、六三三	二、四八八	七、五五四	

以上處分種別

訓誡	改心誓約	條件を附し保護者に引渡	保護團體	其他に委託	少年保護司の觀察に附す	矯正院に送致	病院に送致	又は委託
二七五	一六〇	三、三三三	一、七六六	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二
男	九	三、三三三	一、七六六	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二
女	一六〇	三、三三三	一、七六六	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二
計	一六〇	三、三三三	一、七六六	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二	一、三二二

而して右の保護處分を受けたものの内、少年審判所から大阪市内にある九私設保護團體に委託收容したもの數は、昭和八年中に二七三人、同九年二八三人、同十年二六七人で、詳細は次の通りである。

少年司法保護團體及事業成績

團體名	經營者	作業種類	委託少年
沼島分團大阪印刷部職業指導所	中川庫吉 印刷業	紙袋加工、洋服	昭和九年 三〇三 昭和十年 三二四
少年高津學園	由尻龍道	裁縫、木工、土工	五五 五
積徳少年治療院	平田眞照	東區八丁目東寺町	六八 八〇
東成學園	吉田章	東區小橋寺町	二九 三四
崇徳學園	松田善宜	乾電池用スプリング等	一八 三三

創立年月 大二三、七 住吉區平野西脇町一六一

團體名	經營者	作業種類	委託少年
救世軍希望館	山室軍平	毛糸マトノ小供	昭和九年 三三二 昭和十年 一六五
救世軍女子希望館	山室軍平	服マトノ刺繍	九三 一三
弘誠園	渡邊作右衛門	電気ヒュース製作加工	三〇 三二
田島童園	森吉儀一	紙袋加工、懐中時計ガラス等	三三 二七 二七 二七

創立年月 昭七、一〇 東成區生野田島町一〇八
計 二七三 二八三 二六七
備考 救世軍女子希望館は女子のみを取扱ふ所の收容施設である。

異常兒保護

異常兒保護施設は身體異常兒と精神異常兒の二種に分れるが、現在市内にあるのは前者の保護施設のみであつて左表の如く公營のもの四、私營のもの二計六施設ある。

異常兒保護施設一覽

名	經營主體	代表者
大阪府立盲學校	大阪府	大浦正三
天王寺區大道五丁目		

社會事業——兒童保護事業——社會教化事業

社會教化事業

社會の平和と共同福祉の増進を計り以て社會の健全なる進歩發達を期するためには、國民の精神的向上、社會生活の協和即ち所謂社會教化事業に俟つところ甚だ大なるものがある。社會教化事業には、消極的性質を有するものと積極的性質を有するものとの二つの方面が考へられる。前者は主として教

社會事業——社會化教育事業

化手段によつて社會の害惡を除去せんとするもので、矯風事業、融和事業、司法保護事業等を含み、後者は主として思想的に庶民生活の向上進歩を計らんとするもので、防貧的意圖を有し隣保事業、精神作興運動等を含むものである。以下隣保事業と融和事業施設について記することにする。

◆隣保事業

細民地區の中心となり、近隣居住者の人格的接觸を重んじ、その精神的並に經濟的生活の指導援助をなさんとすものが隣保事業であつて、これが施設として市民館、隣保館等が設けられてゐる。

現在本市内にある隣保施設は公私併せて二十四ヶ所あり、大阪市がこの種施設に手を染めたのは大正十年で北市民館が最初であるが、漸次擴充され現在では七ツの市民館を經營して居り、何れも附近居住者の實生活に即した適切な有意義な事業を行つてゐる。いまこの施設及び事業成績を記して見ると次の如くである。

市市民館一覽

館名	所在地	創設年
北市民館	北區天神橋筋	大正一〇
天王寺市民館	天王寺區下寺町	大正一五
大正市民館	大正區南泉尾町	昭三
浪速市民館	浪速區榮町	昭三
東市民館	東區谷町四丁目	昭三
玉出市民館	西成區辰巳通	昭四
此花市民館	此花區大野町	昭五

【市民館事業内容】

個別指導	法律、職業、身上相談
教化施設	講演會、講習會、娛樂、圖書閱覽
自治施設	町内會、俱樂部、諸集會
保健施設	健康相談、各科診療 (但し大正市民館を除く)
經濟施設	授産、信用組合、貯金貸付、生業資本融通、協同事業
幼兒保育	定員北一五〇、此花・浪速七〇、東六〇、天

王寺・大正五〇、玉出三〇、保育料月八〇錢(但浪速五〇錢)

四五〇

同 事業成績

個別指導	昭十年中 二、八五五人	昭九年中 二、四八八人	昭八年中 二、八八八人
教化施設	昭十年中 七、七九六	昭九年中 七、八〇三	昭八年中 八、五〇九
自治施設	昭十年中 三、五八八	昭九年中 二、九一五	昭八年中 二、五九九
兒童保護	昭十年中 二〇、九三〇	昭九年中 二八、九七〇	昭八年中 二六、七九七
保健施設	昭十年中 一七、八九四	昭九年中 一六、一五八	昭八年中 一六、九四七

經濟的施設

貸付	授産	信用組合	貯蓄
昭十年中 三、〇〇八	昭十年中 二六、三九四	昭十年中 二〇〇、八七五	昭十年中 二、九七〇
昭九年中 二、九一四	昭九年中 二六、三九四	昭九年中 二二九、七〇〇	昭九年中 二、〇五五
昭八年中 三、八五五	昭八年中 二六、三九四	昭八年中 一〇五、五七九	昭八年中 二、〇五五

次に私設隣保事業團體の主なるものを挙げると次の如くで、各施設ともその特異性を發揮して成果を擧げてゐる

私設隣保事業團體一覽

團體名	組織	代表者	事業内容
石井記念愛染園	財團法人	富田象吉	改築ノ爲休止中
四恩學園	同	長谷川順孝	保育、消費組合、診療
光徳寺善隣館	個人	佐伯祐正	授産、保育、教育
四貫島セツト	會員組織	賀川豊彦	保育、診療
淀川善隣館	アメリカ宣教師團日本組合 基督教會協約 管理	エス・エフモラン	保育、俱樂部
大阪水上隣保館	會員組織	中村 遙	育兒、産院
累徳學園	同	二條誓康	保育、講習
大阪曉明館	關西學院學生 社會奉仕會	神崎驥一	保育、宿泊
大毎善隣館	大毎社會團	奥村信太郎	授産、診療、保育
基督教ミッド	社團法人	安村三郎	夜學校、保育

社會事業——社會教化事業

四五二

團體名

團體名	組織	代表者	事業内容
生野セツト	個人	八田豊子	託兒、子供の會
大正佛敎	會員組織	前田徹定	人事相談
木津川隣保館	財團法人	阪口匡平	
鶴橋隣保館	同	坂本深藏	
豊崎隣保館	同	井上 佐	
聖心セツト	パリア・カトリック教會 愛徳會支部	テルミエー	
貝柄町保育所	財團法人	小野義夫	
木津保育所	同	大田兼一	
四貫島保育所	同	皆川新光	

備考 創立年月中には事業開始年月を掲示したものである。

融和事業

我が國民の間には封建的因襲から未だ尙ほ一部同胞に對する偏見が存在してゐる。併し時代の推移と國民の自覺はこれら偏見打破の氣運を著るしく高調し、政府の積極的助成と相俟つて、融和事業は軌近急激な發達を遂げ、物心兩方面からこれら偏見を除去せんとする具體的施設が各方面に於いて講ぜられるに至つた。

大阪市に於いても、同胞融和、生活改善の促進のもとに、現在北中島・榮町の兩住宅、城北・北中島・舟場・加島の四共同浴場、北中島理髮所及び日之出・飛鳥・旭・淺香の四託兒所並に浪速市民館等を経営する外、道路の改修、下水の築造その他産業の助長副業の奨励等本事業の目的達成のために努力を拂つてゐる。

尙ほこの外に本市における融和事業として大阪府公道會がある。これは府下全般に融和精神を徹底せしめるため昭和三年二月創立せられたもので、具體的事業施設はないが、懇談會、講習會、講演會等の諸會合を開催して、國

民協同親和の實をあげること力を注いでゐる。

司法保護事業

司法保護事業には不良少年に對する少年保護事業と釋放者保護事業とがあるが、少年保護事業は兒童保護事業にも關係し既に兒童保護事業のところでも記述したので、ここでは釋放者保護事業について述べることにする。

釋放者を保護善導して社會の良民たらしめんとする釋放者保護事業は、明治四十五年御大喪により恩赦令が頒發せられて、多數の刑餘者を街頭に發見するまでは、餘り社會の注目を惹かなかつた。併し佛教家の中に於いて斯業に志すものが漸次増加するとともに、大正三年東京に輔成會が組織せられ、全國のこの種保護事業團體の聯絡統一を計りこれを後援するに及んで、事業の進展をみ、政府又本事業のため年々奨励金を交付して、これが發達を促進助長してゐる。

今本市に於けるこれら保護團體の主なるものを示せば次の如くである。

釋放者保護團體一覽

四五二

名	稱	創設年	代表者
財團	大阪佛教和衷會	大元	松岡良友
	北區山崎町		
大正	自治會	大四	芳賀重之助
	東成區深江町		
興	仁會	大五	尾崎全明
	旭區左專道町大通寺		
	本派本願寺成功館	昭五	本多惠隆
	大正區泉尾上通		
	北端	自生會	昭九
	住吉區北加賀屋町		北端兵吉

同事業成績 (昭和九年度)

名	稱	越人員	新保護保護年度末人員	除人員	人員
大阪	佛教和衷會	七三	九〇	七五	三三
大正	自治會	五	七六	六五	一一〇
興	仁會	一七三	三〇一	三三四	一五二
	本派本願寺成功館	一九五	三三三	二六七	一四一
北端	自生會	—	三四	一〇四	二二〇
計		五〇〇	二、七九二	二、〇三二	七四七

備考 收容保護と間接保護とを合せた實人員を示す。

社寺教會



市民と敬神

本市及附近は建國史上由緒深き地であつて神社の創建甚だ古きものがあり殊に市民の敬神崇祖の念彌深く、各神社の社殿及境内は年と共に整備しつゝある。祭禮等にも本市特有の行事亦尠くない。本市内に於ける神社總數は百二十で、官幣大社は生國魂神社、住吉神社の二社、別格官幣社は阿倍野神社の二社、府社は九社、郷社十三社、村社八十八社、無格社七社を算し、次に詳記の市内神社案内の如くであるが、大阪市は市内郷社及村社には祈年祭、新嘗祭、例祭當日夫々供進使參向し幣帛神撰料を供してゐる。

北 區

- 府社 天滿宮 大工町
- 〔祭神〕菅原道真公 〔祭日〕例祭三月廿五日、梅花祭一月廿五日(初天神) 銚流神事七月廿四日、夏祭七月廿五日(船渡御式)、秋思祭九月十三日、秋祭十月廿五日(流鏑馬式)
- 府社 豐國神社 中之島一丁目
- 〔祭神〕豐臣秀吉公 〔祭日〕例祭八月十八日、夏祭七月十八日
- 郷社 露天神社 曾根崎上二丁目
- 〔祭神〕天照皇大神、豐受皇大神、少彥名命、菅原道真公、大已貴命
- 〔祭日〕例祭七月二十日
- 郷社 櫻 宮 中野町三丁目
- 〔祭神〕天照皇大神、應神天皇、仁徳天皇 〔祭日〕例祭七月廿六日、秋祭十月廿一日、献花祭四月中旬
- 郷社 綱敷天神社 神山町

此 花 區

- 〔祭神〕嵯峨天皇、菅原道真公(祭日) 例祭七月十五日(渡御)、御弓神事一月廿日、秋祭十月廿四日
- 村社 堀川神社 西堀川町
- 〔祭神〕蛭子大神、天太玉命、菅原道真公 〔祭日〕例祭十一月廿日、寶市神事祭一月十日
- 村社 十五社 澤上江町二丁目
- 〔祭神〕天照皇大神、八幡大神、松尾大神、小守大神、三十三川大神、春日大神、加茂大神、貴船大神、住吉大神、布留大神、熊野大神、大原野大神、生野大臣、廣田大神、稻荷大神 〔祭日〕例祭十月廿日、夏祭七月廿日 春祭四月十六日
- 村社 天神社 國分寺町
- 〔祭神〕天穗日命 〔祭日〕例祭七月十八日、秋祭十月廿六日
- 村社 惠美須神社 玉川町二丁目
- 〔祭神〕事代主大神 〔祭日〕例祭十月十日、夏祭七月廿日(渡御)、寶之市祭一月十日
- 村社 天滿宮上之社 上福島南二丁目
- 〔祭神〕菅原道真公 〔祭日〕例祭十月

市内神社案内

社寺・教會——市民と敬神——市内神社案内

廿一日、梅花祭一月廿五日、献茶祭三月廿五日、夏祭七月廿五日
 九月廿五日
 村社 天満宮中之社 上福島南三丁目
 〔祭神〕少彦名命、菅原道真公〔祭日〕例祭十月廿一日、梅花祭一月廿五日、春祭三月廿五日、夏祭七月廿五日
 村社 天神社 下福島二丁目
 〔祭神〕少彦名命、菅原道真公〔祭日〕十月廿五日、夏祭七月二十五日
 村社 住吉神社 四貫島宮居町
 〔祭神〕表筒男大神、中筒男大神、底筒男大神、神功皇后 〔祭日〕例祭十月廿日、夏祭七月廿日
 村社 朝日神明社 春日出町中五丁目
 〔祭神〕天照皇大神、倭比賣命、春日大神、應神天皇、住吉四柱神、菅原道真公、鴨大神、豐受皇大神、宇賀御魂神 〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日
 村社 産土神社 島屋町
 〔祭神〕天照皇大神、住吉大神、宇賀御魂神 〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月二十一日
 東 區
 府社 坐摩神社 渡邊町

〔祭神〕生井神、福井神、綱長井神、阿須波神、波比岐神、〔祭日〕例祭四月廿二日、夏祭七月廿二日、秋祭十月廿二日
 府社 難波神社 博勢町五丁目
 〔祭神〕速素盞鳴尊、仁德天皇、宇賀御魂神 〔祭日〕例祭十月廿一日、菖蒲神事舊五月五日、夏祭七月廿一日
 府社 御靈神社 淡路町五丁目
 〔祭神〕天照大御神の荒魂、應神天皇、津布良彦神、津布良比賣神、源正靈神 〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十七日〔渡御〕
 府社 稻荷神社 半入町
 〔祭神〕宇賀御魂神 〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十六日
 村社 三光神社 宰相山町
 〔祭神〕仁德天皇、天照皇大神、月讀命、速素盞鳴尊 〔祭日〕例祭十一月一日、夏祭七月二十二日
 村社 鶴森宮 森之宮東之町
 〔祭神〕用明天皇、穴穂部間人皇后 〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日、御田植神事六月八日
 無格社 少彦名神社 道修町三丁目
 〔祭神〕少彦名命〔祭日〕十一月廿三日

西 區
 郷社 稻荷神社 西長堀南通五丁目
 〔祭神〕宇賀御魂神、速素盞鳴尊、大市姫大神、田中大神 〔祭日〕例祭三月初午日、夏祭七月十二日、秋祭十月十二日、人形流神事七月三日
 港 區

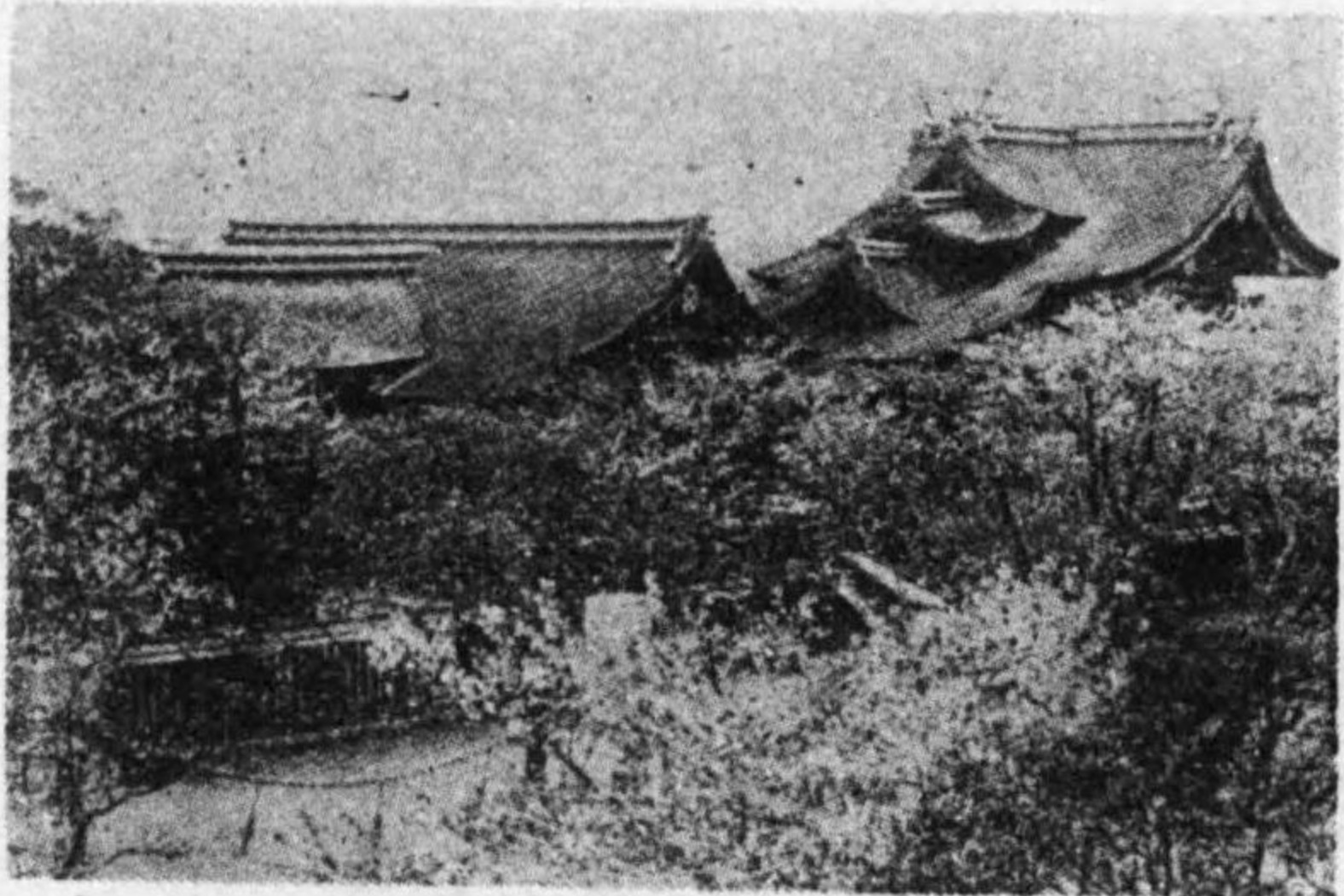
郷社 茨住吉神社 九條北通一丁目
 〔祭神〕底筒男命、中筒男命、表筒男命、息長足姫命、八幡大神 〔祭日〕例祭十月廿三日、夏祭七月廿三日
 村社 三社神社 壽町一丁目
 〔祭神〕天照皇大神、豐受皇大神、住吉大神、熱田大神、齋主大神、秋葉大神 〔祭日〕例祭十月廿一日、夏祭七月廿一日
 村社 住吉神社 湊屋濱通一丁目
 〔祭神〕表筒男神、中筒男神、底筒男神 〔祭日〕例祭十月廿四日、夏祭七月廿四日
 村社 住吉神社 北福崎西之町
 〔祭神〕天照皇大神、住吉大神 〔祭日〕例祭十月十八日、夏祭七月十八日
 村社 三津神社 田中元町五丁目

〔祭神〕天照皇大神、宇賀御魂神、住吉大神、生國魂大神、大海大神 〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日
 村社 天満宮 三先町一丁目
 〔祭神〕住吉大神、宇賀御魂神、菅原道真公 〔祭日〕例祭十月廿五日、夏祭七月廿五日、梅花祭一月廿五日
 大 正 區

村社 八坂神社 三軒家濱通三丁目
 〔祭神〕速素盞鳴尊 〔祭日〕例祭十月十七日、春祭三月十四日、夏祭七月十七日〔渡御式〕
 村社 神明神社 鶴町一丁目
 〔祭神〕天照皇大神、春日大神、八幡大神 〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十七日
 村社 八坂神社 三軒家町三丁目
 〔祭神〕速素盞鳴尊、應神天皇、仁德天皇、菅原道真公 〔祭日〕例祭十月十七日、春祭四月三日、夏祭七月十四日
 村社 産土神社 小林町
 〔祭神〕天照皇大神、應神天皇、住吉大神 〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭八月一日、春祭四月十六日
 社寺・教會——市内神社案内

天王寺區

官幣大社 生國魂神社 生玉町
 〔祭神〕生島神、足島神 〔祭日〕例祭九月九日、夏祭七月九日〔渡御式〕、秋祭十月十五日〔初穗祭〕



生國魂神社一社

郷社 大江神社 夕陽丘町
 〔祭神〕豐受皇大神、速素盞鳴尊、欽明天皇、大己貴命、少彦名命〔祭日〕

例祭十月十六日、夏祭七月十六日、春祭四月十六日〔卯花神事〕
 村社 河堀稻生神社 大道三丁目
 〔祭神〕素盞鳴尊、崇峻天皇、宇賀御魂神 〔祭日〕例祭七月十九日、春祭四月十九日、秋祭十月十九日
 村社 五條宮 眞法院町
 〔祭神〕敏達天皇 〔祭日〕例祭七月十六日、秋祭十月十六日
 村社 久保神社 勝山通一丁目
 〔祭神〕天照皇大神、速素盞鳴尊、宇賀御魂神、伊弉諾尊、伊弉册尊 〔祭日〕例祭七月十六日、秋例十月十六日
 村社 堀越神社 茶臼山町
 〔祭神〕崇峻天皇 〔祭日〕例祭七月十五日、春祭四月十五日、秋祭十月十五日
 村社 東高津宮 東高津北之町
 〔祭神〕仁德天皇、磐船比咩神 〔祭日〕例祭十月十二日、夏祭七月十二日
 無格社 安井神社 逢阪上之町
 〔祭神〕菅原道真公 〔祭日〕春祭四月廿五日、秋祭十月廿日、神御衣祭九月十三日
 官祭 招魂社 夕陽丘町
 〔例祭日〕八月十八日
 四五五

南區

府社 高津宮 高津町一番丁
〔祭神〕仁德天皇、仲哀天皇、應神天皇、神功皇后、履仲天皇、葦原皇后
〔祭日〕例祭七月十八日、的祭一月十八日、獻梅祭二月十五日、秋祭十月十八日



一社 神 津 高一

郷社 御津宮 八幡町
〔祭神〕應神天皇、仲哀天皇、比咩大神
〔祭日〕例祭六月十五日、夏祭七月十五日、秋祭十月十五日

浪速區

郷社 八阪神社 元町四丁目
〔祭神〕素盞鳴尊、稻田比賣大神、八柱御子神
〔祭日〕例祭十月十四日、網曳神事一月十四日、春祭四月十四日(太々神樂)、夏祭七月十四日
村社 今宮神社 惠美須町三丁目
〔祭神〕天照皇大神、事代主命、速素盞鳴尊、稚日女尊、月讀尊
〔祭日〕例祭一月十日
村社 敷津松之宮神社 敷津町二丁目
〔祭神〕素盞之男尊、奇稻田姬尊
〔祭日〕例祭十月十七日、春祭四月十七日、夏祭七月十七日
村社 稻荷神社 稻荷町三丁目
〔祭神〕豐受皇大神、猿田彦大神、宇受賣大神、大山祇命、倉稻魂命
〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十五日
村社 廣田神社 廣田町
〔祭神〕天照皇大神荒魂
〔祭日〕例祭十月廿三日、春祭四月廿三日、夏祭七月廿三日

七月廿三日
無格社 金刀比羅神社 河原町一丁目
〔祭神〕崇德天皇、大物主命、市杵島姬命
〔祭日〕例祭十月十日

西淀川區

郷社 姫島神社 姫島町
〔祭神〕附迦留姬命、住吉大神
〔祭日〕七月二十日
郷社 田袋神社 佃町
〔祭神〕底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后
〔祭日〕例祭十月十七日
村社 八阪神社 海老江中三丁目
〔祭神〕速素盞鳴尊
〔祭日〕例祭七月十八日、秋祭十月十八日
村社 住吉神社 大和田町
〔祭神〕底筒男命、中筒男命、長筒男命、氣長足姬尊
〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭八月一日、祈漁祭三月一日
村社 素盞鳴神社 浦江北一丁目
〔祭神〕速素盞鳴尊
〔祭日〕例祭十月十八日、夏祭七月十八日
村社 湍標住吉神社 傳法町北三丁目
〔祭神〕天照皇大神、底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后、神武天皇、八幡大神
〔祭日〕例祭十一月三日

日、夏祭八月一日

村社 住吉神社 野里村
〔祭神〕住吉大神
〔祭日〕例祭二月廿日、夏祭八月一日

村社 八阪神社 大仁元町二丁目
〔祭神〕速素盞鳴尊、天御中主尊、天照皇大神
〔祭日〕例祭十月十八日、夏祭七月十八日

村社 鴉 宮 傳法町南一丁目
〔祭神〕住吉大神、天照皇大神、蛭子大神
〔祭日〕例祭十月十七日、〔秋祭〕一月十日、夏祭八月一日

村社 香具波志社 加島町
〔祭神〕天照皇大神、宇賀御魂神、保食神、稚産靈神、埴山姫神、應神天皇、住吉大神
〔祭日〕例祭十月廿三日、春祭四月廿三日

村社 住吉神社 福町
〔祭神〕底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后
〔祭日〕例祭四月廿日、夏祭七月三十日

村社 住吉神社 大野町
〔祭神〕底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后
〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭八月一日

無格社 鼻川神社 花川町

社寺・教會——市内神社案内

〔祭神〕速素盞鳴尊、神功皇后
〔祭日〕十月十八日、夏祭七月廿八日

東淀川區

郷社 中島惣社 山口町
〔祭神〕宇賀御魂神、受保大神、大市比賣神、菅原道真公、天兒屋根神、經津主神、武甕槌神、姬大神、事代主神、天照皇大神、應神天皇、速素盞鳴尊、大名牟遲神、少彦名神、猿田彦神
〔祭日〕例祭十月廿七日、春祭五月十八日
村社 豐崎神社 豐崎東通四丁目
〔祭神〕孝德天皇、素盞鳴尊、應神天皇
〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十五日
村社 富島神社 中津濱通一丁目
〔祭神〕速須佐乃男尊、天照皇大神、櫛稻田姬命、住吉大神、八幡大神、豐受皇大神、菅原道真公
〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十四日、合祀記念祭六月七日
村社 柴島神社 柴島町
〔祭神〕天照皇大神、春日大神、應神天皇
〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十五日

村社 大隅神社 南大道町
〔祭神〕別雷大神、天照皇大神、伊邪那美尊、須佐之男尊、天兒屋根尊、應神天皇、豐受比賣尊、大山咋尊、市杵嶋姬尊、菅原道真公
〔祭日〕例祭十月廿三日、春祭四月廿三日

村社 神津神社 十三東之町二丁目
〔祭神〕應神天皇、宇賀御魂神、底筒男命、中筒男命、表筒男命、神功皇后、菅原道真公、少彦名命、猿田彦神
〔祭日〕例祭十月廿三日、春祭五月廿三日

村社 大 宮 豐里町
〔祭神〕安閑天皇、天手力男之命、大己貴命
〔祭日〕例祭十月廿二日、春祭四月十七日、夏祭六月十七日、鎮火祭十二月八日

村社 八幡大神宮 長柄中通三丁目
〔祭神〕應神天皇
〔祭日〕例祭十月十八日、夏祭七月十八日

村社 浦田神社 三國町
〔祭神〕宇賀御魂神、別雷大神
〔祭日〕例祭十月廿四日、春祭五月一日

村社 春日神社 上新庄町
〔祭神〕武甕槌神、經津主神、天兒屋根神、比賣大神
〔祭日〕例祭十月廿

五日、春祭四月廿五日
村社 天満宮 豊里菅原町
〔祭神〕菅原道真公〔祭日〕例祭十月廿五日、春祭四月廿五日、夏祭六月廿五日、鎮火祭二月十六日

東成區

村社 田島神社 生野田島町
〔祭神〕少彦名命、應神天皇、菅原道真公、事代主大神〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月八日、春祭四月十六日
村社 天神宮 猪飼野西三丁目
〔祭神〕少彦名命、仁德天皇、忍坂彦命〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日
村社 白山神社 白山町一丁目
〔祭神〕菊理姬命〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十六日、菊祭十二月三日
村社 八阪神社 中道元町二丁目
〔祭神〕速素盞鳴尊、菊理姬命〔祭日〕例祭十月十七日、御弓祭六月五日、夏祭七月十六日
村社 稻荷神社 深江町
〔祭神〕宇賀御魂神、大宮女命、猿田彦命、月讀命、軻遇突智命〔祭日〕

例祭十月十七日、夏祭八月一日
村社 彌榮神社 鶴橋南之町三丁目
〔祭神〕建速須佐之男命、仁德天皇〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日
村社 八王子神社 北中本町一丁目
〔祭神〕八王子大神、宇賀御魂神、素盞鳴尊、奇稻田姬命、大己貴命〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十五日、御弓祭一月十一日

村社 小路神社 大友町
〔祭神〕天武天皇、素盞鳴尊、大山咋神、天之水分神、國之水分神、受髮神〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭八月一日
村社 素盞鳴尊神社 舍利寺町
〔祭神〕素盞鳴尊〔祭日〕例祭十月十七日、夏祭七月十七日
村社 熊野大神宮 大今里町
〔祭神〕伊弉册命、事解男命、速玉男命、大己貴命、素盞鳴尊、奇稻田姬命〔祭日〕例祭十月十七日、春祭四月三日、夏祭七月十七日
村社 比賣許曾神社 東小橋南之町
〔祭神〕下照比賣命〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十六日

旭區

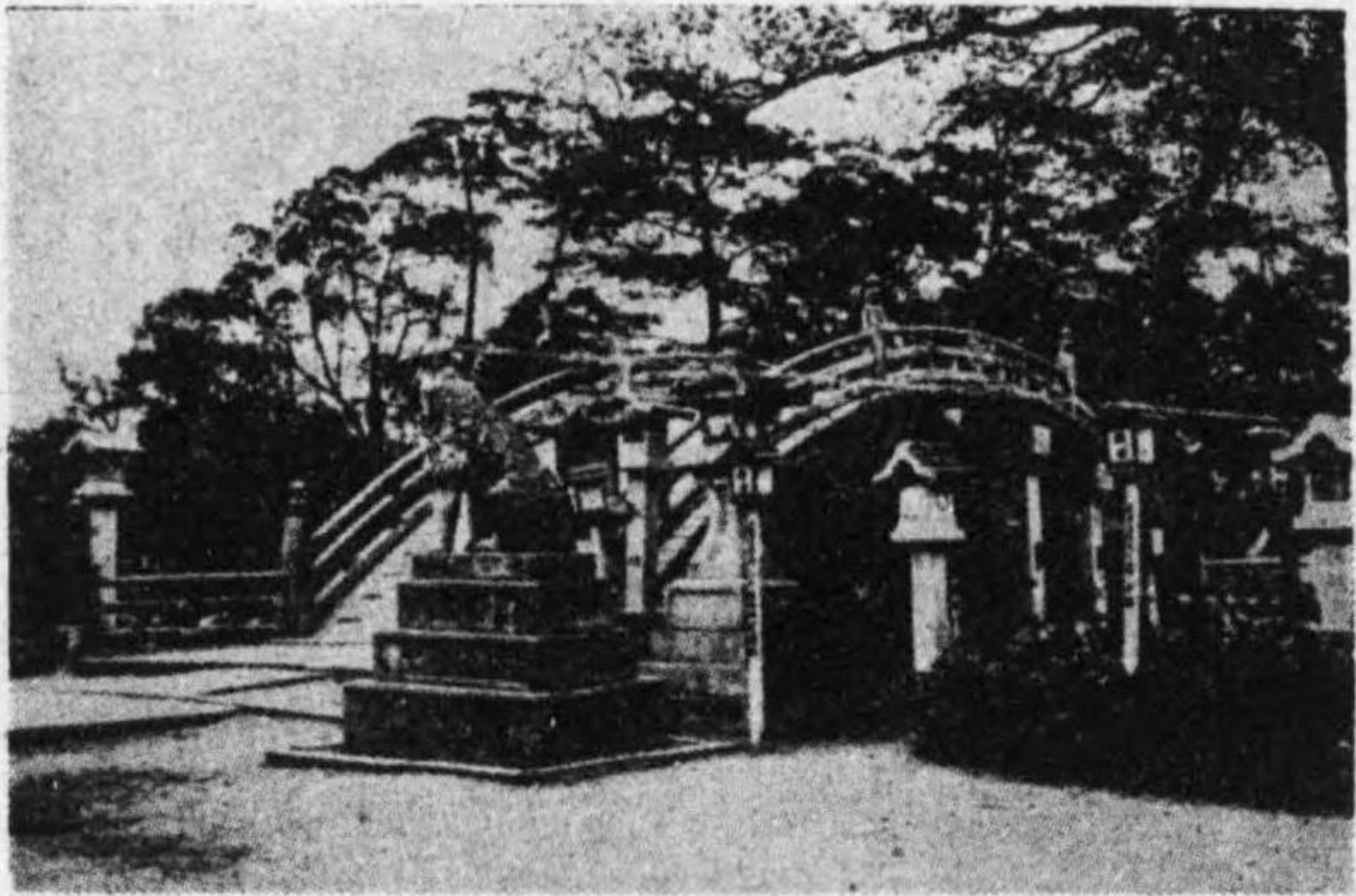
郷社 阿遲速雄神社 放出町
〔祭神〕阿遲速雄高彦根神〔祭日〕例祭十月廿二日、菖蒲刈祭七月九日
村社 大宮神社 大宮町八丁目
〔祭神〕應神天皇、神功皇后、姫大神〔祭日〕例祭十月廿五日、春祭四月十五日、夏祭七月二十日
村社 八幡大神宮 北清水町
〔祭神〕應神天皇、武甕槌命、蛭子命〔祭日〕例祭九月十五日、夏祭七月十五日、秋祭十月廿三日
村社 日吉神社 赤川町
〔祭神〕大山咋命〔祭日〕例祭十月廿八日、夏祭七月十日
村社 皇大神宮 今福町
〔祭神〕天照皇大神〔祭日〕例祭十月廿二日、夏祭八月一日
村社 八王子神社 鶴見町
〔祭神〕大山咋神荒魂〔祭日〕十月廿二日
村社 八剱神社 鳴野町
〔祭神〕速素盞鳴尊、奇稻田姬神、天照皇大神、八柱大神、春日四柱大神、岡象女神〔祭日〕例祭十月廿二日、

夏祭七月八日

村社 須佐之男尊神社 關目町
〔祭神〕須佐之男尊〔祭日〕例祭十月廿日、夏祭七月廿日
村社 若宮八幡大神宮 蒲生町
〔祭神〕若宮八幡大神〔祭日〕例祭十月廿一日、夏祭七月廿一日
村社 水神社 野江町二丁目
〔祭神〕水波女命〔祭日〕十月二十日
村社 諏訪神社 左専道町
〔祭神〕建御名刀美命、八坂刀賣命〔祭日〕例祭十月廿三日、夏祭七月十六日
村社 比枝神社 今津町
〔祭神〕天照皇大神、大己貴神、大山咋神〔祭日〕十月二十二日

住吉區

官幣大社 住吉神社 住吉町
〔祭神〕第一本宮底筒男命、第二本宮中筒男命、第三本宮表筒男命、第四本宮、息長足姬命〔祭日〕例祭六月廿日、卯之葉神事五月上旬の卯日、御田植神事六月十四日、南祭八月一日、寶之市神事十月十七日



住吉神社一反橋

別格官幣社 阿部野神社 住吉町
〔祭神〕北畠親房公、北畠顯家公〔祭日〕例祭一月廿四日、顯家公祭、五月廿二日、親房公祭、十月十八日
府社 杭全神社 平野宮町
〔祭神〕第一殿素盞鳴尊、第二殿伊弉册尊、速玉男尊、事解男尊、第三殿伊弉諾尊〔祭日〕例祭十月十七日、

田植神事一月十三日、獻花祭三月三日、夏祭七月自九日至十四日
府社 大依羅神社 庭井町
〔祭神〕建豐波豆羅和氣王命、底筒之男命、中筒之男命、表筒之男命〔祭日〕例祭四月十六日、夏祭七月十二日、秋祭十月十二日
郷社 阿倍王子神社 阿倍野筋八丁目
〔祭神〕伊弉那岐尊、伊弉那美尊、速素盞鳴尊、應神天皇〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十五日
郷社 生根神社 住吉町
〔祭神〕少彦名神〔祭日〕例祭十月九日、夏祭七月九日、觀學祭十月廿五日
村社 天満宮 天下茶屋三丁目
〔祭神〕菅原道真公〔祭日〕例祭十月廿五日、春祭三月廿五日、夏祭七月二十五日
村社 山阪神社 山坂町二丁目
〔祭神〕天穗日命、野見宿彌、素盞鳴尊、宇賀御魂神、猿田彦神〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭七月十一日
村社 止々呂支比賣神社 澤之町
〔祭神〕速素盞雄命、稻田姬命〔祭日〕例祭十月八日、夏祭七月八日
村社 楯原神社 喜連町

社寺・教會——市內神社案内——神社祭日便覽

四六〇

〔祭神〕武甕槌大神、大國主大神〔祭日〕例祭十月十五日、夏祭六月廿五日

村社 高崎神社 南加賀屋町
〔祭神〕天水分大神、天照皇大神、柿本人丸神〔祭日〕例祭九月廿六日、夏祭七月十七日

村社 住吉神社 湯里町
〔祭神〕中筒男命〔祭日〕十月十三日、夏祭七月十四日

村社 神須牟地神社 西長居町
〔祭神〕神須牟地命、住吉愛浪日女命〔祭日〕例祭十月廿一日、夏祭七月廿一日

村社 保利神社 東長居町
〔祭神〕速素盞鳴尊、大己貴命〔祭日〕例祭十月十六日、夏祭七月十八日

村社 高砂神社 北島町
〔祭神〕天水分豐浦命、住吉大神、柿本人丸神〔祭日〕例祭九月廿六日、勸學祭四月一日、夏祭七月十七日

村社 天神社 桑津町
〔祭神〕少彥名神〔祭日〕例祭十月十七日、春祭一月廿二日、夏祭七月十七日

村社 素盞鳴尊神社 鷹合町
〔祭神〕速素盞鳴尊〔祭日〕例祭十月十三日、夏祭七月十四日

村社 中井神社 中野町
〔祭神〕速素盞鳴尊〔祭日〕例祭十月十三日、夏祭七月十四日

西成區
村社 生根神社 玉手本通四丁目
〔祭神〕少彥名命〔祭日〕例祭十月九日、夏祭七月廿五日、春祭四月廿五日

村社 津守神社 津守町
〔祭神〕天照皇大神、稻荷大神、住吉大神、大歲大神、綿津見大神〔祭日〕例祭十月廿一日、春祭四月廿一日、夏祭七月廿一日

神社祭日便覽

一 月
〔十日〕北區堀川神社、此花區惠美須神社、浪速區今宮神社、西淀川區鴛宮〔十一日〕東成區八王子神社〔十二日〕南區高津宮〔十三日〕住吉區枕全神社〔十四日〕浪速區八坂神社〔廿日〕北區網敷天神社〔廿二日〕住吉區天神社〔廿四日〕住吉區阿部野神社〔廿五日〕北區天滿宮、此花區天滿宮上之社、此花區天滿宮中之社、港區天滿宮

二 月
〔十五日〕南區高津宮〔廿日〕西淀川區姫島神社、西成區天滿宮、住吉區天滿宮、西成區生根神社
〔廿六日〕北區櫻宮
〔廿八日〕西淀川區真川神社
〔三十日〕西淀川區住吉神社

八 月
〔一日〕大正區產土神社、西淀川區大和田住吉神社、同區野里住吉神社、同區櫻宮住吉神社、同區鴛宮、同區大野住吉神社、東成區稻荷神社、同區小路神社、同區皇大神宮、住吉區住吉神社
〔十八日〕北區豐國神社、天王寺區招魂社
〔九日〕天王寺區生國魂神社
〔十三日〕北區天滿宮、天王寺區安井神社
〔十五日〕旭區八幡大神宮
〔廿五日〕此花區天滿宮上之社
〔廿六日〕住吉區高崎神社、同區高砂神社

九 月
〔八日〕住吉區止呂支比賣命神社
〔九日〕住吉區生根神社、西成區生根神社
〔十日〕此花區惠美須神社、浪速區金刀比羅神社
〔十二日〕西區稻荷神社、天王寺區高津宮、住吉區大依羅神社
〔十三日〕住吉區住吉神社、同區素盞鳴尊神社、同區中井神社
〔十四日〕浪速區八坂神社
〔十五日〕東區稻荷神社、天王寺區生國魂神社、同區堀越神社、南區御津宮、浪速區稻荷神社、東淀川區豐崎神社、同區柴島神社、住吉區阿倍王子神社、同區山阪神社、同區櫻原神社
〔十六日〕此花區朝日神社、同區產土神社、東區鶴森宮、港區三津神社、大正區產土神社、天王寺區大江神社、同區五條宮、同區久保神社、東成區田島神社、同區天神宮、同區彌樂神社、同區小路神社、同區比賣許曾神社、住吉區保利神社
〔十七日〕東區御靈神社、大正區八坂神社、同區神明神社、同區三軒

西淀川區野里町住吉神社
三 月
〔一日〕西淀川區大和田町住吉神社〔三日〕住吉區抗全神社〔初午日〕西區稻荷神社〔十四日〕大正區八坂神社〔廿五日〕北區天滿宮、此花區天滿宮上之社、同區天滿宮中之社、住吉區天滿宮
四 月
〔一日〕住吉區高砂神社〔三日〕大正區八坂神社、東成區熊野大神宮〔中旬〕北區櫻宮〔十四日〕浪速區八坂神社〔十五日〕天王寺區堀越神社、旭區大宮神社〔十六日〕北區十五社、大正區產土神社、天王寺區大江神社、東成區田島神社、住吉區大依羅神社〔十七日〕浪速區敷津松之宮神社、東淀川區大宮〔十九日〕天王寺區河堀稻生神社〔廿日〕西淀川區住吉神社〔廿一日〕西成區津守社〔廿二日〕東區坐摩神社〔廿三日〕浪速區廣田神社、西淀川區香具波神社、東淀川區大綱神社〔廿五日〕天王寺區安井神社、東淀川區春日神社、同區天滿宮、西成區生根神社
五 月
〔一日〕東淀川區蒲田神社〔初卯日〕住吉區住吉神社〔十八日〕東淀川區中島神社〔廿二日〕住吉區阿部野神社〔廿三日〕東淀川區津津神社
六 月
〔舊五月五日〕東區難波神社〔五日〕東成區八坂神社〔七日〕東淀川區富島神社〔八日〕東區鶴森宮〔十四日〕住吉區住吉神社〔十五日〕南區御津宮〔十七日〕東淀川區大宮〔廿五日〕同區天滿宮、住吉區櫻原神社〔三十日〕住吉區住吉神社
七 月
〔一日〕東區三光神社
〔三日〕西淀川區櫻宮住吉神社、東成區白山神社
〔廿日〕北區堀川神社、廿三日、東區少彥名神社
〔八日〕東淀川區大宮
〔十六日〕同區天滿宮

家八坂神社、浪速區敷津松之宮神社、西淀川區住吉神社、同區田邊神社、同區鴛宮、同區大野住吉神社、東淀川區富島神社、東成區白山神社、同區八坂神社、同區稻荷神社、同區八王子神社、同區素盞鳴尊神社、同區熊野大神宮、住吉區住吉神社、同區枕全神社、同區高津宮、西淀川區八坂神社、同區素盞鳴尊神社、同區大仁八坂神社、同區真川神社、東淀川區八幡大神宮、住吉區阿部野神社
〔十九日〕天王寺區河堀稻生神社
〔廿日〕北區十五社、此花區住吉神社、天王寺區安井神社、旭區須佐之男尊神社、同區水神社
〔廿一日〕北區櫻宮、此花區天滿宮上之社、同中之社、東區難波神社、港區三津神社、旭區若宮八幡大神宮、住吉區神須牟地神社、西成區津守神社
〔廿二日〕東區坐摩神社、東淀川區大宮、旭區阿遲速雄神社、旭區皇大神宮、同區八幡神社、浪速區廣田神社、同區比賣許曾神社
〔廿三日〕港區茨住吉神社、浪速區廣田神社、西淀川區香具波神社、東淀川區大綱神社、同區神津神社、旭區八幡大神宮、旭區諏訪神社
〔廿四日〕北區網敷天神社、港區住吉神社、東淀川區蒲田神社
〔廿五日〕北區天滿宮、此花區天神社、港區天滿宮、東淀川區春日神社、同區天滿宮、旭區大宮神社、住吉區生根神社、同區天滿宮
〔廿六日〕北區天神社、西淀川區五社神社
〔廿七日〕東淀川區中島神社
〔廿八日〕旭區日吉神社
十一 月
〔一日〕東區三光神社
〔三日〕西淀川區櫻宮住吉神社、東成區白山神社
〔廿日〕北區堀川神社、廿三日、東區少彥名神社
十二 月
〔八日〕東淀川區大宮
〔十六日〕同區天滿宮

社寺・教會——神社祭日便覽

四六一

〔三日〕西區稻荷神社〔八日〕東成區田島神社、旭區八坂神社、住吉區止呂支比賣命神社〔九日〕天王寺區生國魂神社、旭區阿遲速雄神社、住吉區生根神社〔九日〕住吉區枕全神社〔十日〕旭區日吉神社〔十一日〕住吉區山阪神社〔十二日〕西區稻荷神社、天王寺區高津宮、住吉區大依羅神社、東淀川區富島神社、住吉區住吉神社、同區素盞鳴尊神社、同區中井神社〔十五日〕北區網敷天神社、天王寺區堀越神社、同區彌樂神社、同區比賣許曾神社、旭區諏訪神社〔十七日〕東區御靈神社、大正區八坂神社、同區神明神社、浪速區敷津松之宮神社、東成區素盞鳴尊神社、同區熊野大神宮、住吉區高崎神社、同區高砂神社〔十八日〕北區豐國神社、北區天神社、港區住吉神社、南區高津宮、西淀川區海老江八坂神社、同區素盞鳴尊神社、同區大仁八坂神社、東淀川區八幡大神宮、住吉區保利神社〔十九日〕天王寺區河堀稻生神社〔廿日〕北區露天神社、北區十五社、此花區惠美須神社、同區住吉神社、西淀川區姫島神社、旭區大宮神社、旭區須佐之男尊神社〔廿一日〕此花區產土神社、東區難波神社、港區三津神社、旭區若宮八幡大神宮、住吉區神須牟地神社、西成區生根神社〔廿二日〕東區坐摩神社、東區三光神社〔廿三日〕港區茨住吉神社、浪速區廣田神社〔廿四日〕北區天滿宮、港區住吉神社、西淀川區天滿宮、此花區天滿宮上之社、同中之社、此花區天滿宮中之社、港區天滿宮

大阪の佛教界

古くは佛法傳來の當初、物部守屋が佛像を難波の堀江に投じてより、聖德太子の四天王寺御建立となり、降つて戰國時代末期石山合戦に到るまで佛緣洵に深厚の地であつたのであるが、徳川時代に入つて佛教庇護の政策に狎れて佛徒は深い眠りに陥つたのである。それが維新の排佛毀釋の大鐵槌に驚覺せられて明治時代の佛教となり諸制は世の推移につれて改革されて來たのであるが歐洲大戰以後社會狀勢の變革に伴ひ、諸種の社會運動の勃興となり、是等の運動中には唯物史觀的思想に影響せらるゝものも尠ならず、一時は反宗教運動の嵐の中に難航をつゞけたのであるが、最近宗教復興の波に乗じたるかに見えたのである然し之も策の間徒らに新興類似宗教の花々しき活躍にも似ず、纔かに昭和九年度に吾國に行はれたる第三回況太平佛教青年大會並に本年四月中央公會堂に開催されたる全國佛教青年大會を名残りとして、少くとも外形的には四天王寺の塔の倒れたる程の印象も世人に留めずして再びもとの沈衰期に入らんとするかに見える。だが、明治時代は兎に角として、大正時代の社會運動勃興期には、佛教徒社會事業も勃興し直接僧徒の經營になるものとしては各宗聯合の釋放者保護事業の大阪佛教和衷會を初めとして、淨土宗のセツツルメント、眞宗の少年保護事業、四天王寺の療病施設等、その他個人經營の社會事業も尠ならず。殊に最近の新興宗教が、その教育内容は兎も角も大衆性を把握せる點に鑑み、佛教徒も統制ある運動として各宗に青年團處女會等の組織せらるゝもの多し。斯くの如く一見沈靜せるが如く見ゆる佛教界も内部を仔細に檢すれば、それぞれ時代の流れに添へるを見るも概括して云へばその運動も極めて緩漫なりと云はざるを得ない。

(樋口)



(前災震) 塔の寺王天四

寺院一覽

北區		此花區		東區	
眞言宗	太融寺	眞言宗	本成寺	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	寶珠院	眞言宗	夕願寺	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	東寺町	眞言宗	善通寺	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	國分寺	眞言宗	野崎町	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	不動寺	眞言宗	兎我野町	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	萬善寺	眞言宗	天満橋筋六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	本要寺	眞言宗	玉江町一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	野崎町	眞言宗	上福島中一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	兎我野町	眞言宗	上福島中二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	浄土宗	眞言宗	上福島中三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	宗金寺	眞言宗	上福島北一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島北二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島北三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	自香寺	眞言宗	上福島南一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南二十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南二十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南二十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南二十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南二十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南二十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南三十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南三十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南三十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南三十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南三十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南三十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南四十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南四十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南四十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南四十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南四十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南四十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南五十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南五十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南五十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南五十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南五十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南五十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南六十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南六十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南六十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南六十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南六十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南六十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南七十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南七十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南七十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南七十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南七十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南七十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南八十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南八十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南八十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南八十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南八十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南八十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南九十	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九十一	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南九十二	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九十三	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南九十四	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九十五	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南九十六	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九十七	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南九十八	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	西念寺	眞言宗	上福島南九十九	眞言宗	寶泉寺
眞言宗	龍興寺	眞言宗	上福島南一百	眞言宗	寶泉寺

社寺・教會——寺院一覽

Table of temples and churches, organized by region (e.g., 浄土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗, 淨土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗, 淨土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗). Includes columns for temple names and locations.

社寺・教會——寺院一覽

Table of temples and churches, organized by region (e.g., 浄土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗, 淨土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗, 淨土宗, 真言宗, 天台宗, 臨濟宗, 曹洞宗, 日蓮宗, 法華宗). Includes columns for temple names and locations.

社寺・教會——寺院一覽——寺院及住職——教會及教師

Table listing various temples and their resident monks, including names like 寶泉寺, 法明寺, 喜連寺, etc., and their locations.

四六八

寺院及住職

Table listing temples and their resident monks, including names like 天臺宗, 臨濟宗, 曹洞宗, etc., and their locations.

神道教會及教師

Table listing Shinto churches and their teachers, including names like 神道派, 天理教, etc., and their locations.

社寺・教會——教會及教師——信徒數——基督教會宗派別所在地

佛道信徒數

Table listing Buddhist and Daoist churches and their members, including names like 金光教, 扶桑教, etc., and their locations.

基督教會宗派別所在地

Table listing Christian churches and their members, including names like 眞言宗醍醐派, 天臺宗, etc., and their locations.

四六九

社寺・教會——基督教會宗派別所在地

日本聖公會 聖約翰教會 南新町二丁目
神愛教會 神愛教會 小橋元町
日本メソヂスト 大阪支部教會 谷町三丁目
ハリストス 大阪支正教會堂 石町一丁目

救世軍 救世軍西野田小隊 西野田茶園町
救世軍 救世軍上福島小隊 上福島北二丁目
同 西九條浸禮教會 西九條
浸禮教會 西九條浸禮教會 西九條

旭區
天主教日本二十六聖致命教會 野江町三丁目
神愛教會 神愛教會 大宮町八丁目
瀨速區
救世軍 救世軍瀨速小隊 鹽草町

福音派 泉尾福音教會 泉尾町

日本聖公會 聖救主教會 大道三丁目
同 城南聖公會 東上町
浸禮教會 基督教浸禮講義所 六萬石町
福音派 日本福音ルーテル 鳥ヶ辻町

天王寺區

天主教會 田邊天主教會 南田邊町
日本メソヂスト 大阪田邊メソヂスト教會 田邊本町六丁目
日本福音派 天下茶屋教會 天神ノ森一丁目

西成區

日本同仁 大阪基督同仁教會 田邊東之町
天主教 田邊天主教會 南田邊町
無所 屬 墨江基督教會 濱口町

社寺・教會——宗教別基督教會堂及宣布者

天主教會 聖ヨゼフ教會 中津本通一丁目
救世軍 救世軍長柄小隊 天神橋筋八丁目

東淀川區
天主教會 聖ヨゼフ教會 中津本通一丁目
救世軍 救世軍長柄小隊 天神橋筋八丁目

Table with 4 columns: 教派名, 教會堂, 內國人宣布者, 外國人宣布者. Lists various denominations and their respective church buildings and preachers.

東洋宣教會	二	二	二	二	二
基督傳道隊	三	三	三	三	三
基督同信會	一	一	一	一	一
純福音神愛派	一	一	一	一	一
福音主義基督教	三	三	三	三	三
日本ペンテコステ	二	二	二	二	二
在日本朝鮮耶穌教	二	二	二	二	二
日本ナザレン教會	一	一	一	一	一
バプテスト派	一	一	一	一	一
計	五	六	三	三	三
昭和八年末	九	九	三	三	三
同 七年末	八	八	四	四	四

何を物語るか！
類似宗教の氾濫時代

過般の大本教大檢舉は各方面に異常なセンセーションを興へたが、近年における類似宗教の氾濫はまづたく驚くべきものがある。従来この種の「淫祠邪教」の影響範囲は、批判力の乏しい無智な層に限られてきたが、最近は大專専門程度程度の教養を有するインテリの上層から、職業的にも軍人、教員、官吏、會社員等のサラリーマン層を風靡し、中小商工階級を席捲して、全社會のほとんどあらゆる層に及んでゐる。

國とは謂へ、一週間に一つの割合で新宗教が生れるとは、まづたく驚嘆に値する事實である。歴史的に觀れば、日本では古く親鸞、日蓮などの出た頃、近くは明治維新前後が「淫祠邪教」のもつとも氾濫した時代である。明治廿七年に出版された伊藤洋二郎の「淫祠十一教會」といふ書物によると運門、天理、天輪、御嶽、金光、大占、神習、黒住、富士、禊等の各教を「淫祠」としてゐるが、今ではその多くは「神道十三派」の中に包含され獨立して公認宗教となつてゐる。その後大正十五年六月社會教育協會の調査によると、類似宗教は總額九十八團體、これを次の三種に大別してゐる。神道に類するもの四五、佛敎に類するもの二九、基督教に類するもの四。更に五年後の昭和五年文部省宗教局の調査によると、總額において一躍四百十六といふ驚くべき増加ぶりである。先の調査の約五倍で、一年間に百近くづつ殖えたこととなるが、實際は先の調査よりも次の調査の方がより精密であつた結果であると思はれる。ともあれ文部省の調査によつて類似宗教の特に多い府縣を挙げれば、△東京七五 △北海道七〇 △鳥取二八 △和歌山二七 △京都一八 △大阪一六 △静岡一四 △岡山一二 △宮城一一 △茨城一〇 △山形七 △埼玉七

ひとのみちの進出

大阪に於ける類似宗教の中で近年特に驚異的な進出振りをみせてゐるのは、市外布施町に本部を

有する「ひとのみち」である。教祖御木徳一氏はもと禪宗黃蘗派の僧侶であつたが轉落して郵便配達夫をしてゐるうち御嶽教徳光教會の後をつぎ、獨立して「ひとのみち」と名乗つたのが昭和六年三月、それ以來僅か四年足らずの間に全國に百卅四の支部と六十萬の信者を獲得したといふからその勢力の侮り難いものがある。而もその信者の大部分はインテリ層に屬する點で、他の類似宗教と趣を異にしてゐる。

ひとのみち電車

尚「ひとのみち」では「朝詣り」といつて全信徒が毎朝早く各支部に集ることになつてゐるが、京都では市電氣局がその爲に各車庫から出る初發電車を十分早くしたといふので、「ひとのみち」電車と呼ばれ、又東京では自動車運轉手の間に、「朝はひとのみち、夜は玉の井」のスローガンを生じて、これまで圓タク業者にとつて拂曉の稼ぎ場はほとんど魚河岸に限られてゐたのが、渋谷に「ひとのみち」支部が出来て以來、これが夜の玉の井に匹敵する重要な稼ぎ場になつたと云ふのであるがこれらの事情は何れも「ひとのみち」の隆昌を物語る好個の適例に外ならない。

疊敷による同教發展の跡

更にこの宗教の驚異的發展の跡を本部の疊敷によつて辿つてみると甚だ興味がある。
大正十四年大阪市阿倍野の借家で初めて布教に従事した頃
神床前坂間 四疊敷

神前坂間

十二疊敷

昭和三年納付金の問題で御嶽教から別れて扶桑教に籍を移した頃

神床前坂間

十五疊敷

それが昭和九年十月に落成した假本殿になると
神床前坂間 百疊敷

神前坂間 (廻廊は別)

千八疊敷

この工費百萬圓だが、近々上本町六丁目から大軌電車で廿五分の某地に三百萬坪を購入して、更に大きな「假本殿」建築の計畫中であるといふ。常に「假」といふ字をつけて絶えず信者から金を集めては、次々に新しい工事を起すことが宗教經營の秘訣とされてゐる。その爲に信者に三つの階級を設けて獻金競争を煽つてゐるのであるが、信者にはつきり階級を設けたのもこの宗教の特異性である。

信者の三階級

まづ信徒、それから准信徒、教徒の順になつてゐるが、最初の入會費は雜誌「ひとのみち」一ヶ月分一圓、教典、信徒手帳、信徒マーク、寶生箱(獻金を入れて毎月支部へ提出する箱)、門標等を合せて一圓、計二圓である。その上の準信徒になるには、おみたま料卅圓、玉串料五圓、お宮代五圓計四十圓のほかに昇格祝ひのお祭費を負担しなければならぬ。

次に階級によつてどういふ特典の相違があるかといふと、この宗教では病氣その他の災厄は「神示」で、それについて教祖から「神宣」をいだだ

ひとのみち神宣の一例

さてその「神宣」の内容たるや甚だユウモラスなものがある。何處かに腫物が出来たとすると、神様が仰せられるには、「ブツブツいばぬやう」といつた調子の「なぞ／＼式」のもので、喘息や風邪には「急ぎ(せき)心を出さな、肺病には「人を嫌がるな」(ハイセキするな)これなどはいくらかこみ入つた方であるが、いんきんにかゝつて「無暗に金をほしがらな」その心は(金にインするな)等の愉快な傑作がある。尤も「ひとのみち」では「そのころ」に當る部分は決して信者に明かさない。またこれらの御神宣を信者相互の間で見せ合ふことを嚴禁してゐる。

ひとのみち幹部

「ひとのみち」はインテリの類似宗教といはれるだけあつてその幹部に文學やジャーナリズム關係

の出身者が多數を占めてゐる。教祖御木徳一氏は一時地方新聞の記者をした経験を持つてゐる。なほ過般小説家加藤武雄、三角寛、國枝史郎氏などを中心に、「ひとのみち文藝聯盟」が組織され、特に三角寛氏の如きは同教發行の新聞雜誌に悉く執筆してゐる。更に内部の人をあげれば、「准教祖」の一人で、宣傳パンフレットを書いたり、宣傳映畫の原作監督をしたりして、大いに奮闘してゐる湯淺眞生は、元「文藝戦線」などに關係のあつた、プロ作家である。同じく「准教祖」で、文士相手の座談會等に出席して、近代文學に玄人以上の理解をもつといはれてゐる橋本郷見も、やはり元は文學青年で、「文章俱樂部」の投書家であつたといふ。更に有名な札幌農大の寮歌「ゆたかにみられる石狩り」の作曲者赤木顯次は現在やはり「准教祖」の一人である。

かやうにこの種の宗教に、相當文化的訓練を経たインテリが入つてゐるといふことは、彼等がこれを信仰してゐると否とに拘らず、より低い、より批判力の乏しい大衆をひきつける上に重要なマネキンの役割を演じてゐることは事實であらう。

(本項編纂中(九月廿八日)大阪朝日新聞紙上に、「ひとのみち教團」の初代教祖引退す、の記事が掲載された。その報ずるところによれば、同教團の初代教祖御木徳一氏(六十七年)は最近「副祖の心境全く成れり」として突如引退を決議し副祖御木徳近氏(三十七年)が二代教祖を繼承することとなつたが、二十七日午前九時から市外布施町の同教團本部で二代教祖奉告祭が執行された。とあり、更に翌廿九日「ひとのみち」教團大檢舉を報ずる號外の鈴の音が全市に響き沙つた。

市 長 問 題 號
大 阪 と 美 術 號
都 市 綠 化 號
俸 給 生 活 問 題 號
市 域 擴 張 十 周 年 號
故 關 市 長 追 悼 號
地 下 鐵 號
特 別 市 制 問 題 號
大 阪 都 市 計 畫 號
都 市 交 通 問 題 號
都 市 娛 樂 問 題 號
空 中 淨 化 運 動 號
電 燈 市 營 十 周 年 號
大 大 阪 復 興 號

四七四

大大阪特輯號一覽

大阪市役所内〔定價五十錢〕
大阪都市協會發行

新聞圖書雜誌

新聞

大阪における新聞は、慶應年代に江戸、横濱、京都、大阪、長崎等で維新の紛亂を報道論評する帳面綴の新聞が發行された時、慶應四年閏四月十七日大阪知新館で發行された週刊新聞「内外新聞」および大阪居留地ハルトリー社 (John. Hartley) から發行された「各國新聞紙」が始めである。その後明治五年三月、「大阪新聞」が創刊された。これは書籍會社が發行元で、隔日刊行であつたが八年四月廢刊した。しかし時勢は日刊新聞創設の必要を促したので同年十一月中旬、宇田川文海等が發起人となり、東京の讀賣新聞に模した「浪花新聞」の創刊に着手し、十二月に第一號を刊行した。その後間もなく



明治九年二月二十日には「大阪日報」が發刊されたが、社長平野萬里と社主西川市との間に確執を生じ、平野は新たに「大阪新報」と題する新聞を發行した。恰も西南戦争で新聞社の經營や順調だつたので、營利本位の新聞が雨後の筍の如く現はれ、十年五月には「大阪繪入新聞」、同年七月には「浪花實生新聞」、同年八月には二回目の「大阪新聞」、十一月には「大阪丁稚新聞」などが發行された。しかし戦争の餘焰収まると共に讀者も減少し、十一年三月「大阪新聞」は「大阪日報」に合併し、「丁稚新聞」は僅に餘命を保つに過ぎず、他の小新聞は悉く廢刊した。「浪花新聞」も亦十一年末には遂に廢刊し、只ひとり「大阪日報」が讀者を吸収してゐた。この時さらに創刊されたのが「朝日新聞」であつた。即ち十二年一月廿五日である。「丁稚新

聞」はこの時「大阪繪入新聞」と改題し、對抗したが經營困難でつひに八月廢刊、「大阪新聞」亦不振で同月限り廢刊した。かくて「朝日新聞」は益々盛ならんとしたが、編輯主幹津田貞は創立者木邨騰と衝突し、十三年「朝日新聞」壓倒の目的で「魁新聞」と題する繪入小新聞を創刊した。こゝにおいて各新聞は對抗、鎗を創つたが「魁新聞」は十四年八月廢刊の己むなきに至つた。然るにこの年伊藤博文、大隈重信兩人の國會開設期に關する意見の衝突は大隈の退官、國會開設の詔勅となつて時局は急轉直下し、板垣を中心とする民権運動者は機に乗じて自由黨を組織し、大隈と共に政府を去つた福澤の門下及びその一派は改進黨を組織した。京阪神の新聞もこの影響を蒙り、「大阪新報」は改進黨を標榜し、「大阪日報」は自由黨の別派立憲政黨に買収され、十五年二月一日「大阪日報」を廢刊し、新たに「日本立憲政黨新聞」を創刊した。そこで政府はこれ等に對して官權派の新聞を大阪に起さんと、十五年四月四日「大東日報」を創刊した。また十四年大阪で發行された「畿

内新報」は十五年三月「此花新聞」と改題し、官権新聞となつた。その後十七年に至つて「大阪新報」廢刊され、「大東日報」も十八年五月廢刊、「立憲

社聞新日朝阪大(上)



社聞新日每阪大(下)

政黨新聞」は十八年九月「大阪日報」と改題した。然るに「大阪日報」はその後振はず、種々の経緯があつて二十一年十一月「大阪毎日新聞」と改題した。しかし「大阪毎日新聞」はいはゞ實業家の機關新聞だつたので、一方政治新聞の誕生を促し、「東雲新聞」、「大阪公論」、「關西日報」、「鷄鳴新報」などが二十一年から二十三年に亘つて創刊された。然るにこれ等の政治新聞は發行後三四年でいづれも慶刊の運命に遭遇し、只「大阪朝日新聞」と「大阪毎日新聞」のみがその間に讀者を増し基礎を固めて行つた。その後明治三十二年十月「大阪商業新報」を改題して「大阪新報」が生れ、同三十八年には東京時事新報の分身として「大阪時事新報」および「大阪日報」、四十二年には「大阪毎夕新聞」、四十三年には「大阪朝報」、四十四年には「帝國新聞」、「日出新聞」(のち「大阪萬朝報」と改稱)が生れ、大正に入つては元年に「大阪日々新聞」、同八年に「大正日々新聞」同九年に「大阪商業新報」、同十二年に「大阪今日新聞」が生れ、「大阪時事新報」も東京本社より分離して獨立の一

新聞となつた。この外「關西日報」、「大阪新日報」、「日刊工業新聞」等がある。

大阪市内に本社を有する新聞社

- 〔大阪朝日新聞社〕 北區中之島三丁目
- △創刊、明治十二年一月二十五日
- 〔大阪毎日新聞社〕 北區堂島上二丁目
- △創刊、明治十五年二月一日
- 〔夕刊大阪新聞社〕 北區堂島濱通四丁目
- △創刊、大正十一年七月九日
- 〔大阪時事新報社〕 北區曾根崎上四丁目
- △創刊、明治廿八年三月
- 〔大阪日々新聞社〕 東區北濱四丁目
- △創刊、明治四十四年四月
- 〔關西日報社〕 東區北濱四丁目
- △創刊、大正三年十一月
- 〔大阪經濟新聞社〕 東區北濱一丁目
- 二△創刊、明治十五年三月
- 〔日刊工業新聞社〕 北區中之島五
- △創刊、大正四年十一月三十日
- 〔大阪中外商業新報社〕 東區北濱二丁目
- △創刊、大正十三年十二月一日
- 〔大阪新日報社〕 此花區上福島南一丁目
- △創刊、大正二年八月一日
- 〔大阪毎夕新聞社〕 北區堂島中一丁目

- △創刊、明治四十二年一月四日
- 〔中央市場新聞社〕 大阪中央卸賣市場内
- △創刊、大正十五年二月十五日
- 〔每朝新聞社〕 此花區上福島北一丁目
- △創刊、明治四十二年
- 〔大阪今日新聞社〕 天王寺區東上町三
- 九△創刊、大正十二年二月十一日
- 〔大大阪市新聞社〕 港區繁榮二ノ一
- 二△創刊、大正十五年五月
- 〔關西中央新聞社〕 西區京町堀上通一丁目
- △創刊、大正十五年十一月三日
- 〔日本工業新聞社〕 北區堂島濱通四丁目
- △創刊、昭和八年六月二十日
- 〔大阪萬朝報社〕 北區堂島大江橋畔
- △創刊、明治四十四年十一月廿三日
- 〔夕刊帝國日々新聞社〕 北區堂島大江橋畔
- △創刊、昭和七年三月
- 〔大阪朝報社〕 西區北堀江上通一丁目
- △創刊、明治四十三年十一月
- 〔日刊粧業新聞社〕 西區立賣堀通二丁目
- △創刊、大正十二年七月十五日
- 〔日本織物新聞社〕 西區阿波座中通一丁目
- △創刊、明治卅九年三月
- 〔大阪日報社〕 天王寺區細工谷町一〇
- 九△創刊、大正五年九月一日
- 〔大大阪市日報社〕 此花區上福島

大阪市内に支局を有する地方新聞

- △創刊、大正八年一月
- 〔大阪夕刊新聞社〕 東區北濱三丁目
- △創刊、昭和七年十月
- 〔大阪商業新報社〕 北區空心町
- △創刊、大正十一年十一月三日
- 〔昭和日々新聞社〕 東區北濱二丁目
- △創刊、昭和二年二月
- 〔大阪都新聞社〕 天王寺區上宮町一
- △創刊、昭和二年三月
- 〔大正日々新聞社〕 東區北濱四丁目六
- △創刊、大正八年十一月
- 〔大衆日々新聞社〕 北區太融寺町一二
- 一△創刊、大正十三年
- 〔大阪土曜夕刊新聞社〕 西區阿波堀通一丁目五〇
- △創刊、大正十四年二月
- 〔京都日々新聞〕 東區安土町三丁目八
- 〔滿洲日報〕 〔民聲曉報〕 北區曾根崎上三ノ二
- 〔中國民新〕 北區堂島船大工町五〇
- 〔名古屋新聞〕 東區伏見町四ノ五
- 〔劍路新聞〕 〔弘前新聞〕 住吉區山阪町二ノ十七
- 〔因伯時報〕 東區川區十三東ノ町一ノ五
- 〔關門日々新聞〕 北區堂島上通三丁目四〇
- 〔東海日々新聞〕 〔北九州新報〕 東區川區豐崎西通一ノ七
- 〔新愛知〕 北區堂島中一丁目

- 〔名古屋毎日新聞〕 東區區生野田島町一三八
- 〔上州新報〕 北區堂島中町一ノ三一
- 〔長野新聞〕 東區川區十三東之町三ノ一二
- 〔九州日報〕 西區柳南通二丁目 ユタカビル内
- 〔平壤毎日新聞〕 〔朝鮮時報〕 〔神戸又新〕 北區曾根崎中一ノ三六
- 〔東洋民報〕 〔岐阜新聞〕 〔宇都日報〕 〔沼津毎日新聞〕 〔三重日日新聞〕 〔朝鮮中央新聞〕 北區東梅田町九
- 〔やまと新聞〕 〔橫濱新報〕 〔山陰新聞〕 北區葉村町六五
- 〔福島民報〕 北區老松町二ノ二〇
- 〔名古屋日日新聞〕 東區今橋五丁目 萬成ビル内
- 〔大和毎日新聞〕 東區平野町五ノ四
- 〔京都日日新聞〕 西區京町堀上通一丁目 彌生ビル
- 〔福島民報〕 〔大分日日新聞〕 〔武相新報〕 北區曾根崎上四丁目三九
- 〔中國民報〕 北區曾根崎上四丁目一五
- 〔岡島日報〕 西區京町堀通一ノ四五
- 〔岡山日日新聞〕 〔神戸日日新聞〕 〔山梨毎日新聞〕 〔山陰毎日新聞〕 〔三重縣民新聞〕 〔名古屋毎日新聞〕 〔神戸日日新聞〕 〔岡山毎日新聞〕 東區區片江町三三ノ六
- 〔東京日日新聞〕 北區堂島 大阪毎日新聞社内
- 〔東京朝日新聞〕 北區中之島 大阪朝日新聞社内
- 〔報知新聞〕 東區高麗橋五丁目
- 〔時事新報〕 東區伏見町四丁目七
- 〔讀賣新聞〕 東區伏見町五ノ二
- 〔國民新聞〕 北區堂島中一ノ三一
- 〔やまと新聞〕 北區葉村町六五
- 〔都新聞〕 北區梅ヶ枝町八九
- 〔萬朝報〕 北區堂島上三丁目三

- 〔中外商業新報〕 東區北濱一ノ十九
- 〔二六新報〕 北區曾根崎中二丁目三四
- 〔東京毎日新聞〕 北區梅田新道 太平ビル内
- 〔中央新聞〕 北區堂島北町三六
- 〔東京夕刊新報〕 北區澤上江町五ノ四四
- 〔くらだい新聞〕 住吉區南田邊町三三四
- 〔大勢新聞〕 北區東野田町九ノ一四
- 〔帝國新報〕 北區曾根崎中二丁目三三
- 〔帝都日日新聞〕 東區北濱二丁目 北濱ビル内
- 〔夕刊帝國新聞〕 東區川島十三東之町一丁目
- 〔ジャパン・アドヴァンタイザー〕 北區堂島船大工町二八
- 〔婦人毎日新聞〕 北區堂島濱通一ノ二二
- 〔ジャパン・タイムズ〕 北區堂島 堂島ビル内
- 〔高知新聞〕 〔土曜新聞〕 〔仙臺日日新聞〕 〔信濃日日新聞〕 〔新潟新聞〕 西區京町堀上通三ノ二二
- 〔臺灣日日新報〕 西區南通二丁目 ユタカビル二階
- 〔奈良新聞〕 〔岡山新聞〕 北區北扇町七八
- 〔琉球新報〕 〔函館日日新聞〕 北區堂島中一ノ三九
- 〔伊勢新聞〕 東區清水谷西之町三六三ノ二
- 〔營商日報〕 〔錦州新報〕 〔ハルビン新聞〕 旭區生江町八〇
- 〔臺灣新聞〕 〔吳公論〕 〔勢州毎日〕 北區堂島濱通一ノ二二
- 〔信濃時事新聞〕 〔九州報知新聞〕 〔信陽新聞〕 北區堂島濱通一丁目九六
- 〔愛知新聞〕 〔夕刊清松新聞〕 〔佐賀新聞〕 〔紀北日日新聞〕 〔宗谷新報〕 〔九州時事新報〕 北區堂島北町三六
- 〔室蘭毎日新聞〕 〔室蘭新聞〕 〔根室新聞〕 〔釧路日報〕 〔樺太中央新聞〕 〔樺太新聞〕 〔真岡毎日新聞〕

- 〔樺太西海新聞〕 〔酒田新聞〕 〔柏崎日報〕 〔ナスブチ新聞〕 〔公報〕 天王寺區笹ヶ崎町一七
- 〔朝鮮中央日報〕 西區朝北通三丁目二六
- 〔名古屋日報〕 西區區姫松通二丁目一〇
- 〔毎日中報〕 北區堂島上一丁目二七
- 〔函館民報〕 〔佐渡毎日新聞〕 〔駿豆新報〕 東區川島十三西之町三ノ二二
- 〔朝鮮新聞〕 北區道本町四〇
- 〔東洋日の出新聞〕 〔中信毎日新聞〕 〔長岡日報〕 〔西海毎日新聞〕 〔福岡朝報新聞〕 〔夕刊よねさは新聞〕 天王寺區上本町七丁目六六
- 〔越後新報〕 〔青森日報〕 〔淡路新聞〕 〔廣島日日新聞〕 〔帝國今夕新聞〕 東區川島十三東之町一ノ一五九
- 〔樺太敷香時報〕 〔樺太北進新聞〕 〔旭川毎日新聞〕 〔旭川日日新聞〕 〔小樽毎日新聞〕 〔山形民報〕 〔群馬新聞〕 〔東海新報〕 〔會津新聞〕 〔房總日日新聞〕 〔北信毎日新聞〕 〔庄内新報〕 〔茨木日報〕 〔紀伊朝日新聞〕 〔佐渡日報〕 〔横濱經濟日報〕 〔九州民報〕 〔兩毛織物新聞〕 〔横須賀日日新聞〕 〔島原毎日新聞〕 〔二六新報〕 〔北洋日日新聞〕 〔國境毎日新聞〕 北區曾根崎中二ノ三四
- 〔新潟毎日新聞〕 〔函館毎日新聞〕 北區高垣町一六
- 〔日刊山形新聞〕 〔山梨民友新聞〕 〔愛媛新報〕 〔大牟田毎日新聞〕 〔備後時事新報〕 〔秋田旭新聞〕 〔東海朝日新聞〕 此花區上福島北四ノ四六
- 〔四國民報〕 北區梅田新道 太平ビル内
- 〔群山日報〕 〔日布時事新報〕 〔秋田毎日新聞〕 〔マシナチュア・デリー・ニュース〕 北區曾根崎中二丁目二四
- 〔青島新報〕 〔樺太日日新聞〕 〔大同報知新聞〕 〔關東報知〕 〔上海日報〕 〔天津日報〕 〔大北新報〕 〔北

- 滿洲日報〕 北區堂島濱通一丁目四四 滿洲國通信社大阪支社内
- 〔江州日日新聞〕 〔南洋日日新聞〕 〔爪哇日報〕 北區萬歲町(松下事務所)
- 〔いはらき新聞〕 北區堂島中一丁目二五
- 〔大和日報〕 〔飛騨毎日新聞〕 〔美濃大正新聞〕 〔北郡毎日新聞〕 東區區白山町二丁目三十一
- 〔郡山新聞〕 〔公州時事新報〕 〔東華日日新聞〕 〔八戸毎日新聞〕 旭區生江町八七
- 〔北國新聞〕 〔越中新聞〕 北區中ノ島二ノ二二
- 〔北陸日日新聞〕 〔大分新聞〕 〔木浦新報〕 北區曾根崎中二丁目三四
- 〔門司新報〕 北區堂島中一丁目三九
- 〔朝鮮民報〕 北區曾根崎中二ノ三四
- 〔山陰日日新聞〕 北區堂島濱通一ノ二二
- 〔南豫時事新報〕 〔富山タイムズ〕 〔關門報知新聞〕 北區萬歲町(松下事務所)
- 〔臺南新報〕 西區江戶堀南通一丁目一九
- 〔松陽新報〕 〔山陽新報〕 〔鹿兒島新聞〕 〔九州日日新聞〕 北區堂島濱通一ノ二二
- 〔高知日日新聞〕 東區本町一ノ二七
- 〔高岡新聞〕 北區堂島中一ノ三一
- 〔海南新聞〕 北區茶屋町三三
- 〔伊豫新報〕 〔濱松新聞〕 〔北洋時事新報〕 〔佐賀毎日新聞〕 〔全北日報〕 東區川島十三東ノ町一ノ一三五
- 〔函館新聞〕 〔藝備日日新聞〕 北區堂島濱通一ノ二二
- 〔福井新聞〕 北區神山町一番地
- 〔上海日報〕 〔鴨江日報〕 〔北滿洲日報〕 北區堂島濱通一丁目四四 國道大阪支局内
- 〔神戸新聞〕 〔南信日日新聞〕 北區曾根崎上四丁目 大阪時事新報内

- 〔九州朝日新聞〕 〔上毛日日新聞〕 〔高岡毎日新聞〕 〔四日市商業新聞〕 〔熊野太陽新聞〕 〔惠須取新聞〕 旭區赤川町四丁目一四
- 〔兩羽朝日新聞〕 〔筑豊新聞〕 〔南群日報〕 〔釜山日報〕 〔富山日報〕 〔西群日報〕 〔宮崎新聞〕 北區萬歲町四二
- 〔吳日日新聞〕 〔大分日報〕 東區今橋五丁目 萬成ビル二階
- 〔長崎日日新聞〕 〔日州新聞〕 〔臺灣新報〕 〔東北産業新聞〕 〔島原新聞〕 〔宮崎新聞〕 北區萬歲町四二
- 〔下野新聞〕 北區曾根崎上四ノ五〇
- 〔北越新報〕 東區今橋五丁目 萬成ビル二階
- 〔鹿兒島朝日新聞〕 北區堂島北町一七
- 〔小樽新聞〕 西區京町堀一丁目 京ビル三階
- 〔靜岡民友新聞〕 北區小深町二五
- 〔福岡日日新聞〕 北區堂島 堂島ビル二一四號
- 〔和泉日日新聞〕 天王寺區阿部野筋五丁目
- 〔徳島日日新聞〕 北區堂島北町三六
- 〔豊州新報〕 北區高垣町一六
- 〔和歌山日日新聞〕 〔木浦新報〕 〔光州日報〕 北區曾根崎中五丁目三四
- 〔宇都日日新聞〕 〔丹波毎日新聞〕 北區中之島 北國新聞内
- 〔徳島毎日新聞〕 北區曾根崎上二丁目三二
- 〔新潟民報〕 〔新潟朝日新聞〕 北區船大工町三六
- 〔九州新聞〕 〔防長新聞〕 〔鳥取新聞〕 〔金澤新聞〕 〔北陸タイムズ〕 〔北陸日日新聞〕 〔岩手日日新聞〕 〔北門新聞〕 〔崎陽日報〕 天王寺區區人町五三
- 〔九州毎日新聞〕 〔樺太日報〕 〔十勝新聞〕 〔南海日日新聞〕 東區川島濱通一ノ七
- 〔朝鮮毎日新聞〕 北區堂島濱通一ノ八三
- 〔北海タイムズ〕 北區中ノ島三、アサヒビル四一

- 〔高田日報〕 〔南信新聞〕 北區東野田町三ノ二九
- 〔長崎民友新聞〕 〔關門毎夕新聞〕 〔小倉新報〕 〔熊本日日新聞〕 〔佐世保民友新聞〕 〔唐津日日新聞〕 東區仁右衛門町五三
- 〔遠州新聞〕 〔伊豆報知新聞〕 〔北國毎日新聞〕 北區葉村町五八 徳島日日新聞通信部内
- 〔朝鮮日報〕 西區京町堀上通三ノ三五
- 〔岐阜日日新聞〕 北區中ノ島四、中ノ島ビル別館
- 〔軍港新聞〕 〔泰東日報〕 北區梅田新道 太平ビル三階
- 〔北國夕刊新聞〕 〔丹州時報〕 此花區朝日橋通二ノ四一
- 〔北陸毎日新聞〕 北區堂島、堂島ビル一階 日本タイプライター内
- 〔香川新報〕 〔中國日日新聞〕 〔佐世保日日新聞〕 北區堂島北町三六
- 〔河北新報〕 北區中ノ島七 五〇

雜誌

大阪最初の雑誌は明治二年當時の醫學所から刊行された「日講紀聞」であると稱せられる。なほ五年三月に發刊された「大阪新聞」は隔日に發兌され、名稱は新聞であつたが寧ろ雑誌の形態をそなへてゐた。その後は九年まで雑誌らしいものは一つも出ず、爾後二十年間に五十種に足らぬ雑誌しか刊行されてゐない。即ち九年に出た雑誌は「警世新誌心のしるべ」と稱するもので、その翌年には「俗蒙叢談」「攪眠新誌」「大阪繪入雜誌」「東洋奇事新報」「興民新誌」「香風餘話」「圓融雜誌」「京阪雜誌」「六合雜誌」その他二三が發行された。また十一年には「劇場珍報」「磊々珍報」「刀圭雜誌」「教要新誌」が、十二年には「此花新誌」「明林新誌」「興農新誌」「浪華叢談葦葦具佐」等が出た。この「浪華叢談葦葦具佐」は大坂における文藝雑誌の先驅をなせるものであつた。十三年には「攝海雜誌」「演劇雜誌」「愛國志林」「世益雜誌」等が、十四年には「大阪定期雜誌」十七年には「演劇新報」「大阪醫報」、十八年には「文學雜誌」「醫學新誌」、十九年には「通俗學藝志林」「歌舞伎新報」、二十二年には「百千鳥」が發行された。次で「小文壇」「なにはかた」「蘆分船」「大阪文藝」などが創刊され、二十五年には「小説叢書かひよせ」が出た。次で「一點紅」「この花草紙」「浪華草紙」「藻しほ草」などが發行された。二十八年頃からは頻りに文學雜誌の勃興を見、まづ「新百千鳥」が發刊

され、次で三十年には「文學評論」、三十二年には「ふた葉」、三十三年には「小天地」が出た。又當時「關西文學」の前身「よしあし草」も發刊され後に「文藝」と改題された。「小柴舟」も發刊されてゐた。また間もなく「三州」なる冊子も創刊されたが日露戦争中に廢刊となり、その後大阪には有力な文藝雜誌は存在せざるに至つた。文藝雜誌以外では二十六年發行の「商業資料」があるが、これは三十二年改題して「大阪經濟雜誌」となつた。また二十九年、三十年頃には「二十世紀」なる政法雜誌が存在し、三十一年には「通俗衛生」、三十七年には「工業の日本」、四十二年には「女學生畫報」が發刊され、その他「大阪銀行通信錄」「大阪市公報」をはじめ諸團體の機關冊子が十數種發行された。大正時代に入つては大阪の雜誌出版事業は寂寥を極め、有力なる一般向の雜誌は主として東京で發行せられる有様で、只大阪で發刊されるものは救濟研究(大阪府廳内救濟研究會)、勞働調査報告(大阪府調査課)、經濟調査時報(大阪府稅務監督局)、商業及經濟研究(大阪高等商

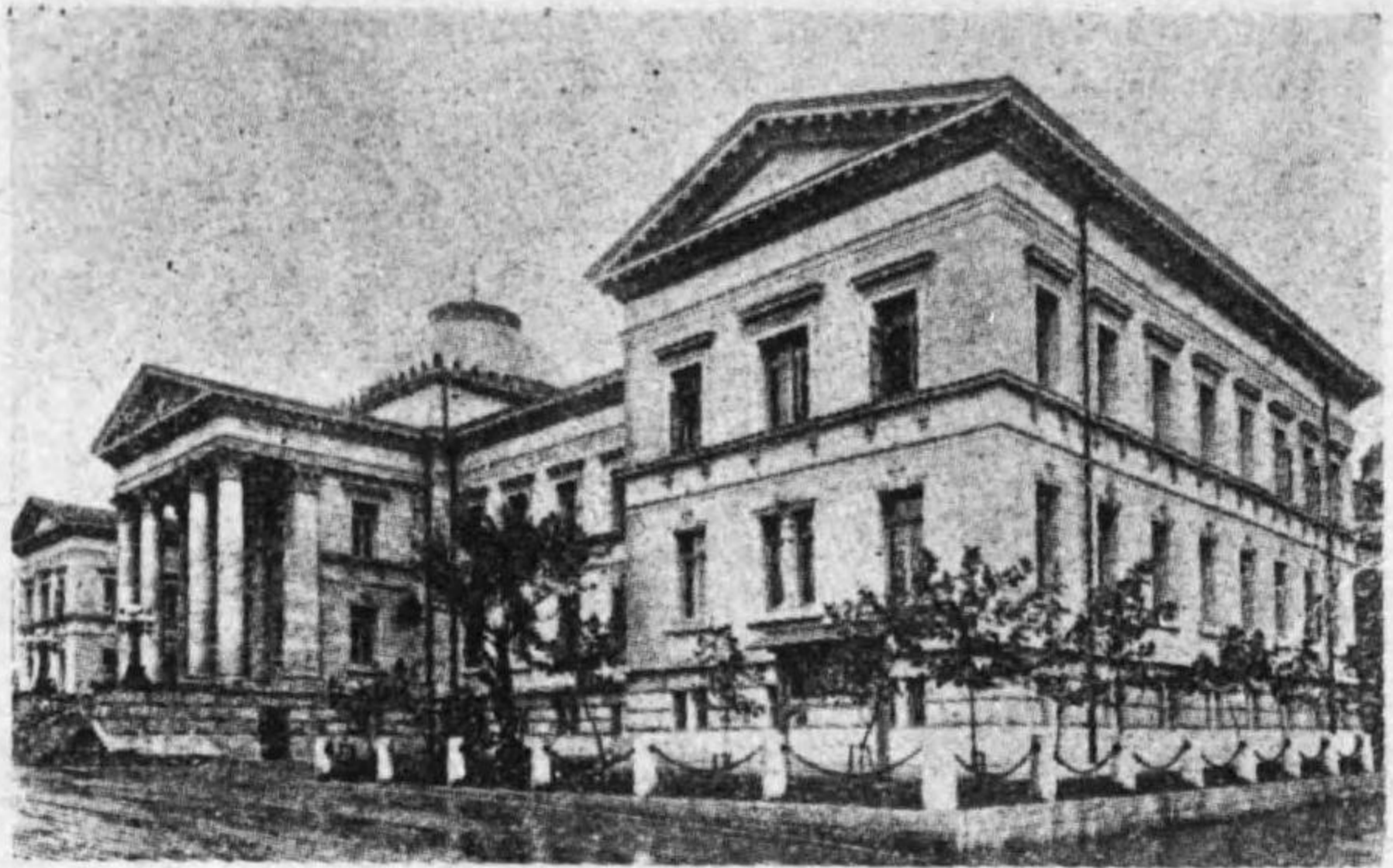
業學校)、週刊東洋貿易時報(後の東洋貿易研究(大阪府役所産業部調査課)大阪(大阪都市協會)等諸官廳若くは諸團體の機關雜誌と、一般向のものとしては「帝國公論」「週刊朝日」「アサヒスポーツ」「サンデー毎日」「エコノミスト」等に過ぎざるに至つた。要するに大阪發行の一般雜誌は概して永續性を缺き、僅に新聞社發行の「週刊朝日」「サンデー毎日」その他「芝居とキネマ」「映畫と演藝」等を除いては昭和年代に入つても全國に販路を有するものは殆どないといつてもよい位である。たゞ十二年にプラトン社より「女性」と「苦樂」が出で一流文士の作品を盛つた可成りの雜誌を出したのは特筆に値する。要するに大阪は物質的には生産地であるが、文化的には消費地であるから、我國に於ける大衆向の講談物、文藝物、高級評論雜誌は關西の讀者が大切なお得意様である。大阪で雜誌の育たない原因として三つが挙げられてゐる(一)大量的印刷が困難(二)文化が東京に偏在する(三)一度は東京の出版物問屋の手を潜る仕組になつてゐる、等である。

圖書館

▼府立大阪書籍館 府は明治九年九月第一大區十三番小學(北濱五丁目十五番地)内及第二大區五番小學(安堂寺橋通一丁目十番地)内にそれぞれ書籍館を創設した。これが本府圖書館事業の嚆矢である。當時當該區戶長兼學區取締をして圖書館事務を兼攝せしめ雇員一名をして日常事務の處理に當らしめ、その藏書八百餘部を南北兩館に分屬せしめた。閱覽者も一ヶ月平均三十人内外であつたが、同年十一月兩者を合して第二大區六番小學(安堂寺橋通三丁目)内に移轉し、以て從來の分置による經費の重複閱覽上の不便を避け事業の發達を圖らうとした。而も尙市民の注意を惹くに至らず、萎靡振はざる有様であつた。十一年に至つて北區常安町第十八番地に書籍館を移轉し、曾て舊官立大阪師範學校所藏の圖書中、大阪府に交付せられたもの全部を同館の所藏に移し、藏書總計二千六百四十餘部一萬八千餘冊となり、閱覽人平均一ヶ月二百五十人(十二年)を下

らないやうになつた。以後屢々規則を改正して、或は帶出閱覽の方法を定め、或は圖書の撰擇に努めて閱覽者の利便を講じ、府立圖書館としての面目を保たうとするに至つた。この書籍館は十

一府立大阪圖書館(中之島)



新聞・圖書・雜誌——圖書

二年府縣會規則の實施に伴ひ、その六月より翌十三年に亘り區部聯帶地方稅の支辨を以て維持することになつてゐたが、十四年に至つて地方稅支辨の教育費が多額となつたため、不急の經營は努めて省略しやうとする區部會の修正が成立して、遂に別途學資金をもつて維持されることになつた。併し十八年三月に至つて區部會は再び地方稅支辨の適當なるを建議して、遂に十八年度から更に區部地方稅によつて維持されることになつたが、十八年における府下の大洪水と稀有の惡疫流行とは獨り教育事業のみならず萬般施設の上に一大頓挫を來たさしめ、その結果は再び本館を地方稅外に驅逐して學資金の支辨を受けるやうになつたが、その後の經營圓滑ならず遂に二十一年二月、之を廢止するのやむなきに至つた。

▼その後の圖書館 書籍館廢止以後十有餘年の長きに涉つて公立圖書館の設立を見ず、この間僅に私立又は公立で圖書館的事業を營むものは次の如くであつた。

【大阪商品陳列所圖書部】二十三年

設立、北區堂島濱通二丁目(大阪府立)【大阪博物館圖書室】東區内本町(大阪府立)、【私立大阪圖書館】三十二年設立、東區船越町二丁目(永江爲政設立)【大阪醫學圖書館】三十二年設立、商品陳列所内(醫學會設立)

右の中博物場のもものは舊大阪書籍館の藏書を引繼いだものである。この外住吉神社の住吉文庫、天神社内の天満文庫、大阪經濟文庫等があつたが、十分な設備を有せず完全な圖書館設置の必要は切に感ぜられつゝあつた。

▼府立大阪圖書館 かゝる事情であつたから大阪府は明治三十二年教育施設の大計畫をなすに際し、圖書館建設の案を立てるに至つた。この際住吉左衛門は、一は多端なる市部府費を補ひ、二には有益なるこの盛舉を贊助せんと趣旨を以て、同年二月建物一式及圖書購入基金五萬圓の寄附を願ひし府の採擇を得て同年九月地を中之島に卜し建築に着手、三十七年落成、之を府に引渡した。開館式は同年二月二十五日に行はれ、翌三月一日より閱覽を開始した。總建坪は二百四十九坪餘で、建築費總額は二十萬四千圓に達し

たといふ。府は住友の寄附せる圖書購入基金と同額の金額を支出して基金とし、かつ毎年館費を支出して特別會計の下に之を管理した。初め博物館より書籍館本を受入れ、醫學會その他からの多數の寄贈書を収め、又年々多數を購入して、藏書は年と共に多きを加へた。かくて開館當時三萬五千五百冊に過ぎなかつたものが、四十四年度に至つて洋書八百餘冊、和漢書八萬二千餘冊に達し、閱覽人も亦年を逐ふて増加した。かくて館舎著しく狹隘を告ぐるに至つたため、住友は更に大正六年十二月館室増築寄附を出願し、擴張工事を完成して閱覽室延面積三百二十五坪、收容人員五百七十人となつた。十五年度の一ヶ月閱覽者は四十二萬六千餘人、一日平均閱覽者千三百一人、藏書は和漢洋合せて十九萬八千四百二十冊であつた。

として成つた小公園と聯絡を保ち通俗の圖書を備へ一般公衆の讀書觀念を助長し、市民の修養に資する事を目的としてゐる。その後十四年今宮町立圖書館を市に引継ぎ、更に十五年には城東村に寄附申出であるを收受して城東圖書館となした。以上の各館はいづれも館内及帶出閱覽の後を定め、巡回文庫及兒童文庫を編成し、市内各方面に廻附する外、附帶事業として讀書會、婦人會、兒童會、等を行つてゐる。

月長谷川眞徹によつて設立せられた。【精華文庫】(南區難波新地五番丁精華小學校内) 明治四十五年四月精華青年修養會が設立したものである。【高臺文庫】(西區南堀江下通二丁目高臺小學校内) 大正五年十一月高臺教育會が設立したものである。【天滿宮文庫】(北區天滿宮内) 大正十年五月に設立さる。毎土・日曜日に開館する。【東江圖書館】(西區江戸堀南通二丁目東江小學校内) 大正十五年一月西區第一聯合有志によつて設立された。【淀川善隣館】(東淀川區本庄中通二) 大正十四年十一月エス・エフ・モランによつて設置された。

内有志者によつて設立され部内住民にだけ利用せしめてゐる。

最近の圖書館

公立一〇、私立九、計十九で前年度と同数である。而して本年度圖書冊數三六七、八五〇冊で、之を前年度に比べ六、四六二冊(一分八厘)の増加である。尙之が閱覽延人員一、〇七三、九六〇人を算し、前年度に比較して一〇五、六六九人(一割九厘)を減じてゐる。

Table with columns: 年次別 (昭七, 昭八, 昭九), 館數, 別 (公立, 私立), 圖書冊數 (和漢書, 洋書, 計), 開館日數, 閱覽人員. Includes a note: (表中※印は文庫を示す)

火災保險
 運送保險
 自動車保險
 海上保險
 傷害保險

日本海上保險株式會社

本店 大改市西區江戸堀上通壹丁目
 支店 東京、神戶、橫濱、上海
 出張所 名古屋、福岡、金澤、京都、仙臺、京城
 海外及國內到る所樞要の地に代理店あり

演劇 映画



歌舞伎

歌舞伎劇 梅玉(歌右衛門)歿後の上方歌舞伎芝居は又いふに足るものなく嘉永二年角座にて三代目菊五郎を招き「尾上岩藤後日話」に大入を得るや、中座は之に對抗せんと欲し、八代目團十郎を招いたが、彼は事を以て自殺し更に嘉永五年二月四代目歌右衛門歿し同四月角座より出火し、その翌年には外艦渡來、將軍薨去の事あり、是より血腥い劍撃の旋風が吹き募り、世の不況に加ふるに實川額十郎・三樹大五郎の相ついで死するあり、芝居町は火の消えた寂しさとなつた。維新後、世の安定すると共に次第にまた芝居氣分が蘇つて來た。即ち當時の役者では先代延若・中村宗十郎が中座と戎座に、先

演劇・映畫——演劇——歌舞伎

代右團次が角座に、何れも座頭格で立籠つてゐた。明治八年頃の番附を見るに先代多見藏が中央に据えられてゐるが既に老境に入り七賀助も老役で座頭役には適せず、先代瑞寛は大關でも粘り過ぎて味のある藝でなかつた。又五代目彦三郎が東から下つて江戸式藝風を移したが、十分なる効果をあげず、十年十月大阪に客死した。かくて明治初期を代表する中心人物は矢張り、先代實川延若・中村宗十郎・市川右團次の三人であつた。延若は上方式の和事の系統を引く實川額十郎の衣鉢を受け、明治元年 古手屋八郎兵衛に扮し當りをとつて以來、茂兵衛・長右衛門・治兵衛など上方町人の艶を體現し右團次(後の齋入)は實川八百藏・尾上多賀之丞・中村駒之助等と角の芝居に據り、達者なケレンや景事で人氣を得、また多く新作を演じた。宗十郎は中の芝居

戎座の主位を占め、時に延若と一座したが二人程人氣を持たなかつた代りに技藝に於て具眼者に認められ、後も深くその印象を留めた。彼は先代 阪東彦三郎 と同型であるが、彦三郎は江戸の傳統を受けて稍々固く、宗十郎は上方を受けて柔かであつた。彼は彦三郎と入れ異ひに東上して團十郎の相手となり著しい刺戟を受け、彦三郎より進んで團十郎と相譲らない程の現實味を加へ、而も古典を離れなかつた彼は團十郎ほど豪壯でない代りに優し味を持ち、松玉の代りに盛綱、熊谷の代りに菅相丞、由良之助も城明渡して及ばぬ代り茶屋場が優り、長兵衛の代りに紙治、伊左衛門、治兵衛などを特長とし、そこでは延若とも違ふ味を出した。新作では仲國と小督に活曆を始めたが歓迎されなかつたのがそれ限りになつた。上述の宗十郎・延若・右團次を座頭級とし、中村翫雀・嵐橋三郎中村福助(後の梅玉)等が書出しに座り花形には 實川延三郎・嵐三郎・中村飛鶴・阪東壽三郎・嵐三五郎・嵐巖笑があり、女形では片岡松太郎、嵐三右衛門と實川若鷹・實川正朝・嵐みんし

があつた。又當時辨天座に立籠り寫實的に演じた者に嵐璃班・尾上卯三郎があつた。既に若延・宗十郎死し右團次亦元の意氣を有せず、璃寛・雀右衛門既に老い、我童は腕を展ばさんとして倒れたが、ついで歸阪せる我當は宗十郎の意氣を襲ぎ、鷹治郎が延若・宗十郎の藝風を調合した。二十五年三月

菊五郎と

左團次が同時に乗込んで來て鷹治郎は菊五郎と、我當は左團次と一座し道頓堀あつて以來の競争を見た。かくてこの後は鷹治郎と我當との對立及これに絡んで梅玉・齊入を中心とする時代が続く。二十八年六月の「商業資料」を見るに當時の一等俳優として(俳優税より見たるもの)右團次・福助時藏・我當・鷹治郎・雀右衛門・橋三郎が挙げられ、二等俳優として巖笑・正朝・吉三郎・荒五郎・市十郎・珊瑚郎・延三郎・琥珀郎・多見之助・源之助・三五郎が算へられてゐる。又四十二年社行の(大阪案内)に依れば團藏・齊入・仁左衛門・鷹治郎・梅玉・璃班・傳五郎・巖笑・右團次・玉七・延二郎・福助・多見之助・徳三郎・成太郎・我童等を代表的な俳優としてゐる。就中

齊入 (右團次四十二年二月に改名)は延若・宗十郎の死後も長く生き、或は明治の人物を演じ、得意のケレン物を案出し、水藝や鯉掴みに特技を示し、我童は薄雪の妻平や來國俊、又は仁木彈正を得意とし、その弟の我童は氣骨稜々負けぬ氣を以つて「櫻時雨」の紹由をはじめ、柿右衛門・片桐且元・都一中・人形師等の名人藝を得意とした。中村福助(明治四十年に梅玉と改名)は我當・鷹治郎對立の中に立つて其の本領であるワキ師としての技藝に圓熟して行き、次第に鷹治郎と一座すること多く、その柄も藝風も鷹治郎と相調和するに至つた。鷹治郎と福助とが紙治と孫右衛門、伊左衛門と喜左衛門、盛綱と微妙を演じた如きは他の追隨を許さぬ味を有してゐた。

中村福助

は中村翫雀を父とし、その生家扇屋の没後延若に師事して實川鷹治郎と名乗つたが十一年實川中村と改めた。その後延若・宗十郎の指導を受け二十三年五月初めて上京を敢行し、團十郎の援助を得て盛綱を演じ、立役に女形に二枚目に往くとして可ならざるなき進境を示したが、次第に獨

自の境地を拓くに至り、人氣ある上方風の和事師となり、「戀飛脚大和往來」の忠兵衛、「廓文章」の伊左、「伊勢音頭」の福岡貢、「椀久末松」の椀久、就中「時雨の炬燵」或は「河庄の治兵衛」等に於て至藝に達した。又「敵討檻樓錦」の春藤治郎右衛門、「本藏下屋敷」の桃井若狭之、「助双蝶々曲輪日記」の十次兵衛等宗十郎系の淨瑠璃物も特に熱演を重ねて自己の藥籠中のもとなし、更に大石内藏之助系統の役柄、即ち「碁盤太平記」の大星由良之助や土屋主税に上方藝の品位と味を見せ、「近江源氏先陣館」の盛綱、「源平布引瀧」の實盛、「寺小屋」の源藏、「南部坂」の内藏之助等に時代世話の情味と恩愛とを示し、又鹽原多助や吃又にも別な風趣を見せ、更に嫩軍記の敦盛や「繪本太閤記」の重次郎、「菅原」の櫻丸にその若さを嘆賞せしめた。以上列擧せる諸役はいづれも彼の十八番たるのみならず大阪劇壇の特色とでもいふべきものである。

大正の劇壇

は鷹治郎を中心とし、梅玉・雀右衛門・多見之助・福助・我童・魁車・延若・右團次等が衛星の如

くこれを取りまいて形成してゐたといふ事が出来る。雀右衛門は明治二十四年芝雀を名乗り、大正六年に三世「雀右衛門」を襲名、「野崎」のお光「太閤記十段目」の初菊、「二十四孝」の八重垣姫、「三代記」の時姫等を當り役とし、實に大阪に於ける最上級の名女形であつた。福助は四十年十月四代目福助を繼ぎ、爾來魁車と共に鷹治郎のよき女房役をなし、延二郎は大正四年に父の名を襲いで延若と稱したが、確實にして、達者なる技藝を以て行くとして可ならざるなく、特に「千本」の權太・盲兵助、「封印切」の八右衛門「重の井筒」の徳兵衛「彦山」の六助等に當りを見せてゐる。又四十五年に伯父の名を襲げる我童は立役女形二つながらに進展目ざましきを示し、齊入の一人者として知られてゐる。以上の諸優の外嵐笑があり、荒五郎・松之助・淺尾大吉等があり、吉三郎・鱈十郎があり、更に故中村嘉七の衣鉢を受けた上方稀有の名ワキ役として卯三郎が居つた。又別に嵐璃徳があり、獨自の持味に將來の大成を思はせる坂東壽三郎が

演劇・映畫——新派劇

ある。更に若手では鷹治郎の型を生き寫しの息子の中村扇雀及舞踊の名手を以つて推される林長三郎が居る。又以上とは系統を別にして八千代座を根城とせる長太夫・佳笑一派の俳優をも没却してはならぬ。

大阪演劇の史蹟

- あかね染 三勝、半七の墓 千日前芦邊劇場裏
- 鐘もろとも恨鮫鞘 千日前墓所
- 心中天網島 蜷 橋
- 同 河庄の跡 曾根崎新地よし喜
- 夕霧伊左衛門「廓文章」 新町九軒吉田屋
- 沓手島孤城落月 大阪城内
- 冥途の飛脚 堂島より淡路町一丁目龜屋
- 敵討天下茶屋 福島天神の榮
- ひらがたせいすい記 國文社々内
- 福島逆櫓の松 住吉島居前
- 夏祭浪花鑑 曾根崎露の天神
- お初徳兵衛心中跡 上本町四、實相寺
- 椀久末の松山の墓

新派劇

大阪の地に新派劇が發生せし事は明治演劇史上最も特筆すべき事柄に屬する。這は大阪に團十郎・菊五郎の如き勢力ある名優無く、且商業の都會だけに市民一般が藝術上の傳統を東京程に重視せず、隨つてたゞ新是れ迎ふるの氣味と、また歌舞伎の世界に嫌らなくなつた民衆が、もつと新しい時代を寫した劇を要求し、恰もこの要求に應じて勃興したのが新派劇であつた。

自由民権論を鼓吹せんとする意圖をも有し、一座の顔觸れは、角藤定憲を座長とし、横田金馬・神原清二郎・岩尾一・池田吉之助・有馬辰一・細井實・佐藤才三等の面々で、自由黨の名士栗原亮一や中江篤介の賛助を得て居た。この新派劇の先驅は幸に大阪人の好奇心に投じて大いに當りを取つた。角藤の壯士芝居に倣つて起つたのは

川上晋次郎 である。彼は筑前博多生れ十四才の時國を去つて東京に出て間もなく自由民権論にかぶれて演説つかひとなり自ら自由童子と號して過激な言論を吐き、度々拘留又は禁錮に合ひ、諸處を轉々としてゐたが、後落語界に入つて淨世亭と名乗り、二十一年オツペケペー節を賣物として大阪の寄席に現はれたが壯士芝居の成功を見て勃々たる野心を抑へ得ず、そこで書生仁輪加といふ一座を作つて横濱萬座に旗を擧げ、更に東京に入つて芝森元の開盛座で舉行したが、之には失敗して大阪に歸り書生芝居として再興。
書生芝居は 金泉丑太郎、青柳捨三郎、藤澤淺次郎の三人を一座に集め、二十四年二月五日に初日を泉州堺の卯

之日座に出し、第一聲を揚げそれから東京に上り幾多の艱難と故障を凌ぎつゝ次第に大成して行つた。書生芝居の上演せるものは「板垣君遭難實記」、依田學海の「双羽楠」、矢野文雄の「經國美談」等で、狂言の間には川上が得意のオツペケペー節を唄つて見物を喜ばせてゐた。その技藝としては我流の演説口調と大阪風の模倣と柔術の型とがあるのみであつたが、その題目が政黨事情・探偵實話・法廷の實況などの如き時好に投じたものであつた。たゞに脚本の蕪雜なるにも拘らず、又その演技の稚拙生硬なりしに拘らず次第に俗衆の眷顧を牽き、兎も角も新派劇の大成を導き出した。川上晋次郎の書生芝居に對し、東京に於ては伊井蓉峰を座長とせる濟美館が同じく二十四年の十一月に旗擧げをした。これには
水野好美 も馳せ參じ男女合同改良演劇と銘打ち依田學海が采を振つた。伊井一派は河上の書生芝居が政治的臭味を帯びたるに引きかへ、全く藝術本位娛樂本位であり、この二つの異なる要素が、經緯となつて後日の新派劇を織りなして行つた。

二十八八月 突發した日清戰爭は新派俳優等の演技にふさはしい絶好の材料を與ふる事となり、戰爭劇は到處に於て歡迎され、遂に舊派俳優に對峙するの地位を獲得せしめた。併し新派はその濫觴が大阪にあるに拘らず、爾來主たる根據地を東京に置くに至り京阪は折々その巡業を受くるに過ぎないことゝなつた。ところが三十一・二年の頃京都にあつた福井茂兵衛・靜間小次郎等の一座が大阪に移り、天満座(北區大工町)に據り、又川上の幕下に屬してゐた
高田實 秋月桂太郎・木村周平・喜多村綠郎・小織桂一郎・藤澤淺次郎等の成美團が朝日座に據り、此二座を根據として大阪の新派は日露戰爭前後は實にその全盛時代で、當時の道頓堀は高田實によりて征服されたといつてもよく次表の如く名編大作を續々と上演した
原作者 藝 題 上演座名・上演年月
菊池幽芳 己が罪 朝日座 三十三年九月
徳富蘆花 不如歸 同 三十四年二月
尾崎紅葉 金色夜叉 同 三十五年六月

泉鏡花 通夜物語 三十九年八月

併し四十年 頃を峠として新派は次第に民衆から厭かれ高田・藤澤先づ大阪を去り、獨り喜多村が久しく入神の技を見せてゐたが、これ又上京し、北濱に歐洲漫遊歸朝後の川上夫妻が建てた帝國座も永續せず彼は四十四年高安病院にて死去し、僅かに福井等が朝日座に入つて活動を續けたが之亦抄々しからず大正に入つては新劇の勃興、活動寫眞の擡頭するあり、村田正雄・山田九州男等の奮闘も頽勢を挽回するに至らなかつた。かゝる時に際し山崎長之輔が活動寫眞利用の連鎖劇を創めて一時連鎖時代を招き出したが、技藝の未熟とその一座に指導者なく向上の一念を缺きしたため、これは單に活動寫眞時代に轉向するための過渡的な存在に過ぎなかつたのである。
斯くの如く 新派劇は明治時代の終ると共にその主要なる役割を演じ盡せるもので大正時代には民衆の關心は既に之を離れ、僅かに殘存せる俳優達がその妙技を持して餘命を得てる有様にすぎない。

喜劇・劍劇・新劇

喜劇 大正時代の新派衰頽傾向に乗じ擡頭したものは曾我廼家等の喜劇團である。従來大阪の演藝界に一特色を發揮せるものに大阪俄があり、鶴屋團十郎、寶樂、たにし、お半などの一座最もよく知られてゐたが、この系統より出發した曾我廼家一座が先づ一步を進めて新喜劇を組織した。曾我廼家五郎は二十五年四月中村珊瑚郎の門に入り中村珊之助と名乗つて歌舞伎劇に出てゐたが、三十七年十一月大阪北の新地福井座で旗揚をし、五郎と改名、時藏(後の歌六)門下の中村時代が改名せる十郎と共に新喜劇を演出した。
爾來濃厚 ねばり強い藝風の五郎と淡白で飄逸な藝風の十郎とが、兩極端を巧みに取り合せ、絡み合せての舞臺上の努力は、一步一步を踏み固めて次第に人氣を博した。その後大正三年に五郎は洋行し、歸朝後は五郎一派と十郎一派とが分裂して互にその特技を闘はずに至つた。後に病のために十郎が舞臺を退いたのは惜しむべきである

五郎の一座

は相變らず努力を續けて人氣を博してゐる。一座の俳優は何れも達者揃ひで蝶六・小次郎・五樂の技巧と持味は最も曾我廼家劇を特色づける中にも傑出してゐるのは女形としての大磯の洗練された藝と味とで、何處までも眞面目に熱心に藝術のために闘つてゐる。志賀廼家淡海は、三十八年に新派堅固團を組織し、その後感ずる所あつて、新喜劇に改め教訓的家庭喜劇或はコメディシガノヤなど命名、次第に喜劇として發展せるもので五郎劇とはまたいくらか異つた味を有してゐる。その他天外一派の樂天會・廼我廼家五郎一派等もある。新しい時代に生れた人達には新しい世界があり、歌舞伎劇では嫌き足らず、新派劇や喜劇では物足りない。かくてより時代の精神に觸れた脚本が要求され、そこで
新劇の運動 が始つた。明治の末年には東京にて坪内博士指導の下に文藝協會が早大を中心として成立し、女優として熱心にして捨身なる松井須磨子を世に出すに至り、別に小山内薫と市川左團次の發起にかゝる自由劇場があり更に大正に入つては上山草人の近代

劇協會が旗揚げをなし、文藝協會の内部分裂して藝術座となり、舞臺協會となり又無名會となつた。併しこれ等の運動は全て東京に於て起され、大阪はその折々の巡業を受け、餘波を蒙るのみであり、大阪自身に於ては新劇運動は一も起らなかつた。此時代にあつて所謂劇界の開祖と目せられる

澤田正二郎 が大阪に於て旗揚げせる事は注目し得る。劇界の開祖、澤田は大正三年藝術座を脱退し、その後三年程諸所の劇團に關係してゐたが遂に六年五月東京新富座に新國劇の旗揚げをなした。併しそれが惨めな敗戦に終るや京都南座に歩合興行をなし、更に大阪辨天座に轉戦しやがて松竹合名會社の白井松次郎と提携し、辨天座を根城に定め「月形半平太」「國定忠次」等に當りとり、七年十一月一座の中田正造以下三名が脱退し、倉橋仙太郎が病に仆れたが、一意奮闘を続け、長い根城の辨天座より陣を浪花座に移し、かくて關西劇境を完全に席捲して、六年目に歸つた。その後中里介山の

れ、育ての故郷大阪より、生みの故郷の帝都にその本陣を移した。これより彼の活動範圍は主として東京となるに至り十二年關東大震災に遭ふや野外劇に人氣を煽ふり、十三年には歌舞劇の「假名手本忠臣蔵」に手をつけ、かくて新劇の存在は一步一步苦難と共に向上し、いつしか劇界の傾向は彼の型を模倣する劇流行となり、精力的な彼は更に劍に代る何物かを見つけんとして模索し、ロスタンの鱗案劇

女優に和歌浦糸子、富士野葛枝を擁して、主として大阪角座を本據として大正末年の劍劇流行の波に乗り成功を續けた。その他新聲劇より退座せる伊川八郎が栗島狭衣等と共に十二年に組織せる國精劇がある。國精劇は十五年に解散されて、山口俊雄・伊川八郎等は新潮座を組織して辨天座に據つた。以上の如き劍劇運動の外は、大阪に於ける新劇運動は概して弱く大正後期に於て、新派より出でて獨自の境地を開拓せる井上正夫や水谷八重子が時々來演し、所は東京築地小劇場が折々來阪して僅に刺戟を與ふるに過ぎず、邦劇座(大正九年第一回公演、盟主我童)

◆大阪劇界の近況

昭和九年七月以來約一年間に於ける大阪劇界は相當に多事多端を傳へられた。次にその主なる事件を摘記して劇界の記録に備へやうと思ふ。

ら禁止せられた阪東義助の新計畫たる『源氏物語』の劇化は、その衣裳を使用して舞踊劇『年中行事繪』として僅かに公演しその餘憤を漸く癒やした觀があつた。關西にては百八十年來中絶してゐた劇界の名門と云はれる中島三甫右衛門の名跡を三十四歳の併かも素人たる鈴木新助氏に依つて繼承せられた事は、劇界に珍奇な話題として提供せられた。翌八月には大阪千日前の大坂劇場にては大阪松竹少女歌劇更生第一回公演をなし豫ねて洋行中の

に出演したため病勢昂進して同月十二日遂に七十八歳を一期として他界した翌十年一月には大阪の中村福助が三代目中村梅玉を襲名し一子政治郎に五代目中村福助を襲名せしめた。

◆昭和九年度主要劇場成績

Table with columns: 劇場名, 開場日数, 入場人員, 收入金額. Rows include 歌舞伎座, 中座, 角座, 浪花座, 文樂座.

義太夫人形芝居

明治初年の淨瑠璃界 幕末から維新にかけて物情騒然たる

中にも堀江座、座摩の芝居、稻荷北門の芝居(文樂軒の芝居)等の小屋が存して命脈だけは保持しつゞけてゐた。明治元年十二月府は遊所整理の目的で松島町を開發する事となり、その後造築として歌舞伎及人形淨瑠璃の移轉を計畫し、歌舞伎の方は道頓堀の仕打三榮へ淨瑠璃の方は文樂軒芝居主に命を下した。かくて植村文樂軒は四年新築の工を起し、五年正月博勞町稻荷から移轉し初めて「文樂座」と名乗つたが(後の松島八千代座の前身である)その新築記念興行は華々しい盛況でも五十三日間打續けた。併し七年には春太夫と團平とが給料問題にて文樂より脱退し、別座を組織して大江橋北詰の寄席を手始めに堀江等でも數回の文樂對抗興行を行ひ、文樂は類勢を挽回するため、前年から九州巡業に出てゐた當時賣出しの花形越路太夫を呼び戻して、其の師の春太夫に對抗せしめる策をとつたが、間もなく春太夫も十年に文樂座と和解して復歸した。併し老年の春太夫は遂に其年七月二十五日に死去した。

文樂座六對抗時代

松島の文樂は地理的の利を失つてそ

の後益々不入を續けた爲、遂に十七年の九月御靈社内に移轉する事となり、其櫓下には太夫竹本越路太夫、三味線豊澤廣助、人形吉日玉造が坐つた。是より先十七年の一月に博勢町稻荷社内北區東側の彦六座が二代柳適太夫によつて創立され、六月興行の後改築に着手し、文樂座と同じく九月に芝居小屋が落成した。その櫓下には太夫・竹本大隅太夫・三味線豊澤團平・人形吉田辰五郎が坐り、茲に淨曲界の勢力を二分した形となつた。かくて彦六座が文樂の一敵國として存在したが、やがて住太夫の死、劇場の焼失、柳適太夫の死等引續いての不祥事に漸衰を現はし遂に二十六年九月の興行には、七日間の興行となり、これを最後として十年の全盛を誇つた彦六座も遂に没落してしまつた。

文樂座對稻荷座時代

元來文樂座は淡路から來た植村文樂軒の起せるもので二世文樂翁・三世大助と代々植村家に屬してゐたが、大助の骨董癖から明治十四・五年頃には可成りの窮境に陥り、京都の渡邊幸次郎

の援助を得て上記の如く松島から御靈社内に移轉せるものである。併し二十一年・二年頃には既に大助も死し、それ以後は残る未亡人の春が、顧問格の渡



座樂文

邊や櫓下として責任ある攝津太夫と共に、苦心經營してゐた。然るに二十七年三月、博勢町の料理屋花里藤兵衛

さきの彦六座を買収し、稻荷座の名によつて更生し、その盟主としては二代目豊澤團平が立ち、先年文樂座引退、休養中であつた五代目彌太夫をして先師長門太夫の衣鉢を襲いで斯道奨勵、二座對立主義の下に櫓下として座はらしめたのである。その中堅は竹本彌太夫・竹本大隅太夫・三絃豊澤團平の三人にして彌太夫・團平は櫓下に居り、大隅太夫は別座の庵に据えられてゐる併し恰も二十七八年の日清戦役の際會して、座主の花里が財力的に失敗して手を引いてしまつたので、一頓挫を來たしたが、間もなく有志者が相寄り一株式會社を設置し、經營難を救ふ事となつた。大阪文藝株式會社（二十九年十一月創立）即ち之である。かくて三十一年六月迄順調に進んだが經營の困難に乗じて座長の岡崎が文樂座側の策動に乗せられて獨斷潜行的に此座を敵方に賣り、滅亡を早めてしまつた。

文樂座對明樂及堀江時代

稻荷座没落の混亂中に團平が頓死したため、彌太夫自ら有志の舊株主を起して、更に北堀江上通二丁目の明樂

座を道場とし、同三十一年十一月稻荷座一派の再起を企てた。併し是亦四ヶ年にして三十六年一月興行限り退轉するの己むなきに至つた。その後三十八年九月には明樂座の殘黨である若手の錚々たる連中が團結して北堀江市の側堀江座に立籠り、背水の陣を布き、大奮闘を始めた。これより一座の棟梁格たる大隅は文樂へ奔つて攝津大椽の傘下に入つてゐたから一座は、春子・伊達・長子・雛・新靱等の顔觸であつた斯くして此一座は四十四年五月迄六ヶ年ばかりを繼續した。

上記明樂・堀江兩座に對し、文樂座の經營としても決して順調ではなかつた。春・渡邊・大椽もとより其任にあらず、然るべき後繼者を選んで讓渡せんともの切に望んでゐた。かくて四十二年一月白井・大谷の松竹合名會社へ竹本南部太夫の橋渡しで協調を得、讓渡が行はれた。松竹が引繼げる座員は太夫三十八人、三味線五十一人、人形使ひ二十四人其主要なる人物には、太夫の染・越路・七五三・南部・津、三味線の廣助・猿糸・清六・吉兵衛・人形の紋十郎・玉治・玉治郎・榮三あり。

文樂座近松座對抗時代

明治四十四年五月大阪有数の紳士達が發起して近松座創設の企畫が起り、劇場を佐野屋橋南詰に新築し、四十五年正月、堀江座の春子・伊達・長子一派が文樂から歸れる大隅を盟主とし、開場した。爾來大正二年大隅の臺灣客死、伊達太夫の文樂入りまで、春子・長子が踏み止まつて奮戦したが、遂に力及ばず、三年五月斷然休座するの止むなきに至つた。

此間文樂に於ても四十二年八月に桐竹紋十郎が死し、大正二年には攝津大椽及九代目染太夫が引退し決して順調でなかつた。併し乍ら近松座の没落と共文樂座は唯一獨占の地位を獲得する事となつた。

文樂座獨占時代

近松座瓦解後、大正四年一月にはをやま人形使ひ吉田文五郎及三味線野澤吉三郎が入座し、更に同二月には吉田玉藏が入座した。かくの如くして人形淨瑠璃の總てが文樂座に合流し、日本唯一の文樂座となつたが、六年十月には明治・大正を通じての淨瑠璃界の大立物攝津大椽が八十

二歳の高齡を以て歿し、十三年三月には四年二月以來紋下を勤めてゐた三世越路太夫が死去し津太夫がその跡を繼いで紋下となつた。併し此由緒深い文樂座は十五年十月二十九日午前十一時失火した。その後道頓堀並に東京其他に巡業してゐた。一度文樂座を失ふや一倍慕はれて、その復興熱は熾んになり日本固有藝術保存のため松竹本社の手によつて再興の緒につき、昭和四年十二月近代的劇場となつて四ツ橋側に新築されるに至つた。即ち今日の文樂座である。

最近の衰頹と文樂協會

文樂座は僅かに松竹興業の手によつてさへえられて居たが、時代の趨勢に伴ひ大衆に受け入れず將に衰亡に瀕しつつある文樂を最近これを手離すことゝなつた。世の識者は之をこのまゝに葬むるは如何にも惜しく、曩に文部省大阪府會、大阪市會に於て、これが保護助長に關して決議するところあり、

衆議案を可決して、協力國家的に之を助長する提案をし、文樂協會を起し其の豫算等も大體決定された。これが爲め奔走された人々には大阪としては加藤、東實等が與つて力をなした。
新義座の旗上げ 一方、時代の好尚に應じて新作物を出すべく、新人を以て目せらるゝ南部、つばめ兩太夫は文樂を脱退して、新義座を組織し、昭和十一年九月一日北陽演舞場で、蘆花の「自然と人生」、感想曲「秋」など好評を博した。

文樂座專屬人員

太夫三十九人、三味線五十五人
人形三十三人 (計百二十七人)
〔昭和十一年九月一日調査〕
〔太夫〕 竹本津太夫、竹本土佐太夫、豊井古親太夫、同駒太夫、竹本鏡太夫、同大隅太夫、同文字太夫、同長尾太夫、豊井和泉太夫、竹本相生太夫、豊井昌太夫、竹本貴鳳太夫、同伊達太夫、同源路太夫、同むら太夫、豊竹富太夫、同辰太夫、同千駒太夫、竹本陸路太夫、同播路太夫、竹本流路太夫、竹本喜久太夫、豊井竹太夫、豊井駒尾太夫、竹本隅榮太夫、竹本さの太夫、竹本常子太夫、豊竹宮太夫、竹本津の子太夫、同土佐子太夫、豊竹若駒太夫、同松島太夫、竹

映畫界近事

▲昭和九年七月松竹と新興とは相提携して共同工作の下に第三映畫聯合會社設立の發起人を開いたが、これは兩社の映畫を組合せ、プロダクションもつて日活を一氣に壓倒せんとする牽制策である。
▲映畫監督スターの引抜き騒ぎが絶えず行はれ、牛原虚彦、村上徳三郎、鈴木重吉は新興へ轉じ松竹レビュウの西條エリ子は日活へ、月田一郎、市川正二郎、尾上菊太郎は日活太秦へと眼まぐるしい轉向を示した。翌八月には太秦發聲と東寶劇場との提携が成立し▲東寶の俳優達は太秦に狩出されることになった。又企業側では嘗つて佛蘭西パテエ社で完成せられた十七ミリ半トキーの日本に於ける製作興行權を土臺とする資本金三十萬圓の國際トキー株式會社が伴野文三郎氏等に依つて設立せられ、松竹にては滿洲國軍政部の委嘱に依つて「王道樂土」を▲新興にては我が資源局の依頼に依り

本相瀬太夫、同土佐榮太夫、同津吹太夫、豊竹相太夫、竹本隅若太夫、豊竹駒司太夫、竹本相榮太夫。
〔三味線〕 鶴澤友次郎、豊澤新左衛門、竹澤可、豊澤仙糸、鶴澤道人、野澤吉兵衛、同吉彌、鶴澤綱造、豊澤廣助、鶴澤清六、竹澤團六、野澤八助、豊澤廣太郎、鶴澤友造、同友平、同重造、豊澤猿二郎、鶴澤友吉、同友衛門、同寛市、同清二郎、鶴澤可太郎、同友作、野澤吉左、同喜代之助、同八造、豊澤團伊三、同仁平、野澤吉貞、鶴澤團太郎、同友駒、同友太郎、同道造、野澤市之助、鶴澤清若、同友十郎、豊澤廣二、鶴澤友花、豊澤仙三郎、野澤吉季、鶴澤友三郎、同友丸、同清友、同網治、野澤平松、鶴澤徳若、野澤吉藏、鶴澤仙二郎、同一郎右衛門、同重次郎、野澤吉駒、鶴澤綱平、豊澤猿若、同廣若、野澤吉馬。
〔人形〕 吉田榮三、吉田文五郎、吉田玉次郎、同玉七、桐竹政龜、吉田小兵吉、吉田玉藏、桐竹紋十郎、吉田玉章、桐竹門造、同紋太郎、吉田照壽員、同玉米、同兵次、同文作、同玉市、同光之助、同玉徳、同萬次郎、同文之助、同利男、同多三郎、同榮三郎、桐竹紋司、吉田奈良吉、同文三郎、同玉昇、同文枝、同玉丸、同玉男、桐竹紋昇、吉田玉枝
〔雙子方〕 小川彌三郎

娘義太夫

▲明治初年から娘義太夫の修業場として清津橋(南區二ツ井戸町)のそばに播

「資源」をそれ、製作し教化映畫に一生面を拓いた。スター引抜き騒ぎの餘聞としては入江たか子の引抜き等で社長中谷貞頼氏と意見の對立を見た永田雅一氏は突然日活撮影所總務の席を蹴つて退社し新たに第一映畫社を結成▲創立し、スターには鈴木傳明、中野英治、山田五十鈴、夏川大二郎、大倉千代子等を動員して獨立の旗を掲げた。又監督重鎮では野村芳亭が五十五歳で逝去した。東和商事の川喜田は歐洲映畫の大作佳篇を多く携帶して歸朝し、日活は十三名の女樂手誠首に起因して日活従事員組合は爭議を勃發した。
▲九月にはユウナイテッド社では配給をコロンビア蓄音機に委ね業界を啞然たらしめた。蒲田の岡譲二、江川宇禮雄、逢初夢子、の三スターは突如脱退してSY營業課長中田晴康氏等と共に協同映畫社を結成し日活の傘下に馳せ参じた。新興にては中野かほる、印南弘等が脱退して日活に走つた。
▲十月には豫て解雇者復職運動で揉めてゐたが日活の爭議は、日活重役側が條件の大部分を認め茲に圓滿なる解決を見た。新興にては土橋式で「歸去來

重座があつたが、創始以來星霜を重ねること凡そ五十年。文樂座の百四十年の洗練と傳統に比すべくもないが、浪花情緒のため一種のなつかしきを感じ(大正十二年から僅か三年間は諸藝の席となつて)當時午後一時から十時半まで通して、銀杏返しや桃割れの太夫さんが、燭臺の灯に肩衣の綾をてらして、入りかはり、立ちかはり、毎日異つた番組を語つたものだった。
▲義太夫節——戀も忠義も悉く美しい涙に燻された古い藝術が、くちびるの紅きをやめの咽喉を絞つて漂ひ出づる情調こそ、まさに「播重」存在の意義があつたのである。時間の長いのは興行本位から離れた若い義太夫語りの發表機關たらしめる爲とのことである。入場料は四十錢、六十錢、八十錢の三種であつたが南の大火(昭和四十三年)に焼失してから全く其の後を斷たれた感があつたが、當時の存在として又現在大阪に斯道の爲め今尙精進してゐる北區鳴尾町に鶴澤鶴榮女師匠があり時折日簡ビル又は北陽演舞場等で公演してゐる。

時」をサウンド版として製作した。
▲十一月に至つてはPCLは十萬圓を投じ自動現像機を買入れと同時に現像所を新築し、撮影所の擴張工事に着手した。又、大澤商會に所屬してゐたJOTキーが獨立して資本金三十萬圓の株式會社となり、代表取締役が大澤善夫氏、顧問に池永浩久氏が夫々就任。
▲又日活中谷社長は辭してその後任に松方乙彦氏が就任した。「佐渡情話」のヒットから浪花節トキーが流行し、日活松竹とは「乃木將軍」の競映を行ひアメリカムーヴイートン・ニュースの我が國に於ける出張員達は國法を犯し我が軍部から數次の警告を發せられる不都合さに、日本ニュース映畫聯盟ではこれを脱會せしめる決議をした。
▲三月には各映畫會社に於ける昨年度下半期の營業成績が發表せられたが各社とも好況を送迎した爲め増収で、松竹キネマは總收入三百六十餘萬圓で一分の増配、新興キネマは二百九萬餘圓で前期より十六萬餘の増収、日活は二百六十餘萬圓で三十一萬圓の増収、中にも注目さるべきは、松竹洋畫興行社(SY)が恒例の赤字を打開して一躍三

十四萬圓以上の増収を示した一事である。尙ほ日活に於ては社長、副社長、専務取締役等は重任し新取締役には池永浩久、石井常吉等の舊日活時代の大立物が復活したことは種々な意味に於て斯界の注意を喚起した。

▲尙ほその間には映畫界には附物の争議が隨所に頻發したが就中松竹にては音楽部員と説明者との結束して解雇反對の争議を起し城戸専務の宅へ抜刀隊が暴れ込むなどチャンバラ演劇の紛擾を惹起したが、結局、會社側は十九萬圓の支出と若干の條件を承認して解決したことは記録的と云つてよい。これと前後して日活東京撮影所の重宗監督は辭表を提出すると同時に蒲田から大日方傳、藤井貢、山口勇、三井秀男等を引つこ抜き東京發聲會社を新設したが、更らに日活から逢初夢子、新興からは市川春代の兩スターを奪取し陣容を整えて第一回試作「乾杯學生諸君」の製作に着手した。翌四月に至ると、從來太秦發聲では配給を千鳥興業に委ねてゐたがこれを既に變更した。一方▲近來頻發する争議と俳優争奪の防止の爲め、日活、松竹、新興、大都、の

四社が一大プロダクションを構成しこれが協定案に正式調印を了した。又、コロムビア・レコードに配給させてゐたユニテッド・アーティストが支社直接の配給に改め、新設早々の第一映畫スタヂオは火難に遭つて焼失するなど斯界は多事多端で一日とても静止してゐない▲五月に這入ると日活から第一へ移つた監督の伊藤大輔同じく新興へ走つた松山昌三九、田村邦男新興から日活へ轉向した尾上菊太郎等が何れも違約金騒ぎで訴へられたが示談でケリがつき、大阪では某資本家に依つて新設せられたエトナ映畫社は瞬く間に十數萬圓を費消して没落し、新興キネマは帝國キネマ演藝株式會社を二十萬圓で▲買収し資本金百七十五萬圓の株式會社に躍進し之で歴史ある帝キネは完全に姿を消した譯である。又大都映畫のスター桂章太郎は滿洲匪賊討伐隊の一員に加つて名譽の戦死を遂げた。尙ほこの月に記録的の事柄が二つあつた。その一は從來我が國へは未だ嘗て輸入されたことのない獨乙のバウヴァリア映畫が今後地上映畫社に依つて輸入のトップを切つたことで、他の一つは映

畫化を拒絶してゐた中里介山氏の「大菩薩峠」は日活の手に依つて愈々銀幕に現れることゝなつた事である。▲六月には日活と從來縁の深かつた日興とは合併の前奏曲とも云ふべき日興臨時株主總會を開催し日活系の藤田謙一、杜重直輔、神川宗富、根岸寛一の諸氏が重役として乗込みその合併は最早時期の問題と看做されてゐる。▲松竹では全作品のトーキー化を企畫しそれが前提として音楽監督なる新職制を設定しこれに堀内敬三氏を聘して當らしめることゝなつた。一方去る四月渡米した東寶の支配人泰豊吉氏がその後歐洲に長驅して各社と直接交渉したとの飛報に驚いたS.Y.は急遽東和商事と結んで同社の川喜多長歐氏を歐洲に急派せしめ對抗策を講じた。▲横田永之助が大日本活動寫眞協會の名譽會長に推され、ダグラス・フェアバンクスが三度目の來朝をなしたが、それよりも特記すべきことは六代目菊五郎が「鏡獅子」をトーキーに納めたことと監督は小津安次郎で桑原昂、茂原英朗等の撮影であつた。▲昭和十年度に於ける封切日本映畫の

發聲無聲に區別すれば左の如くである

種別	實數		比較%	
	本數	卷數	本數	卷數
無聲映畫	三〇四	二、四六	七三・九	六九・五
發聲映畫	二二二	一、〇五	二七・一	三〇・五
計	四二七	三、五二	一〇〇・〇	一〇〇・〇

大阪に於ける映畫撮影所と振はざる原因

現存する映畫スタヂオとしては大阪市外大鐵沿線古市白鳥園にある極東映畫會社の撮影所唯一つあるのみである。元大阪市外長瀬にあつた帝キネスタヂオは昭和六年二月火災によつて焼失し新興に至つて京都ウズマサに移轉した。近く大阪附近の所在としては奈良縣あやめ池に右太衛門プロダクションがあつたが、これも昭和十年京都下鴨へ移轉した。何が故に大阪よりスタヂオが離れて行くか?と云ふ疑問が起るであらう。これは映畫製作上技術的見地からその水質に最も重要性ある爲め水清き加茂の流れ近き京都へ移動の止むなきに至る所謂である。

演劇・映畫——當つた映畫

當つた映畫

過去一年程を振り返つて當つた映畫には必ず主題のレコードが作られてゐるのは目先の早さにかけて興行者に譲らぬレコード會社の映畫利用の手が行き届いてゐるからである。有閑階級のピクチャーを唸らせて此等映畫の封切と先を争つたことは大阪人の競争心理と機敏を立證した他の何物でもない非常時日本に於ける軍事的映畫も多分のヒットを放ち又陸海軍省に於ても獎勵に力をそそいでゐる。

- 〔松竹〕 現代劇では「永久の愛」「家族會議」「一つの貞操」「双鏡」時代劇では「雪之丞変化」「俠客會我」「大江戸出世小唄」「お夏清十郎」「日活」 現代劇では「緑の地平線」「日像月像」「白衣の佳人」「赤道を越えて」時代劇では「大菩薩峠」「丹下左膳」「新興キネマ」 現代劇では「女の友情」「浮かれ櫻」「五五の春」「町の艶歌師」時代劇では「魔像」「野崎小唄」「PCL」 「エノケン梓提傳」「エノケン千萬長者」「歌と彌次喜多」「大都キネマ」 現代劇「無敵亂闘王」時代劇「忍術自衛也」「パラマウント社(米)」 「眞珠の頸飾」「メトロ社(米)」 「踊るブロードウェイ」

映畫館數と其所在地

東區	六	此花區	八
西區	三	浪速區	十七
南區	三	大正區	五
北區	十二	天王寺區	一
東淀川區	七	東成區	十四
西淀川區	五	西成區	十一
旭區	八	住吉區	四
港區	十二		
合計	百十二館		

主要封切場

館名	所在地	映畫會社名
松竹座	道頓堀	洋劇專門
大盤座	千日前	パラマウント、ユニオン、メトロ
常盤座	千日前	ゴールドウィン
敷島俱樂部	千日前	松竹映畫及實演
芦邊劇場	千日前	日、P.C.L.、洋劇、大都、極東、マキノ

朝日座 道頓堀 新興キネマ
辨天座 道頓堀 洋劇専門封切
大橋座 新世界 洋劇専門

大阪人一人が
映畫を一年に
何回観るか？

この問題は
餘りに架空
的である如
く思はれる
が、映畫を
調査するに

當り、興味ある問題であるから、大體昭和十年度に於ける大阪市について調べて見た。

大阪市内に於ける常設館興業場假設興業場の總入場者数は、四千四百七十七萬六千九百七十一人で（大阪府警察課調査）あつた。がこれは凡ての劇場、觀覽場、寄席、無料興業等の合計である（昭和十年度）そこで大阪市の人口は昭和十年度に於て二百九十八萬九千八百六十六人であるから、一人平均の入場回数は一四、九七三回となるのである。併して全興行入場者中映畫入場者は其の八割をしめてゐるから、映畫のみの觀賞者数は三千五百八十二萬一千五百七十六人となる。したがつて一人平均

一一、九八一回すなはち一人が一年に平均十二回弱觀てゐる事を知るであらう。この中大人は八割をしめ、小人は二割見當であると。如何に大都市が映畫の觀賞を怠つて居らないかといふ事實を立證するに足るものである。大人は二千八百六十五萬七千二百六十四人で小人は七百六十六萬四千三百三十二人である、すでに小人のみの數でも大阪市の人口の二倍以上に達してゐるではないか、大都市中映畫館數に於ては東京市内の二百四十館、これに次ぐは大阪市内の百十六館である。

◆大阪市の教育映畫

大阪市役所教育部は市内各學校、各種教化團體等の要求に應じて、同部所有の教育映畫及映寫機の貸出を行つてゐる。左記はその目錄の一部分である。

教育映畫目錄の一部

▼劇「人の子」 境遇の感化により、子供が種々に變化して行く、無理解なる周囲の人々の虐待に不良性になり行く少年を慈愛深き良校長の涙に満ちた教訓により善良の人となり、周囲の人々

と共に感激する教化映畫 ▼劇「希望に輝く」 模範職工と惰け者との間に生れた物語青年奮起の資料となるべき映畫 ▼劇「運動會の日」 人間の眞の幸福は富でなく地位でなく陸まじく生活する家庭にある。それを映畫化した家庭教育映畫 ▼劇「母の心」 太陽のなしい深川の街にけなげな三人の母として生きて行く愛の力、搖籃を動かす手は世界を動かすと言はれて居ます。時代篇現代篇の二篇にわけて母性愛がどんなにその子供を力づけるかを説く感化の老ひたる燈臺守と可憐なる少女との美しい愛情を物語る教訓映畫ベビーベツキー主演 ▼哀篇「丘」 貧しき少女と、富豪の少女と、姉妹も及ばぬ同情友愛の至情、哀切極まりなき肉身の思慕、養はれた親への恩愛等、織り成されて人情の極致を盡した物語 ▼勤儉獎勵篇「吾等の日本」 日本の現状を或は劇に或は漫畫に實寫等に現はし經濟的國難に際し國民の自覺を促す映畫。 ▼劇「沈黙の記念日」 父の勤儉努力の結果が放浪の兄を覺醒せしめ優しき妹の犠牲的精神により發奮努力成功せる涙と喜びの物語

音楽舞踊

洋樂

大阪音楽界に示された故關市長の事跡

故關市長逝いて二年、特に大阪音楽界の爲に残された言葉を音楽篇の劈頭に掲げて、故人が大阪音楽界に對して眞剣にその發展を希はれ、且つこれに盡された事跡を讀者と共に偲ぶことゝした。

左記は故關市長を會長とし、大阪各方面の名士を理事（理事長山本爲三郎氏）に和洋音楽演奏家、作曲家、指揮者、音楽教育家等を網羅する大阪音楽協会の發會式（昭和八年一月）に於ける關會長の祝辭である。尙、同協会は海外の同種の協會と提携し商業家の國際的往來を促すほか、

音楽・舞踊——洋樂



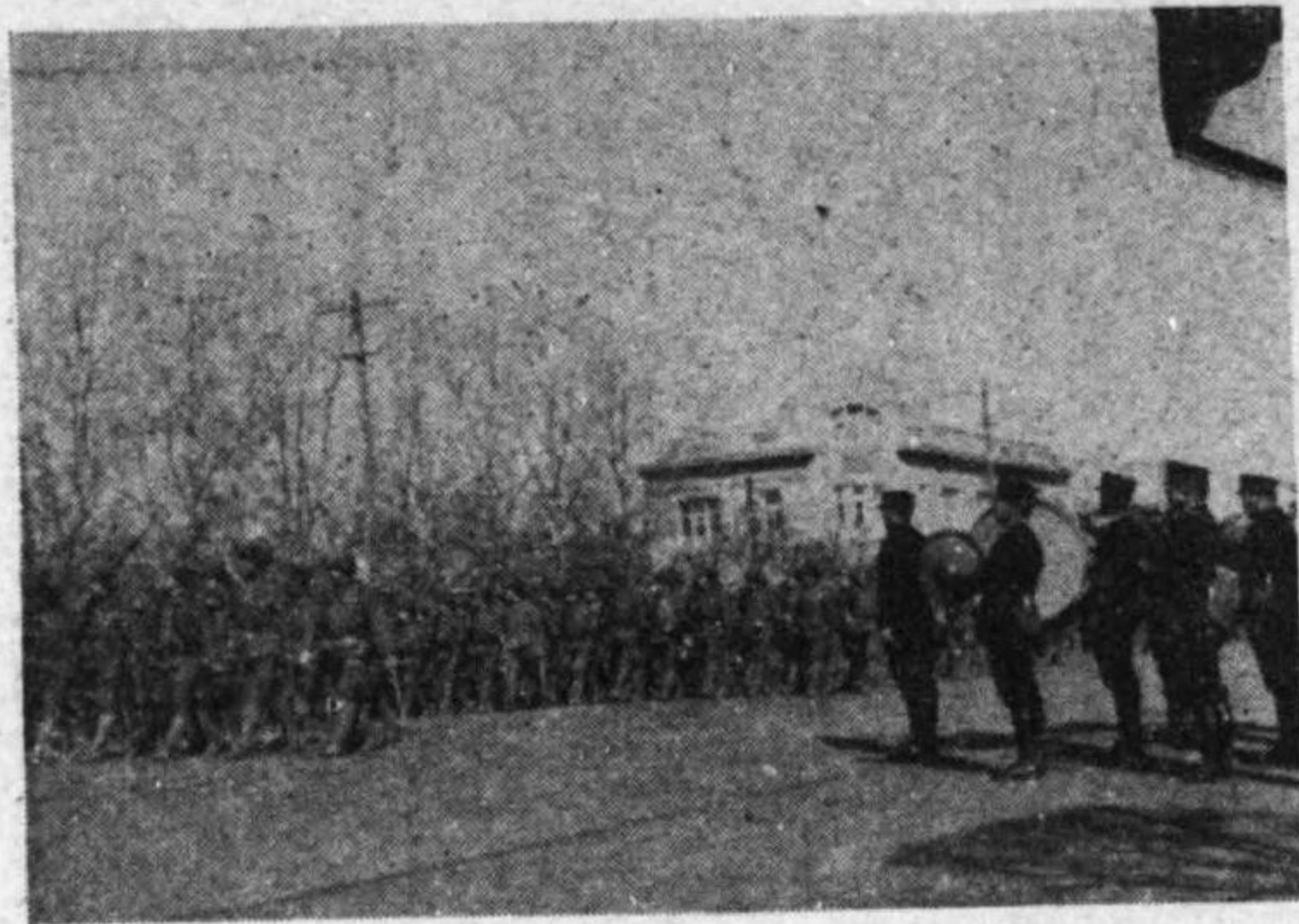
意義ある演奏會の開催、後援、同講演會、展覽會の開催等を行つてゐる。

【祝辭】 二百萬の人口を擁する我が大阪が經濟の都として、産業日本の代表都市として國際的に、又國運消長の上にとれほど重大な位置を占めてゐるか、といふことは今更申すまでもないことである。しかし、それは大空を工場、煙で蔽ひ盡すところの大阪であり、心齋橋を人の流れで埋め盡すところの大阪であり、到る處、リベッツティングの響とアスファルトの煮え立つ匂ひを絶やさぬ大阪である。

これは、まさに、めまぐるしいばかりの都會の交響樂といはふか、今や世界第一流の都市と肩を列べてゐる。大阪の盛大さは御同様同慶に堪えない次第である。しかし乍らこゝにたゞ一つ我等の遺憾に堪えない事があつた。これ程大なる都、これ程事業の發達せる

活氣横溢の大阪でありながら、全市民の情操を豊かにし、又その教養を高むる爲めの補導機關が貧弱である點だ。しかも今日の社會の如く、あらゆる仕事機械化し各自の生活テンポが速められて、四六時中身も心もたゞ駆けずり廻つてゐるやうな状態に置かれてゐる時代にあつては、お互にエネルギーを消耗し、神經を疲勞さす事實に、大なるものがあり、これを恢復させる爲めに音楽演劇の如き社會施設としての民衆娛樂が、立派なる企業領域を占むるに至つたと言ふも過言ではない。がさて、今日、世に行はるゝ民衆娛樂の企てが我が國民性や、社會の實狀や、又國家的見地から見て、果して健全なるものばかりであるかどうかと云ふことは非常に問題であつた。が内務省は國家社會の安寧風俗を維持することを限界とし、それ等の檢閲を厳かにして居るのである。斯様に公的機關は社會の情操教育資料たる音楽や映畫につき、積極的に、又消極的に、正しき指導を怠つては居らぬが、大衆としてこの種運動は未だ殆んど芽を出して居ないといつてもよい程、幼稚な状態である。わけても洋樂や、和樂、民謡流

行歌等と混亂に混亂を極めてゐる音樂會の現状にあつて、世の大衆に對し正しき目標を與へるといふ機關は、殆ど缺如してゐると云ふことが出來やう。斯るが故にこの社會的缺陷を補ふと共に、世界の大都會である我が大阪に於て、音樂による文化運動の眞面目な烽火をあげ、大衆音樂教養を高むることと、正しき道筋によつて良き音樂の



昭和七年二月皇軍慰問の間爲満大る市音樂隊

普及を圖る事に専心せられん事を、望む次第である。

★大阪洋樂界の變遷

洋樂創始時代

◆大阪に於ける洋樂は明治二十一年三月の陸軍軍樂隊の設立(前身は大阪鎮臺軍樂隊といふ)に根源を發してゐる。即ち同年永井建子樂長以下五十名の樂員が東京より來阪し、大阪鎮臺附屬となり時の鎮臺司令官は大いにこれを宣傳し、屢々行軍といふ名稱の下に市内の目抜の場所を演奏し乍ら行進し時には學校等で演奏した。

◆かくする中に洋品店や時計店等で店飾りとして、手風琴が次第に陳列されるに至つた。勿論當初の手風琴は鍵が十組しかなく、半音を出すことは出來なかつたが、まもなく十九キイのものが入入るゝ様になり、民間洋樂として廣く流行を來した。其頃軍樂隊の甲賀良太郎氏が同好者を集めて手風琴を教へたのが因をなし、鼓勇會が成立し憲法發布の祝賀會には手風琴の樂隊を以つて市中を練り歩き大喝采を博したと云はれてゐる。ついで手風琴が次

第に下火となり、ヴァイオリンが之に代るに至つた。

◆當時神戸の商館にゐた葡萄牙人ウツト・ホールが、ヴァイオリンを教へてゐたので、大阪軍樂隊の樂手數名が毎週一回宛神戸に行きて教へを受け、彼等も亦修得の上これを同好者に教へて傳播させた。二十四年頃、前記鼓勇會の會員が陸海軍の不用樂器の拂下げを受け、關西音樂團と云ふ會を起して同好者に教授した。その他中央音樂團と稱する演奏團體が生れ、又その會員であつた風早理吉氏がマネージャーであつた。少年音樂隊を拵らへ、單に自己の娛樂のみならず、公共團體、慈善事業、學校等にも無報酬で出演した。この時代小學校では既に唱歌を教へてゐたが極めて幼稚なもので市内の學校でもオルガンを備へ付けざる處が多く、ピアノは僅かに渥美小學校に一臺と博物館に一臺あるに過ぎなかつた。併し宮内省雅樂部に居つた多梅雅氏が師範學校音樂教師として來任、諸處に講習會などを開いて教育の方法を講じ、その弟子達が小學校の音樂の教師となるに及び、オルガンは次第に普及した。又米國人オルチン夫妻の如き、その功勞

者なりと云はれてゐる。明治二十四年には船場に關西音樂株式會社と稱するものが出來、音樂を組織し所謂職業的な樂隊の祖となつた。

◆かく洋樂が次第に普及され初めた時は二十七年、八年の戰役となり、樂隊は士氣を鼓舞する爲に活躍し、平和克復も凱旋祝賀會等に大いなる奮闘をつけた。三十六年內國勸業博覽會の開催さるゝや、一般市況も活氣を呈し、樂隊は頗る多忙を極むるに至つた。博覽會場では陸軍の軍樂隊が二十五名宛二隊に分れ、日夜演奏する外に、眞如音樂隊と稱する相當技術の揃つた民間音樂隊も現れ、又時折は

◆外國軍艦の軍樂隊も會場で演奏した。恰もこの博覽會の閉會後日露の交戦となり、大阪に於ても出征將士の送迎の爲め、自ら樂隊が盛大となり、第四師團の軍樂隊は第二軍及び第三軍に附屬して、士氣の鼓舞慰問に任じた。

管絃樂創始時代

◆この頃永井幸次氏・大村恕三郎氏・高濱孝一氏・大橋純二郎氏等の音樂家が相前後して當地に移住し、或は學校

に、或は一般家庭にその得意とするところを教授し始め、絃樂器方面が追々勃興して來た。戦後の三十九年に至り初めて前記の大阪在住音樂家と軍樂隊の人達が協同して大阪音樂協會を組織した。當時の第四師團軍樂隊長、小島賢八郎氏を指揮者として、その年の十二月三日に中之島舊公會堂で管絃樂の演奏を公開した。これ大阪に於けるオーケストラの嚆矢であり、純粹な洋樂演奏會の最初である、この小島氏は永らく第四師團軍樂隊にあり、指揮者及アレヂヤイとして大阪の洋樂界に盡せし功績は大であつた。

◆これと相前後して當市音樂教員を中心とする七聲會なる音樂研究團體が組織され、永井幸次氏を指揮者として當市洋樂の普及に従事し、同會の主催で演奏會を開いた事も少くない。四十年の夏大阪朝日・大阪毎日・大阪時事の三新聞社の主催で大阪音樂協會と東京音樂協會と東京音樂學校の人達との合同大音樂會が開かれ、之は聽衆堂に溢るゝ盛會であつた。四十三年日英博覽會開かるゝや、出演旁々歐洲音樂界見學の目的を以て遣英樂手團を組織

大正年代の洋樂

し佛國を経て英國に赴いたが、大阪軍樂隊からも多く之に参加した。その參加者達は歸朝後大阪にも是非演奏をなさねばならぬと云ふ意見を盛んに述べた結果、師團と市との協議成り、四十四年から天王寺公園で公開演奏をなすこととなつた

◆併し洋樂の發達は明治時代は概して微々として振はず、大正時代に入つて急速度の進歩を示した。即ち大正初年に於て、當時財界に活躍してゐた増田信一氏は、阪神在住の音樂家三十餘名を泉北郡羽衣の自邸に招いて大村恕三郎氏を指揮者とする羽衣管絃團を組織し、その華麗なる演奏は、大阪樂壇に貢獻する所が少くなかつた。同團は又著名音樂家を聘して洋樂普及に盡瘁し五年東京音樂學校提琴教授安藤幸子女史を招き、同女史と合同してその

◆第一回發表演奏會を大阪北濱オペラ座に開き、ついで世界大戰に基づく遠洲演奏場閉鎖の結果、我國に流轉して來た多くの世界的音樂家を漸次大阪樂壇に紹介した。前記永井幸次氏は大正

四年幾多の苦難と戦つて大阪音楽學校を設立し、爾來關西に於ける唯一の音楽學校として、振はざる本市の樂壇に盡してゐる。

◆大阪音楽界の進運に貢献する所深き第四師團軍樂隊は、軍備縮少の犠牲となり、大正十二年廢せられたが本市は之れを繼承して大阪音楽隊を組織し樂長林亘氏指揮のもとに市民に公開演奏をなし、又大正三年四月に創始せられた兵庫縣寶塚の少女歌劇も本大阪市の洋樂普及に寄與した所多大である。

最近の傾向

◆斯くして大衆性を帯びた大阪音楽界は明治・大正・昭和と年を追ひ洋樂の進歩は急角度に進展したが、大正始めより市民大衆音樂の基礎としては、艶歌の流行を見、青年學生間にはハーモニカが、片西正太郎、松尾倉三氏等によつて活躍を示した。ピクチャー、ニッソーレコード生るや俚謡、歌謡曲、ジャズの今日盛んなるべき因源をなしたこの間中之島公園音樂堂が生れ、大阪毎日新聞寄附に成る天王寺音樂堂には前記大阪市音樂隊本部が設かれ、

◆朝日新聞の朝日會館等、音樂演奏に最近の大ホールが漸次建設さるゝに及んで、東西の名人を集めて之れを聞くを得た事である。大正九年ピクチャー會社が入り、洋樂に世界的傑作レコードが漸次發賣され、大正十四年大阪中央放送局開設に及んで市民の音樂鑑賞力に多大の影響を與へられ、近代化學の力により東西洋の名演奏を居乍らにして聴くの便を得るに至つた。

★活躍期に入れる

教育音楽

◆近來やかましく云はれてゐる教育音楽は、社會と兒童との絶えざる相對によつて現實に即して改定を加へられつゝあるが、結果として過去を大體に於てこれを三分することが出来る。當時その第一は、明治時代である。當時は「西洋音樂模倣時代」で何でも彼でも唯洋樂でさへあればよいものとされ主務省に於ても洋樂一本調子で進んだ第二は大正の「童謡時代」である。猫も杓子も童謡でなければならぬ様に、これを教材として取扱つたが第三の昭

和時代に至つて、漸く一般大衆の音樂鑑賞力が高まるに及び、その反影として兒童を對象とした教育音楽も、嘗ての模倣時代、童謡時代のよい所のみを攝取して、所謂教育音楽の活躍期に入つた。即ち文部省に於ては、特にメロデー、リズム等に重きを置き改良に改良を加へるに至つた次第である。

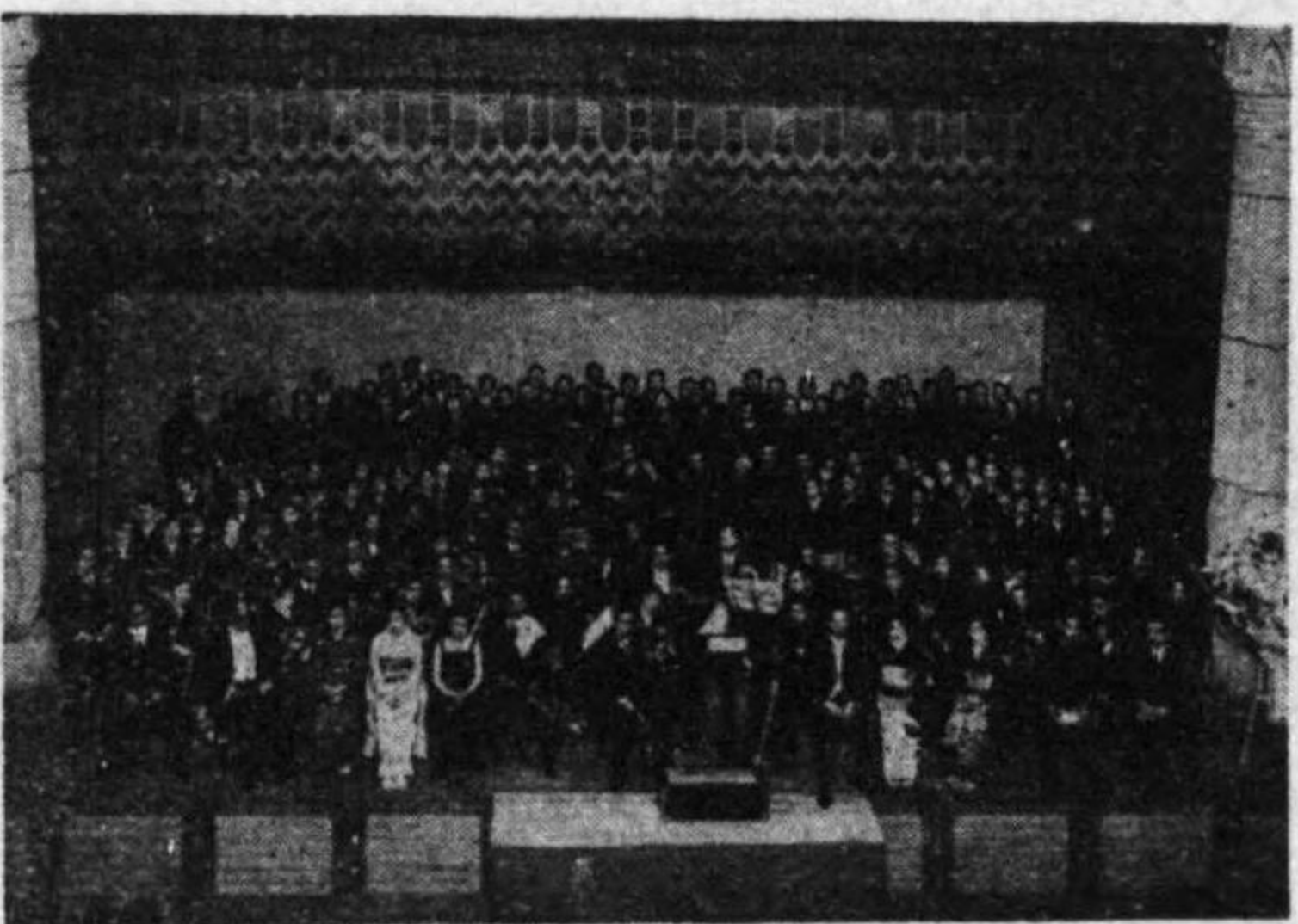
◆由來教育音楽は商都の大阪に於ては概して目立たなかつたが、大正末期より氾濫し出した流行歌の歌詞、曲等の中に、兒童に悪影響を及ぼすもの少なく、心ある世の識者を嘆かしむる結果となり、先づこれが適切な善導の要あるを叫ばれ、かくて立つたのが友聲會、大阪市教育研究會又は民間の大阪童謡協會等であつた。一方放送局に於ても小供の時間を特にこの方面に意を用ひ、指導方法として東京音樂學校教授及び斯道の大家を招じてこれが研究に努める傍ら或は合唱會を開き、且◆實際教育家をして演奏に當らしむる等只管これが指導方法、並に教材の研究に資する所が多くなつた。尙個人的方面では、日々兒童に接觸してゐる兒童音樂研究家、作曲家達が、當地在住の

詩、童謡作家達と提携して、兒童達が惡影響の多い流行歌に引かれる原因を探究、從來の學校音樂の缺陷を補はんが爲、歌詞、メロデー、發音、アクセント等に留意してこれが改革を行はんとする熱が漸く熾烈になつて來たことは本市の斯界の爲同慶とすべきである

一般演奏團體

- 〔大阪市音樂隊〕 天王寺區天王寺公園内音樂堂電話七番△創立、大正十二年大阪市の補助により成る△樂長、林亘△樂部員、二十一名△演奏、土曜日、日曜日、祭日◎春秋は晝間午前より、夏冬は夜間午後六時より公開演奏を爲す。
- 〔大阪音樂學校同窓會合唱團〕 東區味原町五九同校内△創立、昭和九年四月△會員、百五十名△指揮者、長井齊◎大阪在住の者にて大阪音樂學校卒業者を以て組織す。
- 〔大阪音樂學校合唱團〕 東區味原町大阪音樂學校内△創立、大正四年十月△指揮、長井齊。
- 〔大阪放送局交響樂團〕 J・O・B・K内△創立大阪ラヂオオーケストラ、寶塚シンフォニーと合同せし時。
- 〔大阪ラヂオオーケストラ〕 天王寺區上本町九丁目大阪中央放送局内、電話天王寺五一一△創立昭和八年三月△樂部員、十六名△指揮、福喜多領雄
- 〔大阪ブラス・バンド〕 浪速區日本橋筋五丁目、竹中庄三方△代表者、竹中庄三△部員、八十名◎大阪に於けるアマチュアを主體とする吹奏團。
- 〔天王寺商業學校ブラス・バンド〕 天王寺區鳥ヶ

辻町△指揮、高丘正龍△創立、昭和一年△人員、六十名◎演奏回数數世回(一ヶ年平均)



大阪音樂學校合唱團

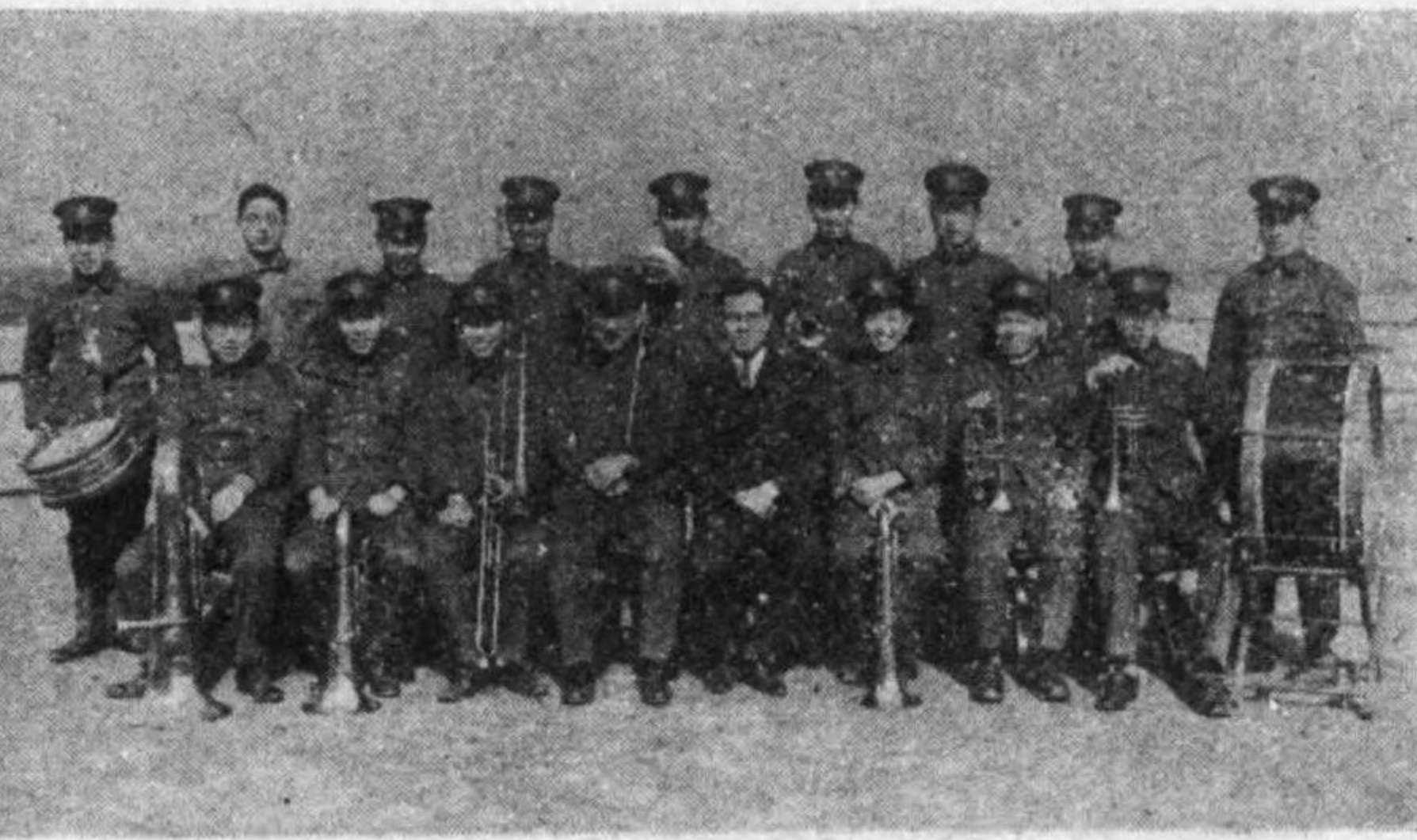
〔大阪齒科醫學專門學校音樂部〕 市外牧野村△創立、大正十五年△部長、鈴木芳夫△指揮、平岡昌夫△部員、四十名。

團名	事務所所在地
喇叭隊	北區木幡町西天滿小學校内
又ハブラスバンド	東區高麗橋三越内
西天滿喇叭	東區本町二丁目丸紅商店内
三越	東區本町四丁目伊藤萬商店内
丸紅	東區本町二丁目日稻西合名會社内
伊藤萬	東區本町二丁目日稻西合名會社内
西天滿	西區江戶堀南通四丁目江戸堀小學校内
江戶堀	西區中通二丁目朝小學校
朝小學校	西區立賣堀南通一ノ二一金光教會内
金光教會	

音樂・舞蹈——工場・商店音樂演奏團體

五〇四

- 西 六 西區新町南通四丁目西六小學校内
- 三軒家第一 プラス 大正區三軒家東三丁目三軒家第一小學校内
- 三軒家第三 プラス 大正區大正通二丁目三軒家第三小學校内
- 泉尾第二 唎 大正區泉尾町泉尾第二小學校内
- 桃 園 南區東區町桃園第一小學校内
- 惠美第一 眞速區惠美須町三丁目惠美第一小學校内
- 常 盤 プラス 住吉區天王寺町常盤小學校内
- 金 塚 プラス 住吉區旭町三丁目金塚小學校内
- 丸 山 プラス 住吉區丸山町一丁目丸山小學校内
- 港 南 住吉區北加賀屋町敷津第二小學校内
- 西成區聯合 唎 西成區千本通三丁目西成區役所内
- 西 市 唎 港區音羽町市岡第六小學校内
- 吾 妻 ラッパ 港區吾妻町三丁目吾妻小學校内



住友電氣吹奏樂團

均)△服制、青年團服着用◎毎月一回従業員の情
操教育慰安の爲め定期演奏會を行ふ。經費は會社
支拂す。

〔大阪本町吹奏樂團〕△參加商店、伊藤萬商店
丸紅商店、稻西商店△創立、昭和十年十月廿五日
△代表者、伊藤萬次郎(伊藤萬商店)三木常務(丸

紅商店)廣瀬支配人(稻西商店)△指導、菅野國太郎、永井巴△服制、青年團服着用△人員、約百名
〔大丸ビビリコーラス團女子部〕△創立、大正十四年四月△指揮者、福田トク子△人員、三十名
〔大丸少年團ブラス・バンド〕△創立、昭和二年春△人員、廿名△指揮者、副島◎店員慰安の爲の演奏
〔大丸マンドリン・ギター演奏團〕△創立、昭和五年春△部員、廿五名△指揮者、副島
〔大丸男聲合唱團〕△創立、昭和五年四月△部員三十名△指揮、野島進
〔そごう合唱團(女子)〕△指揮、坪井△部員、三十名
〔そごうマンドリン合奏團〕△創立、昭和四年十月△指揮、坪井△部員、十五名
〔そごうブラスバンド〕△指揮、中畑△部員、十名
〔阪急百貨店音樂部(マンドリン合奏團)〕△創立、昭和八年五月△指揮、直木△部員、二十名
〔山發商店音樂部〕東成區小橋北之町二丁目五八△創立、昭和八年十月△指導、永井巴△部員、十二名

宗教音樂演奏團體

〔大阪教會聖歌隊〕西區江戶堀電話三五〇七〇△指揮、岩田豊太郎△人員、四十名
〔天滿教會聖歌隊〕北區天滿電話堀川五五七六△人員、二十名
〔大阪コーラル・ソサィテイ〕(宗教音樂研究團體)
〔大阪ゲミシユテン・コーラル〕(宗教音樂發表團體)

工場・商店音樂演奏團體

〔住友電氣吹奏樂團〕此花區貴島南之町住友電線製造所内電話七九八番△指導、小原富男△創立、昭和八年十月十日△代表者、西村晋太郎△人員、三十名△演奏回数、三十回(一ヶ年平均)

〔オトリオ・ソサィテイ〕(大阪基督青年會内)△創立、昭和九年四月△指揮、保科一雄△人員、四十名
〔大阪Y・M・C・Aオーケストラ〕△創立、昭和七年五月△指揮、野島進△人員、二十五名◎宗教音樂の研究並に發表、教會員に限る。

音樂機關團體

〔大阪音樂學校〕東區味原町九九電話南五五三番△第一分會場、東區本町二丁目電話本町五七四△第二分會場、北區阪急前
大正四年創立し、昭和二年校會を改築し、次いで昭和四年増築。昭和八年財團法人の認可を得、大阪府より本校卒業生には小學校專科正教員の免許狀を無試験にて下附される資格を得た。昭和九年度よりは中等學校程度の初等科を新設した。
(一)學 科
初等科(二年)、中等學校程度の教育△豫科(一年)、本科入學の豫備教育△本科(三年)、聲樂、器樂、作曲の三部に分る。専攻科(二年)、中等教員養成△研究所(一年)卒業者の研究機關△選科、音樂の實習のみ(晝又は夜間)
(二)入學資格……豫科は乙種實業學校卒業者又は中等學校四年修了以上の者。専攻科及本科は中學校、高等女學校、甲種實業學校卒業者及專門學校入學資格檢定試験に合格せし者。選科は制限なし
(三)入學試験科目と程度

音樂・舞蹈——音樂機關團體——コンクール

五〇五

口頭試問及體格検査の外以下の試験を行ふ△豫科、唱歌(音階及び新曲視唱)ホルン・ユー・ブレンゲン)音樂理論及び器樂(ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、チェロの内)、程度自由△本科及専攻科、唱歌(新曲及ホルン・ユー・ブレンゲン)及び器樂(ピアノ科、ツェルニー三十番修了程度、ヴァイオリン科及チェロ科は任意の曲)

(四)授業料及校費……(樂器使用料を含む)合計額初等科及豫科、年額八十八圓。本科及専攻科、年額百四圓五十錢。研究科、年額八十八圓、選科、五十五圓
(五)特 典
卒業生は、大阪府より無試験にて小學校音樂科專科教員免許狀を下附さる。
(六)校長……永井幸次
(七)教 員
△ピアノ、永井静子、長谷川さく子、永井潔、富澤義海、加藤剛、辻正子△ヴァイオリン、田中平三郎、清水産二、兩角龍吉△チェロ、伊達三郎△オルガン、砂場一郎△聲樂、永井八重子、島田英雄△作曲、宮原順次△理論、永井幸次、朝日泰隆、瀧熊吉
(八)生徒 數 約二百五十名
(九)其他學校の合唱團はよく知られてゐる。

〔大阪音樂協會〕北區與力町二丁目山本爲三郎事務所内△理事長、山本爲三郎△常任理事、奥屋熊郎、永井幸次
△創立、昭和八年
翌昭和九年四月、大阪朝日會館に於て發會式記念音樂會を開催し、大阪に於ける良き音樂を紹介又は推薦し、音樂鑑賞に正しい目標を與へ、一般

コンクール

〔大阪音樂コンクール〕大阪日々新聞社主催◎山田耕祥氏を審査長とし一般大衆から音樂に堪能な人を募る。昭和八年第一回、昭和九年第二回が行はれた。
〔大阪音樂コンクール〕大阪日々新聞主催一年一回。

音楽事業團體

〔社団法人朝日新聞社會事業團〕

電話北濱三五〇番

朝日會館に於ける著名音楽家の演奏

昭和十年一月二十日 渡歐告別 川畑文子舞踏會、主催渡歐俱樂部、思ひ出のニューヨーク外...

十一月二十日 交響樂大演奏會、指揮近衛秀廣、管絃樂寶塚交響樂團、獨唱ネトケ・レヅエ夫人...

音楽ホール一覽

- 〔大阪市中央公會堂〕 北區中之島一丁目電話北濱一七番△定員、二千五百名

邦樂

長唄

長唄は元上方即ち京阪に生れ貞享元祿の頃上方の三味線彈杵屋によつて江戸に移され、江戸歌舞伎の發達に伴ひ...

音楽・舞踊——邦樂——長唄

れた。この會名は杵屋六玉の號「玉調」と成駒屋から一字宛とつて合せたもので、飽くまでも長唄發生地たる上方にあつて邦樂發展に貢献せんとする大阪に於ける最初の邦樂團であつた。

〔長唄界に於ける主なる人物〕

- 今藤長十郎門弟 △今藤長三郎(宮井文雄) 大阪市西區阿波座下通一四一

- △芳村伊十郎(門政一) 大阪市西區南吉田町五〇
- △芳村喜三郎(門 馨) 大阪市西區南吉田町五〇
- △松永和楓門弟 大阪市西區南吉田町五〇

- △杵屋東治(山田七郎) 大阪府下清寺町下杵屋和吉方
- 杵屋勝五郎門弟 大阪市南區周防町一七
- △坂田仙次(串崎千代) 大阪市南區高津九ノ一五
- △杵屋勝重(河村恒太郎) 大阪市南區高津九ノ一五
- 杵屋勝太郎門弟 大阪市住吉區天神森三二
- △杵屋東吉郎(中西新兵衛) 大阪市住吉區天神森三二
- 杵屋正治郎門弟 大阪市浪速區元町三ノ一八六
- △杵屋正陸(福井作次郎) 大阪市浪速區元町三ノ一八六
- △杵屋彦四郎(小村竹之助) 大阪市東區船越町二ノ五一
- 杵屋彦之助門弟 大阪市東區船越町二ノ五一
- △杵屋彦作(大塚誠二) 大阪市港區尻無川北通三ノ一四

常盤津

常盤津は今から約百八十年程前に常盤津文字太夫と名乗った人の、常盤津といふ姓をとつて流名としたのである。今日でも常盤津文字太夫と名乗つてゐる人が居る。つまり初代からの藝統を傳へて、七代目に當る譯である。所でこの常盤津節なるものは發達につれて豊後の一流が特に大人氣を博した。併し一面これが爲に心中や駈落が多くなり、風儀を亂したとの理由で、一時淨

瑠璃興行を禁止されたことがあつた今から約百九十餘年前のことであるがその後常盤津は大阪淨瑠璃の一變型として江戸の地に移植された。それが明治時代に入つて更に東京から大阪に逆輸入されたのである。即ち明治三十五年團十郎が梅田歌舞伎座に來たのがその最初であり、その後名人常盤津林中が來阪し、専ら花柳界に教へた。後二代目林中と甥の文字八は北と堀江の藝妓を教へた。尙常盤津松尾太夫は太棹にて新町に、常盤津文字兵衛は三味線にて南地に、常盤津家文字太夫は南地の一部を教へた。この他常盤津文賀太夫は芝居のみで語り、前者は廓のそれをリードした。この常盤津から後に富元が分れ、富元から清元が分れたが、常盤津が一番古い丈に鈍重の風格を備へてゐる。それだけに又テンポの早いことを好む現代人の生活に受け入れられ難く、大阪の現在の常盤津界と云つても、一般市民の生活とは縁が遠く殆ど玄人筋の一部に限られてゐて、而も眞面目に斯界の達人を求めても數ふるに足りない寥々たる現状にある。

常盤津會の主なる人物

常盤津文字理都(星野清) 大阪市東區區員脇町六七

哥澤

歌澤は創立後まもなく寅右衛門派(歌澤)と芝金派(哥澤)とに分れ兩々相對峙して行はれて來たが、昭和二年五月に芝金派社中の大半が家元四代目芝金(柴田錦)に對して不信任を表し同人の實姉で芝の三絃方を勤めてゐた芝勢以(柴田清子)を擁立して家元と仰ぐことになつたので芝金派と芝勢以派との二つになり寅派を加へて巴と恰も歌澤の定紋の如くに三分することゝなつた。しかしこれらは殆ど東京での狀況で、大阪では特に記すほどのものがなく、僅に芝勢以派の師匠が十指を屈するに足りない現状である。

芝勢以派

- 歌澤芝爲代(松緑會) 大阪市西區北堀江上通四ノ二
- 同 芝龜(松笹會) 大阪市東區南本町一ノ一五
- 同 芝虎壽(松壽會) 大阪市東區高麗橋通五ノ八五
- 同 芝勢都(松巴會) 大阪市南區笠屋町二一

歌澤小芝太夫(木公會)

- 大阪市北區會根崎上三ノ三六
- 同 芝都滿(松翠會) 大阪市南區安堂寺橋通り四ノ一六
- 同 芝勢以代(松園會) 大阪市南區高津四番町卅一
- 同 芝龜勢(松輪會) 大阪市東區内平野町二ノ七三

清元

清元の初代が宮本齊宮太夫の門から出で、文化の末年に獨立して清元を創止した。

現在に於ける清元界は宗家派(高輪派延壽太夫派)と梅吉派(清元派)とに分れてゐる。待遇問題のことから大正十一年に分裂して當時延壽太夫父子を目標として梅吉、家内、喜久以下男門弟の八割は脱退組に加つて藝界の一問題となつたが、其後は對立して兩派共太夫三絃手を多く養生してゐる。そして高輪派の方はあくまで技藝本位に立脚して保守的な態度を持してゐるに對して、梅吉派は現代的思潮をも取入れて作品に演奏會に大衆藝術振りを發揮してゐる。

もので明治の中期に故清元順三が始めて清元の妙味を教へた。その後家元清元延壽太夫が出て紳士階級を教へ、清元梅吉は清元流をもつて廓芝居方面を指導した。地域的に見れば延壽太夫、榮壽太夫は北と新町に、そして梅吉は南を教へたのであつた。

三絃の部

- 清元壽三郎(平井菊太郎) 大阪市西區北堀江御池通二ノ三
- 同 延吉(栗谷貞治) 大阪市北區堂島船大工町一八

小唄

昭和の始め、田村金、春日豊玉、堀小壽賀等が來阪して、今日の大阪小唄界に主きを爲してゐるが、大阪生え抜きのものに小西派、藤村派、柏派の三派がある。田村金、小唄幸二、春日豊玉等は南地檢番の小唄師匠として其妓を指導してゐる。

元小唄は明治の中期に東京の花柳界で盛んであつたが、大正末から昭和の始めに大阪の花柳界に流行し始めた。曲目としては「後朝の別れ」、「待つ身のつらさ」、「堰かれた逢瀬」といつた

様に主として切々たる戀情を唄つたものが大部分なので、長唄の如く上流家庭の子女に普及は困難で、従つて花柳界を主體としてゐる。何うして近時小唄が流行し始めたかと云ふに、メロディの冗長に倦み切つた大衆は、リズムが簡楚で手取り早く覚えられ、且つ御座敷で即席利用が出来るところからその勃興となつたのが争へない事實であらう。

浪曲

浪曲界に於ける機關團體として全国的に權威あるものに大阪の親友派がある。これは浪曲家と經營者との合流で今日の浪曲界に盡して居るが元來浪花節は日露戦争當時は非常に榮えたが大正に及んで次第に衰へ、昭和に至つて再び勃興した。これは音楽の場合に見る如く、ラヂオの放送によつて、遍く大衆に呼びかけた爲であつた。浪花節は新題材を利用して新作文藝物又は教育的な所謂インテリを對象とする新人派と、在來の舊物(時代)一本調子のもとの二手に分れてゐるが、前者に屬するもので、著名な浪曲家を掲ぐれば、

宮川松安、天中軒満月がある。松安は凡ゆる題材をかみこなす第一人者として知られ又満月は新文藝物としての浪曲手として一般に期待されてゐる。次に廣澤駒藏、日吉川秋水、二代目奈良丸等が舊物の代表を爲し、碎けた舊式一派である。更に女流浪曲家のナンパーワンとしては富士月子があり、特に忠臣藏義士傳物もよくする。京山小圓、京山百合子、幸枝等がこれに次ぐものである。尙別派新人としては酒井雲が文藝物を語つて人氣がある。

大阪放送局が開設せらるゝや、放送協會は第一人者を選んで中繼放送せしめたが、これが爲に地方に於ける全國の寄席浪曲は次第に不入りとなり、これ等興行當事者の大脅威を來し、三流四流に至つては生活の脅威を感じるに至つたので、前記關西親友派は結束を固うして放送局に二流三流をも同様放送せしむる様要求したが、結局容れられず、爲に斷固その出演を拒絶して今日に及んでゐる。

あるが浪速が生んだ浪花節は、今や單に關西のみならず、その古代大和民族を象徴する民族的藝風は國粹精神勃興の波に乗つて凡ゆる全國都鄙に行き涉らんとしてゐる。

箏曲

榜してゐる當道音樂會本部は明治三十八年に菊富、菊塚兩檢校と中平福之助の三人が創立されたものであるが、後菊原琴治が、本部長となり、大正八年には中平が退會して別に日本當道音樂會を組織した。右の菊原、中平及岸間祥光の三人は大阪に於ける最も秀れた箏曲家であつた。又早くより重音式箏曲に目をつけ、横書本符式の樂譜を考案せる奇才菊好檢校がゐた。併し大阪に於ける箏の新作は、あまりに作家が輩出したため、漸く月並となり次第に人に倦かれた。その後尺八の發展により三曲合奏が盛んとなり、大正に入りて京物の手事も流行し來り、再轉して大正末には所謂新日本音樂が擡頭する氣運を招來するに至つた。ともあれ、古き傳統と習慣を持つ箏曲界も、續々現れる先覺者によつて漸次改革が行はれ、昭和年間となつて新興藝術としての一大分野を占むるに至つた。

特にラヂオと著音器の普及と一般人士の藝術教育の向上によつてすべての音樂は日に日に盛んとなり、昔は遊藝として婦人の樂しみの一つとして行はれ、専門家としては管官社會の業として

て發達した箏曲地唄も、近年晴眼の士殊に學校教育を受けた人が、これに携はるに至つて益々箏曲界は向上發展しつゝある。

當道音樂會(創立明治三十八年)

代表者 菊原 琴治

大阪市西區薩摩堀東之町四三

電話新町四二三三番

役員 理事、商議員、代議員

會員 大阪府下約五百名

事業 樂譜出版、演奏會

公演、女學校に樂曲科設置の促進運動講習會講演會開催等。

尺八

尺八は明治維新に際し虛無僧の特權が廢せられ、尺八が一般人士の間に自由に扱はるゝに至り、關西に於ては近藤宗悦が普及せしめた。かくて明治の中頃には大阪に中尾都山が現れ、都山流を起すに至つて其の勢力は著しく發展し、琴古流と相對して尺八界の二大勢力をなす有様となつた。猶大阪には都山流より出で、一派をなし家元となつた上田芳愷、酒井竹保の二宗家が現代大阪の尺八界に君臨して春秋の斯界樂壇を賑はしてゐる。

〔尺八の一人者〕

井上黃山(都山流大師範) 東區谷町四ノ三六
上田芳愷(上田流家元) 府下豐能郡小曾根村三二四

酒井竹保(竹保流宗家) 東區清水谷西之町三七一

舞踊

日本舞踊

大阪には元來大阪独自の舞があつた併しそのうち、中村・小川・松川の諸流は早く亡び、明治、大正に入つては山村と榎茂都とが行はれてゐる。前者は大體文政年間に始まるものゝ如くそれは舞の傳統を豊富に受継ぎ、指す手引く手無駄のない、女性本位の優しい舞である。坪内博士は之に就いて「同じく本行かかるといつても、片山流や藤間流のそのやうに、強ち直線式でもなければ、男性的でもなく、又舞臺藝術式でもなく、いはゞ正楷で行くべきところを草書、女文字のやまと假名で行つたと云ふ味ひが面白い」と書いて

てゐる。併し山村流には家元がなく、又男の名取弟子を作らなかつた爲めに廣く大阪の家庭に喰ひ入つてゐるに拘らず漸次衰退の兆を示し來つた。九郎右衛門町の山村らく、新町の山村とも等は純粹に山村舞を傳承せる最後の人であらう。

榎茂都流は明治の初め、初代棋茂都扇性が三十歳の時に編み出せるもので梅の浪花の縁で棋茂都と名付けた。彼は晩年には新町の廓の振付師となり、其の子の二代目扇性は益々之を發展せしめて、俳優の振付をも行ひ、其の子の陸平は寶塚歌劇を指導した。此流派には特有の音譜と舞の譜とがあり、舞臺舞に進出したゞけ御座敷舞としての山村流より稍々元氣に満ちてゐる。

西川流は天保年間に西川鯉三郎が京阪舞と江戸踊とを合せて研究し大成せるもので、其名弟子に西川幾があり、幾の娘に嘉義がゐた。嘉義は四十一年に門弟嘉幸を伴つて上京し始めて西川流を東京に紹介し、翌四十二年大阪南地の懇望で出稽古に來り、四十四年に堀江に移り、大正三年に堀江のこの花

踊が始まると共に第七回の公演の稽古まで続け、十年三月その稽古場で五十八歳の生涯を終った。又同じく鯉三郎の弟子である石松は主として北の新地に西川流を植えた。

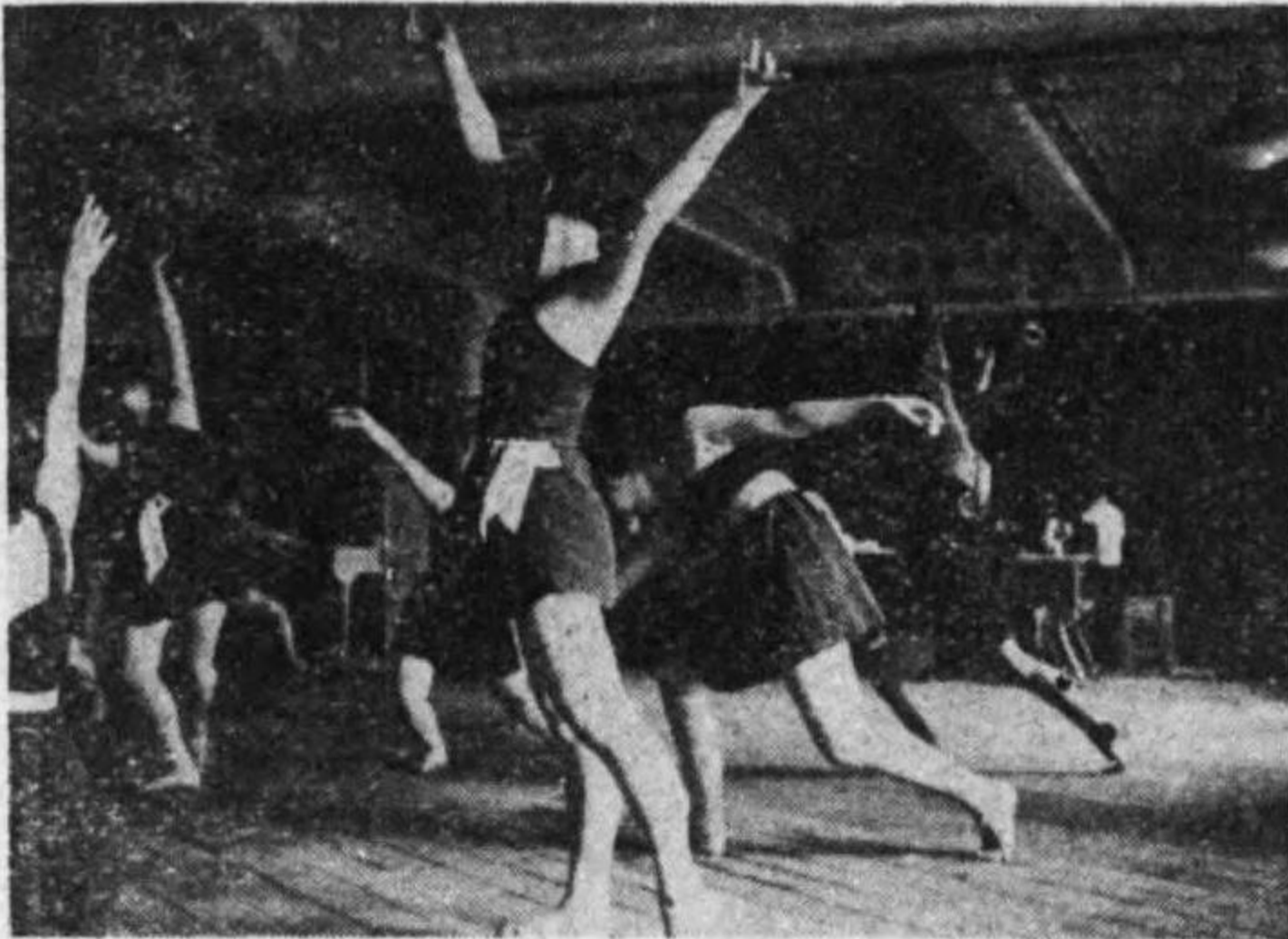
花柳・若柳流・東京の各流では嘉永頃に興った花柳流、これから分派した若柳流及び古来から傳はる藤間の三流が最も廣く行はれてゐる。藤間には勘十郎と勘右衛門との二派があつて何れも優勢である。その外坂東流・水木流中村流等もあるが、大阪に侵入せるものは主として花柳・若柳の二派であり其派手な踊り振りは優にやさしき大阪舞を蠶食し、特に關東震災後は、徹底的に大阪舞を駆逐せんとする勢を示してゐる。

新舞踊

大阪に於ける西洋舞踊も近年急角度の躍進振り鮮かにその成果をおさめつつあるが、舞踊の會と云へばどんな駆け出しのお嬢さんの発表會でもはづれつこなし、と云ふ景氣になつて來たのも、勿論一つは時勢の力であり、大勢

の人間の努力で一致した爲めであるが先驅者の不撓の精進を續けて來た事が有力な原因であつた事を認めねばなるまい。

日本舞踊として將又西洋舞踊として關西に於ける權威は棋茂都陸平であり大正四年寶塚歌劇學校の舞踊講師として關西の良家の子女を教導した。以後山村門下の山村茂子が鶯春會を主宰し



大阪の石井漢舞踊研究所

兒童舞踊研究としては大阪朝日のアサヒ・コードモ・アテネ。國民童謡研究會等が立ち關西に於けるかくも華かとなつて來た。かく活氣づける大阪舞踊界を指して東都の石井漢が昨春進出し専ら肉體的均齊美を發露さすリズム教育、バレエ等の門戸を開いて新しき舞踊を授けた。こうした帝都より大阪への進出は全く商業都市が藝術を理解しこれを要求する時代となつた機運を如實に物語ることが出來得やう。

知名舞踊家並に研究所

- 〔棋茂都陸平〕 東區博勢町一ノ六二△振付、棋茂都流家元△寶塚少女歌劇學校講師◎昭和六年歐洲より歸朝す。
- 〔石井漢舞踊研究所〕 北區堂ヰル二階△主宰、石井漢△支配人、高尾亮雄
- 〔アサヒ・コードモ・アテネ〕 北區中之島朝日會館△顧問、山田耕箱、棋茂都陸平△指導、江川幸一、飛鳥秋子◎毎月二回朝日會館にて舞踊練習あり、會員五百名。
- 〔鶯春會、山村兒童舞踊會〕 (本部)市外布施町菱屋西(研究所)市内梅田阪急前アカンヤ樂器店階上△目的、日本舞踊鶯春會流を基調とした藝術

る職業舞踊團。

大阪のレコード界

昭和十一年度の大阪市に於けるレコード界の趨勢を概観すれば、總じて全國的なそれと大差は認められない。今その賣行高によつて最近の傾向を視ると、矢張り大衆向きの流行歌が斷然第一位を示してゐる。即ち各社のヒットものを掲ぐれば、ビクターでは「無情の夢」、「別れの船唄」、コロムビアでは「若き日の胸」、「夕日は落ちて」、「船頭可愛いや」、「下田夜曲」、ポリドールでは「野崎小唄」、「旅笠道中」、「港の戀唄」、タイ・エイでは「東京よさこい」、テイチクでは「緑の地平線」等各社何れおとらぬヒットをはなつて、ジャンク、の宣傳振りである。

大阪蓄音器商組合役員

- 〔幹部〕 中森熊太郎、吉田吉治、遠藤嘉一郎、佐藤一郎
- 〔顧問〕 大橋潔、先田由藏、中江宗次郎、安井友三郎、木村脇太郎
- 〔相談役〕 △日本蓄音器商會、△日本ビクター會社、△日本ポリドール會社、△大日本蓄音器會社、△帝國蓄音器會社

- 〔國民童謡研究會〕 東區大手前國民會館△主宰、田中繁男△指導、山田道夫(西洋舞踊)山村智恵(日本舞踊)△發表會、春秋二回△人員、三十名
- 〔日本童謡藝術協會〕 東區大手前國民會館△主宰、池田富造△指導、山田道雄
- 〔喜久舞塾〕 東區小橋元町二一七△主宰、梶本喜久代(大毎童話班出身)△兒童舞踊個人教授△人員、三十名
- 〔アッラン童舞樂團〕 住吉區北田邊町七一四△主宰、豊田次雄△指導、山田道雄
- 〔楡健次舞踊研究所〕 市外清寺諏訪の森△主宰、楡健次△月刊「童謡」發刊△練習所、そごう(五階)
- 〔矢田谷舞踊大阪研究所〕 西區京町堀通一丁目一三△主宰、矢田谷源五郎△指導、山田みちる、松尾八十一△人員、四十名△每週一回
- 〔ミナト舞踊研究所〕 港區三條通り△主宰、左近正博
- 〔巨谷俊子舞踊研究所〕 東區南久太郎町大谷會館内△每週日曜練習
- 〔兒童藝術研究會〕 天王寺區大道二丁目一三七△主宰、狹間閑子△人員、二十名
- 〔兒童藝術研究會〕 東區上汐町△主宰、曾我部房子△人員、三十二名
- 〔松本舞踊研究所〕 西區西血池町一四△所長、松本富一△指導、服部不二良
- 〔河合ダンス〕 南區東清水町四九△代表者、河合孝七郎△人員、三十名◎バンドとダンスを兼ね

的、體育的、整形的の新舞踊を修得せしむるを目的とし△研究科目、日本舞踊、新舞踊、兒童舞踊◎發表會、年二回發表公演會を開催、其他教育的、社會的、集合に出演す。

刷印

凸版・平版・凹版
綜合印刷ノ極致

濱田印刷所

大阪市南區安堂寺橋通一丁目一番地

電話船場 3390・3391・1125

振替口座大阪 4910

ラヂオ



大阪とラヂオ

ラヂオは地域的な區別を抹殺した超距離的な時代の文化的所産である。それだけにラヂオに關して述べるにしても特に大阪に於ける地方的特殊性といふやうなものは認められない。従つて本項編纂については、一般聴取者の便宜の爲に全国的に放送される事項の内容を簡単に解説することとした。

現在マイクホンにのせられてゐる放送事項は、自然、社會等の萬般に亘り千差萬別である。之等の放送事項をプログラム編成上の便宜上、大體その性質や目的に依り、報道、講演講習、音楽、演藝、學校放送、子供の時間、國際放送、實況等に分類されてゐる。

報道事項はニュース、氣象通報、經濟市況、局報等であり、講演講座は教

養放送である。學校放送は、教養放送の一部門であるが、之は特に對象を限定した面もその内容も學校の課程に關聯した特殊放送である。子供の時間は報道、慰安、教養の各方面にわたり、たゞ聴取對象に依つて分けられた部門である。國際放送も亦その放送事項は時に依り種々雑多である。

★報道事項

【氣象通報】△全國天氣概況、中央氣象臺に依つて發表せられるもので、本邦を中心とする天氣圖の範圍内に於ける高低氣壓の位置、その中心示度、移動狀況、風向及び全國の概括的な晴雨の模様を放送し、更に東京、大阪を始め大連、大泊等に至る全國主要都市に於ける温度が附け加へられる。△各地天氣豫報、各放送局が夫を自局管内聴取者の爲に各地測候所の觀測に基き、

狭い地域の天氣豫報を爲すもので、放送時刻は毎日午前八時三十分、午後三時四十分及び午後九時三十分、東京中央放送局から全國中繼として放送される漁業氣象に引續いて實施されてゐる。以上の他特殊氣象通報としては、海上船舶を對象とした漁業氣象、登山家の爲に山岳氣象、農村の爲に結霜豫報等が行はれる。

【經濟市況】之は海外市況と内地市況とに分たれる。前者には紐育、孟買等の海外棉花相場、紐育生糸、砂糖、ゴム相場、市俄古小麦、ロンドンゴム相場から紐育株式相場としてスチール株アナコンダ株等、その他、銀塊相場、紐育ロンドン爲替相場及び紐育ロンドン等に於ける日本公社債相場があり、之等の材料は同盟通信社より提供を受けてゐる。内地市況には期米、棉花、生糸、砂糖等の重要商品市況から、各株式相場に亘つて放送するが、夫らは何れも各取引所等からその材料の提供をうけるものである。放送時刻は平日は午前午後に亘り約十回に及ぶが休日には取引所休場等の關係で海外市況の放送が一回ある丈である。

【日用品値段】各放送局が地方の公設市場等と提携し、日用品値段、公設市場物價等と稱し、日常生活の必需品たる米穀、鮮魚等の食料品から家具その他の雑貨に至る迄、夫々小賣値段を放送するもので、時宜季節に應じ適當な品物を選んでゐる。大阪は卸賣値段の放送をも併せて實施してゐる。

【ニュース】△全國ニュース、同盟通信、電報通信の兩社より資料を得て東京中央放送局にて適宜編輯し、所謂「ニュース」として全國に中繼放送してゐる。放送時刻は毎日午後零時四十分（休日は午後零時三十分）同四時、七時及び午後九時三十分の時報に續いて即ち都合一日四回であるが、大阪中央放送局のみは午後四時の時間は自局單獨にてニュースを編輯し之を京都、岡山、徳島、高知の各放送局へ中繼放送してゐる。△ローカル・ニュース、各放送局がその地方新聞紙或は通信社提供のニュース中特にその地方と關係の深いものを選び、提供先名を冠し全國ニュースの終了に引續き放送するものである。

【官廳公示事項】各官省からの一般に

對する公示事項である。各官廳から提供された諸種の新規施設、法令の改訂統計及調査事項、その他の注意事項等を休日を除き毎日午後七時の全國ニュースの冒頭に東京から中繼放送される又その他にもローカル官廳公示事項として、午後零時四十分のニュースに引續き、各地方官廳の提供する公示事項を夫々地方局で放送してゐる。

【産業ニュース】大藏、農林、商工等關係主務當局の援助の下に産業方面の各種團體例へば商工會議所、帝國農會大日本山林會等から各種の産業にわたつて材料の提供も受け、東京中央放送局に於て之を適宜編輯し、毎日曜日午後六時二十五分から全國中繼にて放送される。

【カレント・トピックス】英語の正確な發音と耳に對する訓練を目的とし、併せて在留外人等の爲に放送するもので、放送時刻は毎日午後六時五十分から五分間である。

★講演講座

【朝の修養】夏期は午前七時一分、冬期は午前七時三十分から、朝の修養の

名稱の下に和漢洋の各種經典、聖賢、哲士の言葉を夫々の權威者に委嘱して解説放送し精神修養の糧たらしめてゐる。これは日曜日午前十時から、日曜勤行と共に宗教放送の一翼を爲してゐる。

【婦人・家庭講座】毎日十時三十分と午後二時の時間は、主に婦人、家庭を對象とする時間で、家庭向の常識、修養、その他手藝等の技能に關する事柄を放送するものであるが、一定の意圖を以て連續的に爲される事が屢々ある例へば生活改善に關する講座の如きものである。又テキスト等を使用する事もある。更に母の講座等の名稱の下に母としての修養常識に資せんが爲に各方面からみた種々の問題に關する放送を爲してゐる。而して之等の時間に取扱はれる事柄は、婦人の社會的活動範圍の増大に伴ひ、益々多種多様となつてきてゐる。

【日曜勤行】宗教並信仰に關する講話法話を放送するもので毎日曜の午前十時の時間が之に當てられ、全國各地の名僧知識その他宗教界の名士に依つて放送せられる。勿論諸種の宗教に亘ら

しめ、一宗一派に偏する様な事は努めて避けられてゐる。この特色は宗教的儀式と共に法話が放送され、或は寺院の鐘を聞き、或は名刹の中に靜かに流れる讀經を聴くと同時に、名僧知識の法話が聴かれ宗教的放送の効果をより大ならしめてゐる。

【時事解説】毎週土曜、午後九時から三十分間、東京或は大阪等から定例的に全國に中繼され、政治、經濟、外交等諸方面に亘る週間の重要な時事問題に關して解説が與へられてゐる。

【語學講座】午前六時三十分（冬期は午前七時）には主に語學講座が放送され、第二放送のない局は午後六時二十五分にも、語學講座の時間がある。

◆「午後六時二十五分の時間」には趣味講座、青年の時間、農村への時間があり、趣味講座は肩の凝らない趣味を語るものであつて放送時刻も午後六時廿五分と云ふ様になるべく一般の人々が寛いで聴き得る時間となつてゐる。思はざる人の思はざる趣味談義、名士の餘技に關する話もあれば各方面専門家の専門の事柄に關するエピソードの様なものもある。旅行家、通人等の獨

特の持前ある話等が放送されてゐる。青年の時間は青年を對象として公民知識や一般修養に資し、後者は農山漁村の開發振興に資せむとするものである。その他午後五時三十分には、ローカルで諸學科の補習教育的講座を始め農山漁村開發を目標とする講座、職業指導講座等が放送される。「午後七時三十分の時間」は一般的な國民的講演の時間である。従つて最も多く全國中繼とせられ、國民的重要問題に關し夫々の當局者、權威者に依り、良き指導精神をもつた講演が放送せられる。

★第二放送

東京、大阪、名古屋の三局は第二放送施設を有し、之は教養放送を主體として放送され、長期連續的な組織的放送となつてゐる。語學、公民、普通學、職業、補習、運動その他、音樂鑑賞、諸曲、長唄等の講座から各種産業、副業等に關する講座、その種類範圍に至つては枚擧に暇がない程である。就中今日の知識は宗教、哲學、思想、教育、歴史、政治、經濟、財政、法律、勞働

問題、交通、産業、自然科學、藝術、スポーツの各分野に亘り、凡そ最近の社會事象に關し、夫々適切な専門家の消息通の解説が與へられる。その他記念講演、通俗學術講演、挨拶等屢々臨時に放送せられてゐる。

★學校放送

幼稚園兒及びそれと同程度の兒童、小學生、小學校教師を對象とし、之等に教育資料を與へ様とするもので、幼兒の時間、小學生の時間、教師の時間に分けられてゐる。夏期午前七時五十分、冬期午前八時五十分には學校向けラヂオ體操が放送せられ、續いて毎週火曜には、午前一時十分幼児の時間がある。大阪はそのほか第二放送に於て毎日、午前十時二十分から幼兒の時間の放送を行つてゐる。第一、第三月曜日午前八時（冬期は午前八時五十分）には、小學校全學年に對し、朝禮の時間が放送せられ、大臣、學者、知名士等の訓話がある。毎週火曜、午前十一時は小學校一二年、毎週火、木、午後二時から小學校三四年、毎週火

水木金曜は小學校五六年高等一二の各學年、又毎週月、水、金曜午後三時十分からは教師の時間となつてゐる。

★音楽・演藝

△音楽の中には、和樂と洋樂の兩種がある。即ち長唄、清元、常盤津、琵琶雅樂等の邦樂及諸種洋樂の他に新日本音樂、歌謡曲、和洋合奏の如き準邦樂があり、詩の朗讀、詩吟、和讃の如きものもこの部に入つてゐる。
△演藝の中には、ラヂオ・ドラマ、舞臺劇の如き純粹な演劇の他に、浪花節講談、落語及漫談、萬歳、聲色、脚本朗讀等多種目の放送が之に含まれる。放送時間は、平日は午後零時五分以後四十分迄の晝間に於ける時間と、午後七時三十分乃至は八時以後九時三十分の時報に至る夜間の時間が之に割當てられてゐる。これらの時間中、平日の晝間には、通常晝食後の休息時間に相應しい軽い種目、例へば輕音樂、落語等の如きものを放送し、その他の時間は適當に分割して各種の種目が放送されてゐる。

★子供の時間

子供の新聞、小學校三年以上から中等學校一年生程度迄の兒童を對象として、その日のニュース等から興味のあるものや、教訓的な兒童向の適當な材料を選んで東京中央放送局で編輯し、大阪管内を除いて全國に中繼放送する但し、大阪中央放送局は、自局で別個に編輯し同局管内の各局に中繼放送してゐる。放送時刻は日曜を除き毎日午後六時二十分から五分間となつてゐる。△以上の他、雜種目に屬するものうちには「ラヂオ體操」「家庭メモ」「衛生メモ」「明日の話題」「曆」等が放送されてゐる。

★大阪市内の聴取者

大阪中央放送局は、東京、大連、名古屋の三放送局と共に大正十四年三月に開設されたが、五年目の昭和四年市内に早くも七萬八千の聴取者を數へ、五年には十萬、六年には十二萬七千、七年には十六萬二千、八年には十九萬九年には二十一萬七千人、十年末には

二十五萬七千二百餘を數へ、百世帶當三八・五セットの割合になつてゐる。なほ大阪中央放送局は從來長らく上本町九丁目の手狭な假放送室で甘んじてゐたが、過般東區馬場町市電停留場前に宏壯な新廳舎を建築、内部工作の終るを待つて去る九月二十二日移轉、これを契機として長年の理想であつた強力放送の實現を見る豫定である。



新裝成つた
大阪中央
放送會館

野 球

運動界の帝王

今日野球に就て一文字も解さない人は殆どない。三歳の童兒でさへも手にバットを握り、ボールを投げる眞似をする——正しく野球時代の觀がある。春・夏二つの中等學校野球大會の開催される前後は、大阪市民の眼と心は野球に集注されてゐるかの如く、ラヂオの前に人垣をつくり、凡そ人の集會する場所といふ場所は野球で持ち切りである。——この野球黃金時代に至るまでの輕い歴史を紹介すると、凡そ次のやうである。即ち、大阪最初の學生野球は明治二十六年同志社對第一尋常中學校（北野中學の前身）との試合であり、大試合は四十三年の早稻田大學



スポーツ

對シカゴ戰（香櫛園）を最初とされてゐる。大阪は、大學・専門學校が妙く爲に野球の進歩も捗々しからず、東都に於ける一高黃金時代、或は早慶時代をよそに見て、永らく野球は一般に顧られなかつた。然るに大正四年に至り大阪朝日新聞が全國中等學校優勝野球大會を開催するに及び、漸く野球に關する知識が啓發され初め、同大會の發展するにつれて、野球熱も次第に大阪人の間に旺盛となつてきた。本大會は今日までに三つのグラウンド（自第一回至第二回——箕面有馬電鐵沿線の豊中運動場・自第三回至第九回——阪神電鐵の鳴尾運動場・自第十三回至今日——同上甲子園球場）に變轉し、あたかもこの期間のみで野球發展の側面史の如き觀がある。即ち、大正四年八月十八日第一回大會の開催當時は全國豫選區十地方、參加校數七十三であつた

ものが、逐年増加して、昭和十年の第二十二回大會には豫選區二十二、參加校數六百七十餘校を數ふるに至つた。嘗ては五、六百人を收容し得るに過ぎざる木造スタンドの外は、青草の堤に圍まれたばかりの豊中運動場に産聲を擧げたこの大會が、十年滿たずして、八萬人の大家を收容し得る鐵筋鐵骨コンクリートの大スタンドに圍まれた甲子園球場を建造せしめるに至つたのである。
一方、大阪毎日新聞社では大正九年六月事業部を新設して諸般の事業を管理せしめたが、十五年五月之に附屬して野球チームを設置した。（この大毎チームの外に、早大舊選手河野安通志を中心とする寶塚野球團があり、またスター俱樂部・ダイヤモンド俱樂部等も著名である。）又、學童野球試合は大正七年初めて天王寺公園に於て行はれ、女子野球は十二年十二月、市岡高女で和歌山・粉河兩高女を招待して初試合を行つた。その外、十三年には東北・東京・京都・九州の四帝國大學の野球聯盟が成立し、その事業として全國高等專門學校野球大會が甲子園に開

催せられてゐる。この外、同十三年四月には大毎主催の全國選抜中等學校野球大會が夏の大朝主催の大會とともに年々人氣を呼んでゐる。

野球團體並に恒例試合

【全國都市對抗】大毎東日主催第十回(昭和十一年)は大毎は准々決勝四—三で川崎に惜敗。尙第九回も同じく准々決勝三—二で川崎に屠られてゐる。【關西六大學春季リーグ戦】關大の實力稍々減退し立命が宿望を遂げんとしたが接戦の末、關大が連勝し、立命、同大、神商大、京大、關學の順であつた。

【關西醫齒藥專野球聯盟】京都醫專大阪齒科醫專、大阪醫大、大阪藥專、京都藥專の五校から結成され、春秋二回試合舉行。

【全國中等學校優勝野球大會】大阪朝日新聞社主催の下に毎夏試合舉行。昭和十一年度の優勝試合は平安中學。

(一)對岐阜商業(九)で岐阜商業優勝。【全國選抜中等學校野球大會】大阪毎日新聞社主催の下に毎春試合舉行。昭和十一年度の優勝試合は愛知中學對

優勝試合 阪急軍2—1セネタース軍(東京)で大阪側の勝戦であつた。

庭球

明治三十六年に、堂島女學校で女子庭球公開試合を舉行したが、これが本市に於ける最初の庭球試合で、その後三十七年十月に大阪オールドボイス俱樂部が成立され、四十年一月には早大軍の西下を期として、大毎主催の下に中之島公園で初めて大規模の男女庭球大會が開催されるに至つた。この頃から漸く庭球熱が高まり出して、四十一年七月、大毎主催の下に、濱寺に於て全國中等學校優勝庭球大會が開催され關西庭球界に一つのエポックを作つたが、大正前半期は軟球使用時代であつて、この間、大正四年度大庭球部が阪神で硬球を見せたに過ぎなかつたが、同五年、熊谷一彌が米國に遠征し、又清水善造が印度及英國に於て健闘し、二大選手の捷報に刺戟されて、全國的に硬球採用の機運をつくつた。が、大

桐生中學で、愛知中學が優勝す。【關西三俱樂部野球聯盟】關西の三田、稻門、駿臺三俱樂部を以て結成、不定期に試合を舉行してゐるが、昭和十年度は十月十三日、十二月十五日に堺大濱球場で舉行。

—(甲子園野球場)—



大阪附近の野球場

大阪附近の代表的な野球場を挙げれば次の五つを數へることが出来るが、中でも甲子園球場は設備、面積に於て全國一であり、且つ毎年全國中等學校野球大會並に全國選抜中等學校野球大會が開催される關係上今やその名は全國的に著名である。

- 甲子園球場 阪神沿線甲子園
- 寶塚球場 阪急沿線寶塚
- 藤井寺球場 大鐵沿線藤井寺
- 寝屋川球場 京阪沿線寝屋川
- 住ノ江球場 南海沿線住ノ江

大阪の職業野球隊

昭和十年大阪に生れた職業野球隊としては、阪急軍、タイガースの兩者があるが、十一年四月日本職業野球聯盟を結成し四月下旬には創立記念リーグ試合を甲子園球場で催し、七月には第一回全日本職業野球選手權大會を催した甲子園大會の結果左の如し。

- 準優勝試合
- 甲子園大會 (東京) セネタース9—1金鯱軍
- 甲子園大會 (大阪) 阪急軍7—0名古屋軍

荻原、ダブルスは關學の末次、菊池組優勝す。

【關西ジュニア庭球大會】庭協關西支部主催の第八回は八月十三日から十八日まで濱寺コートで舉行。

【父子大會】庭協關西支部第六回父子ダブルス・トーナメントは九月八日甲子園コートで舉行したが、山田父子組の優勝に歸した。

【ベタラン庭球大會】庭協關西支部主催は九月十三日より二日間甲子園コートで舉行、大阪俱樂部の大西が優勝した。

【關西OBトーナメント】庭協關西支部主催は九月二十八日から十月六日まで甲子園コートで舉行。

【甲子園俱樂部主催】第六回春季オープン・トーナメントは昭和十年四月三日から九日まで同俱樂部コートで舉行。

【同第七回トーナメント】昭和十一年四月四日から十五日迄同俱樂部コート。

【大毎主催庭球選手權大會】第十四回庭球選手權大會は四月二十九日から五月五日まで濱寺コート。

【混合ダブルス大会】 庭協関西支部主催は九月十六日より三日間甲子園コート。

【関西女子選手権大会】 大阪女子庭球振興會主催は十二月七八の兩日甲子園コート。

【関西俱樂部庭球大会】 大阪朝日新聞主催の第九回俱樂部對抗庭球トーナメントは二月二十四日から三月三十一日まで日曜、祭日に甲子園コートで舉行、接戦の結果、A組は神戸俱樂部、B組は住友電線が優勝した。

【関西學生選手権大会】 全日本學生庭球聯盟関西支部主催第十五回は八月五日から十三日まで甲子園コートで舉行。

【關西大學、高專春季對抗大会】 關西學生庭球聯盟主催、大朝後援の第三回關西學生春季對抗庭球試合は四月二十日から五月十二日まで各校及甲子園コートで舉行。

【東西學生對抗試合】 日本學生庭球聯盟主催第五回は東西中等對抗試合とともに十月十九、二十日の兩日甲子園コートで舉行、學生對抗は11-1で關東が連勝、中等對抗は4-1で關西が

大勝した。

【支那選手歡迎庭球】 支那デ孟庭球選手歡迎試合は三月二十八日甲子園コートで舉行。

【大毎主催全國中等庭球大会】 大毎主催の第二十八回は七月二十八日から八月一日まで濱寺コートで舉行。

【學聯主催中等對抗】 全國學生庭球聯盟主催の第二回は八月八日から十二日まで甲子園コートで舉行。

【關西オープン大会】 第二回は十二月三日から八日まで甲子園コートで舉行。

蹴球

大正七年一月大毎主催第一回日本フットボール大会が豊中に於て開催された頃から、次第に行はれ初め、ラグビーの擡頭は、大正末期であつた。昭和十一年一月には新西蘭學生選抜軍を迎へて、國際試合を行ふに至り、長足の進歩は遠來軍の驚異の的となりつゝある。今、昨年度の主なる試合を列挙すれば左の通である。

【全國中等學校大会】 大毎主催の第十八回全國中等學校ラグビー大会は一月二日から七日まで甲子園南運動場で舉行、天理中學が神戸一中を14-5で破り、七年振りに覇權を近畿に奪還。

【大阪府排球豫選】 大阪府排球豫選は九月二十四、二十九の兩日天王寺中學と大阪市立運動場で舉行。

籠球

籠球は女子の競技として早くから行はれ、明治四十三年二月、梅花女學校對神戸女學院の試合を以て嚆矢とされてゐる。男子は大正九年、關西籠球大會が、大阪YMCA主催の下に、大阪中之島コートで舉行されたのが始めて今日では、他の各般の運動競技と同じく一般に普及されつゝある。

【關西籠球選手権大会】 大阪YMCA體育部主催の第九回關西籠球選手権大會は四月二十七日から五月一日まで同體育館で舉行。

【東西學生聯盟優勝校試合】 第五回東西學生對抗籠球爭霸試合は十二月十

四日より三日間甲子園室内コートで關東代表東京帝大と關西代表關西學院大學との間に行はれ、東大は第一次試合に一敗、第二次試合に奮起して大差で快勝、決勝試合に於て關西の緩攻戦術に悩まされたが、遂に辛勝。こゝに榮あるアメリカ大使寄贈W・カメロン・フオーブス盃を五年連続保持することになつた。

【關西學生秋季リーグ戦】 昭和十年度(第九回)關西學生籠球聯盟秋季リーグ試合は九月二十一日より京都一中、大阪YMCA、甲子園の各コートで舉行、十二月の入替試合を以つて完了した。一部では關西學院、二部では浪速高校、三部では神戸商大がそれぞれ優勝し、最後に行はれた入替試合では浪高が一部に、大阪商大と神戸商大が二部に、大阪藥專が三部にそれぞれ編入されることとなつた。

【全國高商大会】 東京、大阪、神戸三商大主催の第一回全國高商大会は七月十三、四の兩日東部は東京商大コート、西部は甲子園室内コートでそれぞれ豫選を行ひ十六日東京商大で東西代表が決勝を行つた結果、神戸高商優勝

【對新西蘭學生選抜軍戰】 昭和十一年一月廿二日長崎入港の郵船北野丸で來朝した新西蘭學生選抜ラグビー・チームは、爾來關東で四回、關西で三回の國際試合を行つたが、最後の對全日本の試合を引分けたのみで、あとは何れも快勝七戦六勝一引分といふ輝かしい記録を残して、二月十七日歸國した。

【全日本東西對抗試合】 第九回全日本東西對抗ラグビー試合は一月十九日大軌花園競技場で舉行、結局56-11で關東に凱歌が上がり、九年連勝の成績を収めた。

【關西各大學對抗試合】 關西に於ける各大學對抗試合は昨年擡頭した關西學院に氣力なく、且つ之に代る新興チームともなかつたので、關西ラグビー界は元の淋しい不活潑なものであつた。只僅かに朝鮮鐵道局チームの來征によつて一抹の清涼劑が投ぜられたに過ぎなかつた。

【全國高專ラグビー大会】 第十一回全國高專ラグビー大会は一月三日から八日まで花園競技場で舉行、明大豫科が普成専門を24-0で破り、堂々四年振りに二度目の優勝であつた。

す。

【近畿中等籠球大会】 近畿六府縣中等學校籠球聯盟主催の第三回大会は六月二十三、廿の兩日、甲子園室内コートで舉行、決勝試合に於て神戸二中は御影師範に62-39で優勝した。

【西日本女子選手権大会】 大日本籠球協會京阪神三支部主催第二回西日本女子籠球選手権大会は八月二十八、二十九の兩日甲子園室内コートで舉行、決勝試合に山陽高女は兵庫縣一に23-19で優勝した。

陸上競技

【加盟團體對抗競技】 大阪陸上競技會主催の加盟團體對抗陸上競技大會は七月十四日、大阪市立運動場で舉行、参加二十チーム。

【大阪一般對學生競技】 大阪體育協會陸上競技部主催の第一回大阪一般對學生陸上競技會は昭和十年五月十八日大阪市立運動場に於て舉行、雨後の悪コンディションに係らず好記録が續出し44點対39點で一般が最初の勝利

を得た。

【近畿チャレンヂ競技及びマラソン選手権大会】近畿陸上競技協会主催の近畿チャレンヂ競技及びマラソン選手権大会は昭和十年四月二十九日、市立運動場で舉行。

【新種目選手権大会】大阪陸上競技協会主催の新種目競技選手権大会は八月十日大阪市立運動場で舉行。

【日本學生對校選手権大会】秩父宮殿下賜盃獲得の光榮を指す第八回日本學生陸上競技對校選手権大会は五月二十五、六の兩日、甲子園南運動場で舉行、參加三十三校。

【全國高校陸上競技會】第十回全國高等學校陸上競技大會は七月二十七、八の兩日、甲子園南運動場で舉行、結局八高は豫想通り第一日よりリードして優勝、學習院が二位となつた。

【全國高商陸上競技會】東京、神戸兩商大主催の第四回全國高商對抗陸上競技大會は七月二十、二十一の兩日甲子園南運動場で舉行、參加二十二校、和歌山高商優勝す。

【關西高工陸上競技會】第十二回關西高等工業學校陸上競技聯盟選手権大

會は九月二十九日大阪市立運動場で舉行、結局福井高工優勝す。

【大阪學生競技會】第一回大阪學生陸上競技對校選手権大会は六月九日、大阪市立運動場で舉行、關大優勝す。

【三專門校競技】第一回大齒科、日大專門、浪華高商三校對抗陸上競技會は六月二十七日大阪市立運動場で舉行日大齒科優勝す。

【三商大陸上競技會】東京、大阪(棄權)神戸三商對抗陸上競技會は七月十四日、甲子園南運動場で舉行。

【關西中等陸上競技會】關西學生陸上競技聯盟主催の第八回關西中等學校陸上競技選手権大会は五月四、五の兩日、甲子園南運動場で舉行、參加中等學校54、師範11、中等部は大阪都島工業、師範部は京都師範が四年連勝。

【東西中等學校對校競技會】大毎主催第六回全日本中等學校東西對抗陸上競技大會は九月十五日甲子園南運動場で舉行、結局西軍百六十一點五對百四十六點五で西軍五度優勝した。

【全國盲學生競技會】全日本盲學生體育聯盟主催の第十一回全國盲學生競技大會は十月二十二日大阪市立運動場

で舉行。陸上競技、相撲の各府縣總得點第一位大分縣、第二位大阪府。

【竹内マラソン】近畿陸上競技協会主催の第三回故竹内廣三郎氏記念マラソン競技會は十一月二十三日、甲子園南運動場で舉行、コースは甲子園—阪神國道—濱甲子園—歸る42キロ、參加十七名、香川坂出の中村選手が世界的記録で優勝す。

【大阪市聯合青年團陸上競技大會】本團主催の管下各區聯合青年團の對抗陸上競技大會は昭和十一年九月十三日市立運動場で舉行、東區が優勝、記録次の通り。

〔百米〕岡田(西區)〔二百米〕萩野(北區)〔四百米〕乾(港區)〔八百米〕久保田(南區)〔千五百米〕篠野(西區)〔一萬米〕横山(西區)〔三千米〕障得(篠野(西區))〔八百米〕走(港區)〔千米〕瑞典(北區)〔依擔〕山崎(旭區)〔圓盤投〕矢追(東區)〔砲丸投〕石田(南區)〔槍投〕平石(東區)〔走高跳〕中谷(東區)〔走幅跳〕本田(港區)〔三段跳〕林(東區)〔棒高跳〕森本(東區)〔各區順位〕1東區、2港區、3西區

ハイキング

大大阪遠足聯盟

昔なら遠足、辨當包みを斜に背負ふところだが、名も近代らしくハイキング、リユックサツクにステッキ、ニツカー、姿勇ましく、週末ともなれば郊外へ、近郊の山へと押し出すハイカー達が増えつきり多くなつた。殊に子供連れの多いのが目立つ。

大都會の濁つた空氣と騒音の中に生活する人達が、太陽と新鮮な空氣に憧れてハイキングと押し出すのを、強ち電鐵會社の政策的な宣傳とか、流行より來てゐるとのみ云ひ得ないだらう。とにかくハイキングは時代の寵兒である。

空はからりと晴れて時折行き過ぎる白雲、さんくと白シャツに映へるまぶしい程の陽射、きほひ立つ足にシャーンと鈴が鳴る。いつしか汗ばむ頃は清冽な流れに出あつて憇ふなど、同じ流行にして健康と趣味の點より、頼

母しき流行ではある。

市の社會教育課が遠足聯盟を組織して逸早くこの機運の醸成に務める外、ハイキングコースを紹介して毎月山野跋涉會を行ひ、春秋には一定期間各郊外電車毎にコースを定めて、會員でなくとも市民は乗車賃の大割引で參加出来る遠足デーを催してゐる。ベテランアマチュアの別は勿論、老幼男女を問ふ所もなく、毎回盛會を極めてゐる。加盟團體數三十八に達してゐる。

コース案内 (拔萃)

市政會社社會教育課

阪神沿線

軒数は徒歩距離、時間は全コース所要時間、乗車賃は大阪より往復

- △廣田神社 甲山 西宮東口—廣田神社—甲陽園—神呪寺—鷺林寺—香檀園—一三軒、五時間半、三八
- △六甲表山縦走 深江—森稻荷神社—狸ヶ原—六甲—軒茶屋—奥山池—劍谷山—阿保親王陵—一五軒、九時間、

五六

- △源平史蹟、須磨アルプス縦走 阪神神戸—須磨寺—鐵拐山—敦盛塚—ノ谷—市電須磨—七軒、五時間、七四
- △大楠公史蹟巡り 神戸—湊川神社—福嚴寺—楠寺—安養寺—生田森—七軒、六時間、七四

阪急沿線

- △夙川より石寶殿有馬越 夙川—劍谷山尾根—奥山池—熊笹峠石寶殿—有馬温泉—寶塚—一四軒、八時間
- △箕面奥山より能勢妙見 箕面—勝尾寺—妙見山—能勢妙見—二〇軒、七時間、八〇
- △芦屋ロックガーデン 芦屋川—高座瀧—ロックガーデン—東西石佛—辨天岩—一五軒、六時間、五六
- △花屋敷、満願寺、最明寺瀧 花屋敷—石切山—満願寺—遊園地—最明寺瀧—五軒、二時間半、五六

京阪沿線

- △醍醐山縦走 山科方面 追分—牛尾觀順—醍醐山—五雲峰—三室戸山—

森本信夫△甲蟲會・大正區役所・岡見守一△東海山岳會・東區高麗橋四東海上・石井重一△十キロ會・住吉區榮谷町藤永田造船所・吉井福馬△九條キリスト教青年會・港區九條南通二・伊賀政吉△K.S.A.・此花區春日出中五春日出小學校・上中忠義△祭原商店遠足登山部・東區安土町四・池田房雄△七日生會・東區安土町四井上良商店・保野金次△高島屋飯田株式會社遠足部・東區橫堀一ノ二・福原冬藏△大阪商大職員ハイキングクラブ・住吉區杉木町・山村寅三郎△飯塚會・西區江戶堀上通一ノ二五日本海上・藤井劍十郎△今川商店クラブ・東區北濱二ノ六二・奥村伊造△内外インキ製造會社遠足部・西區川區海老江下通二ノ六一・森脇正雄△九十三會・市役所社會部福利課・米澤勇△探翠クラブ・西區川區傳法町北三傳法小學校柳生精成△戎山岳部・此花區下福島三ノ八戎屋商店・淺尾正夫△大阪東部教會共勵會登山部・東區谷町三ノ三六・河村昌△日ノ丸會・西區川區浦江中三角一ヨム會社・前田武一△松重電機商店遠足會・東區船越町二・佐々木康雄△此花遠足部・此花區春日出町二九水道部此花出張所・松川信三△地民會遠足部・北區若松町大阪地方裁判所・田中喜一△大阪府廳建築課遠足會・東區大手前・川勝健二△若草會・東區北濱五ノ二住友合資會社・木村小松△ライオンクラブ山岳部・東區平野町福井商店・田中忠常△山沙會・西區阿波座中道二ノ三〇・船川照夫△福徳探勝會・北區堂島濱通福徳生命・中島英雄△北炭山好會・南區北炭屋町田中吉太郎方・坂口泰雄△西野田郵便局從業員會遠足部・西區川區川上町・後藤櫻吉△めぐらう會・北區中ノ島四丁目西倉庫・佐々木竹四郎△探勝クラブ・南區難波新地南海高島屋配給部・宇佐

美治敏△ラックライ會・大正區泉尾北村町正文堂・中谷正行△T.H.C.山岳會・東區道修町三ノ一五堀口商店△獸吐會・東區北濱二丁目大阪株式取引所市場課・北村徳三郎△探勝一步會・北區堂島濱通二ノ八東洋紡績・坂口博△交樂會・大阪工廠陸軍造兵廠技術部鐵材掛・米崎安太郎△三四會・港區辰巳町二ノ一九・川口唯夫△大阪古書組合旅行部・同・朝倉巖△昭徳遠足會・西區川區浦江上二鹽野義・廣瀬成城△かをり會・東區道修町二ノ四五小川香料店・吉田徹夫△グレートクラブ・東區北久太郎町二黒川ビル戸口商店・小川三七男△啓發第一小學校遠足部・東區川區山口町・國井實平△S.F.U.遠足會・堺市南安井町二丁目福助足袋運輸課・村木重臣△日簡山岳部・南區末吉橋通二ノ三日本簡易火災・永井清市△管理係遠足部・市土木部庶務課管理係・佐野繁藏△登喜和會・東區北久太郎町二丁目黒川商店・福田元男△ピーエヌクラブ・東區唐物町三丁目中津重次郎商店・中津常次郎△和樂路會・東區京二丁目安田銀行天満橋支店・吉祥光四△大遊會・北區玉江町大石堂印刷所・岡田定△健修會・住吉區安立町七・高野光男△健養山岳會・此花區恩貴島南之町住友電線研究所・山田種吉△コンパス會・浪速區東神田町八六二・竹田喜世史△本城商店山岳部・東區川西町五五〇・竹田誠三△松方日ノ遠足會・港區南安治川通松方日ノ石油販賣所・木村純彦△大阪紙同業組合修養會・南區末吉橋通一・藤岡良△製糖登山會・此花區島屋町住友製鋼製糖工場・片野茂△遊光會・東區區東小橋南之町東小橋小學校・藤岡剛△松崎屋保健部遠足會・南區日本橋筋・若林菊之助△森永遠足會・北區堂島ビル森永製菓大阪出張所・岩田稔△都島道樂會・北區澤上江町四・高橋成

典△鐵工青年山好會・此花區島屋町住友製鋼鍛工場・安原正雄△王子遠足會・北區善源寺町王子製紙都島工場・三好國松△三井銀行堂島支店遠足部・堂島船大工町支店內・深野勇次郎△横堀章魚會・東區今橋二ノ一横河工務所・森西善太郎△日本興業銀行大阪支店遠足部・東區高麗橋・横中繁二郎△野村クラブ山岳部・東區安土町野村證券内・田中周信△山口商店登山部・東區備後町四ノ一・小出博△大阪日立遠足部・西區土佐堀通日立製作所・江幡四郎△啓二遠足クラブ・東區川區國次町啓發第二小學校・三橋安太郎△武田山岳部・東區川區十三西之町・織田孝△一心會・東區北濱三丁目中井商店・宮脇源二郎△藤田クラブ遠足部・北區堂島北町・黒崎半太郎

——青年團之部——
 △堂島青年團・堂島濱通堂島小學校・谷田捨吉△惠美第二青年團・浪花區西關谷町惠美第二小學校・栗山富三郎△浪花郵便局從業員會・浪花區浪花郵便局・河野秀三△橋並青年團遠足部・旭區野江町一ノ七三二・原正雄△高一青年團遠足部・南區高津一番町・西村堅二△上福島青年團・此花區上福島中二上福島第二小學校・中務儀平△龍川青年團・北區龍田町三八・野村要△江戶堀青年團第一分團・西區江戶堀北通富田商店・木澤善次郎△五第二青年團遠足部・西區區田端通・島津四郎

——青訓之部——
 △寶友クラブ・東區北久太郎町小山田商店・中野幸重△西區第四青訓遠足部・西區阿波座北通明治小學校・小松勝吉

——學生之部——
 △大阪大倉商業學校々友會・中之島常安町・山下梅藏

拳闘

近代人の享樂趣味が次第に變態的な傾向を辿り、消極的なものより積極的なものへ、更に激越なものを嚮求するに至つた。その一つの現れとして、スポーツ方面ではラグビー、拳闘などは近年加速度にそのファンを増大して、果然都市享樂面一方の王者とさへなつてしまつた。殊に、拳闘に至つては女子のファンをさへ交へて、その眞剣味血みどろな熱戦、そして痛烈なノックアウトに、スリルを期待する近代人の感覺を壓倒的に奪つてゐる。

〔比島チーム來朝成績〕 比島拳闘選手は日本の招聘により五月下旬來朝し六月八日の對關西試合を筆頭に對全關東、對關東學生、對中部日本、對朝鮮等の試合を舉行。

球場で舉行、6對3で明大勝つ。慶應對關大の對校拳闘試合は九月七日大阪中之島中央公會堂で舉行。接戦の末引分に終る。

〔關西豫選決勝〕 オリムピック關西豫選の決勝試合は昭和十一年一月十五日午後七時から大阪朝日會館で舉行。

〔關東關西對抗技〕 オリムピック關西豫選の決勝試合は昭和十一年一月十五日午後七時から大阪朝日會館で舉行。

〔關東關西對抗技〕 大日本レスリング協會主催、大阪朝日新聞社後援の第一回東西對抗試合は四月十四日、大阪YMCAで舉行、5-2で關東勝つ

〔阪神對抗試合〕 大阪神戸對抗レスリング試合は十一月十六日大阪YMCAで舉行、5-1で大阪勝つ。

角力

「關取千兩轎」に「芝居は南、米市は北、相撲と能の常舞臺、堀江々と國々へ鳴響いたる猪名川が」とある通り

舊來勸進角力は堀江に興行されるのが常であつたが、明治元年に至り南地の南山にて興行し、翌年二月の興行より難波新地六番町(今の南海難波驛の所)に移つて定場となし、明治十六年八月より千日前の新金比羅前に移り、二十六年十月場所まで繼續したが、爾來興行場は屢々變更せられ、大正八年九月國技館建築落成後は其處に移ることとなつた。

力士の變遷

陣幕久五郎はもと大阪相撲の力士であつたが、明治初年に江戸に出で、横綱に進み薩州のお抱へとなり、その名高く、大阪に歸來後は年寄として大いに盡力し、ために力士にも熊ヶ嶽、黒岩、眞鶴等の剛力士が名を列ね、四年には五條家に請ふて、八陣信藏に横綱を張らせる迄に至つた。又八陣に續いては高城山谷五郎といふのが横綱を張つた。

七年、八年には東京、大阪の合併角力が行はれたが、その時の番附中大阪方では東方の大關に眞鶴政吉、關脇に熊ヶ谷庄五郎、小結に山響光五郎、前

頭筆頭に大錦大五郎。西方では大關に黒岩重太郎、關脇に一ヶ谷新次郎、小結に南海靜太夫、前頭筆頭に岩見湯丈右衛門等が居り、此興行中大阪方の山響が東京力士の雷電爲右衛門を破つたのは、大阪相撲の爲に萬丈の氣焰をあげたものとして喧傳せられた。かくて大阪相撲も自然活氣を呈するに至つたが、番附面の位置に對し、力士の苦情出で、八年熊ヶ嶽以下十餘名脱走し九月更に紛議を生じ、黒岩、山響、一ヶ谷、大錦、響矢、松ヶ音以下十餘名脱走し、其後も脱走者續出せしのみならず、残れる者も幾派にも分立し、收拾し得ざるに至らんとした。こゝに於て小林佐兵衛は大阪角界の前途を憂慮し百方仲裁の勞を取り一年に至つて和議成立し、大阪相撲協會が設けられ、規約が定められた。かくて斯界の秩序確立を見るに至り、八陣調五郎は三十年九月吉田家より横綱に準ぜられ若島權四郎は三十六年一月同家より横綱の免狀を與へられた。これ同家より大阪相撲に横綱を許された嚆矢である。大木戸森右衛門は四十三年一月二代目横綱となり、大錦大五郎は大正七年に三

代目横綱となつた。

國技館の建設

十二代目朝日山は相撲協會の取締となつて規約の改正を加へ専心同協會の爲に力を盡して、國技館の建設を提議した。當時相撲の發展、目を追ふて著しく、東京は率先して、國技館を建設し、名古屋、熊本、富山の各地亦之に倣はんとする有様であつたから、朝日山は富樫柳水に助力を求めて、其の盡力によつて計畫、將にその緒に就かんとしたが、大正五年春朝日山が病没したため相撲協會の年寄衆その遺志を繼ぎ、柳水は府市當局者及斯道熱心家の間に奔走して國技後援會なるものを組織し、會員を募つて國技館建設案を樹て更に國技館を資本金二十萬圓の株式會社組織に改め、六年六月九日設立の許可を得、十二月敷地を南霞町に選定し、大阪市に交渉して其一千二百五十坪を借用し七年二月工を起し同八年九月竣工し、十二日に開館式を行ひ、翌十三日より十日間東西合併相撲を興行した。同館は鐵骨鐵筋コンクリート煉瓦造にして建坪六百二十五坪工費三十

八萬餘圓に上つたといはれる。爾來大阪相撲協會は春夏の兩本場所及東西合併相撲の開催所として同會社より同所を賃借興行することとなつた。爾後大阪に於ける角力界は振はなかつたが、昭和八年一月大日本關西角力協會の結成さるゝや角力道に於ける武士道精神も大勢に抗する能はず次第に武士的自覺から藝術的自覺に魂の入れ換へが行はれ更に最近に至つて國粹スポーツとして野球の向ふを張り、ボクシングの好對象たらしめやうとの努力が拂はれ出して來た。そして天龍、大の里一黨がその流れに棹さしてゐる。

新興革新團の生ひ立ち 角道改革の叫び

相撲界多年の積弊はさきに武藏山をして拳闘界への轉身を決意させたが、それが契機となり、この積弊に對する力士多數の不滿は日を逐ふて内訌し、爆發は時の問題となつたが、果然昭和七年一月の春場所を前にして、西方の人氣力士武藏山、天龍、大の里等二十七名が結束して、この積弊打破の爲に起つこととなり、西方の幕内十兩力士

一同は出羽海部屋を出で、角道改革の爲め宣言書を發表し角力協會に對し九ヶ條の改革案を提出したが容れられず遂に止むなく西方天龍以下三十二名は昭和七年一月六日打揃ふて出羽海部屋を退き、一時分離し新興革新團を組織するに至つた。其の後東方力士も協會に對する不滿と改革を叫ぶ沖津海ら十七名がステートメントを發表しこの間長期に涉つての紛争を重ねて遂に同年一月廿四日脱退、かくて新興革新團との合同となり、昭和八年一月大日本關西角力協會が誕生した。

革新派九ヶ條の改革案

- 一、相撲協會の會計制度を確立しその收支を明かにすること
- 二、興業時間を改正すること
- 三、入場料を低下し角技を大衆のものたらしむること
- 四、相撲茶屋と中錢制度を廢止すること
- 五、年寄制度を漸次に廢止すること
- 六、養老金制度を確立すること
- 七、地方巡業制度を根本的に改革すること、冗員を整理すること

八、力士の収入を増加し生活を安定ならしむること
九、力士協會を設立し共済制度を確立すること

關西角力協會の試合方法

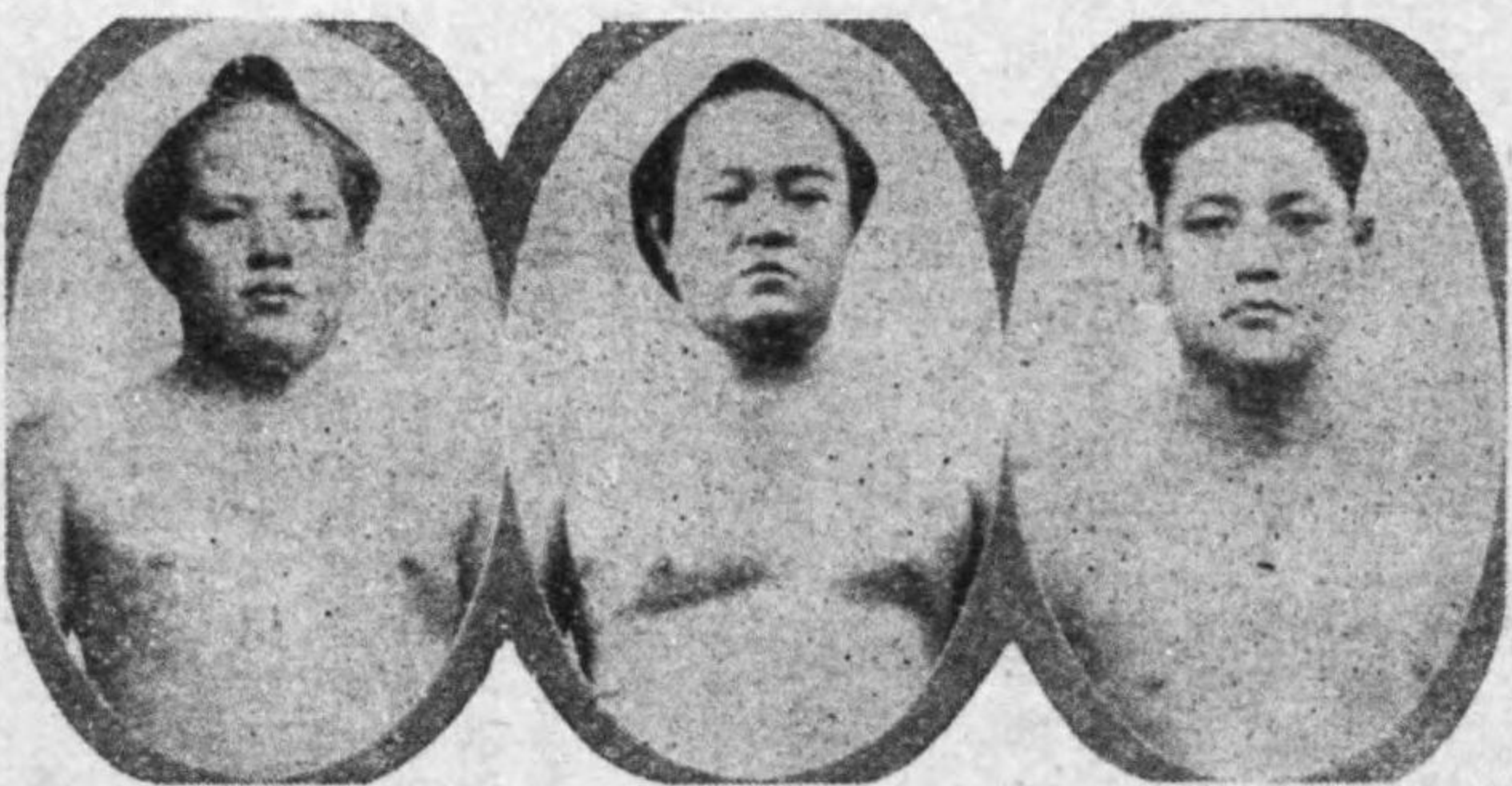
- 一、各組共第一回戦は一番勝負、第二回戦以後は二番勝負とし、勝抜決勝試合を行はしめ、當日の優勝者を定む。
- 一、第二回戦以後の取組は抽籤を以て決定す。
- 一、傷病者あるときは相手方を不戦勝者とす。

創立以來の優勝力士一覽

第一回	昭和八年二月	天龍
第二回	同 八年七月	天龍
第三回	同 九年一月	錦洋
第四回	同 九年七月	肥州山
第五回	同 十年一月	天龍
第六回	同 十年七月	天龍
第七回	同 十一年一月	錦洋
第八回	同 十一年八月	天龍

關西角力協會の理想

前述來の如く天龍等が斯界に投じた巨彈の波紋は意外に大きく角力界未曾有のセンセイションを捲き起したが、改革刷新を叫ぶ新興、革新兩派の合同からなつた關西角力協會は荆棘の途に



天龍 錦大 岩頭

スポーツ——關西角力協會力士略歴表

喘ぎ乍ら茲に四ヶ年涙ぐましい努力を續けて来たが、その結果天満橋畔、大阪城を背景に宏壯なる本部が落成し、こゝに日本一の角力道場を有するに至り、日々朝まだきより叱咤の聲に猛練習を怠ばせてゐるが、彼等の理想は更に大きな事業として計畫されてゐる。即ち大阪國技館の建設、角力學校の創立と新進の養成、更に東西對抗試合の

實現等であるが、就中大阪國技館は、旭土地株式會社の手により市内旭區古市町に愈々七月中旬(昭和十一年)から工事に着手した。敷地六千坪の中に建築費七十萬圓を投じて建坪二七〇坪、鐵筋コンクリート四階建ドーム式の堂々たる國技館となり收容人員は二萬三千名で、來春四月に竣工、本場所興行をトップに蓋開

ける豫定である。
東京相撲關西場所
玉錦、武藏山、男女ノ川の三横綱を以て角界空前の黄金時代を現出した東京大相撲關西場所は、昭和十一年十月十から十日間破れんばかりの盛況であつた。全勝力士玉錦、次勝者双葉山(關協)

關西角力協會力士略歴表

位	力士名	本名	出生地	年齢	身長	體量	初士儀	得意	趣味嗜好
大關	天龍三郎	和久田三郎	靜岡	三四	六尺一六	三二貫	大正九一	右四ツ寄切上手	讀書、野球
同	錦洋與三郎	豐平才造	鹿兒島	三七	五尺八寸	二九貫	大正七五	突張リ押切り	野球、浪花節
關脇	大和錦幸男	松原幸男	奈良	三二	五尺七寸	三四貫	同	左四ツ押シ	野球、浪花節
小結	肥州山榮	松本榮	長崎	三一	五尺九寸	二八貫五百	同	吊出シ、突張リ	映畫、浪花節
同	倭岩英太郎	中村英太郎	福岡	二七	五尺八寸	三一貫	同	右四ツ上手投	映畫、浪花節
同	松ノ里直市	工藤直市	青森	二五	五尺八寸	二九貫五百	同	右四ツ、押シ	映畫、浪花節
同	中ノ里相信	奈良相信	青森	二五	五尺五寸	二四貫	同	左四ツ	讀書、浪花節
同	大高山十郎	葉山十郎	福岡	二九	六尺五分	二四貫	大正二五	右四ツ、突キ	讀書、浪花節
同	山錦善次郎	山田善次郎	大阪	三九	五尺七寸	三〇貫	同	左四ツ、突キ	野球、洋酒
同	常盤野公造	鳥越公造	長崎	三〇	五尺八寸	二六貫	同	右四ツ寄切	骨董、映畫
同	武ノ里武三	吉崎武三	青森	二八	五尺七寸	二六貫	昭和二一	右四ツ寄切	骨董、映畫

第二組

位	力士名	本名	出生地	年齢	身長	體量	初士儀	得意	趣味嗜好
前頭	藤ノ里永藏	天內永藏	青森	三六	五尺五寸	三〇貫五百	大正九一	押シ	映畫、洋酒
同	信夫山秀之助	菅野秀之助	福島	三五	五尺八寸	三〇貫五百	大正九一	右四ツ、上手投	棋、洋酒
同	羽後響助	武石助	秋田	三三	五尺五寸	二四貫	同	左四ツ、押シ	棋、洋酒
同	能登海惣市	高松惣市	石川	二九	五尺五寸	二四貫	同	右四ツ、上手投	寫眞、映畫
同	可愛岳實雄	森實雄	宮崎	三一	五尺七寸	二四貫	昭和二五	左四ツ、足クセ	讀書、映畫
同	上宮山勇一	中間勇一	鹿兒島	三三	五尺七寸	二四貫五百	大正一一五	右四ツ、寄切	觀劇
同	玄海數夫	花岡數夫	福岡	二五	五尺六寸	二三貫五百	昭和三一	右四ツ、寄切	映畫、映畫
同	十三錦市松	寺尾市松	大阪	二五	五尺六寸	二一貫	昭和四五	右四ツ	スポンツ
同	津輕岳義雄	石岡義雄	青森	二七	五尺五寸	二一貫五百	同	右四ツ	野球、映畫
同	四海山一男	木村一男	徳島	二三	六尺一寸	二四貫	同	突張リ右四ツ吊	映畫、映畫
同	玉碓佐一郎	山村佐一郎	和歌山	三六	五尺五寸	二六貫五百	大正九一	押シ	園藝、讀書
同	陸奥ノ里敏男	山口敏男	青森	二一	五尺八寸	二三貫	昭和九八	左四ツ上手ヤグ	映畫
同	常昇正志	門野正志	岡山	三二	五尺六寸	二六貫	大正一一五	左四ツ	觀劇
同	櫻錦利一	會津利一	青森	二一	五尺七寸	二一貫	昭和八一	押シ	映畫、映畫
同	神通川善吉	高桑善吉	富山	二九	五尺七寸	二八貫	昭和二三	右四ツ	散書
同	駒錦信樹	久川信樹	大阪	三六	五尺六寸	二八貫	大正八一	右四ツ、上手投	讀書
同	常陸島朝吉	寺西朝吉	大阪	四〇	五尺六寸	二六貫五百	同	足取り	觀劇
同	雷ノ峰伊助	新倉伊助	神奈川	三四	六尺一寸	二六貫五百	同	右四ツ、吊リ	觀劇
同	潮ヶ濱義夫	長谷川義夫	青森	三九	五尺六寸	二六貫	同	左四ツ	散書
同	和歌錦友二郎	津山友二郎	和歌山	二一	五尺七寸	二一貫	昭和八一	押シ	野球、映畫
同	一ノ里勝太郎	横山七三市	北海道	二四	五尺九寸	二二貫	昭和四三	左四ツ、上手投	映畫、映畫

スポーツ——關西相撲力士略歴表

第三組

霞ヶ浦忠(茨城)、忍龍正幸(青森)、太刀ノ海金五郎(愛知)、照ノ里巖(青森)、綾ノ花富雄(福岡)、荒木山要之進(岐阜)、大海富雄(鳥取)、輝錦朝康(東京)、太田茂生(三重)、大ノ石久正(富山)、佐賀ノ海春雄(佐賀)、一ツ龍清一(石川)、西ノ宮留五郎(兵庫)、海神新一(千葉)、岩ノ里邦雄(青森)、千代錦桐(鳥取)、玉ノ里健之助(青森)、小天龍健之(静岡)

第四組

豊ノ里安夫(青森)、嶋ノ里繁太郎(青森)、對馬洋次郎(長崎)、早川政夫(和歌山)、上岡宇一(岡山)、枝ノ里正旗(青森)、河錦義美(大阪)、小野武五郎(青森)

行司

式守政次郎、木村勝治、式守豊之助、木村庄吾、木村正義、木村正春、木村永太郎、式守光彦、木村春夫

◇一般相撲

〔大阪市聯合青年團相撲大會〕 大阪市政府所社會部内に事務所を置く。大阪市の聯合青年團では毎年管下各區聯合青年團の對抗相撲大會を開催してゐるが昭和十一年度大會は九月六日市外千里山花壇で舉行、成績次の如し。

〔團體順位〕1 東區青年團、2 此花區青年團、3 西區青年團、〔個人順位〕1 西村(東區) 2 岡田(此花區)、3 橋詰(東淀川區)、4 中井(東區)、5 岩崎(西區)

〔工場防護團相撲大會〕 平素ハンマーで鍛え上げた鐵腕を誇る工場力士の相撲大會である。工場防護團本部主催第四師團、大阪府、大朝、大毎後援のもとに大阪府下各工場従業員的第一回工場防護團相撲大會は七月二十六日朝七時半から阪急前廣場で舉行、二回戦の豫選を経て先づベスト八工場を選択優勝戦を行つたが、當日の成績次の如し。

〔優勝戦〕—〇印は勝—住友伸銅 3—2 大阪鑄造△小池—〇田中、〇吉田—野村、〇笠原—栗田、〇岡田—岩木、光—〇高橋
〔個人優勝戦〕〇田中(大阪鑄造)—長

谷(大阪朝日)

〔全國學生相撲大會〕 大毎主催の第十七回全國學生相撲大會は昭和十年十一月九、十の兩日堺大濱土俵で舉行、参加四十四校、試合は一校が他の三校と取り組み優秀十六校を選び、個人は團體試合の全勝者をもつて更にトーナメントで決勝を行つた結果、團體、個人とも拓殖大學が二年連勝した。

〔本大會年次優勝校〕

昭和2年 慶應大學 3年 慶應大學
4年 明治大學 5年 早稲田大學
6年 關西學院 7年 明治大學
8年 東京醫專 9年 拓殖大學
10年 拓殖大學 11年 ……

〔關西學生聯盟相撲〕

第十一回關西學生相撲大會は昭和十年六月二日、堺大濱土俵で舉行、参加十六校關西學院優勝す。

〔關西學生選抜相撲大會〕

學生相撲振興會主催の第三回關西大學、專門八校對抗相撲大會は、昭和十年六月二十三日藤井寺土俵で舉行、關西學院三度優勝す。

〔大阪大學專門相撲大會〕

本大會は

昭和十年五月五日、大阪高醫土俵で舉行、大阪高醫優勝す。

〔全國中等相撲大會〕 大毎主催の第十七回全國中等學校相撲大會は昭和十年十月十七、八兩日堺市大濱土俵で舉行、参加五十八校、團體は一校が他の三校と組み優秀十六校を選抜し、また個人は團體試合の全勝者を選び更にトーナメント法で決勝を行つた結果、團體は御影師範、個人は此花商業の中島君が優勝した。

〔本大會年次優勝校〕

昭和2年 札幌師範 3年 中京商業
4年 御影師範 5年 御影師範
6年 和歌山商 7年 長崎師範
8年 高知商業 9年 鳥羽商船
10年 御影師範 11年 ……

水上競技

明治三十八年八月大阪毎日新聞社主催の下に大阪築港より御影、魚崎間十里の競泳が行はれた。競泳者は二十八名、第一着は杉村陽太郎、第二着は澤田定吉、第三着は金子宗吉であつた。

スポーツ——水上競技

四十四年八月には濱寺海上にて神戸横濱在留外人團(米英獨聯合團)對日本遊泳同志會(濱寺西宮大阪聯合軍)の國際競泳大會が行はれた。ついで全國中等學校競泳大會が大阪毎日新聞社主催の下に行はれたが、大正十年の上海大會頃から泳法が一變し、従来の泳方は全く影を潜め、何れもクロールストロークとなつた。而も上海の大會に敗北して以來、我が水泳會の情勢は一變した。従来の牛耳をとつてゐた體育協會の影が薄くなり、又各水練場所屬の選手として出場してゐたものが、いつしか學校所屬となり、爰に、インターカレッジエートの地歩は益々鞏固になつて來た。そして東は學生聯盟、西は茨木中學が全勢力をもつ事となつた。

△重なる選手 水上日本即ち水上大阪といひたい位、大阪の生んだ選手は仲々多い。高石勝男、石田恒信、入江稔夫、高階富士夫(浪高)、小林一男(茨木水泳團)の諸君を世界の爭覇戦に送り出してゐる。高石君は西淀川區川北町の出身で水上茨木中學の名聲を擡にした先輩、爾來十四年間王座に君臨した。女子では守岡初子(茨木水泳團)、鎌倉悦子(清水谷高女)、松澤初穂(市岡高女)等相當のものであり、新進としては、昭和十一年ベルリンのオリンピックへ大澤姉妹を送つた。

水泳プール設備のある小學校

(昭和十年度)

- ▲北區 松ヶ枝▲此花區 四貫島▲東區 北大江、集英、汎愛、船場、愛日東雲▲西區 西六▲港區 北恩加島▲天王寺區 天王寺五▲浪速區 惠美三▲西淀川區 川北▲東淀川區 中津二啓發一、豊崎一▲東成區 中本二▲住吉區 田邊▲西成區 玉出三▲旭區城北▲合計 二一

水上競技 (十年)

〔日米交歓水上競技會〕 東京に於ける日米對抗競技に先立ち八月十一日大阪市立運動場プールで日本第二軍對アメリカの競技を舉行、アメリカは全種目に優勝した。

〔大阪水上選手權大會〕 大阪體協主催の第十四回大阪水上選手權大會は全日本選手權、明治神宮大會豫選を兼ね大阪市立運動場プールで舉行。

〔男子室内水泳大會〕 甲子園室内水泳クラブ主催の第三回男子室内水泳大會は五月九、十の兩日甲子園室内プールで舉行。

〔關西學生水上競技大會〕 第十三回關西學生水上競技大會は九月七、八の兩日寶塚プールで舉行、第一部では關西學院が連勝制覇し、第二部では新加盟の高松高商が断然他を引離して優勝した。なほ第一部の關學、關大、同大の三校は東京で開かれる全國大會に出場の資格を得、第一部の最下位同志社高商と大阪高校は第二部に落ち、第二部の高松高商と和歌山高商が一部に昇進した。

大阪市聯合青年團競泳

同團主催の管下各區聯合青年團の對水上競技大會は九月十二日午後一時より市プールに於て舉行、成績次の如し。

〔四百米自由型〕1藤原(西區)、〔百米背泳〕1宮脇(西區)、〔百米自由型〕木下(南區)、〔二百米平泳〕1前田(西區)、〔二百米繼泳〕1南區(小西、岡田、川崎、木下)〔得點〕1西區30點、2南區15點、3西淀川區10點、4港區、5北區、6旭區

◇大阪市立運動場

大正十二年五月、第六回極東選手權大會が大阪で開催せられることになりその會場に充つる爲め、大會を目標に控へて當時沼地であつた港區八幡屋松之町に、僅か半年の短い期間のうちに出来上つたのが市立運動場である。(總經費約二二四、三一五圓、敷地面積一、五五九坪。) 現在、陸上競技場、水泳場、庭球場の三つを持ち、創生期の我が國運動界に貢献するところ大なる

ものがあつた。今、その設備概要を示せば左の通りである。

設備概要

陸上競技場 直線走路 二〇〇米 (ハコース) 一 周 四〇〇米 (七コース) 収容人員 約二六、〇〇〇人 内譯 普通觀覽席約二〇、〇〇〇人 特別觀覽席約六、〇〇〇人 水泳場 長 五〇米 (ハコース) 幅 一六米 (一米スプリングポールド) ウォータポロの設備あり 収容人員 約三、〇〇〇人 庭球場 コート 二ヶ所 (軟球、硬球) 特別觀覽席の下には事務所、選手更衣室、脱衣預所、主催者事務室、大小集會室、賣店、倉庫等がある。(但し脱衣預りは有料で夏期水泳期間中のみ開設してゐる。)

市立運動場利用概況

〔入場人員調〕

スポーツ——大阪市立運動場

Table with columns for year (年), degree (年度), and attendance (入場料入場者). It includes sub-columns for '大人' (adults) and '小人' (children) with '入場券' (tickets) and '回数券' (return tickets). Rows list years from 大正十二年 to 昭和九年, with a '小計' (sub-total) row at the bottom.

〔貸切回数調〕

Table showing rental return statistics (貸切回数調) for years 大正十二年 through 昭和十年, with columns for '有料' (paid) and '無料' (free) counts.

〔収入概況〕

Table showing revenue overview (収入概況) for years 大正十二年 through 昭和八年, with columns for '大人' (adults) and '小人' (children) under '普通入場券' (general admission) and '割回数券' (discount return tickets).

同 九年度八五、〇〇〇 九〇〇〇 六、〇〇〇 七、八〇〇
同 十年度九三、〇〇〇 一七五、〇〇〇 六、九六六 一六、六六八

〔貸切使用料〕

大正三年度 三、五〇〇 八、九〇〇 一、二七九〇〇
同 六年度 三、八〇〇 一、〇六〇〇 一、四七四〇〇
同 七年度 二、四〇〇 一、二七四〇〇 一、四八八〇〇
同 八年度 八、五九七 一、七三三〇〇 二、〇三六九七
同 九年度 五、六六三 一、四四三〇〇 一、七〇一六三
同 十年度 二、三三〇 一、八〇六〇〇 二、〇三三三〇

〔観覧席階下部屋賣店使用料〕

昭和六年度 六、四〇〇
同 七年度 七、七〇〇
同 八年度 八、三〇〇
同 九年度 八、七〇〇
同 十年度 九、八〇〇

〔總收入累年別〕

大正十二年度 七、一八、九五五
昭和六年度 四、三三、四〇〇
同 七年度 四、八五、五三三
同 八年度 五、九三、七三三
同 九年度 五、〇〇、七三三
同 十年度 五、三三、七九

大阪市公園内運動 競技場調

公園名	所在地	開場年	競技場面積
中之島	北區中之島一丁目	明治廿四年	六、〇〇〇
天王寺	天王寺區逢坂下ノ町	同 四年	八、〇〇〇
櫻ノ宮	北區東野田町一丁目	大正十二年	六、四〇〇
扇町	同 南扇町	同 年	七、三〇〇
毛馬	東淀川區長柄濱通三丁目	昭和十年	五、〇〇〇
住ノ江	住吉區南加賀屋町	昭和五年	一四、二〇〇

大大阪の武道

大日本武徳會

明治廿八年九月三十日大日本武徳會大阪地方委員部が府警察本部内に設置され、次で四十三年二月廿八日同支部を府警察部警察課に設けた。而て同年十一月市より無償で天王寺公園内一隅

を借受け現道場を建築、始めて練習を開始したのが、大正元年八月七日で柔道、剣道、弓術共に行はれた。最初の試合は二年三月廿九日から三日間で、その結果剣術七十四名、柔術五十五名、弓術十四名合計百四十三名に階級證を授與し武士道鼓吹に力を加へた。この試合は毎年定期的に行はれ、試験施行として、昇段の榮譽を興へ、斯道に貢献してゐる。現在總裁に梨本宮守正王殿下を戴し、府知事を會長に、警察部長を副會長に置き、而て武徳會々長に現陸軍大將奈良武次氏の就任を得て、専ら武道日本の發揚に盡力してゐる。磯貝一範士の同本會に對する多年の功績は實に偉大である。本部は京都にあり、近年東京に地方本部が置かれた。明治初年に於ける各流派と其人名

〔劍道〕 △鏡神明神流、桃井春藏、同秋山多吉郎△眞心影流、船橋徳次郎△神道無念流、蜂谷松造△新陰流、關谷二郎△北辰一刀流、渡邊昇

〔柔道〕 △六神眞揭流、桃井春藏、同秋山多吉郎△大東流、半田彌太郎

昭和十年末會員累計

會員種別	在來會員數	新入會員數	計
有功會員	一三	一	一四
特別會員	三、八三	一	三、八四
正會員	七、八三	九	七、九二
贊助會員	二、五〇	一	二、五一
合計	一三、七〇	一二	一三、八二

有段者階級別人員

〔劍道〕 △教士二一△五段錬士二八△四段錬士九四△五段四△四段五一△三段一七六△二段三一五△初段六一二△計一、三〇一
〔柔道〕 △範士一△教士四六△五段錬士一七△四段錬士二二△四段一八△三段一五△型錬士二八△三段一〇△二段三五△初段七八七計一、三九六
〔弓道〕 △教士二△錬士六△四段一△三段八五△二段一一四△初段一五六計三七二

町道場 柔道については町道場に類したもの點々と存してゐるが、劍道に關しては市内一、二箇所しかなく、斯道のため之が要望せられてゐる。近時

女性非常時風景として武道鍛練が行はれてゐるが、柔道にしても難刀にしても其他何れも型の練習によつて身心共に大和撫子の體勢を整へやうといふ程度であつて、亂取も無ければ、試合らしき試合も行はれない。市立西華女學校で柔道を、市立豊崎第五高等小學校で女子の薙刀をやつてゐる。其他にも近時武道を女子の學科に入れる傾向がある。

以上の外、府市廳、電氣局、大會社銀行、商店、工場、青年團等に於ても道場を設け、盛んに對抗試合を行ひ多數の有段者を擁してゐる所もある。

武徳會大阪支部の範士と教士數

△範士 柔道 戸張瀧太郎
△教士〔劍道〕—志賀矩、堀口朝次郎
原田賢藏、石田秀之助、竹村兼吉、緒方助次郎、今井安太郎、土田友介、原四郎三郎、榊田小太郎、高田直人、鈴木美夫、村中吉之、上田稔、中野幸吉、大峯幸、安孫子勝衛、湯淺元十郎、山本五郎、大日方篤、惣津信藏、松村孝長、木村正治、以上二十三名。

〔柔道〕 天野品市、伏見辰三郎、磯嶋卯之助、黒山高磨、三村貞吾、道田保二、下川慶雄、酒井清、佐々木庄三郎、中西元雄、越川助三郎、濱野正平、竹村藏孝、村上義夫、中澤利平、村上徳助、森安登、藤井喜三郎、入江爲信、人見喜一郎、富樫弘三、對島彪一、泉山捨松、佐藤政吉、高橋定吉、雜賀寅應、西長萬藏、國川三次郎、松井豐之助、村方敬三、倉永勇、庄野松之助、上島清志、原門助、西澤緒三吉、上田文次郎、佐藤松次郎、野村安廣、下野仁一、人見耐輔、岡田勝之助、松本八郎、杉田是市、須磨親愛、以上四十四名。

〔弓術〕 上田仁一、原田棟一郎、三好清一、以上三名

〔柔道形〕 松原嘉平、特武司、以上二名

居合術

小石昌範 以上一名
府下中等學校武道優勝大會成績
本大會は毎年當道場に於て秋季に一回舉行されるのであるが、多數の参加校を得て盛大である。本大會第一回の

開會は大正十四年秋であつた。左に回数並に優勝校を記す。

【柔道】 第一回中外商業、第二回池田師範、第三回池田師範、第四回日新商業、市岡中學、第五回池田師範、第六回浪華商業、第七回池田師範、第八回池田師範、第九回都島工業、第十回池田師範、第十一回池田師範

【弓術】 第二回市岡中學、第三回住吉中學、第四回浪速中學、第五回市岡中學、第六回天王寺商業、第七回市岡中學、第八回市岡中學、第九回市岡中學、第十回市岡中學、第十回休會

全日本柔道選士權大會

昭和九年十一月行はれて、本大會に於ける大阪代表選士の成績は左の如く専門壯年後期、専門成年後期に於て、夫々優勝し、選士權を獲得した。

表古澤六段と闘ひ優勝した。△専門成年後期——安藝七段は島根代表新免六段と對戦し優勝した。

昭和十年十月二十六、七日兩日の本會に出場せる大阪代表選士名及成績左の如し。△専門選士試合——この成年前期一次試合に出場した高橋五段は、惜しくも福岡代表西六段(優勝者)に體落で破れた。尙、壯年前期試合に於ては、上田五段は準決勝試合に進んだが、惜しくも優勢勝にて長野代表後藤五段に敗退した。

△一般選士試合——成年後期試合に於てわが山口四段は、福岡、北海道の各強剛を倒して優勝の月桂冠を得た。又壯年前期に於ては神原五段は準決勝に進み奮闘したが、神奈川代表中島五段に送足押へで敗退した。

ので、朝日會館、歌舞伎座、朝日ビル屋上のスケート場は押すなりの盛況である。

〔第四回オリンピックファイギュア豫選〕——十年十一月十六、七日山王及び芝浦リンクにて、大阪側成績左の通り

卓球

昭和十年度順位 男子——五位森(大阪) 女子——五位眞田(大阪) 〔全日本選手権〕——十年十月廿九日——十一月一日東京麻布小學校にて、男子は川上(大阪)OBは池田(大阪)國際式男子單試合は中川(大阪)、又女子は複試合朝倉吉井組(大阪)が京都組と三對二で優勝。

社交集會

社交俱樂部

昭和十一年七月末調

▲大阪ロータリー俱樂部(元來ロータリー俱樂部と云ふのは世界的に手を擴げて社會奉仕をせんとする英・米の一團體であるが、それが米山梅吉氏により我が國に輸入され先づ大正九年東京に設立され漸次全國に普及し現在クラブ數、三十、會員數、千三百三十名の隆盛を見るに至つた。大阪ロータリー俱樂部は、大正十一年東京に次いで設立され、現在に及んでゐるが社交俱樂部中特異な存在である。)

社交集會——社交俱樂部



一、代表者 飯島幡司外數名 一、全會員數 六七 在阪會員數 五四 一、大阪學士會俱樂部(帝國大學出身の學士又は之に準ずるものよりなる) 一、所在地 東區平野町五ガスピル 一、代表者 理事長 江崎政忠 一、全會員數 一、五八 在阪會員數 一、三六 一、有恒俱樂部(主として大阪商科大學同窓會々員並びに縁故者よりなる) 一、所在地 東區備後町二野村ビル 一、代表者 理事長 飯尾 一二 一、全會員數 一、〇三〇 在阪會員數 八七三 一、中央電氣俱樂部(電氣業者及之に關係あるものよりなる) 一、所在地 北區堂島中二丁目九 一、代表者 理事長 牧野實 一、全會員數 一、四三 在阪會員數 約一、二〇〇 一、清交社(中堅實業家よりなる) 一、所在地 北區堂島船大工町一番 地堂島ビル九階

一、代表者 理事長 高石眞五郎 外數名 一、全會員數 一、二〇 在阪會員數 一、〇〇 一、日本綿業俱樂部(綿業關係者) 一、所在地 東區備後町三丁目 一、代表者 會長 齋藤恒三 一、全會員數 一、七五 在阪會員數 一、四〇 一、大阪工業俱樂部(元大阪高等工業學校、現大阪帝國大學工學部出身者) 一、所在地 大阪市北區役所内 一、代表者 理事長 坂間棟治 一、全會員數 百五十名 一、所在地 北區東野田町九丁目 一、代表者 理事長 松尾忠二郎 一、全會員數 五三〇 在阪會員數 一、三三 一、朝日ビル俱樂部(主として朝日ビルの居住者よりなる) 一、所在地 北區中之島三丁目三 朝日ビル五階 一、代表者 小早川彦一 一、全會員數 八五〇 在阪會員數 八五〇 一、大阪凌霜俱樂部(舊神戸神商及神戸商大卒業生よりなる) 一、所在地 北區中之島三丁目三丁

- 目三朝日ビル四階
- 一、代表者 駒田万二
- 一、全會員數一、三〇〇 在阪會員數 五〇〇
- ▲日本検査計理士會
- 一、所在地 北區宗是町大ビル五五
- 一、代表者 木村禎橋
- 一、會員數

◇在阪同鄉會

(會名、事務所、所在地、印代表者名、會員數)

- 岡山縣々友會 東區淡路町一中務氏方
- △中務平吉 六〇
- 鳥取縣人會 西區靛南通五丁目
- △近藤壽一郎 一五〇
- 山口縣人會 北區堂島濱通一森脇氏方
- △森脇毅 三〇〇
- 大阪藝備會 北區會根崎新地三丁目
- 黒木辯護士事務所内
- △黒木逸作、齋木知二 一五〇
- 廣島縣人會 西區江戸堀北通四丁目
- 十日會 中央貿易合資會社内
- △香川常吉 三〇〇
- 近畿島根縣友會 北區會根崎永樂町三
- △原田智夫 四〇〇
- 若槻會 北區會根崎永樂町二八

- △原田智夫、四方田保 一三〇〇
- 德島縣人會 東區谷町二丁目
- △福良虎雄 一五〇
- 阿波會 南區心齋橋北詰笠井氏方
- △坂東米八 五〇〇
- 共鳴會 港區九條通第一小學校
- △大浦倉之助 一五〇
- 愛媛縣人會 大正區大正橋西詰
- △石崎彦五郎 三〇〇
- 伊豫同鄉會 北區堂島濱通一丁目
- △平井良太郎 五〇〇
- 高知縣人會 西區京町堀五丁目四
- △田村虎之助他數名 一六〇〇
- 香川縣人會 北區北堀江上通一丁目五
- △松平頼壽 三〇〇
- 愛知縣人會 北區堂島中町新愛知支局内
- △山崎兼次郎 一〇〇
- 静岡縣人會 西區四ッ橋南日本樂器會社内
- 關西長野縣人會 東區北濱二丁目片岡ビル
- △江崎政忠 一〇〇
- 岐阜縣人會 東區本町四丁目五一
- △谷村正美 二〇〇
- 新潟縣人會 西區靛下通二丁目二九

- △勝見長三郎 一〇〇
- 越佐會 東區島町高橋眼科方
- △高橋祐治 一五〇
- 富山縣人會 南區饅谷仲之町一五
- △中村徳太郎 二〇〇
- 石川縣人會 東區平野町二丁目五
- △吉田吾松 二〇〇
- 福井縣人會 北區若松町二三
- △村野美雄 三五〇
- 關西 東區平野町二
- 加越能同鄉會 吉田吾松方
- △林安繁、吉田吾松 三〇〇
- 山梨縣人會 北區信保町淺利氏方
- △淺利弘次郎 二〇〇
- 栃木縣人會 北區會根崎上四丁目
- △松本勇 二〇〇
- 千葉縣人會 港區八幡屋中通二丁目六
- △秋庭雄三郎外十六名 三〇〇
- 茨城縣人會 北區宗是町大阪商船株式會社船舶課内
- △ナシ
- 宮城縣人會 西區上之町二一獎勵館内
- △鹿野博史 一五〇
- 米澤有爲會 北區緞笠町一〇甘糟氏方
- △甘糟勇雄 一五〇

- 奥羽會 (福島、山形、宮城、秋田、岩手、青森六縣出身者よりなる)
- △各縣毎に二名の常任幹事 一〇〇
- 三重縣人會 北區老松町二近藤氏方
- △高岡 齊 一七〇
- 大阪大和會 東區區片江町小林氏方
- △小林米吉 二五〇
- 大阪丹後人會 東區高麗橋四有本國藏氏方
- △糸井邦治他十三名 三〇〇
- 此花區 此花區今開町三丁目
- 和歌山縣人會 榎本鑄造所内
- △松下幸三郎 五〇
- 紀水クラブ 北區老松町三丁目二〇田村氏方
- △田村堅三 一〇〇
- 近江人會 西區阿波座中通一丁目
- 日本織物新聞社内
- △武田貞之助他十四名 一三〇
- 大分縣人會 東區谷町五丁目九
- △岩井正治 二〇〇
- 關西球陽會 西區上長堀北通五湯淺方
- △豊川忠進 二〇〇
- 大阪筑前會 北區會根崎中二丁目
- 消火王株式會社
- △岡崎辰助 一七〇
- 三州人會 西區西長堀南二丁目二〇
- △池松時和 一〇〇〇

社交集會——大阪市婦人聯合會加盟團體一覽表

- 熊本縣人會 北區網笠町六丁目
- 緒方氏方
- △林 市藏 一七五
- 長崎縣人會 北區堂島上通二丁目三六
- 大阪毎日新聞社内
- △浦田芳郎 二〇〇
- 附記 從來此の種の調査資料皆無、本調査に是れから苦心を要しましたが、何分匆卒の折柄調査漏れも相當あること、存じます。就ては遺漏の分に關しお氣附きの向がありましたら、恐縮乍ら當編輯部まで御一報願上度く存じます。

◇大阪市婦人聯合會加盟團體一覽表

昭和十一年三月現在

- | 會名 | 事務所所在地 | 代表者 |
|-----------|--------|-------|
| 教育會女子部 | 西扇町 | 東尾眞二郎 |
| 大阪基督教女青年會 | 西扇町 | 淺井治子 |
| 大阪毎日新聞婦人會 | 堂島上二 | 世川憲次郎 |
| 基督教婦人矯風會 | 中之島六 | 林 歌子 |
| 大阪支部 | 新川崎町 | 橋本豐二 |
| 櫻ノ宮高等女學校 | 富田町 | 安滿菊江 |
| 鳴沂會大阪支部 | 老松町二 | 乾 八千代 |
| 西天滿婦人會 | 小松原町 | 田中金之 |
| 會根崎婦人會 | | |
-
- | 會名 | 事務所所在地 | 代表者 |
|---------|--------|-------|
| 櫻ノ宮婦人會 | 東野田町三 | 樋上ふさ |
| 中ノ島婦人會 | 常安町 | 仲谷重太郎 |
| 濟美第一婦人會 | 茶屋町 | 榮木朽道 |
| 濟美第三母會 | 南扇町 | 龜島 晟 |
| 菅南母會 | 菅原町 | 安原くす |
| 都島婦人會 | 深上江町五 | 山野春子 |
-
- 【此花區】
- | 會名 | 事務所所在地 | 代表者 |
|----------|--------|-------|
| 下福島婦人會 | 下福島二 | 田中喜佐子 |
| 玉川婦人會 | 龜甲町 | 田中きく |
| 西九條婦人會 | 朝日橋通三 | 西山たつ |
| 四貫島婦人會 | 四貫島大通 | 土井芳雄 |
| 芦分幼稚園母會 | 下福島五 | 湯本計吉 |
| 春日出婦人會 | 春日出町一 | 三島ヨシエ |
| 西野田昭和婦人會 | 大開町 | 飯田袈裟菊 |
| 櫻島町婦人會 | 櫻島北三 | 福島筆治郎 |
| 第一上福島婦人會 | 上福島北三 | 水川直藏 |
| この花婦人會 | 吉野町一 | 西村キクエ |
| 菊の會婦人會 | 上福島中三 | 加藤四郎 |
-
- 【東區】
- | 會名 | 事務所所在地 | 代表者 |
|-------------------|--------|-------|
| 陸海軍將校婦人會 | 京橋前ノ町 | 平松みさを |
| 大阪支部 | | |
| 大阪府立清水谷高等女學校同窓清友會 | 清水谷東ノ町 | 藤澤茂登一 |
| 大阪府立大手前高等女學校金蘭會 | 大手前 | 生田鹿之丞 |
| 相愛高等女學校同窓會 | 本町四丁目 | 大野開藏 |

社交集會——大阪市婦人聯合會加盟團體一覽表

五四四

ウイミナ 高等女學校同窓會 仁右衛門町 磯野佳子
 南御堂大谷派婦人 北久太郎町四 大谷智子
 法話會大阪支部 本町四丁目 梅上嶺子
 眞宗大阪婦人會 森ノ宮東ノ町 河井やゑ
 玉造婦人會 清堀町 大矢龍
 清堀婦人會 半八町 竹森艶子
 玉造中央婦人會 東雲町一 永塚すて
 東雲母婦人會 谷町四丁目 平井郁子
 南江婦人會 淡路町二 川原喜作
 汎愛婦人會 南久太郎町一 瀧川幸
 浪華婦人會 北新町二 古畑あい
 中大江婦人會 島町二丁目 河津義一
 北大江婦人會 島町二丁目 河津義一

【西區】
 愛國婦人會 江戶堀北通五 安井綾子
 大阪支部 立賣堀南通六 谷馨
 市立高等西華 京町堀上通四 爲貴秀野
 女學校友會 大阪市產婆會 長堀南通三 三宅ユタミ
 大阪婦人妙好會 堀江婦人會 本田三番町 半田とも
 常盤婦人會 花岡町 衣笠初子
 靱婦人會 靱中通二 西尾カツ
 花の井婦人會 江戶堀南通四 膳ふさ
 高臺婦人會 南堀江下通二 山中たつ
 明治婦人會 阿波座中通二 成田眞平

【港區】
 大阪府立市岡高等 抱月町 井上一
 女學校六つの花會 三條通一 樹清宜
 眞宗築港婦人會 九條南通一 鷲井富美子
 九條婦人會 九條通四 乾卯太郎
 市岡婦人會 魁町三丁目 榎木榮三郎
 市岡第六母會 音羽町一 山口孝治
 安治川婦人會 安治川通一 島下小春
 石田婦人會 石田吳服町三 筒井こう
 田中婦人會 東田中町七 福田芳次郎
 南八幡屋婦人會 八幡屋寶町四 北田智會
 三先婦人會 三先町三 橋岡熊四郎
 吾妻母會 吾妻町三 小林好太郎
 錦婦人會 八幡屋錦町南 奧房枝

【大正區】
 泉尾母會 南泉尾町四 村上育子
 泉尾婦人會 泉尾竹ノ町二 下村なを
 三軒家母會 三軒家東ノ町 眞先香苗
 三軒家婦人會 大正通五 矢野平林吉
 三軒家主婦會 大正通三 藪田愛次郎
 南思加島婦人會 南思加島町 上杉正直
 北思加島婦人會 北思加島町 和久エツ
 港南母會 南思加島町 中岡惣太郎
 鶴町小學校母會 鶴町三 播本重太郎

【天王寺區】
 大阪府立夕陽丘高 北山町 桐谷岩太郎
 等女學校清香會 天王寺第一婦人會 大道一 赤田國次郎
 天王寺第二婦人會 天王寺第五小學校 推寺町 森下喜之助
 天王寺第六婦人會 天王寺第八小學校 小宮町 蜂谷菊野
 母會 天王寺第一婦人會 北山町 吉川ヤスエ
 母會 天王寺第一婦人會 堂ヶ芝 上森房子
 東平野第一婦人會 東平野町四 河村勝二
 母會 東平野第一婦人會 東平野町三 森邦子
 同第二婦人會 上本町九 鍵本貞子
 同第三婦人會 上本町九 鍵本貞子

【南區】
 櫻風會大阪支部 大寶寺東ノ町 中尾たま
 京都府立第二高等女 順慶町四 結堀益子
 學校同窓會大阪支部 御津寺町 藤崎つね
 鶴友會大阪支部 御津寺町 未定
 御津婦人會 安堂寺橋通三 浮田壽子
 若池婦人會 鹽町一 原田慶子
 渥美婦人會 南綿屋町 小畑三郎
 道仁婦人會 順慶町通四 生駒蠶
 婦人古友會 金剛母之會 瓦屋町三番町 大田エイ
 金剛母之會 瓦屋町三番町 大田エイ

【浪速區】
 北高岸町婦人會 北高岸町 藤井きく
 立葉婦人會 立葉町 吉田光

河原婦人會 河原町 遠山みき
 元町校母會 元町一 船松花子
 鹽草校婦人會 會鹽草町 道浦よしゑ
 稻荷婦人會 稻荷町 竹中イク
 櫻川婦人會 櫻川町 圓城寺クラ
 荻原婦人會 荻原町 清水柳
 惠美第二婦人會 西關谷町 森靜枝
 榮婦人會 榮町五 栗屋宗一

【西淀川區】
 金蘭會高等女學校 浦江町 川口徳松
 芳友會 傳法町北三 鶴崎清夫
 傳法婦人會 傳法町北三 鶴崎清夫
 海老江婦人會 海老江町 木股諦観
 花川婦人會 花川町 北村玉尾
 大和田校 大和田町 恩地庄太郎
 區内婦人會 野里町 矢口朝治
 野里婦人會 野里町 矢口朝治
 川北婦人會 出來島町 重川大龍
 北浦江婦人會 浦江町 達家推次郎

【東淀川區】
 淀北瀨生婦人會 十三西ノ町二 西きくの
 豊崎淑徳婦人會 長柄西通三 岡本きぬ
 中津主婦會 事津本通三 土田伊右衛門
 西中島婦人會 國次町 本出しげ
 神津婦人會 元今里町北通 廣畑要

【旭區】
 信愛高等女學校 千林町 ロフラン・エレナ
 愛友會 城東婦人會 鳴野町 豊田カタ

【住吉區】
 大阪府立女子師範 平野流町 仁科染三
 常盤會 山阪町三 山本ヒデ
 女子體育研究會 阿部野筋八 長谷川熊次郎
 阿部野修養婦人會 阿部野筋中一 古屋登代子
 國際婦人平和會 阪南町中一 藤澤安江
 大谷女學校成美會 共立通二 藤澤安江
 大阪府立阿部野高 阪南町中一 高村千代子
 等女學校芝蘭會 陸美婦人會 阪南町西三 杉本龍子
 常盤婦人會 常盤婦人會 天王寺町 東捨三郎
 天下茶屋婦人會 阿部野婦人會 阪南町西三 武本勇
 住ノ江婦人會 住ノ江婦人會 千體町 井原榮治
 田邊母會 田邊母會 山阪町一 森壽三
 田邊婦人會 田邊婦人會 田邊本町四 安岡析和
 高松婦人會 高松婦人會 天王寺町 中村ユキ

南百濟婦人會 湯里町 三田村 築

【西成區】
 今一婦人會 花園町 竹本録松
 今五婦人會 橋通五 小野治尾
 玉一婦人會 姫松通二 湯川實
 玉二婦人會 新開通一 多田ユキエ
 玉三婦人會 千本通六 島田彌四郎
 津二婦人會 津守町 了味ツギ
 粉濱婦人會 粉濱中ノ町 後藤今朝馬
 東粉濱婦人會 粉濱東ノ町 棟久保之進

◆大阪市聯合處女會 加盟團體一覽表
 昭和十一年三月現在

【北區】
 櫻宮處女會 東野田町三 織田輝男
 都島處女會 澤上江町五 池田彌市郎
 都島第二同窓會 中野町四 堀内光藏
 都島第一同窓會 常安町 木塚長次郎
 中島同窓會女子部 常安町 木塚長次郎
 西天滿同窓會 葉村町 星加欽三
 西天滿同窓會 木幡町 椋本辰治郎
 同根崎家政女學校 小松原町 田中金之
 同根崎家政女學校 道本町 國澤照光

社交集會——大阪市聯合處女會加盟團體一覽表

五四五

【此花區】

西野田處女會 新家町一 中塚一太郎
菊ノ會處女部 上福島中三 加藤四郎
神ノ會處女部 上福島北三 藤原圭三
同窓會 下福島五 湯本計吉
下福島二 薛一孝
大開町一 松本岩吉
島屋處女會 島屋町 田中房吉

【東區】

久寶學友會 北久寶寺町三 毛利德太郎
久寶學友會 三丁目 川原喜作
南大江處女會 谷町四 平井郁子
南大江處女會 和泉町一 白井品次
南大江處女會 北新町二 永田龜吉
北大江女學校 島町二 河津義一
味原小學校同窓會 下味原町 荒木定治郎
森ノ宮實科女學校 森ノ宮東ノ町南 音治郎
清美會 宰相山町 村田幸太郎
東雲同窓會女子部 東雲町一 中川潜龍

【西區】

東江女子同窓會 江戶堀南通二 福岡繁吉
高宮同窓會女子部 南堀江下通二 長野隆義
同窓會 靱下通二 吉木幸三郎

【港區】

九條第三小學校 九條中通四 三輪忠雄
清花會 九條南通三 武本謙吉
境川處女會 九條通四 乾卯太郎
市岡第一處女會 壽町二 向畑隆次郎
雙美會 南市岡町二 向畦地榮太郎
市岡第三小學校 抱月町二 酒井安太郎
市岡處女會 魁町二 梶木榮三郎
市岡第六小學校 音羽町一 山口孝治
石田婦人會 石田泉服町三 筒井こう
吾妻同窓會女子部 吾妻町三 小路竹一
築港處女會 五條通二 樋口絹子

【大正區】

東洋紡績三軒家 三軒家通三 畑生國彦
工場女子青年團 大正通五 矢野平林吉
三軒家第二同窓會 大正通五 矢野平林吉
三思會 大正通五 矢野平林吉

【天王寺區】

六花會 北山町 吉田由藏
天王寺第三小學校 大道四 兵丹石辰次郎
天王寺第三小學校 上本町九 船田哲
天王寺第三小學校 蓮坂下ノ町 前田竹次郎

【浪速區】

城北處女會 赤川町 眞野靜子
城東處女會 鳴野町 根川ヒサ
天王寺處女會 阿部野筋 矢野一
常盤處女會 天王寺町 東捨三郎
田邊處女會 田邊本町四 安岡雅和
丸山同窓會女子部 丸山通一丁目 仲谷重治郎
住吉女子同窓會 住吉町神木 本多道雄
墨江處女會 千林町 寺西齋造
安立處女會 住ノ江町 福本岩之助
長居町處女會 東長居町 中山國雄
平野高等同窓會 平野西脇町 眞鍋捨三
平野家政女學校 平野西脇町 眞鍋捨三

【住吉區】

今宮第四浪德會 三日路町 大植起一
津守第一處女會 津守町 竹田庄太郎
今六同窓會女子部 旭北通七 平井伊三太郎

【西成區】

大阪兒童愛護聯盟(理事長 伊藤悌二)
北區天神橋六市立北市民館內)
大阪乳幼児保護協會(會長 安井英二)
東區大阪府廳社會課內)
大阪府聯合婦人會(會長 安井英二)

◆婦人家庭兒童に關する團體

大阪兒童愛護聯盟(理事長 伊藤悌二)
北區天神橋六市立北市民館內)
大阪乳幼児保護協會(會長 安井英二)
東區大阪府廳社會課內)
大阪府聯合婦人會(會長 安井英二)

◆國際對外關係

日獨商會 大阪市北區堂島濱通、佐多愛彦
大阪日露貿易協會 大阪府工務課內、稻畑勝太郎
日暹協會 大阪市北區商工會議所內、安住伊三郎
日伊協會 大阪商工會議所內、稻畑勝太郎
近東貿易協會 大阪商工會議所內、森平兵衛

社交集會——婦人・家庭兒童に關する團體——國際對外關係

大阪市東區今橋五丁目

つる家本店



電話北濱 (一三三三) 三六二二番

京都市左京區岡崎東天王町 (二六二七) 番家

兵庫縣甲陽園 (二六二七) 番家

電話西宮 (一五八二) 番支店



観光の大大阪

大阪は大淀川と芽淳の海の海の水運に恵まれ皇祖御建國の始めから既に征船を此地に泊めさせ給ふた由緒ある形勝の地である。豊公築城の壯圖成つて内外交通の要衝たるに加ふるに、商工業の中心地たる機構は愈々發達し、徳川時代には町人の都として全國の商權を把握し、爾來經濟的發展は著しく、愈々世界的近代商工都市としての面目を發揮するに至つた。面積百八十七平方料、人口實に三百萬、この廣大なる市域内に幾多の史蹟、古跡、名勝地が抱擁せられ、しかもそれ等の歴史的名勝が近代的都市施設と渾然と融合調和して、商工都市と観光都市と楯の両面の如く相依つて名實共に大大阪の偉觀を構成してゐる。

観光客調べ

(大阪鐵道案内所調べ)

邦人 一四四 昭和10年
京阪神計 八九五

外人 一九三 同 一三五

その扱件數を觀るに、昭和九年度は僅かに三十九であつたが、昨十年に於て俄然三五九に激増した。これは同案内所は在來外人客のみを取扱つてきたものだが、昨十年度より積極的に邦人観光客に働きかけたためである。

旅客調べ 昭和十年中の大阪の宿泊者は三百十八萬人(うち外人二萬二千五百人)であるが、簡易宿が半數以上を占めてゐるのは、觀光よりも寧ろ商用客が多いためであらう。しかし最近觀光事業の改善と共に近代的設備を誇る新大阪ホテル等の實現、市觀光係、市電案内所の開設等で、着々觀光事業の改善に努めつゝある。

☆觀光艇「水都」

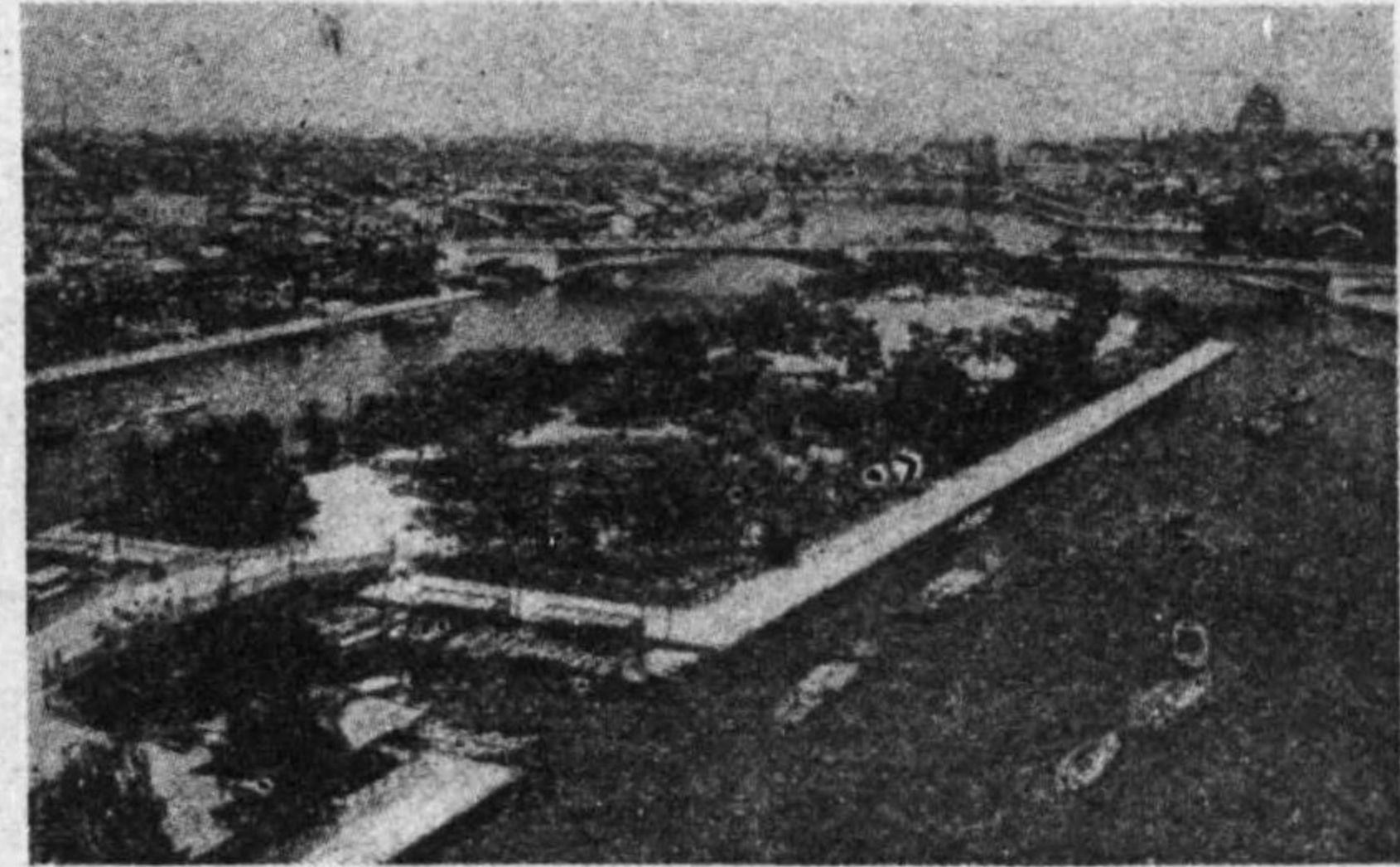
水の都大大阪の活動狀況、水運を利用せる大工業の發展、大小船舶の輻輳せる水上交通狀態、市中を貫く大河に架せられた近代橋、河水を清淨する可動堰、近代メカニズムの姿態を銀色に輝してゐる可動橋、これ等近代都市の明朗な構成美は水上から見るに如かずといふ意味で水上觀光ルートを開設し普く市勢を宣揚紹介する目的の下に、大阪市の豪華な觀光艇「水都」は昭和十一年六月一日より運航を開始した。

淀屋橋を起點として、天神橋中之島、劍先を廻つて堂島川、安治川を下り、天保山より大阪港に出で、港内を巡航して木津川運河に入り、木津川本流、土佐堀川を廻つて淀屋橋に歸着するものである。このコースを便宜上四つに分つ。

- ▲第一水路(淀屋橋より中之島劍先まで)
- ▲第二水路(堂島川中之島劍先より天保山迄)
- ▲第三水路(大阪港より木津川入口迄)
- ▲第四水路(木津川より土佐堀川淀屋橋迄)

◇名所舊跡

【北區】中之島公園 淀川は、市内天神橋附近で堂島川と土佐堀川に分れ、船津橋附近で再び合流して安治川となつてゐるが、この兩川に挟まれた砂州が盛り上つて狭長な川中島を造つてゐる。これが中之島で、その東部が中之島公園となり音楽堂、庭球場、競技場の設備があり、夏は納涼客で賑ひを呈する(市電北濱二丁目)▽天満宮 村上天皇の勅願により創建せられ、菅原道真、野見宿禰、手力雄命、猿田彦命、蛭子命の五座を祀る。毎年七月廿五日の鉦流しの神事(天神祭)は日本三大祭の一つに數へられ、數百の御供船や古代人形を乗せた御迎船が神輿を擁して水上を江之子島まで下り、松島行宮に渡御するもので、沿道には大群集の間を無数の提燈がゆらめき、水上は篝火を乗せた船で埋められ、その光が川波を映發する有様は大阪特有の壯觀である。なほ天満宮の境内にある末社白米稻荷社殿の裏に「狐の爪磨き石」と稱するものがあり、古代の玉類砥石と



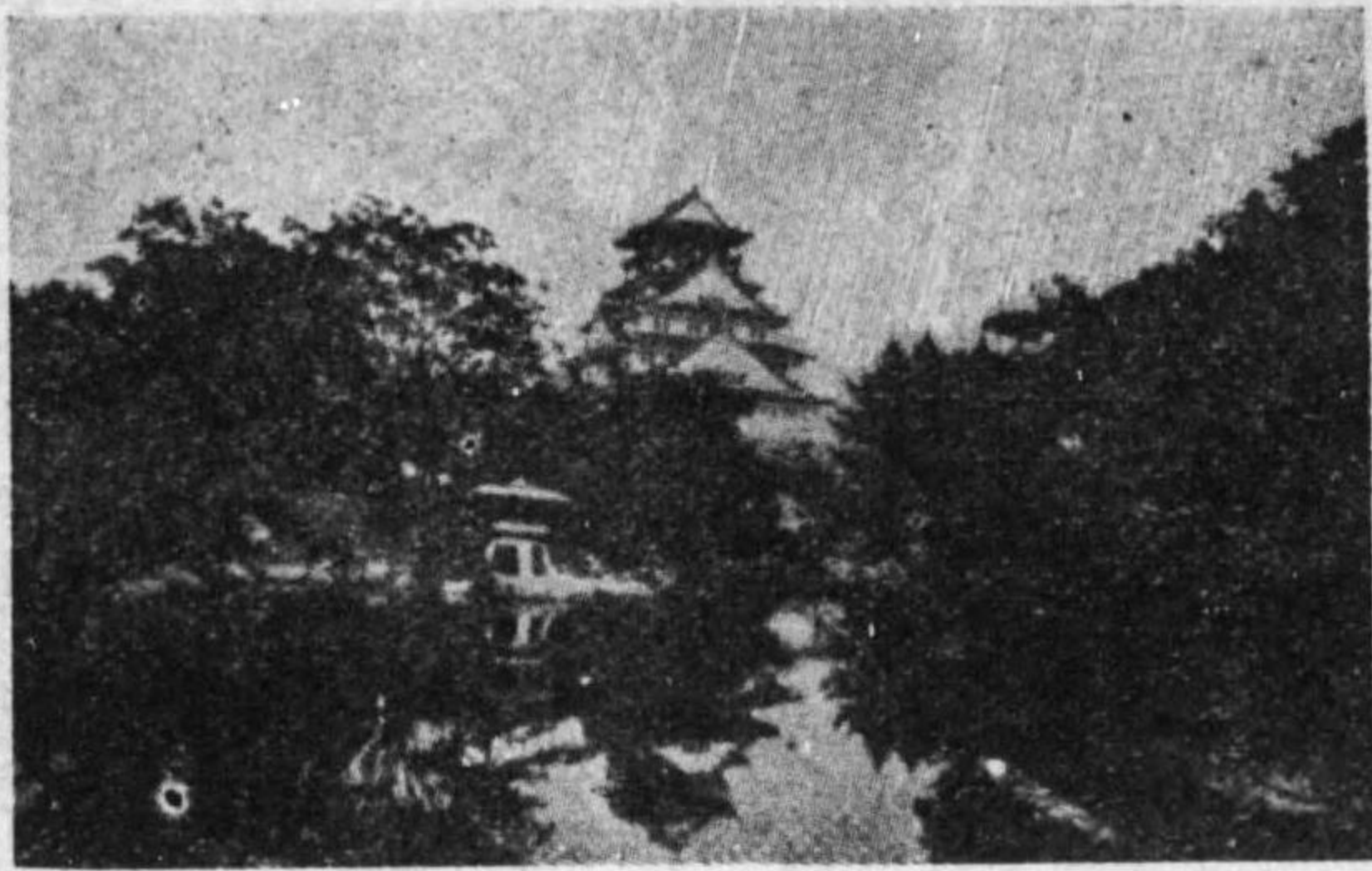
中之島公園

傳へられる(市電南森町)▽豊國神社 豊臣秀吉を主神に、秀頼、秀長を合祀した府社で境内に秀吉の銅像がある。末社白玉稻荷には婦人の參詣が多い。(市電大江橋)▽大融寺 弘法大師の草創と傳へられる。元桂木寺と稱し、後年兵火に遭つて荒廢したが快濟上人

によつて再興された。境内に淀君の墓がある(市電大融寺)▽造幣局の櫻 造幣局正面から奥まで約三百メートルを權樹で埋め、花の名所として大阪隨一、花時は數日間公衆の通抜け觀覽を許してゐる(市電天満橋北詰)▽北陽演舞場 花街北の新地の年中行事の一の「浪花踊」は毎年五月中こゝで興行される(市電櫻橋)▽大長寺 本尊は阿彌陀如來、淨土宗に屬し、近松の戯曲で有名な紙屋治兵衛と小春の比翼塚と、大阪城方の戦死者の怨靈が鯉と化し、これを葬つたといふ鯉塚がある(市電東野田四丁目)▽櫻宮 祭神は天照大神、淀川の清流を眼下に望む勝地で、附近櫻宮公園には各種の運動設備がある(市電東野田九丁目)▽妙香院 寺寶に妙香院昆沙門天立像がある。木造で藤原時代の作(電寺町市)

【東區】大阪城跡 豊臣秀吉の築城にかゝり、その規模の雄大と豪華華麗の構築は海内無双と謳はれたもの。大阪冬の陣で外廓が埋められたが現在なほ中、内二重の濠は残つてゐる。豊家滅亡後徳川家康これを松平忠明に與へ、後二代將軍秀忠の手によつて修築なつ

たが、萬治三年火藥庫に落雷して城内を焼き、寛文五年には天守閣もまた雷火で燒失した。保存施設完全になつた今日の大坂城は内廓の中央に本丸跡あり、昭和六年に竣工した白堊の天守閣聳え、北に山里丸跡、南に櫻門、中廓は二の丸跡で廣い濠をめぐらし西南に



大坂城

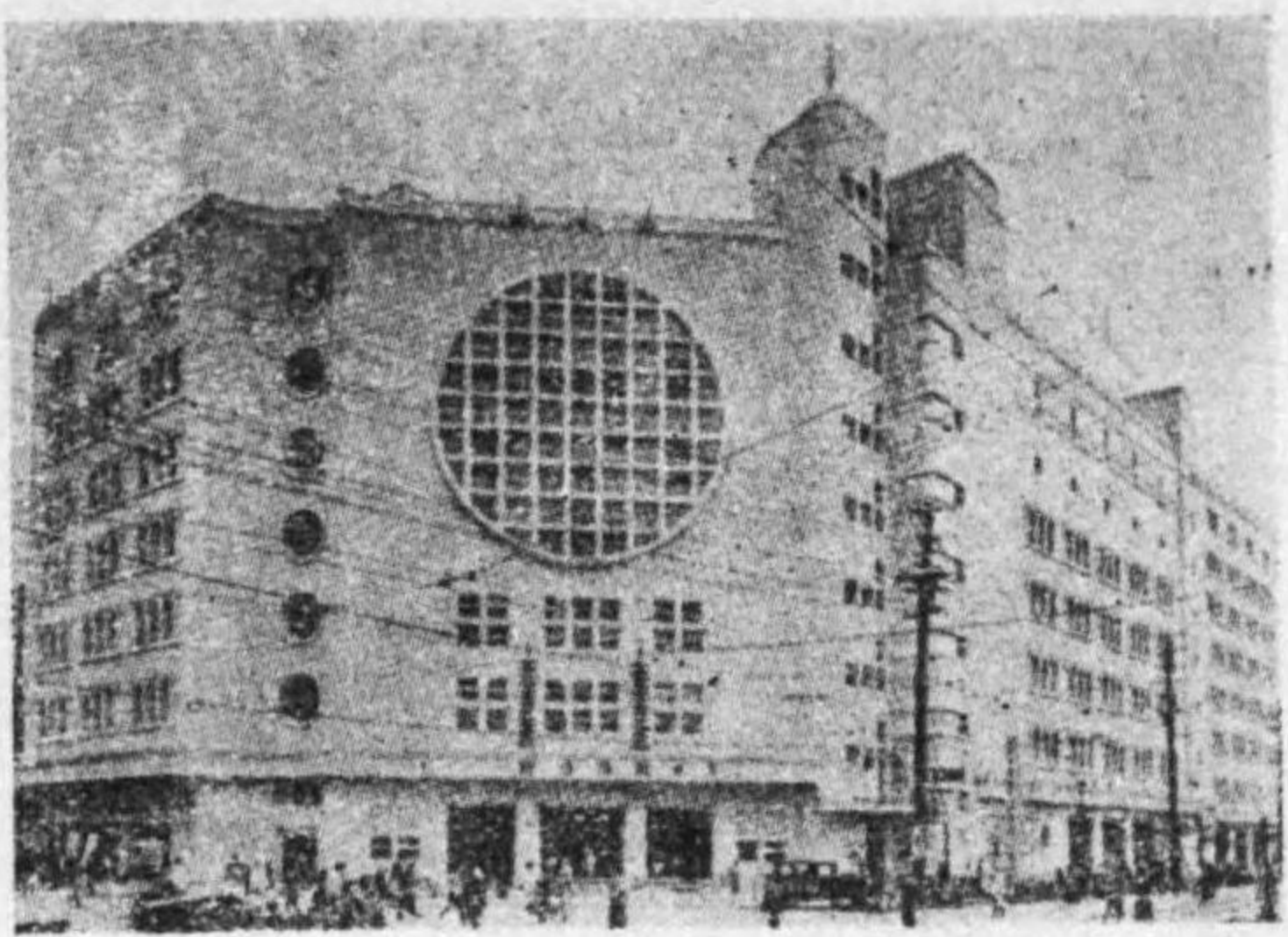
大手門、西北に京橋口、東北に青屋口東南に玉造口の諸門があり、外廓は三の丸跡で石疊が残つてゐる(市電大手前)▽大阪城公園 大阪市が市水の寄附金五十萬圓を基礎に昭和御大禮記念事業として造營したもので、昭和四年八月起工、同六年十一月竣工、舊大阪城の内濠全部および大手前廣場を包括する大公園である。大阪城天守閣は昔の天守閣跡に耐震耐火鐵筋コンクリートで建築され、その様式は黒田家所藏の大阪陣繪屏風に基いて設計されただけにほゞ原形をうつし得たといはれ五層白堊の天守閣は金色燦然たる鯨鉦とともに、太閤の盛時を偲ばせてゐる。大手前廣場から東へ大手口、二の丸の正面は多聞矢倉、左右に陸軍兵器支廠および兵器庫あり、櫻門の左右には東西に龍石、虎石の巨石石垣を造る。その名の由來は雨季に入ると石面に龍虎の姿が現出するからといはれる。櫻門を入れば第四師團司令部とこれに相對して純日本風の天臨閣がある。明治十八年和歌山城からこゝに移したもので、こゝから數十の石段を登つて小天守閣

跡に出で天守閣にいたる(市電大手前)▽大阪天守閣 高さ十四メートル、東西三十メートル、南北廿六メートル、外観五層、内部八層、鐵骨鐵筋コンクリート造りで、第五階までエレヴェーターが通じ、第八階に昇れば大阪の全市街が一眸のうちに收められ、東は生駒山、西は大阪灣、南に金剛、葛城の峻峰迫り、北に大淀の流れ悠々と横はり、晴朗の日は遠く須磨、明石まで望見し得る。その他天守閣をめぐつて片菱矢倉跡、姫門跡、舊煙硝藏跡、芦田曲輪を初め、隨所に豊家一族没落の哀史を語る舊跡がある。天守閣は大阪市の大大禮記念事業の一つとして四十七萬圓を投じ、昭和六年十月再興したもので、閣内に郷土博物館あり、郷土史料を陳列し觀覽者極めて多い(市電大手前)▽難波神社 仁徳天皇、素盞鳴尊、宇賀御魂神を祀る古社「博勞稻荷」として名高い。毎年七月廿一日夏祭の渡御は賑ふ(市電新町橋)▽難波別院 俗に「南の御堂」と呼び、本願寺第十二世教上人が職を弟准如に譲つて新一寺を攝津西成郡渡邊に創設し、後寺を大阪市内に移したのが本寺

で當寺は難波御堂と稱した。明治天皇の臨幸を辱うしたことあり、西南の役には征討總督の本營が置かれ、大阪寺院中大建築の一つで、門前花屋小路には元祿七年俳聖芭蕉の病没した舊跡がある(市電本町四丁目)▽津村別院前項「南の御堂」に對して「北の御堂」といふ。慶長二年准如上人の改築、境内廣く、大阪有数の堂宇で明治元年三月明治天皇行幸に際しては行在所の光榮に浴した(市電本町四丁目)▽懷德堂 維新前に於ける大阪唯一の學校として。名高い享保九年中井甕庵同志を糾合し講舎を設けてこの名をつけ、三宅石庵を聘して程朱の學を講じ町人の學問所としたのが初まり、大正二年住友吉左衛門男ほか五氏の發起で懷德堂記念會を組織し財團法人を設立、隨時學者を聘して學問徳風の宣揚につとめてゐる(市電本町一丁目)▽圓珠庵 不動明王を本尊とする。僧契沖が晩年隱遁して讀書詠歌著作に親んだところ庵の裏庭に契沖阿闍梨の墓があり、指定の史跡、今なほ當時のまゝ残存してゐる(市電上本町四丁目)▽井原西鶴の墓 上本町四丁目誓願寺内にある。

西鶴は純粹の大阪人(市電上本町五丁目)▽小彦名神社 八代將軍吉宗の創始、俗に「神農さま」といふ毎年十一月廿三日の例祭には五枚笹と張子の虎を施與する、郷土名物の一つ(市電高麗橋)▽御靈神社 俗に「御靈社」または「圓(つぶら)神社」と呼ばれ、天照大神、應神天皇ほか三神を祀る。淨瑠璃人形芝居の文樂座はもとこの境内にあつた(市電京町橋)▽坐摩神社 祭神は生井神ほか四神、七月廿二日の祭禮は非常な賑ひを呈する。

敷島俱樂部等の大劇場軒をならべ年中雑踏してゐる。明治維新前はこの邊一帶は墓地刑場であつた(市電千日前)▽心齋橋筋 道頓堀から心齋橋南詰にいたる約八百メートルの繁華な直線道路で、大丸、そごう等の百貨店を初め小賣店軒を並べ、大阪隨一の小賣店街をなす。梅田から地下鐵で五分(市電心齋橋)▽戎橋筋 心齋橋筋から道頓堀を越えて南へ連続する繁華街(市電戎橋筋)▽文樂座 大阪の代表的郷土藝術、人形芝居の専用劇場、人形芝居の元祖は植村文樂軒で明和、天明の頃淡路から來阪、「文樂軒の芝居」を建てたのがその初めである。最初的小屋は博勞町難波神社境内で、現在は松竹の經營にかゝり北炭屋町にある(市電四ツ橋)▽大阪歌舞伎座 難波新地、千日前の一角にあり、松竹の經營で日本一の大劇場、昭和七年十月初開場した。近代様式の鐵骨鐵筋コンクリート造、地階以上九階の建築で定員三千人▽大乗坊 本尊は木造の毘沙門天立像で鎌倉時代の大作國寶である。堂宇雄大で元祿年間再建されたもの(市電日本橋三丁目)



一 座 伎 舞 歌 一

【天王寺區】生國魂神社 生國魂神社生國魂大神ほか二神を祀る官幣大社、應神天皇の御世に創建され、その後再三火災に罹り、現在のは大正三年の建築で「生玉造」と呼ぶ形式である。七月九日に夏祭の渡御あり、九月九日の例祭には勅使御差遣がある(市電下寺町)▽四天王寺 聖德太子の創建にかゝり、如意輪觀世音が本尊である。わ

が國最初の佛寺の一つで、しばしば火にかゝつたが慶長年間の再建により殆んど舊態に復した。百濟式の堂宇伽藍は極めて雄大、堂宇四十餘棟で、講堂、東大門等見るべきもの多く、また寺内の寶物としては扇面法華經、千手觀音および二天箱佛、觀世音菩薩半跏像、七星劍ほか六種の國寶がある。昭和九年九月廿一日の關西大風水害により五重塔が倒壊したので、目下淨財その他により舊態そのまゝの再設計畫中(市電天王寺西門前)▽吉祥寺 義士の寺といふ。淺野長矩が江戸參觀の途必ず立寄り休息したところ、寺内には長矩および大石父子の碑があり、玉垣には義士の名が刻まれ四十七士の木像が安置されてゐる(市電榎寺町)▽一心寺 舊四天王寺の別所、後白河法皇ここに行幸あらせられ源空上人とも日に想觀を修し給うたと傳へられる。寺内に大阪夏の陣で戦没した本多忠朝主従十名の墓がある(市電天王寺)▽茶臼山古墳 大阪冬の陣には徳川家康丘上に陣營を設け、夏の陣には眞田幸村が奮戦した戦跡、封土の長さ百メートルに近い東面した丘埠である(市電

天王寺)▽夕霧太夫の墓 下寺町淨園寺境内にある。夕霧は延寶年間の有名な遊女(市電天王寺公園)▽邦福寺 普通「雲水」といひ普茶料理で知られる(市電茶臼山)▽竹本義太夫の墓 大道一丁目の超願寺境内にあり、義太夫は慶安年間新派の淨瑠璃節たる義太夫を創案し道頓堀の辨天座に人形芝居を初めた人(市電西門前下車)▽天王寺公園 明治廿六年九月、第五回内國勸業博覽會跡の地を利用して設計し、昭和元年十二月には住友家より舊邸地慶澤園四萬二千七百餘坪および茶臼山一萬五千餘坪を公園用地として寄附を受け、さらに同三年三月河底地を買収公園敷地に編入し市内最大の公園となつた。設備も完備し園内には動植物園を初め美術館、公會堂、競技場等あり動物園は昭和九年四月、廿萬三千圓を投じて擴張し東洋一の動物園となつた。植物園は年中無料公開し、熱帯、亞熱帯の植物一般植物一萬種に及んでゐる(市電天王寺公園)▽勝鬘院多寶塔 文祿三年豊臣秀吉の再建にかゝり桃山時代の特徴を残してゐる。

にかゝり天照大神ほか四座を祀る。毎年一月十日の祭禮を十日戎と稱して大阪年中行事の一つとなり、九日は宵戎十一日は残り福といひ、三日間とも参詣者沿道を埋め盛観を呈する(市電恵美須町)▽八阪神社 もと佛寺の境内にあつたが罹災、この神社のみ残つた。毎年一月十四日は「難波の綱引」の神



新世の界の通天閣

事を行ひ、大阪名物の一つ(市電八阪神社)▽新世界 南大阪隨一の觀樂境東洋一の高塔、高さ二百五十尺の「通天閣」あり、その他映畫館、ルナパーク等大衆の娛樂地である(市電恵美須町)▽鐵眼寺 黄葉宗の名刹、藥師如来を本尊とする。寛文年間鐵眼禪師の創建したもので「瑞龍寺」とも呼ばれる(市電元町三丁目)▽木津大黒 素盞鳴尊を祀る。境内に一代の仁俠木津勘助の銅像がある(市電大黒神社)【西區】阿彌陀池 北堀江上通四丁目浄土宗和光寺の境内にあり、和光寺は信州善光寺の末寺で本尊は阿彌陀佛、毎年五月八日の植木市で知られてゐる(市電阿彌陀池)▽津浪の碑 安政地震の際における津浪の慘狀を詳記した碑(市電大正橋)▽新町演舞場 毎年四月、花街新町廓の年中行事浪花踊が催される(市電新町橋)▽茨住吉神社 寛永元年大阪九條の開發者香西哲雲によつて建立されたもの、當時一面の荆棘を刈り取つて社殿を建てた故その名あり、郷社の一つ(市電花園橋)▽難波魚市場 天満の青物市場とともにその名を知られ、毎日午前四時から同

十一時まで開市、一年の取引三千萬圓大阪名物の一つで、起源は豊臣時代と傳へられる(市電茂左衛門橋)▽土佐稻荷神社 素盞鳴尊ほか三神を祀る、境内は櫻の名所(市電玉造橋)【此花區】逆櫓の松跡 源義經屋島へ出船に際し、梶原景時と逆櫓の論を交へた舊跡と傳へられるが、逆櫓の老松はずで枯れて今では盤根だけを留めてゐる(福島南二丁目)▽野田の影藤跡 昔は藤の名所として名高く、足利義詮や豊臣秀吉もこれを賞したと傳へられる。徳川時代附近の料亭の障子に映つた花の影からこの名が出たのであるが、今日ではその影をとゞめる藤もない(玉川町二丁目蛭子神社附近)【港區】天保山 一條通安治川河口南岸にあり、高さ十八メートル、裾地の周圍千八百メートルの小芝丘で、貞享元年河村瑞軒が安治川浚渫の時遺棄した土砂の堆積だと傳へられる。往時は入港船舶の目標となつた關係で「目標山」の名があり明治元年三月明治天皇この地に臨幸あらせられ、我が國最初の觀艦式を御親閱遊ばされた。築港の際丘陵の大部分が撤去され、今でも天

保山棧橋で知られてゐる(市電天保山棧橋)

【西淀川區】了徳院 本堂に歡喜天の像を安置し、俗に「浦江の聖天」といふ、参詣人が多い(市電福島五丁目)▽加島錢座 徳川時代の鑄錢場の遺跡で最近も砥石金糞の類が多敷發掘された(加島町)

【東淀川區】鶴瀧寺 延享年間、忍燈上人の再興にかゝり寺寶の銅鐘は高さ二尺四寸、口径一尺九寸六分、朝鮮鐘で國寶に指定されてゐる(市電淀川)▽東光院 俗に「萩の寺」といふ。寺寶の木造釋迦如来坐像は國寶に指定されてゐる(市電淀川)▽毛馬洗堰 淀川の水量を直節調節するため堰柱を設け、その側面の縦横に角材を落し込み流れを調節してゐる(市電長柄橋南詰)▽毛馬開門 前項洗堰の西に續き船舶の通行を便にしてゐる。開門は二ヶ所

にあつて扉が開閉され通船の数は毎日二百隻から三百隻に上つてゐる。▽崇禪寺 嘉吉二年赤松滿祐、將軍義教を弑し首をこゝに埋めた。後細川持賢これを弔ふため同寺を建立したと傳へられる。境内に義教の墓あり、門前の松

林の馬場は正徳年間安藤兄弟が仇敵生田傳八郎のために返り討に遭つたとこゝろ、俗に「崇禪寺馬場の仇討」として知られてゐる(新京阪崇禪寺)▽江口の渡 區の北東隅、淀川と神崎川との分岐點で昔は交通の要路にあたり頗る繁昌して遊里も出来、世人これを「江口の君」と稱した。町内の寂光寺には西行法師と和歌を贈答して名高い遊女「妙」の像がある。

【旭區】大宮神社 古くは大阪城の鬼門に當つてゐるといふので正月、五月九月には城代が参拜して祈禱したといふ(京阪森小路西一キロ)

【大正區】大阪飛行場 官設の水陸兩用飛行場で、陸上は總面積卅五萬平方メートル、東西定期航空路の發着場で大和川尻飛行場完成の後はそのへ移轉することになつてゐる(市電木津川運河)

【東成區】妙法寺 觀世音菩薩を安置し聖徳太子の開創と傳はる。僧契沖が住職となり、有名な「万葉代匠記」廿卷「總釋」二卷を著したところ(市電今里)【住吉區】住吉神社 表筒男命、中筒

界命、底筒男命三座を祀る官幣大社、千七百年前の歴史を有し、建物は國寶古來住吉大神と稱し、歴朝の崇敬厚く海路の守護神として、また中古以來は和歌の神として船乗りや歌人に尊崇せられた。古代建築の特徴を表した雄大な社殿を有し、社寶の初代守家作と傳はる太刀は國寶である。例祭は六月卅日、また八月一日は神輿渡御あり、行列は盛観を呈する(南海、阪堺沿線)▽住吉公園 純日本式公園で古く明治六年の開闢、附近に住の江公園がある(南海沿線)▽阿部野神社 北畠顯家およびその父親房を祀り明治十五年の創建、別格官幣社(南海、阪堺沿線)▽長寶寺 大同年間の開基、寺寶の有銘梵鐘は國寶に指定されてゐる(南海平野線)▽帝塚山 明治卅一年攝河泉の野における陸軍特別大演習の際御野立所となりその記念碑がある(南海上町線)▽天下茶屋 天正年間豊太閣が住吉神社参詣の途この地に立寄り茶を賞美したので「殿下茶屋」の名あり、後轉じて天下茶屋となる。太閣に關する種々の遺跡がある(南海、阪堺沿線)【西成區】安養寺 知恩院の末寺「心

中天網島」の紙屋治兵衛の妻おさんの墓と傳へられるものがある(南海天下茶屋)▽四恩學園 大阪佛教家有志が大正天皇御大典記念として児童保護教化事業を行つてゐる(市電霞町)

【市南郊】濱寺公園 百人一首に高師濱とある名所で白砂青松大阪公園の一つ、運動場あり、海水浴場の設備は東洋一と稱せらる(南海濱寺公園)△農業博物館 故本山彦一翁の設立にかゝる財團法人富民協會の所管、昭和七年七月竣成、肥料、農産、副業、農政經濟植民地農業等の諸部門に分れ、多數の標本類、實物模型が陳列されさらに本山考古室あり、貴重な學術資料少からず、しばしば高貴の方々の豪覽を辱らしてゐる(南海電車羽衣)▽淡輪遊園 南海鐵道經營、眺望佳く各種の設備整ひ遊覽者多し(南海電車淡輪)▽金熊寺梅溪 阪和電鐵信達線の南二キロ、口の千本、一目千本、中の千本、奥の千本と四部に分れた近郊屈指の梅の名所▽觀心寺 南海高野線長野の東南約三キロ半、大寶年間に創建され僧空海これを再興した。大伽藍如意輪觀音坐像、愛染明王像を初め國寶に指定

されたもの頗る多い▽楠木正成首塚 觀心寺境内にあり、正成淡川に戦死後足利尊化その首級を遺族に送り、ここに葬つたものと傳へられる▽金剛寺 南海高野線長野の西南六キロ、自動車の便あり。行基菩薩の開基、樓門木堂初め國寶に指定されたもの十六の多數に上る▽藤井寺球場 大鐵藤井寺下車七萬人を收容する大運動場▽赤阪城跡 大鐵沿線富田の南方七キロ、元弘元年楠木正成ここに城廓を構へ北條の大軍を防禦したところ▽早城跡 赤阪城跡の東南約六キロ、正成奮戦の地大手口跡に寶劍塔あり、享保年間に建てたもので戦死者の供養塔

【市東郊】高井田權穴 大軌國分の東北約一キロ半、藤田男爵家墓地にいたる参道の側高に露出した横穴で、墳輪、土偶のごとき人物やゴンドラ式の船に乗つた人間の風俗畫が描かれてゐる。いづれも上代の原始的繪畫で風俗美術史上貴重な資料として指定史跡となつてゐる△木村重成の墓 大軌奈良線苦江岩田の南約一キロ半、俗に無念塚△飄蘿山稻荷 大軌奈良線飄蘿山の南約百メートル、辻占で名高く一年百萬

の信者が参拜するといふ▽枚岡神社 大軌本線枚岡の東北半キロ、官幣大社天兒屋根命ほか三座を祀る、附近に枚岡梅林がある▽生駒鹽道 大軌本線鷲尾から生駒に至る間で長さ三千三百八十メートル、生駒山を開發したもので大阪、奈良間は廿五分に短縮された。夏季納涼客が多い▽楠木正行墓 省線片町線四條驛の西約三百メートル▽四條驛神社 小楠公社と呼び明治廿二年の創建、楠木正行を祀る別格官幣社。社寶の薙刀直し刀は明治天皇の御下賜にかゝり備前長船の銘がある。四條驛驛の東約一キロ▽山田公園ゴルフ場 昭和十年八月、三島郡山田村の勝地に府營ゴルフ場として出現したもの。廣さ十萬坪、ホールは九つ、附屬として練習場ゴルフハウス、食堂、子供遊園場などあり、大阪新名所の一

【市北郊】千里山放送所 省線吹田驛の北方約二キロ、大阪中央放送局の放送所▽茨木カントリークラブ・ゴルフ場 茨木驛の西北二キロ、自動車の便あり、變化に富むので有名▽攝津耶馬溪 省線高槻驛の北約四キロ、芥川の溪谷で奇勝に富む▽櫻井驛跡 省線山

崎驛の西南二キロ、楠公父子訣別の舊跡と傳へられ、玉垣を廻らした枯木一株あり「子別れの松」と稱し傍に石碑がある▽水無瀬宮 山崎驛の西南一キロ、後鳥羽、土御門、順徳三天皇を祈る。淀川に臨んで風光明媚、國寶が多い▽畑梅林 阪急寶塚線石橋の北約一キロ、菅遺跡の梅林といはれ老樹一萬株を超えてゐる▽箕面公園 阪急箕面線、大阪府の經營で紅葉の名所、櫻も多く遊覽地である▽加茂桃林 阪急池田驛下車、桃の名所▽近松門左衛門の墓 阪急塚口下車、久々知の廣濟寺本堂の東、近松翁の記念碑がある▽能勢妙見 阪急能勢電の終點から更にケールで山上に達する。日蓮宗の名刹で毎年二月初午の大祭、四月廿二日の勝利祭、七月廿二日の虫拂祭には参詣者頗る多く風光また極めて佳い△中山寺 阪急中山寺驛の西北一キロ、豊臣秀頼の造營にかゝり四月十五日から廿一日まで無縁塚大法會および八月九日の星下り御會式は十數萬の参詣人がある△寶塚 寶塚鎮泉、同新温泉、同ゴミアツ場(逆瀬川驛)のほか有名な少女歌劇があり、新温泉は大浴場、大劇場を

初め動植物園、兒童遊園その他一帯が大軌近郊第一の觀樂境をつくつてゐる▽清荒神 寶塚驛の東北二キロ、厄除開通の参詣者が非常に多い▽武田尾鏡泉 省線武田尾驛の西南七百メートル景色が頗るよい▽三田博物館 省線三田驛の西一キロ、九鬼男爵の蒐集にかゝる繪畫、彫刻その他の古代美術品を陳列してある。

【市西郊】甲子園 阪神甲子園下車、スポーツの大殿堂で、阪神電鐵經營の大野球場、甲子園クラブ・ハウス、十數のテニスコート、プール、陸上競技場ラグビー場等のほか鳴尾競馬場も近くにあり、阪神パークなど娛樂施設もある。甲子園球場は座席定員六萬人、外野ともに十萬人を收容し東洋一を誇つてゐる。夏季は海水浴場が開かれる△芦屋ロック・ガーデン 阪神芦屋驛、あひは阪急芦屋川驛から芦屋川に沿ひ北行、奇岩怪石はロック・クライミングの練習に適しこの名あり▽甲陽園 阪急甲陽園下車、六甲山麓の遊園地△六甲苦樂園 阪急甲陽線苦園口下車、遊覽、保養の設備あり△廣田神社 省線西宮驛の北二キロ、祭神は天照大神

の荒魂、社背一帯の丘陵はつゞじの名所として花季は大に賑ふ。祭日は四月十六日

年中行事

- 一月(睦月・初春月・端月)
- ▲一日—蕙方詣 ▲二日—初荷 △書初 △禊初 △初夢
 - ▲四日—政始 △諸官御用初 △山開き △軍人勅諭奉戴記念日 △各取引初立會 ▲六日—年越 △消防出初式 ▲七日—七種粥 ▲八日—初卯詣 △陸軍初九日—宵戎 ▲十日—十日戎 ▲十一日—残り福 ▲十二日—初金毘羅 △入營日 ▲十四日—年越 △注連飾撤去 ▲四天王寺の修二會(俗にドヤクといふ) ▲十五日—小豆粥 △小正月 △海軍始 △八幡神社疫除詣 ▲十八日—初觀音 ▲十九日—祖徳忌(享保十三年) △ワット祭 ▲二十日—二十日正月(骨正月) ▲二十一日—初大師 ▲二十四日—阿部野神社例祭 ▲二十五日—初天神 △契沖忌(元祿十四年) ▲二十八日—上海事件勃發記念日 ▲中旬—官立高等學校入學試験出願期(一月三十一日まで)
- 二月(如月・梅見月・雲消月)
- ▲一日—雛入形賣出始まる ▲二日—聖燭節 ▲三日—豆撒 △寶船 ▲四日—春日神社萬燈點火 △節分 ▲四十七忌忌 ▲七日—稲灸 ▲八日—正月事納 △針供養 ▲日露開戦記念日 ▲十一日—權原神宮例祭 ▲十二日—帝國學士院受賞者決定 △初午 △建國祭 △三笠山燒 △エダソン誕生日 ▲十五日—涅槃會 △西行忌

▲十六日—滿洲國皇帝陛下御誕生日 ▲十七日—神宮新年奉幣 ▲二十一日—爆彈三勇士戰死記念日 ▲ワシントン誕生日 ▲二十五日—北野神社梅花祭 ▲法然上人忌

三月 (彌生・花月・花見月)

▲一日—奈良水取(十四日まで) ▲雉山鳥捕護禁止 ▲鮎漁祭止 ▲三日—上巳節 ▲三陸震災記念日 ▲六日—産業組合法發布記念日 ▲七日—奥丹後大震災記念日 (昭和二年) ▲摩耶祭 ▲十日—陸軍記念日 ▲十三日—春日祭 ▲十四日—國民魂和デー ▲十五日—梅花忌 ▲堀江和光寺 ▲十八日—彼岸入り ▲二十一日—大師詣 ▲仁和寺高壇詣 ▲二十二日—法隆寺會式 ▲二十五日—蓮母祭 ▲天滿天神梅花祭 ▲二十七日—國際聯盟退記念日 ▲廣瀬中佐戦死記念日 ▲中旬—大學高校入學試験 ▲下旬—雷氣デー ▲議會開院式 ▲各學校卒業式

四月 (卯月・花月・卯花月)

▲一日—五月入形賣出し ▲學校年度始め ▲エープリル・フール(四月馬鹿) ▲諸官廳年度替り ▲法隆寺金堂修繕公開(五月十五日まで) ▲春の踊り ▲此花踊・浪花踊 ▲青邊師・京都都踊 ▲三日—藤元禪師忌 ▲四日—愛國勤勞祭 ▲新聞休刊 ▲六日—泉岳寺義士祭 ▲八日—稲尊降誕祭(花まつり) ▲十一日—昭憲皇太后御祭 ▲十三日—全國水産デー(漁業法發布記念日) ▲十五日—統攝禁止 ▲聖徳太子祭 ▲平安神宮大祭 ▲大社敷大祭 ▲生田神社例祭(三宮) ▲中山寺無縁法要 ▲十七日—少年保護デー ▲十八日—入唐忌 ▲廿一日—横川、沖南志士記念日 ▲廿二日—孔子祭 ▲廿三日—沙翁記念日 ▲廿五日—靖國神社例祭 ▲廿六日—道成寺會式(廿八日まで) ▲廿七日—全國結核豫防デー ▲下旬—觀櫻御會 ▲四月中—諸學會 ▲學術諸會議 ▲新茶取引始まる ▲蟹工船出漁 ▲上の卯の月は住吉神社の祭

五月 (皐月・田草月・早月)

▲一日—鯉織武者人形を飾る ▲野崎觀音 ▲住吉町の葉祭 ▲北陽花踊(大阪) ▲京都先斗町鶴川踊 ▲ノデー ▲乳幼児保護週間 ▲二日—聖武天皇御忌日(奈良東大寺で祭典) ▲上海事件停戦協定成立記念日 ▲三日—濟南事變記念日 ▲五日—端午の節句 ▲東京相撲協會夏場所番附發表 ▲八日—堀江阿彌陀池の誕生會(此前後に亘つて附近に植木あり) ▲十一日—長良川鶴飼始まる ▲十三日—萬國「母の會」(カーネーション・デー) ▲十四日—東寺練供養 ▲出雲大社祭 ▲ジェンナ祭 ▲十五日—加茂葵祭 ▲中山寺大會式 ▲五・一五事件日 ▲十八日—國際親善デー ▲北但大震災記念日(大正十四年) ▲廿四日—尼港事件記念日 ▲廿五日—正成戦死記念日(延元元年) ▲天滿天神花の市 ▲廿七日—海軍記念日 ▲卅一日—東郷元帥命日 ▲卅一日—日支事變停戦協定正式調印日 ▲上旬—愛國婦人會 ▲日本赤十字社總會 ▲徵兵検査始まる ▲歩徳祭(京都) ▲中旬—協會相撲夏場所初日 ▲帝國學士院授與式並に講演 ▲五月中—萬國學士院總會(於ブラッセル)

六月 (水無月・常夏月・風待月)

▲一日—鮎解禁 ▲動物愛護デー ▲四日—神宮月次祭 ▲船發達 ▲天皇陛下大阪行幸記念日 ▲全國國語護防デー ▲光琳忌 ▲十日—時の記念日 ▲十一日—聖徳太子御忌 ▲十四日—住吉神社御田植式 ▲十五日—常陸丸遭難記念日(明治三十七年) ▲十七日—神日一七五三祝 ▲中山法華經寺會式 ▲十七日—二の酉市 ▲十九日—茶忌(文政十年) ▲ロータリークラブ記念日 ▲一休息(文明十三年) ▲廿二日—青年記念日 ▲三十日—滿期兵除隊 ▲上旬—圖書館週間祭(全國) ▲觀菊御會(新宿御苑) ▲全日本庭球選手権大會 ▲全國學生相撲大會 ▲中旬—音楽週間

十二月 (師走・極月・春待月)

▲三日—曆法改正日 ▲四日—神宮月次祭 ▲船發道 ▲八日—禰宗臘八會(接心會) ▲九日—漱石忌(大正五年) ▲十五日—年の市開かる ▲十五日—克己日 ▲救世軍慈善鍋始まる ▲ザノフ祭 ▲二十日—年賀郵便別扱始まる ▲二十一日—納め大師 ▲二十五日—クリスマス ▲蕪村忌 ▲ニュートシ祭 ▲二十六日—各學校休業 ▲二十八日—親鸞上人忌 ▲二十九日—官衙御用納 ▲三十一日—大祓 ▲除夜の鐘 ▲省線參宮列車 ▲上旬—防火宣傳 ▲盜難豫防宣傳 ▲海軍定期大異動 ▲下旬—議會開院式 ▲東西各大學ラケビー戦始る ▲十二月—歳末同情週間

觀光ホテル 新大阪ホテルは觀光大阪に恥しいホテルの不完備を嘆き大阪財界有力者達と協議の上大阪府が大蔵省借入れの低資四百萬圓を以て建設し之を住友、大倉兩男を大口株主とする株式會社が經營せるもので、近代的設備に於て斷然東洋一を誇るであらう。

建坪八百六十三坪、地上八階、地下二階、客室二百三十四(内日本間五

ルテホ阪大新



宮) 五百人を容れる大食堂(別に婚禮式場) 千人を容るゝ大宴會場、小宴會三つ、その他、グランド、美容室、バンドボックス、バーラー、自慢は客室が全部浴室つき

重要物産同業組合

組合名	事務所	組長	組合員數
大阪穀物	北、玉江町一丁目	池田萬助	一、〇〇六
大阪醬油卸商	天、石ヶ辻町	海老重次郎	九
大阪酒卸商	西、北堀江御池通	鹿島爲次郎	四、七〇
大阪粉商	西、新町南通一丁目	麻殖生徳次郎	一四
大阪昆布	西、靱下通二丁目	吹田良助	三六
大阪洋酒食料品	東、南久太郎町二丁目	外山貞三郎	二〇八
大阪洋酒食料品	北、菅原町一丁目	祭原邦太郎	一〇
大阪洋酒食料品	南、松屋町七丁目	江崎利一	四、九〇〇
大阪清涼飲料水	西、北堀江上通	島谷直次郎	三三
大阪肉乳	北、衛生試験所	南勇吉	一、九〇八
大阪乾物	北、菅原町三六	武田菊治郎	三三
大阪砂糖	港、九條通三丁目	島田市兵衛	三三
大阪織物加工	東、内本町橋詰	後藤忠三	一、〇五
大阪織物加工	南、安堂寺橋通	古川鐵治郎	三三
大阪メリヤス、タオル	東、瓦町五丁目	細井晋平	三三
大阪府綿帶品商工	東、平野町二丁目	岡本彌兵衛	一、〇六
大阪府綿帶品商工	西、南堀江二番町	半田寅之助	一三
大阪洋傘毛布肩掛	東、唐物町五丁目	中野豐三郎	三六
大阪洋傘毛布肩掛	東、内本町一丁目	島田喜逸	一、六四
大阪洋傘毛布肩掛	東、農人橋二丁目	藤井滿彦	三〇
大阪洋傘毛布肩掛	東、博勞町四丁目	山西玄兵衛	四〇

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

組合名	事務所	組長	組合員數
大阪府友禪染色	東、淀、本庄中通	市居嘉三郎	一、五
大阪府友禪染色	東、唐物町三丁目	笹部榮吉	三
大阪府友禪染色	東、唐物町一丁目	山田市治郎	三三
大阪府友禪染色	東、道修町二丁目	瀧野勇	四三
大阪府友禪染色	天、東高津北ノ町	竹村幸次郎	四、六一
大阪府友禪染色	東、博勞町二丁目	中山太一	二五
大阪府友禪染色	南、安堂寺橋通	藪田善治郎	三九
大阪府友禪染色	南、末吉橋通	谷野彌吉	六〇
大阪府友禪染色	東、農人橋詰町	竹原作太郎	八七
大阪府友禪染色	東、北新町二丁目	中村基次郎	二五
大阪府友禪染色	西、新町通四丁目	津田勝五郎	二六
大阪府友禪染色	西、松島町一丁目	河野參次	三三
大阪府友禪染色	西、新町通一丁目	高倉作太郎	一、〇三
大阪府友禪染色	東、南中本町	直井貞造	三九
大阪府友禪染色	南、上本町三丁目	高尾定七	一、〇〇
大阪府友禪染色	浪、木津川一丁目	淺井伊之助	三、五〇
大阪府友禪染色	大、大正通一丁目	澤野爲之助	四三
大阪府友禪染色	北、梅ヶ枝町	清水清三郎	二九
大阪府友禪染色	西、靱南通一丁目	赤松榮七	三九
大阪府友禪染色	南、大寶寺町	藤村浩輔	一、九
大阪府友禪染色	東、三和ビル五	竹村幸次郎	一、五
大阪府友禪染色	南、久左衛門町	宮本甚吉	一、三〇
大阪府友禪染色	東、本町三丁目	樋口彦右衛門	三三
大阪府友禪染色	東、本町四丁目	田中平三郎	三三
大阪府友禪染色	東、本町四丁目	平岡五郎兵衛	一、〇五
大阪府友禪染色	此、大野町一丁目	藤原基一	七

五六三

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

Table listing various industries and their locations in Osaka, such as '大阪セルロイド' (Osaka Celluloid) and '大阪靴商' (Osaka Shoeshi), with associated names and member counts.

準則組合

Table listing '準則組合' (Standardization Associations) such as '大阪漬物業' (Osaka Pickled Goods Industry) and '大阪砂糖問屋' (Osaka Sugar Wholesaler), including their business offices and member counts.

五六四

Table listing various industries and their locations in Osaka, such as '大阪甘藷問屋' (Osaka Sweet Potato Wholesaler) and '大阪麵類' (Osaka Noodle Products), with associated names and member counts.

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

Table listing various industries and their locations in Osaka, such as '大阪綿糸商' (Osaka Cotton Thread Merchant) and '大阪船具商' (Osaka Boat Equipment Merchant), with associated names and member counts.

五六五

Table listing various industries and their locations in Osaka, such as '大阪運動用品' (Osaka Sports Goods) and '大阪象牙商' (Osaka Ivory Merchant), with associated names and member counts.

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

Table listing various industries such as Hat Making (大阪製帽業), Toy Making (大阪兒童玩具製造), and Paper (大阪紙工), including their respective branches and representatives.

工業組合

Table listing industrial groups like Toy Making (玩具製造), Paper (紙工), and Textiles (紡織), detailing their branches and members.

Table listing various industries such as Toy Making (玩具製造), Paper (紙工), and Textiles (紡織), detailing their branches and members.

輸出組合

Table listing export groups for various products like Toys (玩具), Paper (紙工), and Textiles (紡織), including their branches and representatives.

商業組合

Table listing commercial groups for various products like Toys (玩具), Paper (紙工), and Textiles (紡織), including their branches and representatives.

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

Table listing various commodity groups such as '大阪葯業', '大阪中等學校制服', and '大阪鐵線', along with their respective locations and members.

水産、漁業、畜産、酒造、茶業、土木建築業組合

Table listing commodity groups in the water and fishing sector, including '大阪水産' and '日本捕鯨業水産', with member names and counts.

任意組合

Table listing various general commodity groups like '大阪雜貨物卸商' and '大阪時計商工業', including member details.

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

Table listing commodity groups in the textile and clothing sector, such as '日本綿織物輸出振興' and '大阪圖書出版業', with member information.

産業組合

Table listing industry groups including '日本綿織物輸出振興' and '大阪圖書出版業', detailing their members.

信用組合

Table listing credit unions such as '千船' and '大豐', providing member names and counts.

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

交有	會北、天神橋筋六丁目	大矢順治郎	三五
愛有	隣北、北市民館内	野中吉光	一〇九
有	恒大阪府廳農會内	池田駒太郎	六
大市昭	三東淀、十三東ノ町	有山福重郎	七〇
大市昭	和大阪市役所社會部	志賀志那人	一、三三
大市昭	一南、北桃谷町二六	伊藤景章	七六
大市昭	優西、靱南通一丁目	瀧川末一	二九〇
大市昭	一西、幸町五丁目	中島秀彌	一、六九
山第一貯	王住、山王町四丁目	倉本乙次郎	三

五七〇

◎購買組合

大阪製茶	東、京橋二丁目	中尾龜松	三二
浪	速南、御藏跡町二一	木間瀨策	三、六、八四
大阪煎餅仁風會	西、新町南通三丁目	稻葉兒一郎	五〇
安	立住、安立町八丁目	小西嘉三	三九
大阪	友北、大阪通信局内	關正雄	一、三〇
大阪	商船港、富島町六三	落合文雄	一、三〇
大阪	購買組合新生社	天、寺田町三三	吉川吉郎兵衛
大阪	購買組合共働社	此、四貫島宗安町	原田勝藏
大阪	購買組合共益社	住、住吉町一六九三	賀川豐彦
大阪	購買組合共益社	住、市岡元町一丁目	森田喜代八

◎販賣購買組合

大阪牛乳	住、山王町二丁目	上月義五郎	九
大阪東家	禽東成、南生野町	杉浦繁三郎	五

◎信用購買組合

大阪洋服	東、高麗橋五丁目	田中治三郎	二六
大阪	日北、朝日新聞社内	今村宗太郎	一、三四
大阪	住、荻田町六二七	東野修一郎	二四八
大阪	北、西淀、出來島町	佐野喜十郎	一〇一
大阪	大、新炭屋町	中川好太郎	三三
大阪	青果、中央卸賣市場内	三宅龜之助	三三
大阪	畜産、西、江戸堀南通	吉永淺治	四

◎信用利用組合

天滿	北、壹屋町一丁目	棚橋種次郎	三、七四
天滿	北、市之町一	大村清七	一、四

◎信用購買利用組合

大阪	住、中野町四	西谷正信	七
大阪	中央卸賣市場内	杉村秀松	一、七
大阪	南、鹽町通一丁目	中田熊次	九

◎利用組合

天滿	北、河内町地先	棚橋種次郎	二、五二
木津	市場、浪、鷗町一丁目	前尾松藏	八、三

◎利用購買組合

大阪堺	薰香、東、瓦町四丁目	石田定右衛門	三
-----	------------	--------	---

◎利用信用組合

大阪	北、西淀、海老江二丁目	音田綱吉	八
關西	相、南、難波新地六番町	深川澄夫	九

◎利用信用購買組合

大阪	東、南久太郎一丁目	木間瀨策三	五
攝陽	建築、佳、天王寺町	中村臺吉	三

産業諸團體

◎會議所集會所

大阪商工會議所	北、堂島濱通二	安宅彌吉	六
大阪銀行集會所	北、中之島一丁目	中根貞彦	三

◎聯合會

大阪實業組合	東、實業會館内	中山太一	五
關西産業團體	西、大同ビル内	稻畑勝太郎	七
大阪府茶業組合	東、京橋二丁目	山本太市郎	七
大日本紡績	東、綿業會館内	庄司乙吉	七
日本包裝荷相同業組合	南、鹽町四丁目	和田米藏	四
大阪質屋組合	東、淡路町四丁目	田中喜三郎	一、五〇
日本硝子同業組合	西、靱南通一丁目	石塚岩三郎	四
日本輸出硝子工業組合	東、兩替町一丁目	宇野亮一	七
日本輸出メリヤス工業組合	此、上福島南三	福島英次郎	〇

重要物産同業組合、同團體、市場一覽

五七一

◎信用購買組合

日本綿糸布商組合	東、綿業會館内	田附政次郎	九
關西清涼飲料水	西、北堀江上通	浦野善一郎	五〇
全國米穀販賣購買組合	北、三菱ビル内	氏永新三郎	五、三三
全國購買組合	北、大阪ビル内	岡佳吉	三、八三
大阪府信用組合	西、阿波座上通	片岡安	三、八
日本磁器鐵器業組合	南、上本町三丁目	村井八郎	二
日本人造工業組合	南、高津一番丁	米田若信	二
日本人造工業組合	西、大同ビル内	大原彌三郎	三
關西電話營業組合	北、中之島四丁目	大久保眞次郎	四
日本タオル工業組合	東、綿業會館内	池田谷楠太郎	八
大阪府輸出組合	東、久寶寺町	羽生雅則	七
大阪凍水商	南、北炭屋町	竹中菊松	〇
日本帽子工業組合	西、江戸堀南通	高橋清藏	二
日本人造絹織物	東、綿業會館内	上田信弘	三
大阪羅紗洋服商組合	東、内本町一丁目	中谷虎司	二
日本伸鐵工業組合	西、川崎ビル内	阪口定吉	二
日本人絹織物輸出組合	東、綿業會館内	豐島久七	二

◎聯合會

商業美術	西、靱上通三丁目	土山隆克	三
大阪府商業組合	府廳商務課内	青柳秀夫	七
大阪府商店會	此、上福島北三		
大阪實業	西、西長堀北通		

三五〇